# ７．自己点検・評価報告書

（1）2018 年度第 3 クォーター　掲載目次

専任教員

【所属】


人文学部　キリスト教学科・・・・・・・・・・・・・1
人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・9
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・17
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・22
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・27
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・35
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・38
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・42
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・46
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・49
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・58
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・68
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・77
理工学部　システム数理学科・・・・・・・・・・・88
理工学部　ソフトウェア工学科・・・・・・・・・・91
理工学部　機械電子制御工学科・・・・・・・・・・95
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・98
短期大学部　英語科・・・・・・・・・・・・・・・・106
法務研究科　法務専攻(専門職学位課程)・・・・・・107
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
情報センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・112
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・112
体育教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・・123


非常勤教員

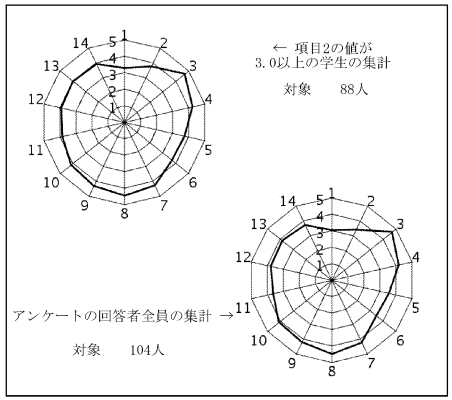
【所属】


人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・124
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・126
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・128
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・130
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・132
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・135
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・136
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・136
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・138
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・141
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・143
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・145
理工学部　システム数理学科・・・・・・・・・・・147
共通教育　仏語・・・・・・・・・・・・・・・・・・147
共通教育　西語・・・・・・・・・・・・・・・・・・149
共通教育　中国語・・・・・・・・・・・・・・・・・149
共通教育　共通・・・・・・・・・・・・・・・・・・152
共通教育　体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・167

人文学部 キリスト教学科
三好　千春　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 宗教論[B]1 |
| 授業コード | 10A01-009 |
| 教員名 | 三好　千春 |
| 教員コード | 101173 |
| 登録人数 | 150 |
| 回答数 | 104 |
| 回答率 | 69.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

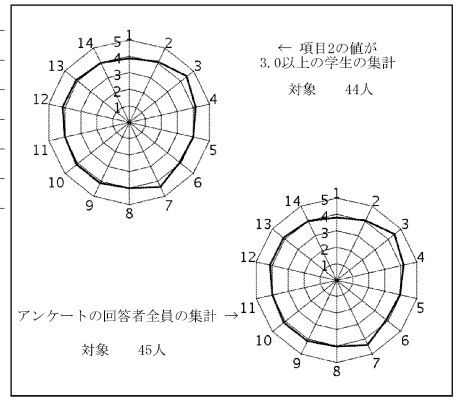
①　開講当初の目標の一つに、宗教＝アブナイという学生の意識を開きたいというものがあり、それについては講義期間中に書いてもらったリアクションペーパーなどからある程度の到達ができたという手応えがあった。つまり、到達目標のうちの一番目はそれなり達成できたと思う。しかし、二番目については難しかった。これは、計画段階での掘り下げが足りなかったからである。
②　まず、宗教論全体の平均値よりも私の総合点が低かったという点を真摯に反省したい。特に、設問の5、6、11、12については、講義の到達目標をいかに明確に学生に理解してもらうかについての私の努力不足とやり方の不適切さを痛感した。それは、学生の自由記述にも、何をさせたいのか、何を理解してもらいたいのかが非常に曖昧と指摘されたことからも、大いに反省すべき点である。
　また、11、12に関しては、学生に対してもっと質問を促したり、たまにリアクションペーパーに記された質問にもっと積極的に答えるべきであったという反省がある。
③　今年度は、経営学部生だけの宗教論だからと、これまでのやり方を大幅に変更しようとして失敗し迷走してしまった。それが、何をしたいのかわからないという学生の不満につながったのは確かなので、もう一度講義計画を根本から見直し、何を伝え、教えたいかをもっと明瞭になる講義計画を練りたい。また、学生からの質問などにも積極的に応え、学生の学習意欲を大切にしたい。



人文学部 キリスト教学科
MCMULLEN, Matthew　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 宗教論[B]2 |
| 授業コード | 10A01-010 |
| 教員名 | MCMULLEN, Matthew |
| 教員コード | 103838 |
| 登録人数 | 143 |
| 回答数 | 45 |
| 回答率 | 31.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



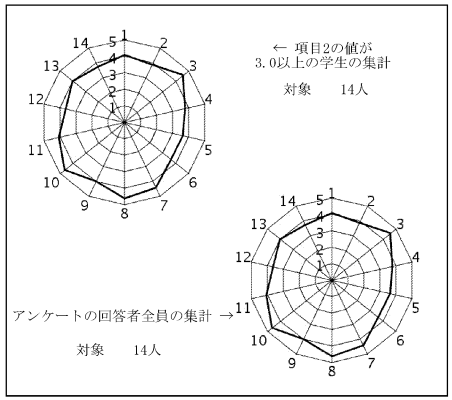

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goal of this course was to help students think about how religion can be seen in their daily lives. Rather than traditional sources, I used popular literature and media to show that understanding religion can make them more intelligent and informed members of society, while enjoying popular forms of entertainment on multiple levels.
2. I would give myself a C for this course. This was the first large lecture course I have taught, and the first time to teach a course in Japanese. Honestly, it was a horrible experience, and I am not looking forward to teaching it again. The students were rude and unengaging. The class size was too large to have any meaningful discussion. I felt like I was just trying to entertain the students for 90 minutes.
3. Ideally, I would design the course to allow students to speak and allot time for group work. However, this is impossible in a class of 150 students. I tried to keep them engaged by providing handouts and in-class writing assignments, but this was too much work for a class this size without assistance. There are few options for improving such a course.

人文学部 キリスト教学科
RAJCANI, Jakub　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | キリスト教概論[HC] |
| 授業コード | 10A51-001 |
| 教員名 | RAJCANI, Jakub |
| 教員コード | 103281 |
| 登録人数 | 17 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 82.4% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |



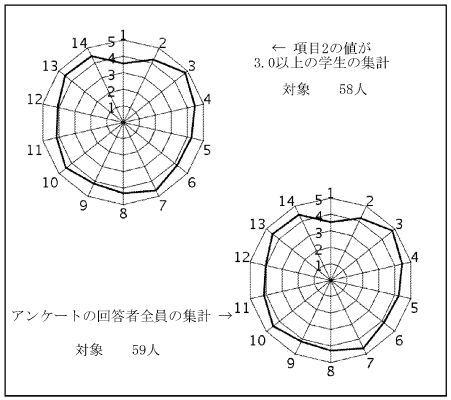

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目的は概ね達成させることができたと思います。学生からの不満を特に聞いていないのですが、反省点としては今回は少しゆっくり丁寧にやっていたせいか、最後まで行けなかったテーマもあって、将来はもう少しさらっと、重要なポイントだけピックアップして講義を進めたい、ということです。パワポイントも使い、画像や動画を適切に入れながら授業を構成しているにも関わらず、やはり学生の前提知識のばらつき、また意欲の欠如には相変わらず悩み続けています。注意を引く話し方をしているつもりでも、居眠りを目の当たりにしないようにどうすれば良いのか、これからも考え、アドバイスをもらい、また色々と工夫していきたいと思います。

人文学部 キリスト教学科
井上　淳　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | キリスト教概論[H・F]1 |
| 授業コード | 10A51-002 |
| 教員名 | 井上　淳 |
| 教員コード | 100301 |
| 登録人数 | 150 |
| 回答数 | 59 |
| 回答率 | 39.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



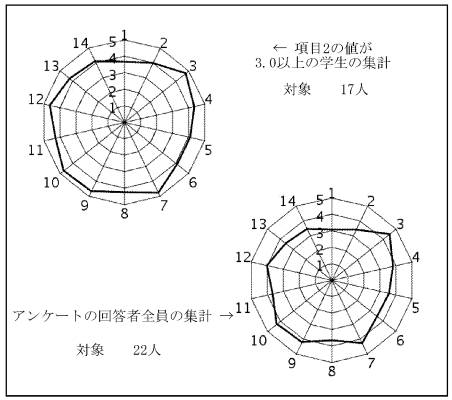

授業評価結果を踏まえた点検・評価

キリスト教概論では、宗教としてのキリスト教の側面よりも、むしろ人生哲学的な側面からのアプローチを取り、単なる知識としてのキリスト教の歴史や思想を知るのではなく、キリスト教の考え方や価値観、人間観などを、各人の日常生活においても活用もしくは応用できるような説明の仕方をするように心がけた。開講当初に設定していた目標には到達できたと思う。特に高い評価を得たのは次の項目である。項目3「授業の開始と終了の時間は守られていたか」4.46、項目4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものだったか」4.46、項目7「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ真剣さを感じることができたか」4.59、項目10「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げとなる行為に対して適切な対処がなされていたか」4.46、項目13「この授業を通して、新しい知識を得たり理解が深まったと感じるか」4.51、項目14「全体としてこの授業に満足したか」4.41。次のクオーターに向かての改善点としては、ホワイトボードへの板書をより見やすくまとまりの良いものにすることと、早口になりすぎないように気を付けることがまず挙げられる。

人文学部 キリスト教学科
TRUFAS, Ileana　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教概論[H・F]4
授業コード　10A51-005
教員名　TRUFAS, Ileana
教員コード　102945
登録人数　78
回答数　22
回答率　28.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



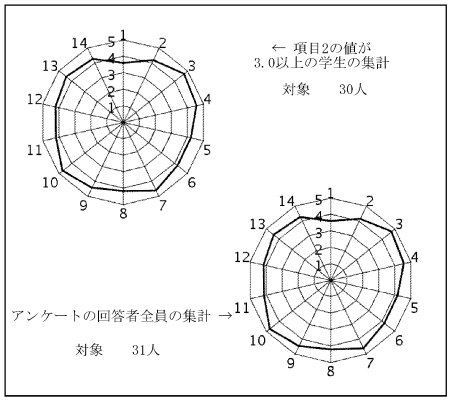

授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生たちによる授業評価は割合良好で、また寄せられた良いコメントから判断するならば、「キリスト教概論」における「東方キリスト教修道院制」を主題とした本授業の内容について、その目標とするところは概ね達成されていると自己評価できる。ただし、８７名の受講者の内、回答した学生たちは２２名、つまりわずか四分の一ぐらいしかいなかったことが大変残念に思われる。すでに指摘したのだが、この低い回答率にはとりわけ授業アンケートに対する学生たちの「疲れ」およびアンケートの回答が授業の時ではなく、PORTAで行われるという理由があると思われる。
しかし、回答率が低いからと言って、このようなアンケートは役に立たないわけではない。それどころか、それは授業内容や用いられる教材およびその進行方法に関して教員には貴重なアイディアを与えてくれる。この意味では学生による授業評価のアンケートは、特にその数や行い方の改善した形で続いていくことは望ましい。

人文学部 キリスト教学科
KUCICKI, Janusz　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教概論[H・F]5
授業コード　10A51-006
教員名　KUCICKI, Janusz
教員コード　101877
登録人数　78
回答数　31
回答率　39.7%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



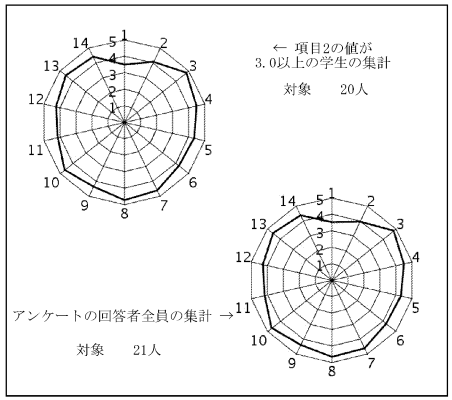

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」の結果によると、「キリスト教概論」は全般的に良い評価を得た科目であったと思われる。科目の内容と教え方については問題がなかった。この科目は全学生のための必須科目であり、キリスト者でない学生たちもこの科目を登録しなければならない。学生授業評価の結果によると、学生たちは授業の準備と自主的な学習に対して動機を持っていなかった。この問題は授業アンケートの質問3に関する結果で示されている。しかし、9月の学生のフィードバックと10月の学生のフィードバックとを比べると、彼らの聖書に関する理解は深くなっていることがわかる。したがって、この授業の目的は達成されたと思われる。

人文学部 キリスト教学科
SUSAI, Raj　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | キリスト教概論[P]1 |
| 授業コード | 10A51-014 |
| 教員名 | SUSAI, Raj |
| 教員コード | 101347 |
| 登録人数 | 26 |
| 回答数 | 21 |
| 回答率 | 80.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



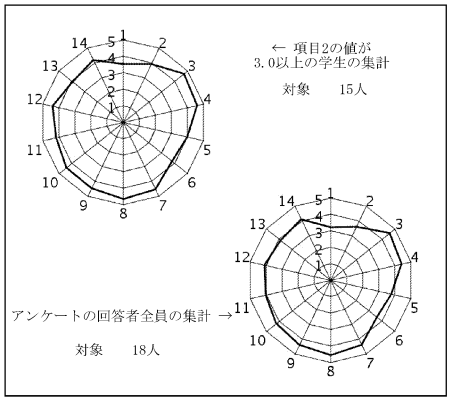

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のキリスト教概論の授業において前年度と異なり学生数が少なく、すべての学生に気を配ることができ、運営しやすかったと思われる。授業のシラバスの内容を学生の理解度に伴い変更しながら進めたのがよかったと思われる。学生らの授業評価からもあるようにこの授業はその到達目標に達したと思われる。また多くのDVDを用いて授業を進めたのも良かったと思われるうえ、学生の評価にもある通り、理解しやすかったとも言える。学生たちの積極的な授業参加はあまりなく、こちらからの質問に対しても積極的ではなかったことも事実である。またグループディスカッションが予定されていたが実施しなかったことは残念だと思われる。今後学生らの積極的な参加を促すための努力を何らかの方法で実践して行く必要があると思われる。教室があまりにも広かったので、学生人数にあった教室の方がやりやすいと思われる。今後も学生中心に、わかりやすくそしてないより内容に忠実に伝え、到達目標学生を導くことに力を注ぎたいと思う。

人文学部 キリスト教学科
松根　伸治　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 哲学・倫理学における人間の尊厳5 |
| 授業コード | 10D02-005 |
| 教員名 | 松根　伸治 |
| 教員コード | 101833 |
| 登録人数 | 73 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 24.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



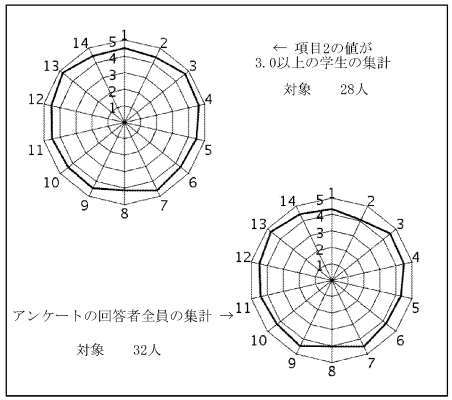

授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで設定した第一の到達目標「良心に関わる中世哲学史上の重要な論点を理解している」について、中間レポートと期末レポートから判断すると、解説した内容や用語をよく消化できた人と、ほとんど理解していない人の差が大きく、目標達成にはいたらなかったと反省せざるをえない。今回は初めて組み立てた授業内容で余裕がなかったが、来年は重要な論点をいくつかの別の切り口から繰り返し議論するなどの工夫をして、受講者の理解をうながしたい。テーマ自体は多くの学生には縁遠く感じられたと思うが、講義で提出された感想には、日頃ふれたことのない分野について知り考えることを肯定的に評価する声も多かった。その反面、設問13（知識や理解の深まり）の数値が3.89しかないは残念だが、このあたりの事情はよくわからない。第二の到達目標「人間の尊厳について考える自分なりの視点をもつ」は、レポートで良心と尊厳の関係をそれぞれ苦心して考えた形跡のあるものが見られた点はよかった。また、今期は人文系の授業になじみのなさそうな受講生が目立ったので、こういう分野での引用の意義や引用の仕方についての説明に一回分の授業をあててみた結果、レポートの形式上の欠陥は減らせたようである。授業評価について、いつも通りにアナウンスしたつもりだったが回答数が非常に少なかった。この点も次回の課題である。

人文学部 キリスト教学科
岡嵜　隆哲　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 思想史に学ぶ人間の尊厳4 |
| 授業コード | 10D03-004 |
| 教員名 | 岡嵜　隆哲 |
| 教員コード | 103614 |
| 登録人数 | 54 |
| 回答数 | 32 |
| 回答率 | 59.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　人間固有の問題としての、またとりわけ現代社会特有の「生きづらさ」の問題について、その原因や由来を、哲学や宗教における諸々の考え方を参照しつつ認識し、これからの日本社会の在り方を展望するという、全体をとおしての目標にたいし、前半では國分功一郎著『暇と退屈の倫理学』をテキストとして、あるていど多角的な観点からのアプローチができたものと考える。國分氏の著書には、作者自身の思想的立場や考え方からするやや偏った傾向性が認められたが、その点は授業の中で説明を加えることで補うことができたと考える。
　後半では、國分氏の著書にはない視点や、國分氏にはもっぱら軽視されている宗教の観点も取り入れ、近年の「薬物依存」や「自傷行為」の問題なども含めて特に若い世代にとっての「生きづらさ」の問題に焦点を当てた授業を行い、より共感をもって受講者には受けとめられたところがあったように思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　どの項目も基本的に私の担当の授業の中では高い数値をいただいているが、私の授業に共通する点として、話の聞き取りやすさの問題ということがやはりあげられるかと思う。

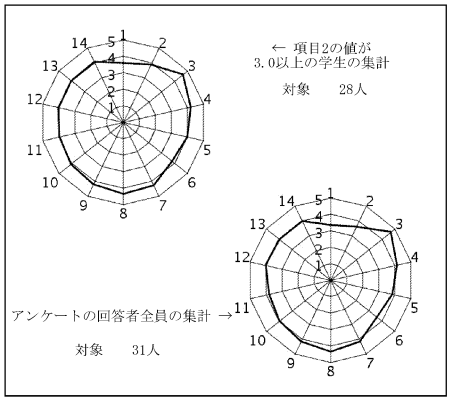
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　テキストを用いた授業スタイルを初めて経験したこともあり、テキスト内容の紹介、解説の部分と、授業担当教員である私の意見や考えの提示のバランスなど、今後はよりわかりやすくする工夫が求められる。



人文学部 キリスト教学科
渡邉　学　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 思想史に学ぶ人間の尊厳6 |
| 授業コード | 10D03-006 |
| 教員名 | 渡邉　学 |
| 教員コード | 017186 |
| 登録人数 | 76 |
| 回答数 | 31 |
| 回答率 | 40.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



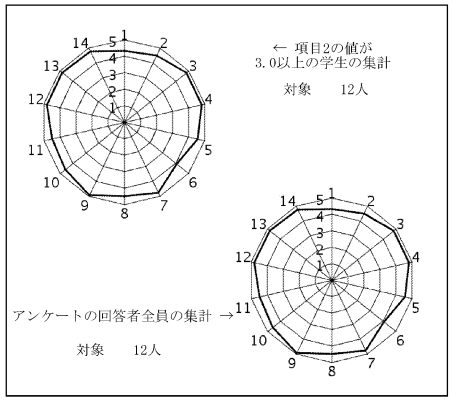

授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標としては、1）近代社会における人びとの苦悩について理解する、2）19世紀末から20世紀にかけて顕在化した宗教と科学の葛藤について理解する、3）ユングの思想が精神分析運動の流れの中でどのように位置づけられるか説明できる、4）ユングの思想の基本と問題点について説明できる、の以上4点を挙げた。それらに関しては、目標を達成することができたと考える。また、この講義では教科書は使わず、配付資料とPowerPointと板書によって講義を進めた。それらは、板書を除いて、WebClassにすべて掲示した。毎回、講義の初めにリアクションペーパーを配布し、講義の終わりに時間を取って記入させ、毎回、それに答える形で受講生の質問や要求や感想に答える努力をした。大きな質問に対しては、講義においてもとりあげて解説を施した。この試みは、それなりに成果を挙げたと思われる。反省点としては、教科書を使わなかったためにPowerPointの内容量が過剰になり、ノートが取れないという苦情があった。WebClassに必ず掲示するので、ノートが取れなくてもあまり気にしないように何度もアナウンスしたが、受講生には必ずしも受け入れられていなかったのは残念だった。講義に集中できるように、この講義では、毎回提出するリアクションペーパーを採点に20%入れ、レポートを80%とすることとした。そのため、学生のリアクションペーパーが充実したものになったのは評価できる。講義の改善すべき点としては、予習復習のポイントを明示して学習効果を高める努力をすること、文字情報に偏っているPowerPointを図式や画像などを増やし、視覚的にも興味を抱きやすいものに変えること、などが挙げられる。

人文学部 キリスト教学科
SWANSON, Paul　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 思想・文化をめぐって1＜国際科目群＞ |
| 授業コード | 13A06-901 |
| 教員名 | SWANSON, Paul |
| 教員コード | 016683 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 66.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

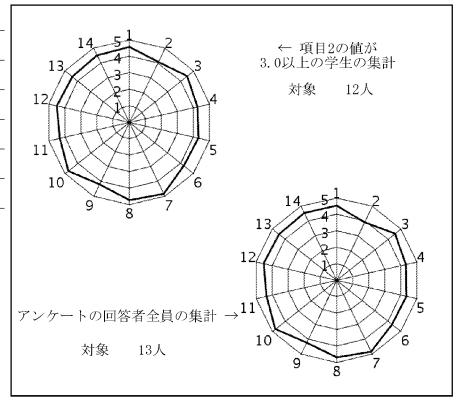
1. The goals set in the syllabus were met, with students responding properly to the challenge of understanding and interpreting Bob Dylan's lyrics. Verses from upcoming songs were assigned in advance to students in a rotating manner, and they each made 3 presentations during the course of the quarter, and submitted a final written report on a Dylan song that they chose.
2. The response of the students was adequate and they each tried hard to respond to the challenge of sometimes very difficult and complicated English lyrics.
3. I may revise the list of Dylan songs a little next year in line with the response of the students to the song list that was used this past quarter. One student commented that we should take up other songwriters to compare with Dylan, but this would be too complicated and I think it is best to keep the focus on Dylan's lyrics.



人文学部 キリスト教学科
加藤　久美子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 旧約聖書学(詩編・知恵文学) |
| 授業コード | 21C23-001 |
| 教員名 | 加藤　久美子 |
| 教員コード | 103475 |
| 登録人数 | 21 |
| 回答数 | 13 |
| 回答率 | 61.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



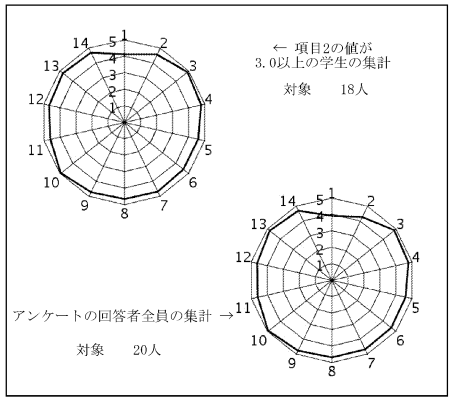

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今学期の授業の主題には、一般に触れることが少ない箴言、また旧約聖書の中で特に現代人の関心が高いが、最も難解といわれるヨブ記が含まれていた。これらについて全般的な知識を得るだけではなく、ヘブライ語の詩文体の特徴を捉え、履修者が自らテクストの読解に取り組むことができるようにすることが授業の目標であった。そのため本文の文体の特徴を反映した日本語訳を通常よりも多めに配布するなどの工夫をした。また授業の補足として、WebClassに担当講師による一般向けの講座を活字化した資料をアップロードし参照を促した。毎回のリアクション・ペーパーや期末レポートには目標が比較的よく達成されたことをみることができた。今学期は履修者が学科生の3、4年生だけだったことも目標の達成度が高くなったことと関係しているかもしれない。難しい主題であったにも関わらず、設問4-設問9および自由記述欄に比較的よい評価がえられたことは、履修者が一定の達成感を得ることができたからだと考えられる。今回、予習復習に関する設問2がやや低い数値になった点については、クォーター制に配慮して予習課題を減らしたことが影響したかもしれない。今後は、クォーター制の中で適度の予習復習を求めるよう改善したい。

人文学部 キリスト教学科
佐藤　啓介　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | キリスト教哲学B |
| 授業コード | 21C35-001 |
| 教員名 | 佐藤　啓介 |
| 教員コード | 102874 |
| 登録人数 | 59 |
| 回答数 | 20 |
| 回答率 | 33.9% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



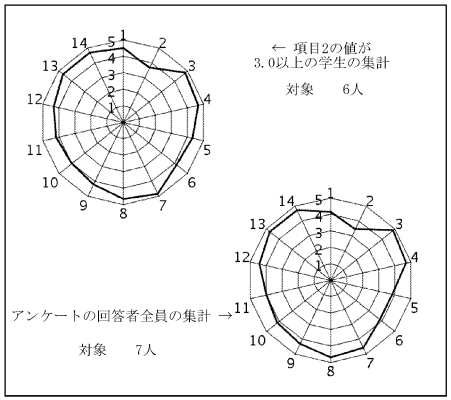

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の目標は「１．近代以降の西洋世界において、キリスト教思想がもつ哲学的な意義を理解する」「２．近代以降におけるキリスト教思想の変容とその背景を理解する」「３．現代世界を他者とともに生きるうえで求められる価値観や態度を学ぶ」というものであり、項目５（この授業の到達目標を理解することができましたか）は4.60、項目６（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）は4.65と、高い水準で目標を到達できたと判断してよいだろう。自由記述においても「哲学はわかりづらいというイメージがあったけれど、私たちにも共感しやすいように言葉を噛み砕いた説明をしてくださったのでとても理解しやすかった」という意見があり、到達目標は達成できたといえるだろう。
予習・復習に関する項目を除くと、全項目が4.6を超えており、とりわけ授業の運営・進行に関する数値はいずれも4.8前後と高く、適切に講義を運営できていると思われる。
ただ、学生に何度も声をかけたにもかかわらず回答率が低く、今後、回答率を高める工夫を考えたい。

人文学部 キリスト教学科
VARGHESE, Rejimon　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 組織神学(キリスト論A) |
| 授業コード | 21C36-001 |
| 教員名 | VARGHESE, Rejimon |
| 教員コード | 100555 |
| 登録人数 | 13 |
| 回答数 | 7 |
| 回答率 | 53.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



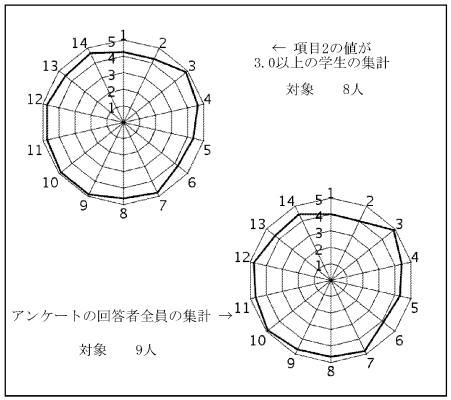

授業評価結果を踏まえた点検・評価

学科科目の組織神学（キリスト論A）は、聖書におけるナザレのイエスの様々な側面についてでした。従って、この授業はイエスという全体像を提供した。
１。開講当初に設定した目標を目指して行われていたので、学生の授業評価からもわかるように、その到達に達したと思います。
２。学生による総合的授業評価は４点以上になっているし、学生の自由記述式設問の回答によると、この授業は良かったとか分かりやすかったという評価を得ています。私個人も学生に授業内容が伝わるように努力していました。
３。この授業評価を参考にして、次回改善すべきところを改善していきたいと思っています。

人文学部 キリスト教学科
鳥巣　義文　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 組織神学(三位一体論) |
| 授業コード | 21C38-001 |
| 教員名 | 鳥巣　義文 |
| 教員コード | 017848 |
| 登録人数 | 23 |
| 回答数 | 9 |
| 回答率 | 39.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



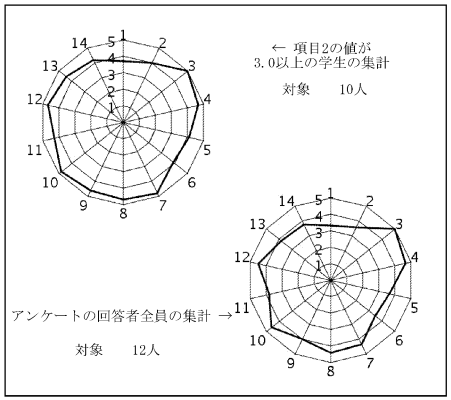

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標と達成の程度
目標は、旧約と新約の両聖書における神理解の特徴をつかむこと、キリスト教教理史における三位一体の神理解の成立と内容を理解すること、さらに、「父と子と聖霊」に関する類比的説明の事例を紹介できることにおいた。受講者の授業への興味（設問１）は当初4.00であったが、授業評価の時点で、理解度（設問5）項目で4.33、また、力がついたか（設問6）項目で4.11というように、少し上昇した。
② 総合的な自己点検・評価
昨年度の授業評価で4.18であった学習意欲の引き出し、自主的学習の促し（設問11）項目は、今回、4.67に上昇した。それに関連する学生の理解度への配慮、配布教材の利用（設問9）項目は4.67、質問や相談の機会、事前・事後の指導（設問12）項目は4.78であった。昨年度に自由記述で若干不満があった遅刻等への対応は、設問10の項目で4.89と評価された。その他、授業時間管理（設問3）項目は4.89であったが、授業の構成と進行（設問4）項目は4.44となった。最後の満足したか（設問14）の項目は4.44であった。さらなる工夫が必要である。
③ 改善点・豊富・方針
自由記述に、説明は丁寧だが、配布したプリントの文字が多すぎたというコメントがあった。授業の構成と進行の改善という観点で参考にしたい。また、配布する教材については、自らの研究成果の紹介と合わせて、今後も分かりやすいものに改訂を続けて行きたい。

人文学部 キリスト教学科
SOUSA, Domingos　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 組織神学(神学的人間論A) |
| 授業コード | 21C39-001 |
| 教員名 | SOUSA, Domingos |
| 教員コード | 100753 |
| 登録人数 | 17 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 70.6% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



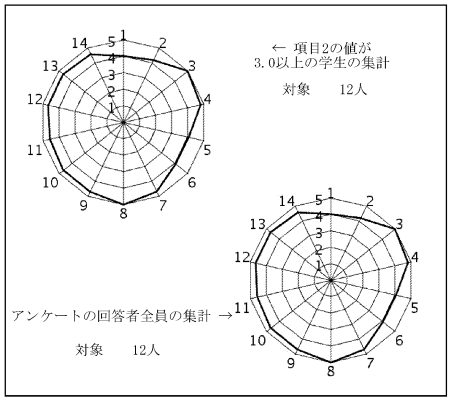

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、旧約聖書と新約聖書に描かれている人間観を明らかにした後、その人間観がギリシア哲学と出会うことにより、どのような変貌を遂げ、展開していったかを検討する。代表的思想家の著作から収集した箇所を精読し、そこに展開しているキリスト教の人間論を把握する。これを通して諸思想家の思想に実際に触れてもらうとともに、受講者の研究に必要な文献の基礎的解読力・分析力を高めることを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめたプリント教材も配布した。
「授業評価集計」の設問２、設問５、設問６の得点は多少低い評価となっている。
予習や復習などについての得点はとりわけ低いので、自主的な学習を促すような働きかけを行っていく必要があると思う。今後はこの点に留意して授業に取り組んでいきたい。
　来年度には、講義の各項目についてより分かりやすいレジメを提供し、関連文献を紹介することにより、主体的な学習と学習意欲を向上させる工夫をしたい。

人文学部 キリスト教学科
奥山　倫明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教学
授業コード 21C55-001
教員名　奥山　倫明
教員コード 019133
登録人数　14
回答数　12
回答率　85.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



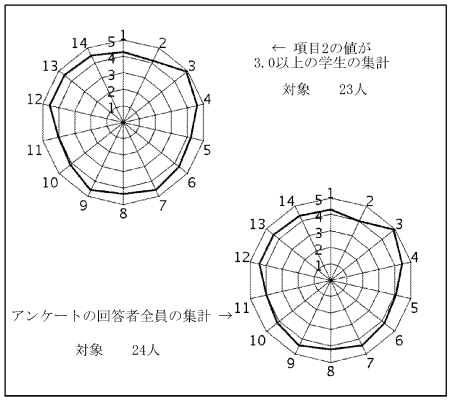

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業は、「現代宗教学がかかえるアクチュアルな問題について理解を深める」ことを目指し、学生には、「宗教学の諸潮流について理解する」、「宗教学の現状について理解する」ことを期待して実施した。授業では、予習を前提として、予習範囲における重要なポイントを講義するとともに、グループディスカッションを通じて、意見交換をしながら理解を深めることを試みた。学生により理解の程度に差はあるが、おおむね受講前と比べると宗教学の諸問題についての理解が深まったものと考える。
②数値データはそれほど悪くないと思う。自由記述において、「議論することにより理解が深まる」「先生の声が聞きやすかった。そして、先生が面白かった」「自分の発表した意見に対して更に質問をされるので、深く考え、議論することができた」「数人のグループ分けでディスカッションをし、意見の共有もすることができた」「あてられる授業は、とても久しぶりでした。グループワークをとおして、様々な人の考えを知ることができ、おもしろかったです」といった記述があり、少なくとも回答した学生にとっては有意義だったのではないかと感じる。
③この授業で使ったテキストは、以前にも使ったが、2006年刊行のものであり徐々に若干の古さを感じるようになってきた。テキストについて、再検討を加えて、次年度以降の授業に備えたい。

人文学部 人類文化学科
谷口　佳津宏　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　倫理学1
授業コード 12A09-001
教員名　谷口　佳津宏
教員コード 016550
登録人数　52
回答数　24
回答率　46.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



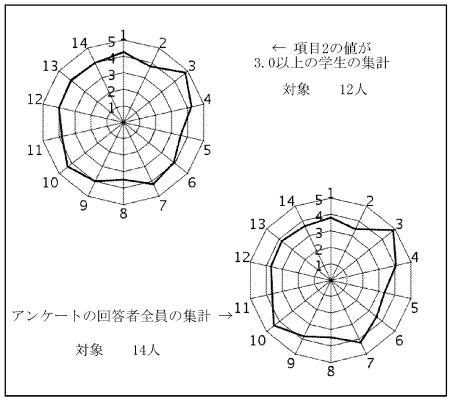

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は「1. 倫理と道徳の異同を理解している。2. 倫理と倫理学の違いを知っている。3. 伝統的な倫理学の基本内容をある程度知っている。4.普段の生活のなかで倫理的な行動を行なうことができる。」であった。設問のうち，全体平均を下回ったものは，設問2,7,8,10,11であった。11が低いのは毎回のことだが，8は今回はじめて平均を下回ったので意外であった。授業の内容，進め方は従来と大きく変えてはいないので，こうなった原因については不明である。が，全体としての満足度（設問 14）は平均以上であったので大きな問題はないかと考える。自由記述欄では「良かった点」として「毎回はじめの質問返し。評価に入らないが理解度確認の小テスト。」「わかりやすいプリントを配ってくれることや、手をあげるのではなく紙で質問できるところが有難かった。小テストも時々行われ、理解を深めることができた。」「抽象的な事柄を扱う学問でありながら、非常に分かりやすかった」「本の紹介が適切だった。」「画像などがあって分かりやすかったです。」といった意見があった一方，「改善すべき点」としては「話している内容が聞き取りづらい。」「少し早口なので改善してほしい。」「直接質問したいことがあるのであまりはやく帰らないで欲しかったです」といった意見が寄せられた。今後はもう少し教室をゆっくり出るよう心掛けたい。

人文学部 人類文化学科
横山　輝雄　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　科学技術論B
授業コード 12E06-001
教員名　横山　輝雄
教員コード 015149
登録人数　32
回答数　14
回答率　43.8%
休講回数　1　回
補講回数　1　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　項目３「この授業の到達目標を理解することができましたか」は、3.36であり、項目６「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が3.57であった。また項目１３「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術やの能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」は3.79であり、目標の理解と到達の程度は一応確認できる。

２．数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　数値データで高い評価を得たのは項目７と項目１０であり、いずれも教員の態度についてのものである。それに比して項目６などが相対的に低く、そのことが必ずしも結果に反映していないことが今後の課題である。

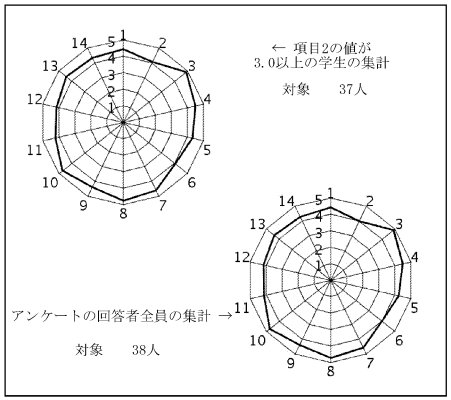
３．次クオーター・学期以降にむけての改善点、今後の抱負、方針など
　前段に記した課題が今後に向けて必要な改善点である。なお、今回「教室が遠い」という自由記述が複数あった。使用教室はQ701であったが、このことをどう受け止める必要があるのか、開講時限や対象学生の所属学部などとの関連で検討したい。



人文学部 人類文化学科
宮沢　千尋　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アジアとの出会い2
授業コード 13B02-002
教員名　宮沢　千尋
教員コード 019562
登録人数　62
回答数　38
回答率　61.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



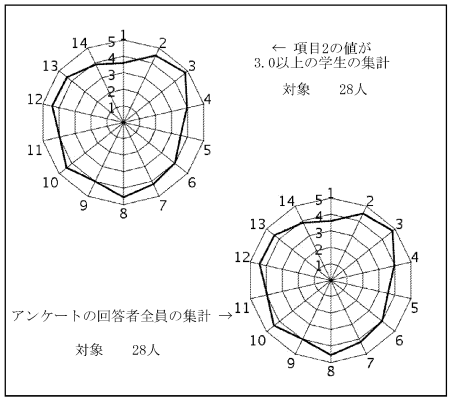

授業評価結果を踏まえた点検・評価

　今Ｑは履修者が62名といつもより少なかった。出席は取っていないが、教室を見渡すと出席者は常時40数名であり、出席率としてはいつも変わらないようであった。
　①試験結果についてみると、欠席・不可者を除いた数がほぼ常時出席者数と一致するので、授業に出席し復習すれば内容を理解できたものと思われる。開講当初に設定していた目標は「文化の違いには理由があり、その違いを理解して異文化を尊重する姿勢を身につけること」「日本史、世界史という枠組みにとらわれることなく、総合的に歴史を理解すること」であったが、項目５が4.24、項目6が4.00、項目14が4.26であり、目標に到達できたのではと考える。
　②すべての項目で平均値を上回ることができた。自由記述では、「到達目標が明確である」「世界史・日本史を区分しない考え方に賛同する」「レジメがわかりやすく、丁寧である」「写真やビデオなどを用いて具体的に示した点がわかりやすい」と言う意見があり、質問の時間を毎回取ったことや指定図書を置いたこと、復習課題を課して添削して返したことも評価された。
　③改善を求める意見では、板書が時々わかりにくい、話し方にもう少しメリハリが欲しいとの意見があった。気をつけてはいるつもりだが、まだまだ改善の余地がある。「内容がむずかしいのでかみ砕いて説明してほしい」との声もあり、学力や入試の種別が多様化しているので配慮が必要だと考える。

人文学部 人類文化学科
浅石　卓真　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報資源組織演習I1
授業コード 15P10-001
教員名　浅石　卓真
教員コード 103263
登録人数　35
回答数　28
回答率　80.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

「Excelのデータベース機能を使いこなすと共に、マクロ機能を用いて簡単な検索システムを作成できる」「Accessを用いて論文の書誌データベースを作成できる」「Rの基本操作を習得すると共に、テキストデータを収集・整形してテキスト分類を実行できる」という３つの目標について、提出されたレポートを見る限り、ほぼ達成できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

自由記述の中でレジュメが丁寧という肯定的な評価もあるが、間違いがあるという意見も見られた。これについては詳しくするほど細かなミスも増えがちなので、出来るだけ要点をまとめつつ間違いはなくしていきたい。少人数クラスのため、分からないところがあればすぐに質問できる環境だったのは幸いであった。

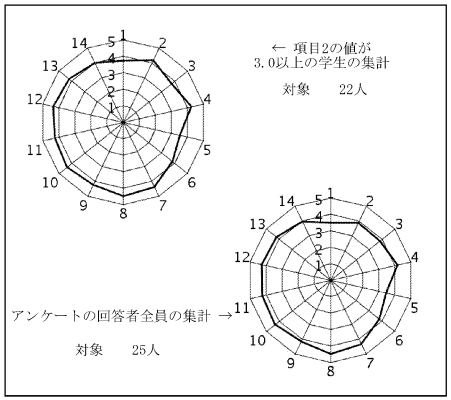
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

レジュメの間違いを極力無くすとともに、学生同士で教え合えるような雰囲気づくりを目指したい。

人文学部 人類文化学科
青柳　宏　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語学概論
授業コード 22B01-001
教員名　青柳　宏
教員コード 017004
登録人数　38
回答数　25
回答率　65.8%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



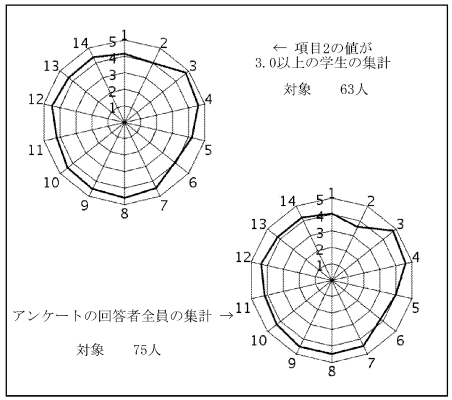

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達目標とその達成度について
今年度はつぎの2つの到達目標を掲げた。
１．日本語や英語といった身近な言語だけでなく、他のさまざまな特徴を持った言語があることが理解できる。
２．世界の言語には多様性があるばかりか、普遍性があることを理解できる。
期末テストの結果や毎回の授業におけるフィードバックをみるかぎり、履修者によって達成度に大きな差があることが分かる。
②総合的自己点検・評価
項目1～14の平均値が4.05、項目3～14の平均値が4.11と例年並みの評価であった。
授業の双方向性を高めるため、事前・事後学習を促し、教材等はすべてweclassに掲載しているが、利用率はそれほど高くなく、項目1、2の評価はまだまだ低い。
項目3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」については、一度も定刻に遅れて開始したことはなく、終了時刻も守っていたにもかかわらず、平均点が4点を切っているのか理由が分からない（自由記述欄にもこれに関する記述はない）。
自由記述欄には、「言語学で様々な知識を身につけることができた」「丁寧に時間いっぱい説明や質問に答えてくれた」「スクリーンが効果的に利用されていた」など肯定的な意見が多かった。
③改善点と今後の抱負
さらに授業の双方向性を高め、アクティブ・ラーニングの実現に向けて努力したい。

人文学部 人類文化学科
渡部　森哉　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 考古学概論 |
| 授業コード | 22B04-001 |
| 教員名 | 渡部　森哉 |
| 教員コード | 101237 |
| 登録人数 | 164 |
| 回答数 | 75 |
| 回答率 | 45.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



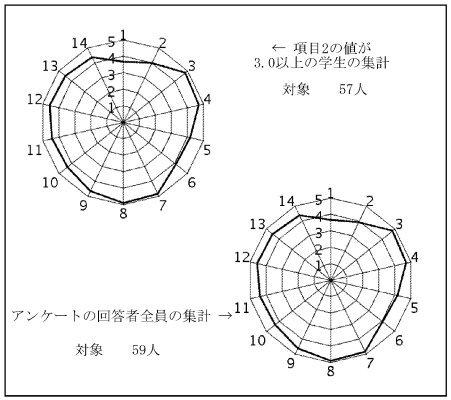

授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業を行った。
授業評価の結果を見ると、目的は概ね達成できたと思われる。
しかしアンケートの回答者は１６４名中７５名のみであり、回答率が低かった。授業中に何度かアナウンスし、かつアンケートの回答のための時間を設定したが、残念であった。
「この授業の良かった点、評価できること」に関して１２名が記述している。スライドを使用している点、受講生の質問に答える点などが評価されている。
「改善すべき点」については１名記述しており、古代の食べ物についてもっと学びたかったというコメントであった。今後の授業内容に活かしていきたい。
項目２の平均値が低いが、毎日の予習復習を求めるのではなく、講義の内容をレポートに活かすことを求めたためである。
また項目１「の授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」についても、平均値が低いが、それは選択必修科目のため仕方ないことかもしれないが、魅力的な授業に思われるよう、シラバスなどを工夫したい。

人文学部 人類文化学科
奥田　太郎　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 現代の倫理学 |
| 授業コード | 22C11-001 |
| 教員名 | 奥田　太郎 |
| 教員コード | 100642 |
| 登録人数 | 122 |
| 回答数 | 59 |
| 回答率 | 48.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



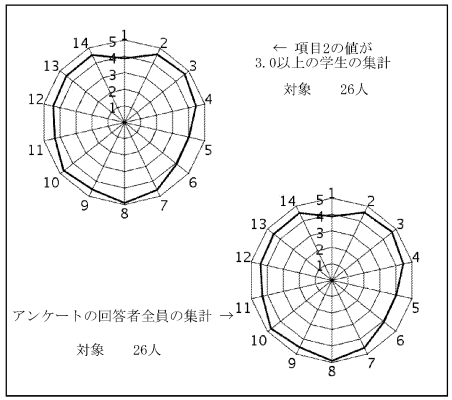

授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）倫理学という学問の基本および内部告発の問題構造を理解したうえで、提示された分析や議論に対して自分自身がとりうるスタンスについて意識する、という開講当初の目標は、おおむね到達されたと思われる。
（２）数値データは、基本的には良好であった。自由記述式設問への回答も、内容や授業の進め方について、おおむね好意的なものが多かった。ただし、出席をとってほしい、レジュメが見にくい、といったことが改善すべき点として挙げられていた。受講者からの評価を見る限りでは、この授業の当初の目標を十分に達成できたと思われる。
（３）内部告発を軸に倫理学的な考え方を学ぶというスタイルは受講生に伝わりやすいものであったようであり、今後もこのスタイルの授業を提供する機会をもちたい。また、レジュメについては、やや詰め込みすぎであったため、もう少し整理したものに改善していきたい。

人文学部 人類文化学科
林　晋太郎　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 統語論 |
| 授業コード | 22C13-001 |
| 教員名 | 林　晋太郎 |
| 教員コード | 103741 |
| 登録人数 | 33 |
| 回答数 | 26 |
| 回答率 | 78.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本授業の到達目標は、(i) 統語論における代表的な言語現象を把握する、および(ii) 文を構築するメカニズム、およびそれに関する普遍的な成約を理解する、の2点であった。2回実施した小テストの結果に鑑みると、この到達目標は概ね達成できたと言える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
決まった教科書を用いずに授業を運営した昨年度の「統語論」では、受講生に時間外学習(とくに事前学習)を促すことが困難であった。この反省から、本年度は教科書を用いて授業を進めた。教科書の指定された範囲を読み、事前学習に取り組んだ上で毎回の授業に臨むことを受講生に指示することで、時間外学習を促した。具体的には、毎回の授業で予習課題を与え、記入したものを次回の授業で提出することを課した。予習課題への取り組みに対する肯定的な意見が自由記述に複数見られたことを考えると、受講生にとって一定の効果があったと判断できる。

数値データに言及すると、本授業の授業評価結果は、項目1から14の平均が4. 45、項目3から14の平均が4. 48であった。Q3の人類文化学科開講科目の平均値がそれぞれ4. 39と4. 46であることを考えると、本授業の受講生の満足度は相対的に見て決して低くはなかったと言える。

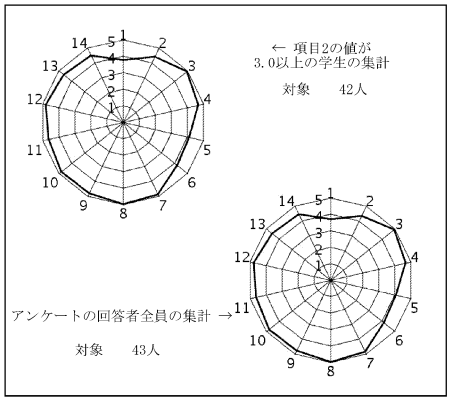
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
毎回の授業で予習課題を課すことにより時間外学習(とくに事前学習)を促す取り組みは、今後も継続したい。



人文学部 人類文化学科
和泉　悠　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 意味論 |
| 授業コード | 22C15-001 |
| 教員名 | 和泉　悠 |
| 教員コード | 103645 |
| 登録人数 | 52 |
| 回答数 | 43 |
| 回答率 | 82.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



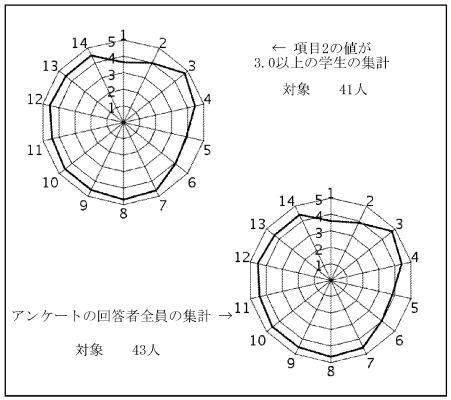

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 教科書の進捗は完全に予定通り、平均７割程度の小テスト結果を考えると、設定目標へ十分に到達できたと考える。
2. できる学生とそうでない学生の差、言語学のバックグラウンドを持つ学生とそうでない学生の差、やる気のある学生とそうでない学生の差をどう調和させつつ全体にうったえる内容を提示するのか、体感として非常に困難だった。数値は想像よりははるかに高く、また自由記述の評価もきわめて好意的であった。しかし、学生評価がそもそもどのような意義を有するのかの明示的な理論・理解がない状態で、どのように受け止めるべきかが問われる。
3. そもそも言語学分野における積み上げの科目の一種なので、履修要件を設定するなどある程度門戸を狭める措置が必要かもしれない。一切バックグラウンドを持たず、学習意欲のない学生を履修させるべきかを考え直したいと思う。

人文学部 人類文化学科
中尾　央　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　応用哲学B
授業コード 22C20-001
教員名　中尾　央
教員コード 102505
登録人数　104
回答数　43
回答率　41.3%
休講回数　1 回
補講回数　1 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

（1）開講当初に設定していた目標と到達の程度について：5と6についても少し人類文化学科の学生さんたちには到達目標が高すぎた可能性もあり，授業の内容をもう少し減らしたり，また到達目標をもう少し下げるなどして対応したいと考えている.

（2）数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：全項目についておおむね3.5以上，また一部の項目を除けば4.5前後の点数になっており，その点は安心できた．特に低かったのは1と2であり，1に関してはシラバスの記述の仕方を工夫する，2については予習や復習用の課題などを用意したりして対応することを考えたい.

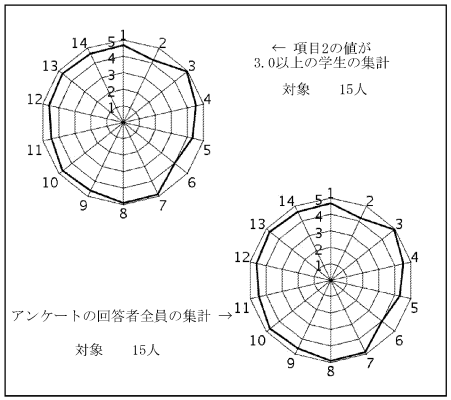
（3）次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：その他の項目や授業中の感想を通じて感じたのは，全体的に授業内容が少し学生さんたちには難しかったかもしれないという点である．この点については次年度以降留意し，内容を少し減らすか難易度を下げるか，あるいは内容をそのままにするとしてももう少し解説を丁寧に行いながら，しっかりと理解してもらえるように努めたい.



人文学部 人類文化学科
坂下　浩司　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　古代哲学史I
授業コード 22C25-001
教員名　坂下　浩司
教員コード 100471
登録人数　23
回答数　15
回答率　65.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



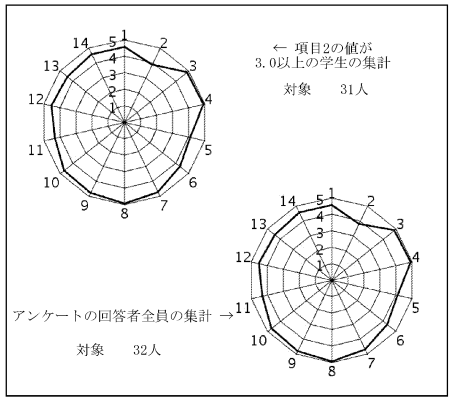

授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)開講当初に設定していた目標は「「Ｉ」は「ピロソピアー」　のギリシア的な意味を、タレスからヘラクレイトスまでのソクラテス以前の哲学を理解している」というもので、これは達成された。（２）授業評価集計によると、平均値はいずれも「４」以上となっている。今年度は、前年度とかなり授業のスタイルを変えた。思想や哲学は、日常接しているものや感じているものを基礎としているという考えのもと、古代ギリシアの壺や神殿（これらは実物は用意できないので私物の洋書を解体して図版を各人の机で見ることができるようにした）・コインのレプリカ（これも私物）の観察・計測・スケッチなどの時間を設け、ただ単に古代ギリシアの思想を文字だけで論じることがないようにしてみた。自由記述をみると、「写真（前記の図版のこと）やコインなど、その時代や文化に関係のあるものを実際に手に取り観察できたのがとても面白かった。９０分間の中に１０分程度でもギリシア文字を学んだり（ギリシア・アルファベットを１回の授業につき２文字ずつ書いて学んだ）、スケッチをする時間があることで、良い気分転換にもなり、難しい授業も集中して取り組める」とあり、こちらの意図はかなり実現していることがうかがえた。（３）次のクォーターも、この方針でやっていきたいと考える。哲学者本人の書いたものがヘラクレイトスからは増えていくので、これらにも触れる時間を作っていきたい。

人文学部 人類文化学科
坂井　信三　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 社会人類学 |
| 授業コード | 22C34-001 |
| 教員名 | 坂井　信三 |
| 教員コード | 034264 |
| 登録人数 | 64 |
| 回答数 | 32 |
| 回答率 | 50.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



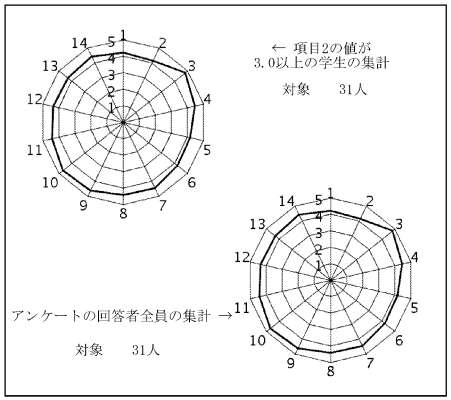

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の社会人類学の講義は基本的に昨年と同じだったが、毎回の講義内容のうち民族誌的な説明を多少減らして、できるだけ自分たちの社会の状況をふり返らせるような話題につなげることを意識しておこなった。また、授業中にも受講者に質問をする、意見を聞くなどの機会を多くして、インタラクティヴになるように努めた。リアクションペーパーへの回答、コメントもほぼ毎回するように努めた。
その結果、受講者の授業中の集中度は例年より高かったように思う。授業評価の結果を見ると、質問9、12などの評点は4.5を超えていて、受講者にもそのことが伝わっていたことがうかがえる。一方、質問6、13は4.3～4.4で、4.5を超える評価は得られなかった。この点は、次年度はさらに講義内容が自分たちの生活に直接関係していることがわかるように工夫したい。
自由記述に答えてくれた受講者は4人だけだったが、いずれも非常に好意的な評価だった。とくに「自分で考えるきっかけになった」、「考えさせられることがたくさんあった」という意見は、講義担当者として意を強くした。
最後に、今年の授業はＧ棟の古い教室だったが、改装の結果かなり快適になり、講義環境に関する苦情は出なかった。

人文学部 人類文化学科
大塚　達朗　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 東アジア考古学A |
| 授業コード | 22C38-001 |
| 教員名 | 大塚　達朗 |
| 教員コード | 019372 |
| 登録人数 | 40 |
| 回答数 | 31 |
| 回答率 | 77.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



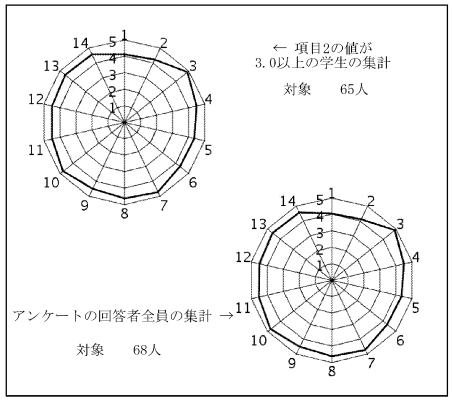

授業評価結果を踏まえた点検・評価

・目標達成度：おおむね達成できたと考える。
・授業目標：東アジア世界の形成過程および意義をモヴィウス・ラインと180万年前の第１次出アフリカと2万年前の北東アジア細石器文化の三点から修得させる。
・授業評価：集計表によれば、キャンパス全体では、項目1から14の平均が4.27、項目3から14の平均が4.31で、本授業は、それぞれ、4.41、4.45である。また、全体的な評価を問う設問（13・14）をみると、キャンパス全体ではそれぞれ4.28、4.22で、本授業はそれぞれ4.29、4.42である。故に、高く評価されたといえよう。自由記述をみると、「実際に石器とかを触れて貴重な体験ができた」「進むスピードが適切で内容が分かりやすかった」など、人類学博物館で直接旧石器を手にとっての講義を歓迎する記述が種々あった。
・改善点：次年度は、博物館での石器観察の際のスケッチの意義を説明する。
・今後の抱負：旧石器時代に東アジア世界が出現したことの世界史的な意義について、石器資料に基づいてより正確な歴史認識を修得させたい。
・方針：人類学博物館所蔵旧石器資料をできるだけ観察させながら、知識が抽象的にならないように、かつ、考古学の分析方針の特色を理解させるように心がける。

人文学部 人類文化学科
ANTONY SUSAIRAJ　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 地域の文化と歴史(南アジア)1 |
| 授業コード | 22C45-001 |
| 教員名 | ANTONY SUSAIRAJ |
| 教員コード | 103820 |
| 登録人数 | 99 |
| 回答数 | 68 |
| 回答率 | 68.7% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The Goals of the Course: This course was aimed at introducing students the South Asian History and Culture to the students.
There was a short introduction to each country of the South Asian Countries with the powerpoint showing the students the map, pictures of each country. Then there was a detailed explanation of Indian History, Cultures, Political and Social situations. There were also two guest speakers who had done a research on India. They shared their experiences and the cultural differences between India and Japan.
There were also short tests to find out whether the students could understand the classes. They were given sufficient materials that they could follow the class and its content.
Students were asked to write reflection papers that I could understand their questions and doubts. Later I could address their doubts and questions.
There were good number students who were interested in Indian Movie and its nuances. I showed them an Indian Movie which portrays the situation of present Indian women and the educational systems in India.

2. The overall assessment in numerical data would be 7

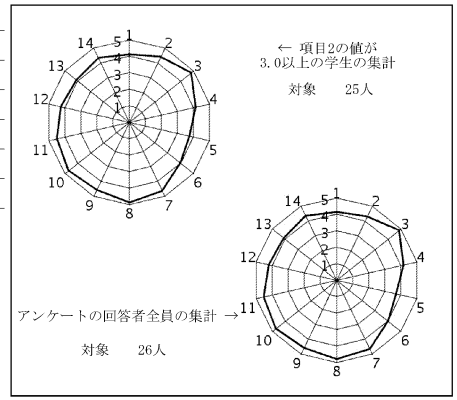
3. In the next quarter, Planning to introduce more topics such as the comparative study of Japan and India.



人文学部 人類文化学科
青山　幹哉　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 文献資料講読(日本)B |
| 授業コード | 22C57-001 |
| 教員名 | 青山　幹哉 |
| 教員コード | 019323 |
| 登録人数 | 47 |
| 回答数 | 26 |
| 回答率 | 55.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



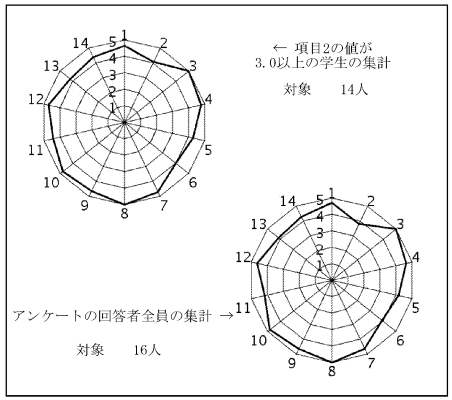

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　設定した到達目標は、(1) 日本中世の文献史料(編纂物)に関する知識が習得できる　(2)鎌倉幕府および鎌倉期武士社会の歴史的特性が理解できる、であった。設問4・5で評価値5または4とした学生は回答数の70～80%であったので、多くの学生については十分目標に達したものと考える。
②　担当科目についての点検・評価
　この科目は、2017年度Ｑ2学期における学生評価の対象であった。設問1～14の回答平均値を比較したところ、今回アップした設問7、ダウンした設問6、同じであった設問1であり、設問1～14の平均、同3～14の平均はいずれもアップした。前回は、週2回の授業進行について行けない学生が出たようで、前々回から大きくダウンしたが、今回はある程度回復することができた。ただし、最終日に授業評価を行った学生1名は、各全体素敵ほぼ低い値を付けており、まだ授業進行に不満をもつ学生はいるようである。
③　実際に出席する学生に比して教室が広すぎるため、今後はマイクの使用を常態化するつもりである。また、学生の復習に役立つようようにする。テキストとした史料文の釈文等を、後日、Web Class で公開することにしたい。

人文学部 人類文化学科
黒沢　浩　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人類文化学特殊講義(農耕文化論)
授業コード 22C73-001
教員名　黒沢　浩
教員コード 100758
登録人数　21
回答数　16
回答率　76.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

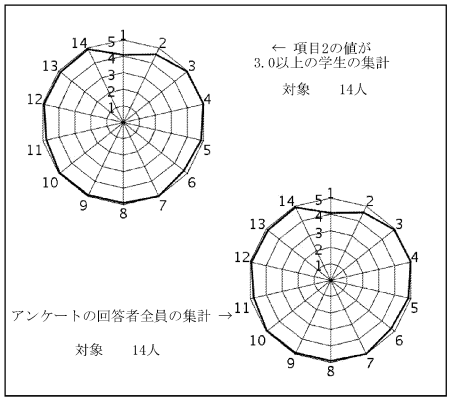
クウォータ制になってから、未だに授業ペースがうまくつかめず、最後の方が駆け足になってしまう点は毎回反省している。日程をよく確認しながら進めていきたい。また、今回自由記述の中で、科目名称と内容の不一致が指摘された。これは当初考えていた授業の構成が、長い間に変わってきてしまったことによる。ただし、授業内容についてはシラバスにある通りなので、次年度以降は、科目名称と内容が整合するように考えたい。



人文学部 心理人間学科
青木　剛　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育・文化における人間の尊厳1
授業コード 10D07-001
教員名　青木　剛
教員コード 103923
登録人数　22
回答数　14
回答率　63.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標は、①健康の意味の多様性を理解する②自身の健康について主体的に考察できる③多様な健康観を受けとめて共生にむけて創造的な思考を展開できるであった。受講生は毎回行われるディスカッションに意欲的に取り組み、自分以外の意見を聞き、自分になかった観点として受け取り、その上でより自分自身の健康に関する考えを構築するような様子がみられた。実際に、毎回の授業後のリアクションペーパーの学生の記述からも、上記目標が到達できていたことが確認された。

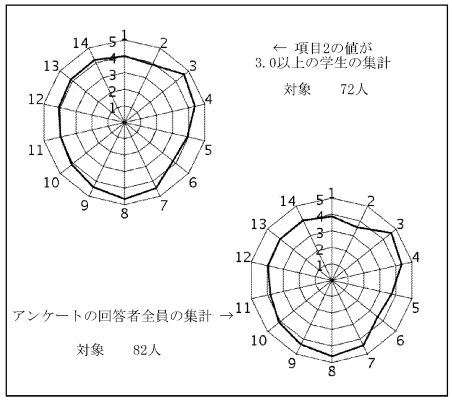
授業評価での数値も、どの項目も平均が4以上であり、どの項目でも学生の授業評価はよかったと考えられる。特に、項目4と項目7はアンケートの回答者全員が5と評価しており、授業進度が適切であり、教員の授業への取り組む姿勢も学生にとって評価できるものであったと言える。また、3以下の得点がついたのは項目1と2のみであったが、項目1は受講前の興味関心であり、3以下の得点を付けた学生は1名ずつで、かつ項目1と2以外の得点からも、受講後に関心をもって授業に取り組めていたと考えることができる。授業への主体的関与に関する項目2については、3を付けたものが1名いるだけであり、2や1と付けた学生はおらず、少なくとも意欲的でない受講態度ではなく、むしろ受講生全員が意欲をもって授業に取り組んでいたと言えよう。

今後も今回の評価を維持できるように取り組みたい。

人文学部 心理人間学科
林　雅代　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人間と環境1
授業コード　13D02-001
教員名　林　雅代
教員コード　018796
登録人数　124
回答数　82
回答率　66.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



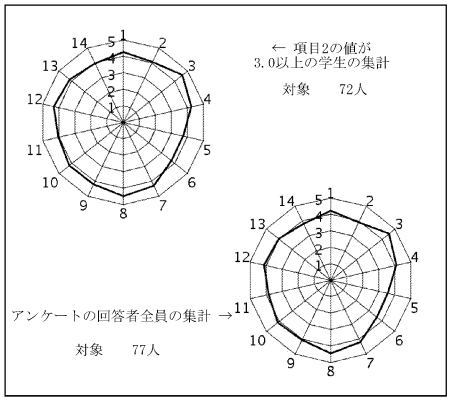

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の最終回で授業評価を実施した。受講者数が124名であったが、回答者数は82名とやや少ないのが気になるところではあるが、毎回の出席者が100名程度であったことを考えれば、ほぼ毎回出席してきた受講生が基本的に回答していると考えて良いだろうと思われる。全体としての満足度は4.04であった。比較的大人数であったため、特に後ろの方ではざわつくこともあったが、初回、2回目の授業で厳しく注意したことから、それ以降はそういったことはほぼなかった。授業の進度や教材等の使い方についても、評価は４以上となっており、回答した受講生は授業運営に概ね好意的であったように思われる。授業を行っていた中での実感としても、違和感のない評価であった。共通教育科目という性質上、空いているコマを埋めるとか、単位の取りやすそうな科目を履修するといった方向に傾きやすいところがあるため、授業の初回等でどれだけ規律を与えられるか、やる気のない受講生を排除できるかが、授業運営上重要である。同時に、授業開始後１週間は登録変更期間であることなどから、受講生が出席してこないということも実際にはある。初回からきちんと出席してくる真面目な受講生ではなく、不真面目な受講生にだけ伝えるべきことを、伝える機会がなかなか得られないのがもどかしい。

人文学部 心理人間学科
藤田　知加子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　こころとは1
授業コード　13E01-001
教員名　藤田　知加子
教員コード　100382
登録人数　173
回答数　77
回答率　44.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
自由記述の中に，「知識を覚えるための講義では満たされない欲求が満たされた。」，「普段考えないことが考えれた。」とあり，概ね到達できていると感じる。一方で，「もう少しわかりやすく、簡単にしましょう。だれも理解できていないと思います。」という感想もあり，年々学生の理解力に差が広がっていると感じる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
「先生が質問に真摯に答えてくださった」，「フィードバックをしてくれるので自分の考えを改めることができた」，「質問に対するレスポンスがしっかりしていた」，「毎回レスポンスシートへのフィードバックをしていたのが、学生のこころとは何かを考える上で非常に役に立っていた」など，教員からのレスポンスを高く評価する感想が多く認められた点は評価できると考える。しかし，批判的思考や議論そのものに慣れていない学生の中には攻撃を受けたと感じるものもごくわずかいるようで，「まるで生徒が浅い考えしか持っていないかのような態度で話したり、評価をするので、意欲が薄れた」とのコメントが1件あった。上記（①）の「簡単にしてくれ」や「批評されるのが嫌だ」という意見によって講義内容や進め方を変更することはないが，学問と勉強の違いを折に触れてより一層伝えていく必要があると感じた。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
「 様々な資料や実際に体験できる例があったので面白かった。」，「ビデオやクイズなどを効果的に利用していた」という学生からの声を参考に，学生の思考の助けとなるような教材をさらに工夫したい。

人文学部 心理人間学科
アッセマ　庸代　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 科学の諸相3 |
| 授業コード | 13E08-003 |
| 教員名 | アッセマ　庸代 |
| 教員コード | 055491 |
| 登録人数 | 29 |
| 回答数 | 1 |
| 回答率 | 3.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初予定目標はほぼ達成した。進度及び、目標への学生理解は得る。科学の諸相に関する知識は、学生によるが、科学が単純に理解の科目ではなく、人間の営みや人類と自然の叡智にか変わる宇宙的歴史の中にあることは学生自身が自由度をもって意識し始めた。②科目に関する綜合的評価はB平均である。科学思想やシラバスへの反響はあったが、学生自身の科学的思考力の研鑽になるには、実習sん角が弱かった。

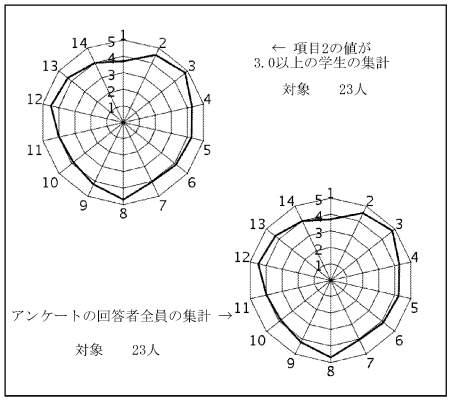
　二コマ連続にも関わらず、学生は。1コマ目で集中講義よりも「実習」への満足度を得るにもかかわらず、連続毎回の実習参加者は決まった熱心な学生であり、二コマ連続出席者は（1/3)いた。講義形式に慣れているとのことで、実習時間は、講義より軽視されがちである。自分の学習・科学的思考を問う。③学期以降に向けての改善点は、学生自身の意見発表の機会を増やし、自分の考えを論r期的述べる好悪、日常生活における科学の発見と発展、戦争や産業等、国際社会の中での科学技術と人間の役立ちを意識化する。日本の医療や教育と近代科学・学問の東西南北意識を交流させたい。



人文学部 心理人間学科
加藤　隆雄　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 心理人間学基礎演習IIB |
| 授業コード | 23A09-001 |
| 教員名 | 加藤　隆雄 |
| 教員コード | 019349 |
| 登録人数 | 32 |
| 回答数 | 23 |
| 回答率 | 71.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



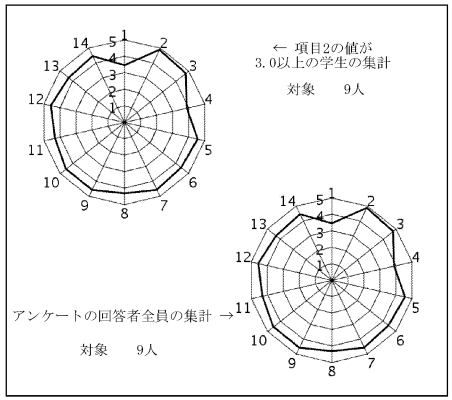

授業評価結果を踏まえた点検・評価

グループ研究を遂行し発表する内容の授業であるが、クォーター制になって最も授業進行に苦慮している科目が本科目である。セメスター制のもとでは、学生の自主研究の時間を６～８週間取ることができたが、クォーター制においてはその半分となり、グループの研究時間も半分になったため、これまで通りの成果を出すことが難しくなった。また、モチベーションの高い学生同士、低い学生同士が同一グループになることが多いため、４クラスでパフォーマンスに差が出ることがあったが、クォーター制によりそれが増幅された感がある。こうした点をふまえ、半分以上の科目で４点台の半ばを目標としていたが、それは達成できた。自由記述には、なぜ個人での研究ではなくグループ活動なのか、という意見が１名からあり、当該学生の満足度が低いことが複数項目の評価を下げていた（Excel資料）が、授業の趣旨を理解した評価とは言えない。また、他項目では評価が高いのに項目14で「1」の評価をして、14の評価を下げている不可解なケースがあった（同上資料）。極めてタイトな日程であることに学生は十分理解しながら作業を進めていたと考えられる。とはいえ、グループ構成やクラス分けの際の学生の偏りについては、今後細かな配慮を必要とし、学科学生の情報を集めながら、指導をしていく体制を次年度に向けてとるようにしていきたい。

人文学部 心理人間学科
高橋　亜希子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 心理人間学基礎演習IIB |
| 授業コード | 23A09-002 |
| 教員名 | 高橋　亜希子 |
| 教員コード | 103582 |
| 登録人数 | 33 |
| 回答数 | 9 |
| 回答率 | 27.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



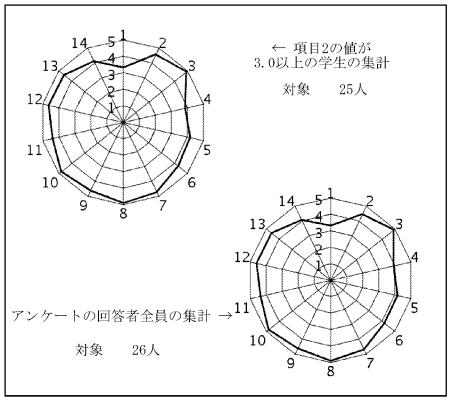

授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの回答ありがとうございます。授業評価の対象になっていることに最終回前に気付き、最終回にて連絡したため、回答数が少なくなり失礼しました。授業や指導についてはおおむね肯定的に頂きありがとうございます。指導が丁寧だったと言っていただけてよかったです。自分自身としては、全体発表からポスターに至るところで、内容を深めていくようなアドバイスがもう少しできるとよかったと思っています。また、「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」が4以下になったことについては、課題が多い、忙しいということだと捉えています。セメスターで行っていた内容をクォーターで行っていること、他にも課題のある授業と時期が重なっていることもあり、時間が足りないという意見が出ているのだと思います。この点については担当教員同士でも話し合ったのですが、課題の内容は大きくは変えられないそうです。そのため、課題の内容を早めに伝えるなどして、負担感を軽減していけたらと思っています

人文学部 心理人間学科
川浦　佐知子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 心理人間学基礎演習IIB |
| 授業コード | 23A09-004 |
| 教員名 | 川浦　佐知子 |
| 教員コード | 055855 |
| 登録人数 | 30 |
| 回答数 | 26 |
| 回答率 | 86.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



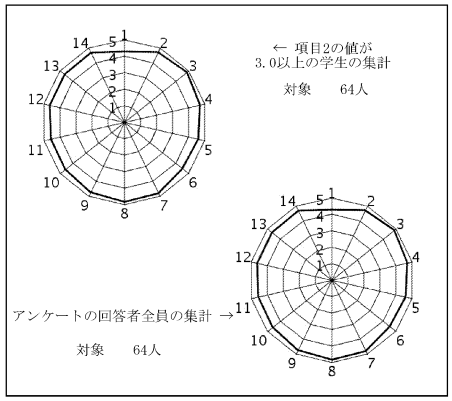

授業評価結果を踏まえた点検・評価

心理人間学基礎演習ⅡBでは、1）基礎演習I～IIIで習得した知識・技法を活用して研究実施をする力を養う、２）グループの主張を説得的に展開するよう研究をまとめる、３）効果的なプレゼンテーションする技術を修得する、４）他グループの研究発表に対する批評的な観点が養う、という4点が目指された。各グループとも文献研究をもとに研究をデザインし、データ収集・分析を行い、口頭発表、パネル発表を行った。学生は自主的に担当教員のみならず、統計や実験を専門とする教員の指導を仰いで、データ収集や分析を行っており、質の高い研究もいくつかあった。各発表に対して、授業内での質疑応答と併せて、ウェブクラスを用いてのフィードバックも実施された。改善点を的確に指摘するコメントもあり、研究目的ーデータ収集ー考察の一貫性が意識されている様子がうかがえた。設問１のポイントの低さは、学生がこの授業の目的を事前に理解していないことを示しており、この点についてはガイダンス等でより周知を図る必要がある。一方、設問13の新しい知識や技法の習得に関しては力がついたと感じる学生が多く、到達目標そのものはある程度達成されたと思われる。自由記述においては、「研究の一連の流れを短期間ではあるものの、体験できる点がよい」というコメントがある一方、「クォーター制でこの進行速度はきつい」というコメントも寄せられている。

人文学部 心理人間学科
解良　優基　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育心理学
授業コード 23C35-001
教員名　解良　優基
教員コード 103910
登録人数　136
回答数　64
回答率　47.1%
休講回数　1　回
補講回数　1　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた目標は，以下の2点であった。
1. 教育心理学の基礎的な知識を身に着ける
2. 具体的な事例やテーマについて教育心理学の視点から理解し，子どもたちへの支援を考えることができる
これらについて，本授業では予習課題の設定や学習内容の活用を意識したグループワークの実施など，目標達成に向けた工夫を複数行っていた。改善点はあるものの，課題の提出状況や確認テストの結果などから，上記2点についてはおおむね達成できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データの結果は，比較的履修者数の多かった授業であることを考慮したら概ね肯定的な結果であった。自由記述の内容からも，教員側が行っていた工夫や意図を学生は十分理解して活動に臨んでいたと思われる。

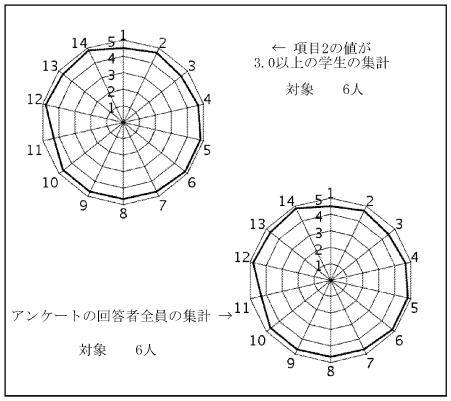
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
グループ活動をメインに据えていた授業であったが，受講生の人数が多かったことから各グループへの活動支援がどうしても手薄になった。回によってはゼミ生にアシスタントの役割を依頼することもあったが，本来はTAやSAなどの形で学生を雇用して安定的な授業補助を依頼できるとありがたい。特に，TAの制度はあるものの，大学院生がいないために結局依頼できないという問題点も耳にするため，学部生を授業補助として雇う仕組みがほしいと感じた。このような仕組みが整備されれば，受講生100名を超えた規模の授業でもアクティブラーニングの導入は教員の工夫次第で可能であると考えられる。



人文学部 心理人間学科
楠本　和彦　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　体験学習実践トレーニング
授業コード 23C74-001
教員名　楠本　和彦
教員コード 055780
登録人数　34
回答数　6
回答率　17.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



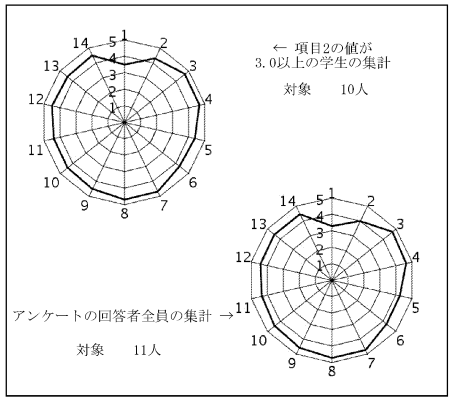

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目の【到達目標】は次の通りである。
・ラボラトリー方式による体験学習の原理や特徴を理解している。
・体験学習を用いた教育プログラムの立案から実施までの留意点を習得している。
・体験学習のファシリテーターとしての関わり方の基礎を理解している。
全学の平均をやや下回った設問に、3がある。授業の開始・終了時刻について配慮したが、当授業ではグループ活動を伴うため、終了時刻が時間通りにいかない場合があった。今後の課題としたい。
他の項目は全学の平均を上回っており、設問1～2、4～6、9～10、12～14は特に高い評価を受けていることがわかる。これからの項目は、授業への関心、主体的な参加、授業の構成や到達目標、授業運営、指導、理解の深化、全体としての満足に関するものである。
本授業の主要な部分は、学生グループが企画・開発した実習を他の学習者に実施し、フィードバックを受けるという形態である。このような授業内容・形態が、主体性や理解の深化、全体としての満足等に寄与したと考えられる。学生が学ぶ際に、教えられる立場から、授業を実施する立場へ変換してみること、そしてその準備を真摯に行うことは、各人の授業実施がたとえ1度であったとしても、有効であることの証の一つと考えることもできよう。自らが主体的に学ぶということは、ラボラトリーメソッドによる体験学習の本質の一側面として、重要な観点であり、このような学習体験を学生ができたことを担当者としてもうれしく思う。

人文学部 日本文化学科
宮脇　千絵　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 人類文化学特殊講義(アジアの社会人類学)2 |
| 授業コード | 22C70-002 |
| 教員名 | 宮脇　千絵 |
| 教員コード | 152580 |
| 登録人数 | 21 |
| 回答数 | 11 |
| 回答率 | 52.4% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバスに挙げた目標は次の4点である。１．現代アジアの人々の文化や社会、考え方について理解している。２．異文化の理解を通して、自らが生きる文化や社会について自分の考えを説明できるようになっている。３．論文を講読する力をつけている。４．自らの「当たり前」を問う視座を獲得している。
この目標を達成するために、毎回、課題論文を準備し、発表者とコメンテーターに内容を発表してもらい、その後全員で内容についてディスカッションをした。それにより、授業目標については、おおむね達成されたと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　最も数値が低かったのは設問１であった。受講前に興味を持ってもらうようシラバスに工夫をしたい。設問3、7、8など、教員の態度に関してはおおむね高評価を得ることができたが、学生の学習意欲や到達目標、予習復習についてはやや甘くない評価をする学生もみられた。毎回、課題論文を読んでくることを前提として授業を進めたが、発表やコメンテーターの担当者以外の学生が準備をしてこなかった可能性が考えられる。

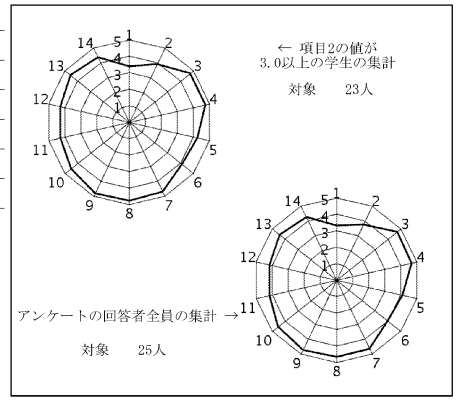
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　今回はじめて担当をした授業だったため、教員の側も学生の反応をみながら手探りで進めている部分があった。課題論文の選択、授業の構成やスピード、予習復習の時間確保などについて、さらに工夫をしていく必要がある。



人文学部 日本文化学科
丸山　徹　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 日本語学概論2 |
| 授業コード | 24C04-002 |
| 教員名 | 丸山　徹 |
| 教員コード | 015917 |
| 登録人数 | 30 |
| 回答数 | 25 |
| 回答率 | 83.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



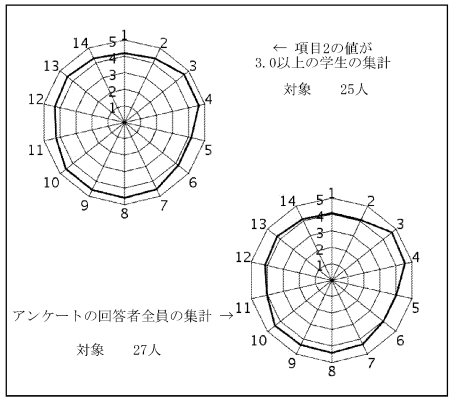

授業評価結果を踏まえた点検・評価

夏に留学から帰国した四年生で教職科目未修の学生のために急遽開講したもので「現代日本語の音声・音韻、文字、文法、語彙・意味、文章表現法について概説し、共に考える。また日本の諸方言、日本語の歴史的変遷にも言及する」という内容のものだったが、当初設定していた下記のような目標はほぼ達成したと考える。
１．　現代日本語の音声・音韻について理解している
２．　現代日本語の文法について理解している
３．　現代日本語の文字、語彙・意味について理解している
４．　限られた時間で与えられた課題について自分の言葉で表現することを習得する
学生のコメントは「意味論の話は面白かった」「説明がわかりやすかった」「改めて日本語について考えさせられた」「毎回授業の終わりに問題を課し、その答えを書かせていた点。授業への理解が深まった」「特に発音について、国際発音記号表などの資料や、授業の始めの解説がとてもわかりやすかった」などなど肯定的評価が多かった。定年退職前最後の「日本語学概論」としてはよい成果の得られたものと思っている。

人文学部 日本文化学科
松田　京子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 日本文化史A |
| 授業コード | 24C11-001 |
| 教員名 | 松田　京子 |
| 教員コード | 100789 |
| 登録人数 | 78 |
| 回答数 | 27 |
| 回答率 | 34.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　この授業では、近代日本の社会・文化および思想状況を、博覧会という具体的な出来事を切り口として考察するという全体テーマのもと、各回の小テーマにそくして教員が作成した配布プリントを主な教材とし、それへの解説を中心にテーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後10分程度を小レポートの時間にあて、授業内容の感想や質問を受講生全員に書いてもらい、次の授業の冒頭で、教員がそのいくつか紹介し、質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。このような方法で授業を進めた結果、シラバスで示した到達目標の達成に向けて立案した授業計画は、ほぼ予定通り進行することができた。

②　上記のような授業の構成や進度、授業の教材や板書のあり方などについては、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.59、設問9の4.37という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。反面、自主的学習を促す働きかけに関する設問11の平均値は4.04と、大学全体の平均4.18を少し下回る値となった。この点は大きな反省点である。

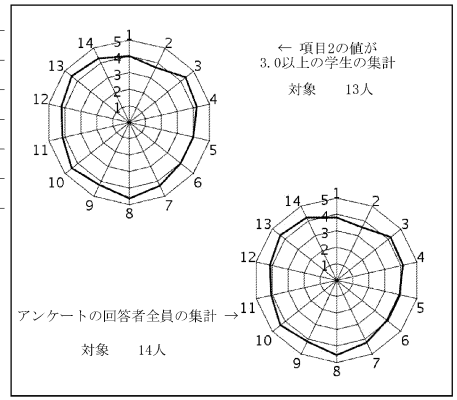
③　以上のような反省から、予習・復習を促す具体的な指示をこれまで同様、継続して行うのはもちろんのこと、それがさらに自習的な学習の促進、学習意欲の向上に繋がるよう、今後は、関連文献や参考文献の紹介をより丁寧に行うとともに、派生的な問題にも積極的に目を向けるよう指導することによって、学生の主体的な取り組みにつながるよう工夫していきたい。



人文学部 日本文化学科
坂井　博美　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 日本文化史C |
| 授業コード | 24C13-001 |
| 教員名 | 坂井　博美 |
| 教員コード | 102981 |
| 登録人数 | 79 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 17.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

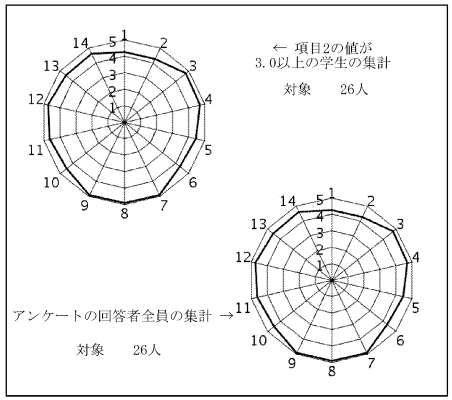
あらかじめ設定していた授業の到達目標については、概ね達成できたと考える。自由記述としては、資料がわかりやすかったという点と、あらかじめ授業の筋道を説明してから話をしたのがよかったという点が挙げられていた。今年度は、前年度と比較すると、講義全体のテーマと毎回の授業の関係について説明を多くくわえながら話を進めたことがよかったのかもしれない。

しかし、予習・復習を含めた主体的な授業参加についての問いと、学習の主体的学びの引き出し、さらに「質問や相談の機会が、十分に設けられていたか、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分だったか」の問いの回答は高いとはいえない。前年度と比べ、予習用の資料を配布する回数を少し増やしたが、読んできていない学生も見受けられた。資料を読む意図等の説明が不足していたことが反省点であり、次年度においてはこの点について改めたい。また、現在、質問等は抜粋して授業の冒頭で取り上げ補足説明等をしているが、それ以外にも授業外の学びを促進するため、適宜学生の関心にも即した方法や内容を考慮したいと考える。

人文学部 日本文化学科
岸川　俊太郎　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 日本文学史C |
| 授業コード | 24C31-001 |
| 教員名 | 岸川　俊太郎 |
| 教員コード | 103907 |
| 登録人数 | 60 |
| 回答数 | 26 |
| 回答率 | 43.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

2018年度Q3の開講科目「日本文学史C」について自己点検・評価報告を以下に行う。
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問4、設問5でそれぞれ、4.73、4.46という高い評価を得たことからも確かめられる。

次に、②数値データを踏まえての総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、全ての設問項目で日本文化学科の箇所別平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.54、4.62という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

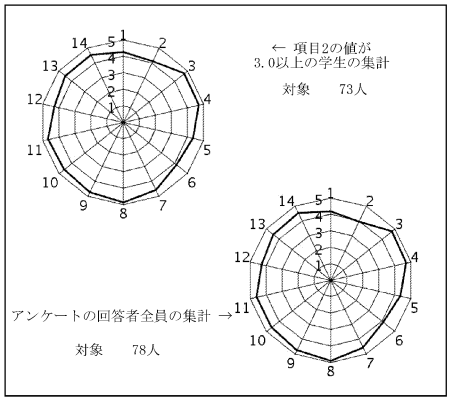
最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてであるが、「学生による授業評価」の自由記述欄に、レポートの範囲となった作品については教材販売に指定してほしかったというコメントが寄せられたことを踏まえ、来年度の授業では教材指定も考慮に入れたい。また、理解が難しい概念的な事項についてはレジュメに更に詳しい説明を加えたい。



人文学部 日本文化学科
森田　貴之　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 古典資料講読 |
| 授業コード | 24C40-001 |
| 教員名 | 森田　貴之 |
| 教員コード | 102286 |
| 登録人数 | 155 |
| 回答数 | 78 |
| 回答率 | 50.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



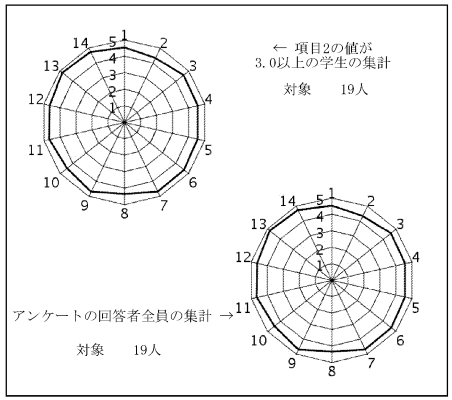

授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問１～18の総平均が4.48、4～18の平均が4.55であった。いずれの数値も全体の平均値を上回っていた。また設問14の満足度も4.53であり、当初の講義目標は大むね達成されたと考えている。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであり、古典資料を直接講読し、その内容を検討する、専門性の高い内容をあつかっている。同時に対象とした作品も和漢比較文学研究という比較的馴染のうすい学問の対象となってきた作品を取り上げた。そのため、かなり踏み込んだ専門的な内容も扱うことになった。一方で、日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。扱うには勇気のいる素材も扱ったが、その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思う。
　次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。 全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収率が78／155であり、授業時間においてきちんと回答時間を設け、回答を呼びかけたが、それでも回答率は向上しなかった。今後の課題である。

人文学部 日本文化学科
辻本　裕成　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 古文献入門 |
| 授業コード | 24C42-001 |
| 教員名 | 辻本　裕成 |
| 教員コード | 019042 |
| 登録人数 | 27 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 70.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業については、設問１４「全体としての満足度」が、４．７４と非常に高く、またほとんどの項目で４．５を上回る数値であったので、学生からの評価は大変高く、その点に関する限りは成功であったと言えるだろう。

その理由としては以下の諸点が考えられる。

１　履修者数が少なく、全体に目が行きわたったこと
２　くずし字を読めるようにする、というスキル科目だったので、授業の目標が学生に大変見えやすかったこと
３　この授業を開講してから長年になり、担当者が慣れていること

今後も改善を重ね、よい評価が続いていくように努めたい。

なおシラバスに掲げた到達目標は以下の通りであった。４以外は概ね達成できたと思っている。今後の課題としては、１について、もう少し高いレベルを目指すべきかどうかの検討である。

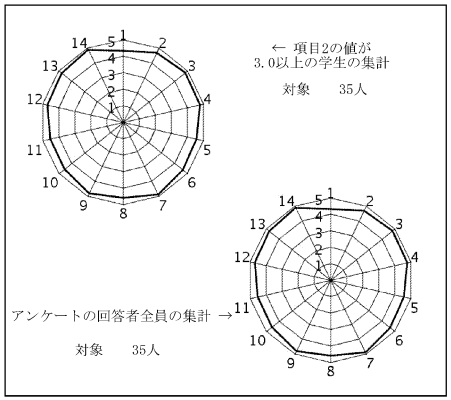
１　簡単な漢字が混じった平仮名のくずし字を読めるようになっている。
２　日本の古い書物の形態についての基礎的な知識を身につけている。
３　書誌学についての入門的知識を得ている。
４　活字からではなく、原本をみて研究することの意味に気付いている。



人文学部 日本文化学科
西岡　淳　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 漢文学研究I |
| 授業コード | 24C45-001 |
| 教員名 | 西岡　淳 |
| 教員コード | 019315 |
| 登録人数 | 60 |
| 回答数 | 35 |
| 回答率 | 58.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



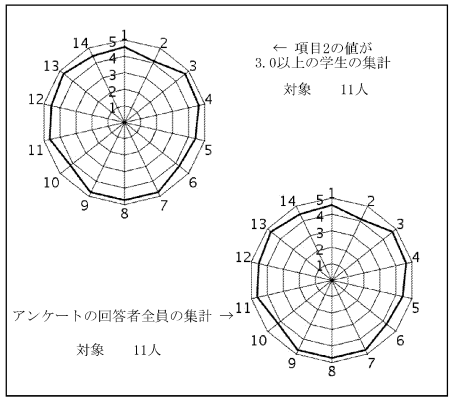

授業評価結果を踏まえた点検・評価

主な授業目標は、漢文の語法や語彙および基本的な工具書の使用法を身につけ、原文に即して適切な解釈ができる能力を体得すること等である。受講者に毎時間課した提出物の出来具合には確実に進歩が見られ、それが定期試験に反映していたこと、授業評価のほぼ全ての質問項目において高めの評価を得ていること（全項目の平均が4.69）などから、目標は一定程度達成されたと思われる。本学期は正史『三国志』呉書・魯粛伝の和刻本をテキストとして用い、これを訓読によって読み進めた。授業形式は、次回読む部分を前もって指定しておき、受講生はその部分の書き下し文を準備した上で授業に臨み、授業における担当者との遣り取りを通じて各自添削し、毎回提出するというものである。自由記述で肯定的なものとして「毎回予習の課題があったので授業が理解しやすかった」「宿題の量がちょうどいい」「書き下しにするだけでなく、他の知識も教えてくれたので楽しかった」「資料が多くあり、また、解説がとてもわかりやすかった」「答案を毎回添削してもらえる」などの評価が見られた。その一方で、「先生が話すときにマイクを使ってほしい」「三国志の背景を全く掴んでいない人には、背景説明が少し足りないように思える」等の指摘があった。いずれも対応が可能なことであり、聴き取りやすく十分な説明を心がけたい。

人文学部 日本文化学科
籾山　洋介　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代日本語の構造
授業コード　24C49-001
教員名　籾山　洋介
教員コード　041806
登録人数　19
回答数　11
回答率　57.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



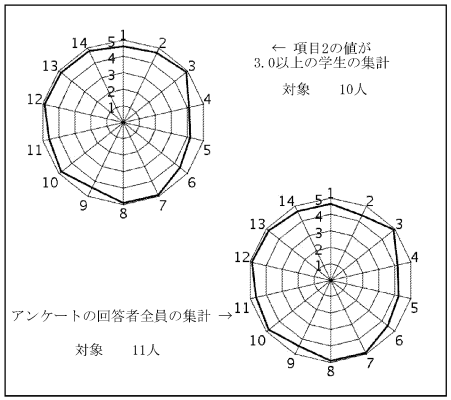

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「レポート」（２回）、「質問・コメントシート」（毎時間提出）、「授業時の学生の発言」から判断して、授業にきちんと出席し単位を取得した受講者全員がこの授業が目標とする水準に達した。「毎回授業の最初に前回の授業のコメントをフィードバックしてくださったので、理解が深まった」という記述があった。今後も学生の理解度に配慮し、疑問点などを解消しながら、授業を進めていきたい。また、「学生にも一緒に具体例を考えさせようとしていた点」がよかったという指摘もあった一方、「具体例をもっとたくさん挙げてほしかった」という記述もあった。今後さらに、（認知）言語学の考え方に基づき、身近な日本語の実例から考えていくという教材を工夫していきたい。さらに、「担当教員による議論の主題からの脱線からも学べることが多かった。興味深いことがたくさん聞けた」という意外な記述もあった。今後さらにメリハリのある授業を心掛けたい。なお、受講生の中には学習意欲が非常に高い者もいた。今後、このような学生には、さらなる勉強のための文献の紹介などを充実させていきたい。

人文学部 日本文化学科
岩崎　典子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　第二言語習得研究
授業コード　24C59-001
教員名　岩崎　典子
教員コード　103983
登録人数　16
回答数　11
回答率　68.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回日本の大学で初めて教えたため、授業を始めてから、学生の関心事についても聞いた上で学生のとって有意義で到達可能な目標を目指して調整しました。シラバスの目標のうち１点めは十分に達成できたと思いますが、３点めはほとんど議論できないまま終わりました。３点めは欲張りな目標だったと思います。２点めについてはある程度は講義に含まれていましたが、明示的には議論していなかったかもしれません。それが評価の５項目めの評価がやや低かった理由かと思われます。来年度は今年の経験を踏まえて調整します。また、やはり評価が低めで４．５以下だった項目２の予習については、洋書の教科書が主な教科書が高額で購入する学生が少なかった上、貸し出し不可の指定図書の手配が遅かったため、予習がしにくかったと思います。次回は貸し出し不可の図書を早くから手配したいと思います。日本語の参考文献も増やしもう少し使いやすいよう工夫したいと思います。この２点を除けば比較的高い評価を得ることができたので、時間をかけて授業の準備をした甲斐があったと思います。

学生１名が記述していたスライドが事前にほしいという希望については今後の課題です。私はスライドには学生にまず問いかける質問をして次に一般的な先行研究からの答えを提示したりすることもあれば、学生に第二言語習得研究で用いられる実験サンプルに示して答えてもらってから、次のスライドで何をみるための刺激文だったかなどを提示するため、スライドの事前提供は役立たないと考えていますが、スライドの代わりの補助配布物で補うことができるか考えみたいと思います。

人文学部 日本文化学科
鹿島　央　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 日本語教育実地研究 |
| 授業コード | 24C71-001 |
| 教員名 | 鹿島　央 |
| 教員コード | 044164 |
| 登録人数 | 8 |
| 回答数 | 2 |
| 回答率 | 25.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

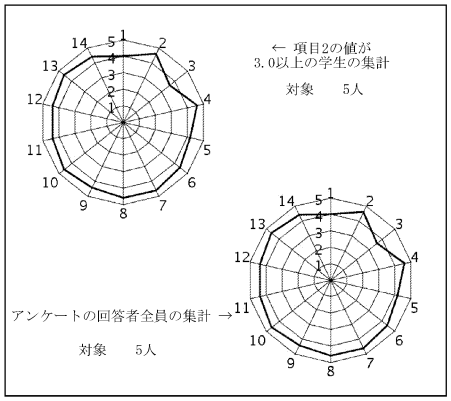
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、外国語教育センター教員と留学生の協力を得て実習の形で行われるものであるが、留学生にとっては必修ということではないので、何人の留学生が各週に参加するのか不定である。そのため、参加留学生が少なければ前もって準備したことが無駄になる可能性がある。今回の授業では、会話を重点的に復習することを第一の目標とし、そのために音声表現を中心に受講生とは準備を行った。今回の授業では実地研究の参加者は、登録者と研修生を含めて9名と多く、毎週参加の10名前後の学習者とほぼ1対1の対応ができた。音声表現に的を絞って学習者に対応したために、学習者もかなり興味を持ち、積極的に授業を進めることができたようである。授業内容は、教科書の会話の復習を発音に注意しながら行い、その後で学習者が作成した会話を実習生と行うような形とし、活発な活動が展開されていた。実習生の授業内の感想として、母語話者だからといって必ずしも会話を正しく、適切に表現できるものではないというこいうことがあった。このような点で、受講生にとっても有益な時間となったのではないかと思われる。今後、本学での日本語教員養成プログラムがうまく機能するためには、実習プログラムをさらに充実させていく必要があるが、そのための主要な授業の一つとして、この「実地研究」をまずはより魅力あるものにすることが課題であると考える。

外国語学部 英米学科
伊藤　聡子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]9 |
| 授業コード | 11A11-048 |
| 教員名 | 伊藤　聡子 |
| 教員コード | 102445 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 5 |
| 回答率 | 22.7% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |



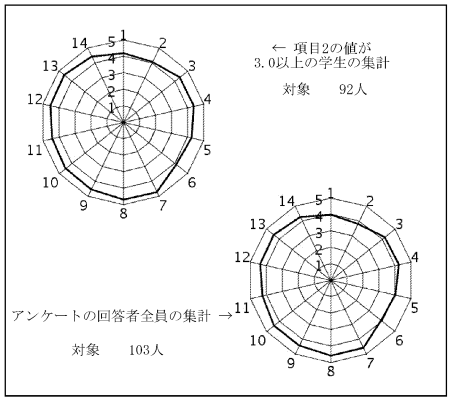

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 目標と到達の程度
この授業はreadingとspeakingの週2回の授業を通じて総合的な英語力を身につけることを目標としている。授業評価結果ではこの到達目標の理解度（5）および満足度（14）ともに平均を上回っており、目標についてはほぼ達成できていると思われる。
2. 自己点検・評価
授業の難度について、readingは比較的得意なもののspeakingに苦手意識を持つ学生に合わせ、readingは自主作成教材を追加しつつ進度を上げ、speakingは難度を個別の場合は抑え目に、グループ活動ではやや高めにする、という形で調整した。また可能な限り個別のフィードバックの機会も確保した。授業評価結果で（2）主体的な取り組み、（12）質問の機会がいずれの平均よりも高く評価されており、今学期は特に（13）の知識や理解が深まった実感について特に高く評価されている。これはこの調整が上手くいったためだと思われるため、引き続き取り入れたい。
3. 改善点と今後の方針
いずれの平均値も上回ってはいるものの、（3）の授業の開始・終了時間についてはグループの進度の差から終了時間に差がでることに対して評価が低くなっているものと思われる。調整が難しい面もあるため、この点が改善には引き続き努力したい。

外国語学部 英米学科
川島　正樹　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史の諸相2
授業コード 13B06-002
教員名　川島　正樹
教員コード 048116
登録人数　183
回答数　103
回答率　56.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



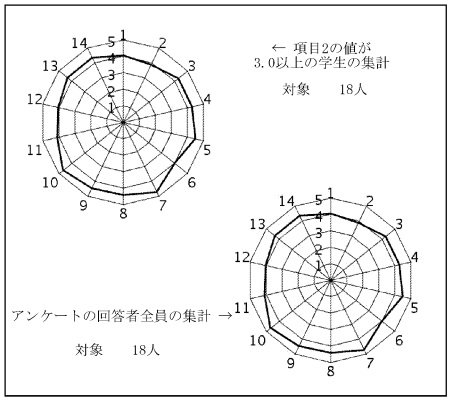

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：項目5の4.05という結果は昨年度をやや下回るものの共通教育の大規模授業としてはほぼ目標を達成していると判断しうる。ただし、項目6の3.91という数値は例年と比べ少々不本意な結果であったと認めざるを得ない。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：　非情に高い満足を示す受講生とそうでない受講生が両極化している。毎回WebClassを使って授業最後の10分ほどで3択や記述式の小テストを実施し、受講生の理解度を把握した上での復習や小グループに分けての討論などのアクティブ・ラーニングの試みも重ねてきたのに一部の意欲の十分でない学生への心には届かなかった点は大変残念である。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：　毎年改善努力を蓄積してきたが、昨年度よりも理解度の低下を見たことはショックであった。大規模教室での努力と工夫に限界を感じざるを得ない。引き続きWebClassの活用や周囲の受講生との討論などで共通教育の大規模授業における従来の限界を打ち破る努力を重ねる一方、授業内容の削減も視野に入れての改善方法の再検討をするべき時期に来ているのかもしれないと思っている。

外国語学部 英米学科
上村　直樹　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史の諸相4
授業コード 13B06-004
教員名　上村　直樹
教員コード 102463
登録人数　45
回答数　18
回答率　40.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



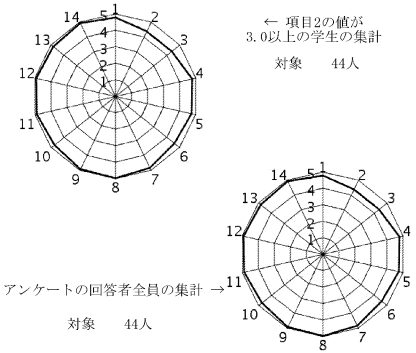

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、①アメリカとアジア太平洋諸国との関係の歴史展開を理解している、②アメリカの対外関係にとってアジア太平洋地域が持つ意味を理解している、③アジア太平洋諸国にとってアメリカとの関係が持つ意味について理解している、の3点であった。今年度Q2における別の科目での授業評価においては、この到達目標に関する質問項目5と6が3点台後半と特に低かったため、今学期は、15回の授業を通じて到達目標達成に向けて必要な講義内容を受講生に提供することに努めるとともに、到達目標自体に関する説明を初回、学期の中頃、そして最終回にそれぞれしっかり行い、授業全体のテーマやその日のテーマについての説明とあわせて、到達目標に関しても事業内容に即して繰り返し受講生への注意喚起を行った。その効果もあって、質問5に関しては4.5と高い数値となった。その一方で、その次の質問6「到達目標に向けて力がついているか」に関しては、4.0と低い数値になっており、この点に関しては改めて改善に努める必要がある。また質問11と12に関してもそれぞれ4.11と4.06と他に比べて低い数値になっているので、質問の機会を必ず設けたり、授業時間外の学習についての指示等も努めて行うようにしたい。

外国語学部 英米学科
芝垣　亮介　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ことばとは＜国際科目群＞3 |
| 授業コード | 13E02-903 |
| 教員名 | 芝垣　亮介 |
| 教員コード | 102481 |
| 登録人数 | 55 |
| 回答数 | 44 |
| 回答率 | 80.0% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |



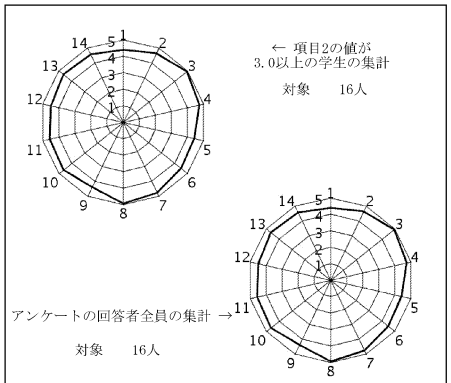

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は到達できたと考えている。それは授業評価集計の点数からもみられるが、項目１５の自由記述設問の回答に、「英語と日本語の違いを知った」、「文法/ことばの構造について理解した」等の回答が散見されたことからもわかる。また、授業内でグループワークの時間も数多く取り（１、２分程度のものを90分あたり１０回程度）、学生とのインターアクションを増やすことで、授業内でも学生が当初目標としてあげた学習事項を理解していることがわかった。
②全体としては1～１４の平均点が4.76、3～14の平均点が4.80なので概ね良好と捉えている。前述のグループワークの数も昨年度の同授業よりも増やしたのだが、授業の進行具合についても高評価（4.8）を得ており、また自由記述でもグループワークがあることに好感があるとのコメントがあるので、今後もこの方向性で授業を改良していきたいと考えている。
③設問2、3の平均点が共に4.36と低く、次クオーターではこの点について今後改善したいと考えている。

外国語学部 英米学科
浅野　享三　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語科教育法B2 |
| 授業コード | 15B10-002 |
| 教員名 | 浅野　享三 |
| 教員コード | 070912 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 16 |
| 回答率 | 88.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



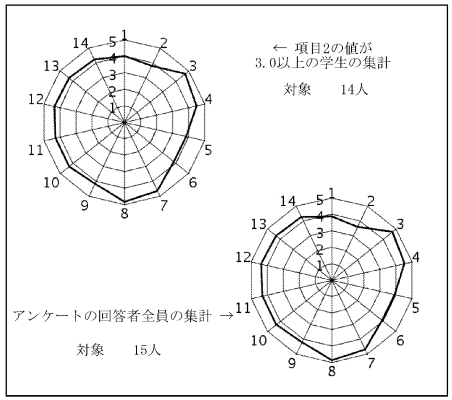

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標のうちの以下の４つ（1～４）は，ほぼ到達できた。（以下引用）【１．教育実習に備えて，指導案の作成方法を学び，実習の意義や重要性を理解し，心構えができる。２．模擬的授業を試みることで，授業実施上の課題ついて考えを深め，その対応ができる。３．わが国の外国語（英語）教育事情について知識を得て，学習指導要領との関連が理解できる。４．近未来の外国語（英語）教育のあり方について，自分なりの考えをまとめることができる。】ただし，残りの1つは授業内で点検をしない限り検証のしようがない目標だった。【５．英語運用力向上に加えて，英語という言語について知識と理解を増やすことができる。】よって，①の到達度は80%だった。次に②は，最低評価項目が4.38，最高が4.94，そして平均値が4.63だった。これは全資格科目の平均値である4.47を上回った。このことは学生の日ごろの学習態度・提出物からも十分に察知できることだった。具体的には，自由記述の一部を引用して，その根拠としたい。（以下引用。紙幅の都合で全６件中３点を削除している。原文のまま）【「外国語教育に関して、教授の考えを聞きたかったので、ものすごく好奇心を持って授業に参加できた」「先生の真剣さを感じた。先生1人だけでなく、生徒と共に考え授業をつくりあげていくような授業であった」「生徒間および教師と生徒間でもディスカッションの時間が頻繁に取り入れられており、思考力や知識がかなり深まった点。教師が生徒一人一人と振り返りノートのやりとりをしてくれた点」「希望すれば、個別に指導して下さったので、とても親身でした」「先生のFBが優しすぎず厳しすぎず、いい緊張感でできました」最後に，今後とも未来を担う学生のために尽くしたいと思う。

外国語学部 英米学科
村杉　恵子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語学特殊研究(心理言語学) |
| 授業コード | 31253-001 |
| 教員名 | 村杉　恵子 |
| 教員コード | 019034 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 15 |
| 回答率 | 75.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



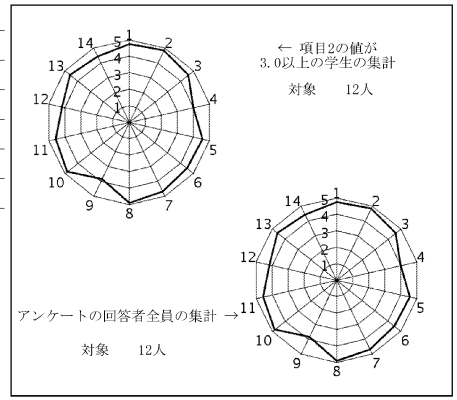

授業評価結果を踏まえた点検・評価

１　旧カリキュラムの授業であることから、受講生には他学部の学生など、当該の科目を受講するにあたって知っていることが望ましい基礎知識が十分ではない学生が含まれていた。そのため、当初予定していた内容を、少し変えて、基礎的な知識を到達目標として授業を進めた。
２教員側の要素についてはおおむね４以上の評価が与えられていることから、総合的には学びのある授業であったのではないかと思われる。今回は学生の英語学の基礎知識に関して不安がないわけではなかったため、心理言語学の研究方法やロジックのたてかた、分析の仕方などアプローチの仕方について講義する時間をもったが、これについては、おおむね理解され、興味を持たれたように思う。一方、難しすぎる、あるいは抽象的すぎる側面があったことを記述で述べる学生もいたことが、今回の講義の反省点である。
３今後、もしこの旧カリキュラムの授業を担当することがあれば、以下の点について留意したい。第一に、英語学の基礎を授業の前半で教示し、その応用でもあり、この授業の目標でもある心理言語学の部分を後半で行う必要があると思われる。週二回の授業であれば週の前半と後半とで基礎と応用を組み合わせ、クオーター制の良さを生かした授業構成を試みてみたい。第二に、今後は、より映像を用い、実証面を強化し、抽象的な言語分析の時間を減らしたほうが（基礎力のない）学生への負担が少ない可能性がある。受講生に応じて柔軟に対応するようにしていきたい。

外国語学部 英米学科
TOLAND, Sean　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | Academic English A III1 |
| 授業コード | 31A03-001 |
| 教員名 | TOLAND, Sean |
| 教員コード | 103616 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 54.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



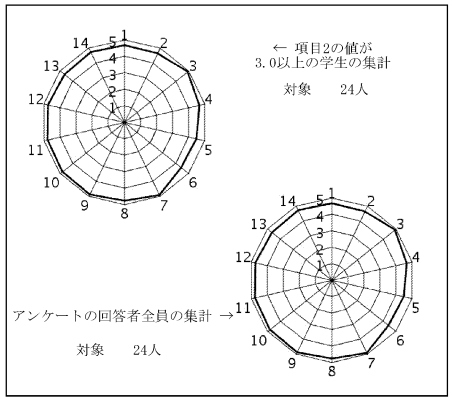

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the Academic English A course were covered during the third quarter. The end of the quarter report revealed that only 54.5% of the class completed the online survey. Needless to say, it would have been beneficial to hear the voices of the entire class, not just a handful of students. Nevertheless, a couple of items emerged from the formal and informal feedback that I received this past quarter. First, the instructional material for the research project and poster presentation sections needs to be enhanced before the publication of the next edition of the AEA textbook. More specifically, examples of student work (i.e., poster, model essay) must be incorporated into the updated textbook. The overseers of the AEA program have already discussed this notable shortcoming and will take steps to rectify it. Even though the students were provided with ample time for planning and discussing their collaborative projects with the instructor, a few of the teams were off-task and inadequately prepared before several of the lessons. I will address this issue by establishing the cooperative learning teams instead of allowing students to select their own partners. In addition, I will create a checklist to confirm that students fully comprehend each element of an assignment. These two pedagogical approaches should ensure that students are able to focus on the task at hand without being unnecessarily sidetracked.

外国語学部 英米学科
SAKAMOTO, Fern　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | Academic English A III2 |
| 授業コード | 31A03-002 |
| 教員名 | SAKAMOTO, Fern |
| 教員コード | 103615 |
| 登録人数 | 26 |
| 回答数 | 24 |
| 回答率 | 92.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



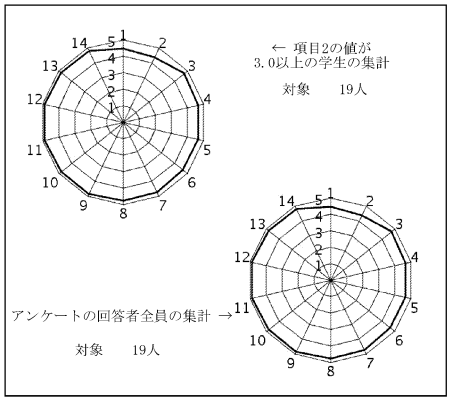

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, this course aimed to improve students' communicative abilities and equip them with academic skills necessary for future study in English. All students expressed a high degree of satisfaction with the instruction and teaching materials. This quarter I made an effort to address comments from some students in Q2 that they needed more time to complete tasks and this appears to have been effective. Only one student wanted more time this quarter. Several students specifically commented positively on the projects completed in this class. The lowest overall score (4.42) related to individual achievement of course objectives. In some cases this is due to individual effort, but it may be worth explicitly explaining to students how the projects relate to the course objectives to student. Overall, I am very happy with the third quarter course.

外国語学部 英米学科
DORMAN, Benjamin　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | Special Topics in English: Society B＜国際科目群＞2 |
| 授業コード | 31C02-902 |
| 教員名 | DORMAN, Benjamin |
| 教員コード | 100695 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 79.2% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |



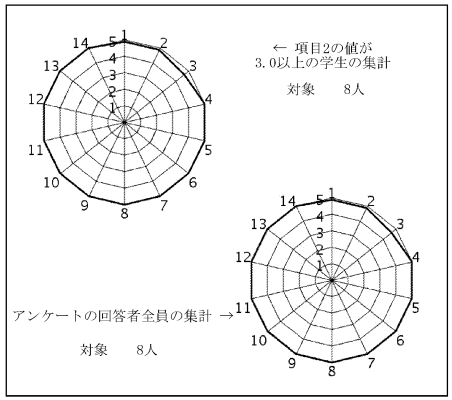

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course is to encourage students to think critically about media and to acquire some media literacy skills. The course introduces students to a wide range of social issues. The classes are divided into lectures, discussion time, and media (film and television) viewing.
This quarter more time was devoted to discussion amongst students and less time watching the films. In the past, we focused on 5 films and this quarter was used 3; we also watched 2 short television shows. This gave more chance for further discussion amongst students and based on students' comments, this approach seemed to be effective. One suggestion is to incorporate "loop discussion," which is an excellent idea that I intend to incorporate in the next class. The films appeared to be generally well-received by the students. I asked students to write up reports in class; in the classes the week after, I introduced some students' comments to the entire class. As one student commented, this gave them the sense of participating in the class itself, so I will continue this.
As for points for improvement, I feel that the theoretical aspects of examining media could be strengthened somewhat for the course. This could be achieved by focusing on the major points of the films, which include topics such as celebrity and parasocial relationships, aspects of truth in media, and media responsibility. A more theoretical focus will help students grasp the concepts earlier and give them a good base for further self-motivated inquiry.

外国語学部 英米学科
手塚　沙織　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | Special Topics in English: Contemporary Japan B1 |
| 授業コード | 31C22-001 |
| 教員名 | 手塚　沙織 |
| 教員コード | 103911 |
| 登録人数 | 9 |
| 回答数 | 8 |
| 回答率 | 88.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



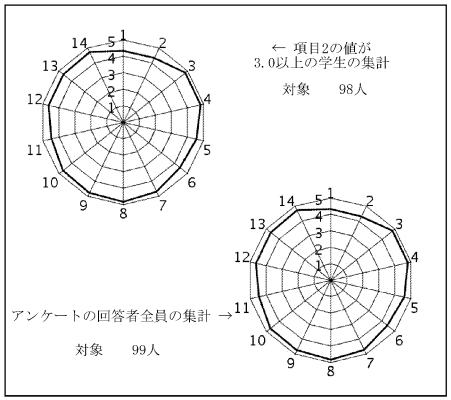

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The topics of course were about Japanese politics, society and economy. Considering the students' English speaking ability and interest, the time for debate and discussion was increased. Through discussion and debate of the given topics as case studies, the initial purpose was reached, which was that the students have learned fundamental knowledge of Japanese politics, society, and economy and acquired critical thinking, broad perspective and discussion/debate ability in English. I have also learned students' experiences of their life which they were willing to share with me and the other team, thanks to the class atmosphere. Actually, the course was the morning session so I was worried about their attendance and participation. It turned out that they were active and looked enjoying discussion and debate. I'm sure that this style of the course will be beneficial for students to have their opinion with critical thinking and broad perspective.

外国語学部 英米学科
大澤　広晃　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | イギリスの歴史 |
| 授業コード | 31E06-001 |
| 教員名 | 大澤　広晃 |
| 教員コード | 102964 |
| 登録人数 | 164 |
| 回答数 | 99 |
| 回答率 | 60.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

＜授業目標と目標達成度＞
　シラバスで設定した授業目標と授業内容については、おおむね達成できたと考える。

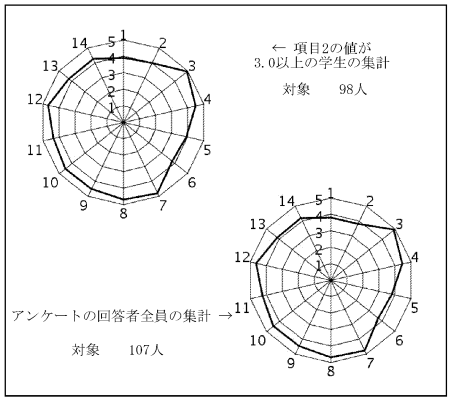
＜点検・評価および改善点＞
授業時間を1限に変更したことで昨年よりも受講者の数は減ったが、それでも150名以上の学生が参加する大教室の講義であった。いきおい、教員が話をする時間が長くなるため、学生の集中力と関心を維持するための方策が不可欠だった。これまでと同様、適宜小休止を挟んだり、学生の気分転換となるような話をしたりする一方で、一方的な知識の伝達にならないようディスカッションの時間を設けたりした。結果として、全体的な授業評価はおおむね高く、自由記述欄にもポジティヴなコメントが多く記されており、学生たちから好意的に受け止められたことに安堵している。その一方で、設問2と11（いずれも授業への主体的取り組みに関するもの）は、他の項目と比べるとやや低い数字が出た。講義形式で、知識の教授を重視するタイプの授業であるため、どうしても学生が受動的になってしまう傾向は否めない。もう少し学生同士で討論をしたり、意見の発表をしたり、発問・応答をする機会を増やすことで授業を改善していきたい。

＜今後の抱負＞
　今回の授業については、おおむね良い評価を得ることができた。ただし、改善すべき点は多くある。とくに、講義という形式と学生の主体的な参加をどのように両立させていくべきかは、依然として大きな課題である。今後もより質の高い授業を提供できるよう、努力していきたい。

外国語学部 英米学科
鈴木　達也　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英文法論＜国際科目群＞
授業コード　31E16-901
教員名　鈴木　達也
教員コード　017871
登録人数　161
回答数　107
回答率　66.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、(1) 経験主義的言語学と合理論主義的言語学の違い、(2) 生成文法理論の基本的概念の理解、(3) 生成文法理論の歴史的発達の理解の3つであり、最初のプリントにも明確に示してあったにもかかわらず、到達目標の理解度を問う設問5の評価は3.82で、到達目標に向けて力がついてきているかを問う設問6の評価も3.71であり、到達の程度は不十分であると言わざるを得ない。一方、この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったかどうかを問う設問13と授業の満足度を問う設問14の評価はいずれも4.17で、また項目3から14の平均の評価も4.38であるので、全体としては一定の成果は挙げられたとも言える。

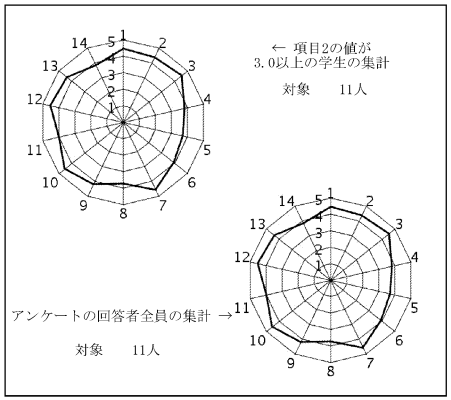
自由記述欄で大多数を占めたのは、内容は難しかったが授業の途中で確認のためのディスカッションの時間があったことで理解が深められたというものであった。国際科目群の授業であり、すべて英語で授業を行ったこともあり、確認のためのディスカッションの時間は、有効に機能していたと考える。また、WebClassの活用についても、好意的なコメントが得られた。これらは今後も継続したい。一方、日本語による説明を求めるコメントも多かったが、本講義は国際科目群の授業であるため、対応は難しい。今年度から2年次生も受講可能となり、実際非常に多くの2年次生が受講したが、英語力の面も含めて課題があったと考える。



外国語学部 英米学科
山辺　省太　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文学理論
授業コード　31E19-001
教員名　山辺　省太
教員コード　103138
登録人数　45
回答数　11
回答率　24.4%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



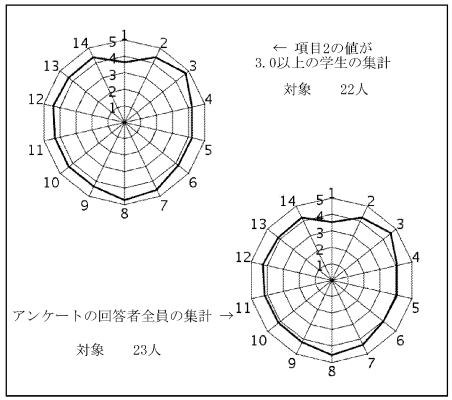

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価自体は悪くない結果だが、説明が分かりにくいという指摘もあり、今後はその辺りを改善していきたい。ただ、難しい内容だったにもかかわらず、好意的なコメントを残してくれた学生がいたのは、正直うれしかった。質問時間が不足していると感じた学生もいたようなので、その辺りの気配りも行うよう心掛けたい。今後も学生が文学に関心を持ってもらうよう、授業改善に努めていきたい。

外国語学部 英米学科
PURCELL, William　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英米文学特殊研究B＜国際科目群＞ |
| 授業コード | 31E35-901 |
| 教員名 | PURCELL, William |
| 教員コード | 016501 |
| 登録人数 | 67 |
| 回答数 | 23 |
| 回答率 | 34.3% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

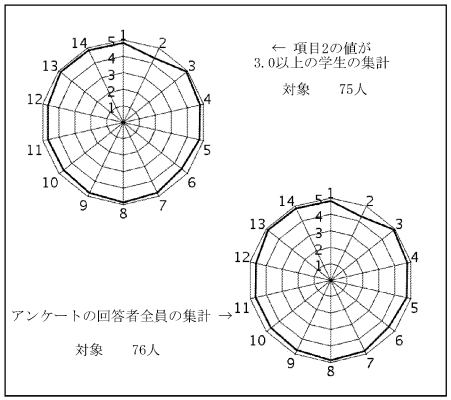
The goal of this course from the beginning was to raise in the students a greater awareness of and appreciation for the peoples of Africa and their cultures. Judging from the responses to the final report questions this seems to have been largely achieved. However, it is a little disappointing that only about half of the students took time to respond to this evaluation. This undoubtedly is due to the fact that these evaluations are now conducted online rather than by mark sheets which must be turned in.

Data from those who did choose to respond seem to indicate an overall satisfaction with the course. Few students volunteered any comments. One who did suggested that I need to be a little slower in making PowerPoint presentations. This is always a difficult balance to strike, since the time to cover the material is limited. Other comments were of an appreciative nature, noting that they particularly enjoyed the cultural and historic background I provided. Being the "authority" on the subject I often fail to realize how limited the students' background knowledge actually is and need to perhaps incorporate more of this into the course.

外国語学部 英米学科
今井　達也　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英米コミュニケーション特殊研究B |
| 授業コード | 31E37-001 |
| 教員名 | 今井　達也 |
| 教員コード | 102469 |
| 登録人数 | 94 |
| 回答数 | 76 |
| 回答率 | 80.9% |
| 休講回数 | 4　回 |
| 補講回数 | 4　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

１　この授業では様々な人間関係の問題について学び、その学びを踏まえて自分の身の回りの人間関係に生かすことがゴールである。そのために講義の後、グループワークを通して人間関係の問題について話し合う機会を設けている。グループワークには積極的に参加している姿勢がみられ、様々な意見をまとめ上げる力がついていたように思う。人間関係の問題についてどう対処するか、理論的にも実践的にも向上していたと考えられる。

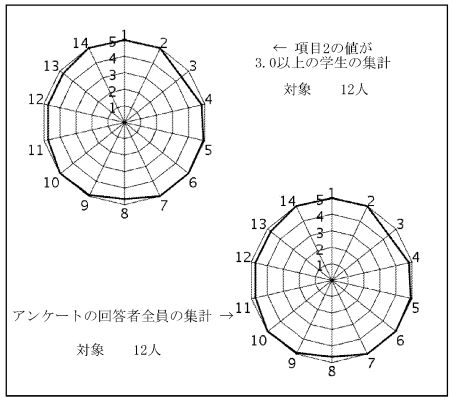
２　数値は概ね高いものであった。（平均4.74）しかし、一つきになる数値は”4.54：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。”であった。他の項目よりも少し下回っており、到達目標にどの程度学生が近づいているかを、授業の中で少しずつ提示していくことが必要だと考える。グループディスカッションをするために適した教室ではないという指摘が、自由記述の中に見られた。

３　上記の点を踏まえ、授業の中で到達目標を提示し、その目標達成のための道筋を示す工夫が必要だと考える。そして、教室の設備を始め、授業の特色であるグループワークが活発になるような工夫をしていきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
泉水　浩隆　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スペイン語VI[FS]1 |
| 授業コード | 11D06-001 |
| 教員名 | 泉水　浩隆 |
| 教員コード | 102114 |
| 登録人数 | 41 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 29.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価においては、設問4～18の平均値が4.86、全設問の平均も4.83で、これまでに実施した授業評価の中でも高い方の値となりました。レーダーグラフもほぼ外周に近い形であり、受講生の皆さんには全体として好意的に受け止められたものと考えます。特に、設問1, 2 の回答が 5.00 となり、高い興味を持って受講している様子がうかがえること、また、設問 6,7,10,14 で 5.00 という評価になった点は、担当者としてありがたいことだと考えています。授業進度についても、当初予定したところまで終了することができました。

自由記述欄では、「わかりやすい」（1件）、「文法解説がかなり丁寧」（1件）、「不規則動詞の規則性や考え方を教えてくれたので覚えやすかった」（1件）、「別解もくれたのでありがたかった」（1件）、「文法を丁寧に教えてもらえる」（1件）という意見がありました。来年度の中級レベルもそろそろ視界に入り、だいぶ難しいことがらも出てきていますので、今後もより効果的に学習を進められるよう配慮したいと思います。

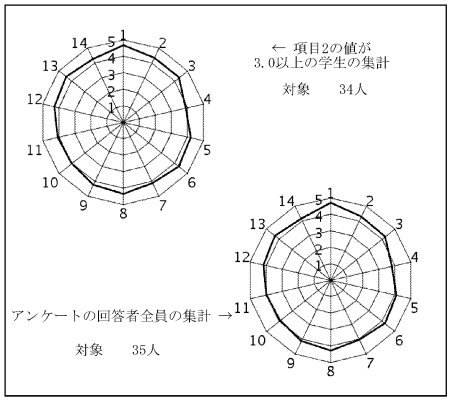
一つ残念だったのは、アンケート回答者数が12名と少なかったことです。今後より多くの意見を得られることができるよう、アンケート回答への依頼をさらに呼びかけたいと考えます。

全体として特筆すべき問題はなかったと思われますので、スペイン語文法の基礎をしっかりと定着させられるような授業を行っていく所存です。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
小阪　知弘　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スペイン語VI[FS]2 |
| 授業コード | 11D06-002 |
| 教員名 | 小阪　知弘 |
| 教員コード | 103689 |
| 登録人数 | 39 |
| 回答数 | 35 |
| 回答率 | 89.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



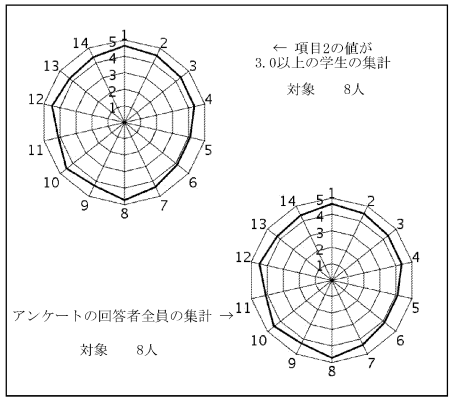

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと考えている。到達の程度に関しても、予定していた内容までは到達できたと判断している。
②授業をスムーズに進めて欲しいという要望に関しては、この意見を真摯に受けとめ、円滑に進めることができるよう、事前の準備等を工夫して、
スムーズに進めることができるよう講義内容を組み立てていく所存である。総合的な自己点検に関しては、70%程度の出来であったと捉えている。
これからも板書きの構成や思考の流れを総合的に教授できるように、俯瞰的かつ分析的な講義を展開していきたいと思う。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点に関しては、板書きと話し方を工夫して、わかりやすい文法解説を心掛けたいと思う。今後の抱負に関してであるが、短期的なビジョンだけで判断するのではなく、長期的なビジョンで、伝わる授業を心掛けていきたいと思う。客観的で冷静な講義を展開し、これからも多くの学生に楽しんでもらえるように講義を円滑に展開させていくよう精進し、研鑽を積んでいく所存である。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ESCANDON, Arturo　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 上級スペイン語IC1 |
| 授業コード | 32A22-001 |
| 教員名 | ESCANDON, Arturo |
| 教員コード | 102090 |
| 登録人数 | 33 |
| 回答数 | 8 |
| 回答率 | 24.2% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



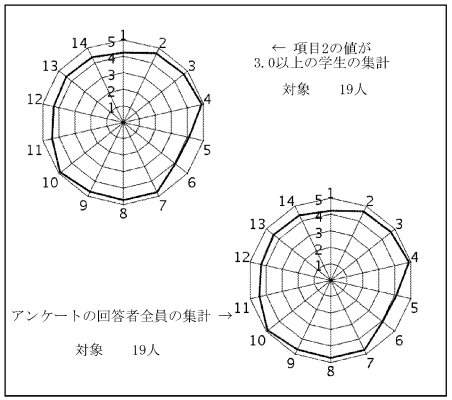

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set for the course were to incorporate students to the Spanish written tradition through a vast array of discursive genres. The goals were met, as students were able to both understand the underpinnings of basic poetry, fictional tales, figures of speech, etc. and produce them. Students participated in class, contributed with commentaries and home assigments and kept an atmosphere that fostered learning and development. The evaluation by students was very positive with all items above 4 points on a 1-5 Likert scale. The use of a textbook developed for this course was key in keeping the whole class at speed, learning and applying in-depth conceptions.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
CARDENAS, Abel　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 上級スペイン語IV1 |
| 授業コード | 32A27-001 |
| 教員名 | CARDENAS, Abel |
| 教員コード | 017525 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 79.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



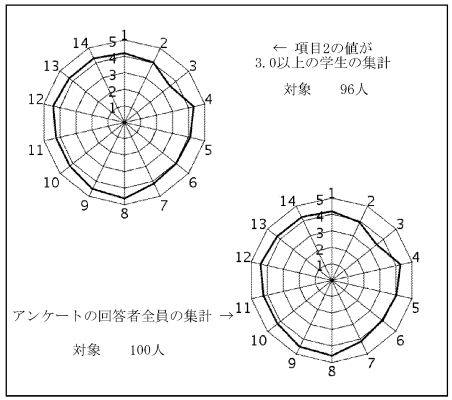

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to help students further develop their reading comprehension and oral skills in Spanish. This was achieved by the use of authentic reading materials as well as a variety of tasks centered on the development of successful reading and speaking strategies. The results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all of the aspects included in the three major categories of the class evaluation received an average score of 4.53, which is higher than the average achieved by other courses in the department and across the university campus. In addition, comments provided by the students in the open-ended questions of the survey confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were the relevance of the themes selected, the integration of oral and reading tasks and the non-threatening atmosphere of the class.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
永田　智成　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スペインの文化と社会B |
| 授業コード | 32C07-001 |
| 教員名 | 永田　智成 |
| 教員コード | 103900 |
| 登録人数 | 253 |
| 回答数 | 100 |
| 回答率 | 39.5% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |



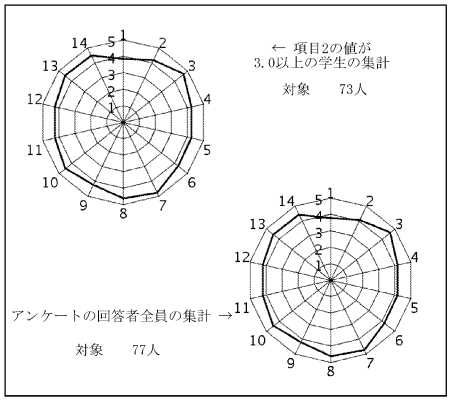

授業評価結果を踏まえた点検・評価

スペインの世界遺産を通じて、その背景にある歴史や文化を知るという当初の目的は達成できた。またレポートの書き方についても指導ができた。この内容について、多くの学生は関心を持って取り組んでくれたと思う。
DVDを見せて、リフレクションシートを記入してもらうというやり方はうまくいったと思う。他方、多くの学生が指摘しているように、毎回260人分のレジュメを印刷し、B棟に行くという時間が十分に測れず、開始時刻が遅くなってしまったことは大いなる反省点である。今後、このような大教室での講義では、しっかりと準備して、遅刻や準備不足ということがないようにしたい。
また、リアクションペーパーでの応答において、または授業中における学生の振る舞いについて、大きな声で注意した。イライラしているように思われたのは不本意であるが、質問・コメント欄に平気でいたずら書きをするという対応について、教員が学生を叱る権利はあると考えている。また、講義中にウロウロしたり、堂々と遅刻早退するという行動について注意してはならないとなれば、何のための教員かと考える。可能な限り、こんな幼稚園児に対する注意などはしたくないが、学生に問題行動があれば必要であると考える。
来年以降もより準備を深化させて臨んでいきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
遠藤　健太　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ラテンアメリカ史A |
| 授業コード | 32C20-001 |
| 教員名 | 遠藤　健太 |
| 教員コード | 103936 |
| 登録人数 | 109 |
| 回答数 | 77 |
| 回答率 | 70.6% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



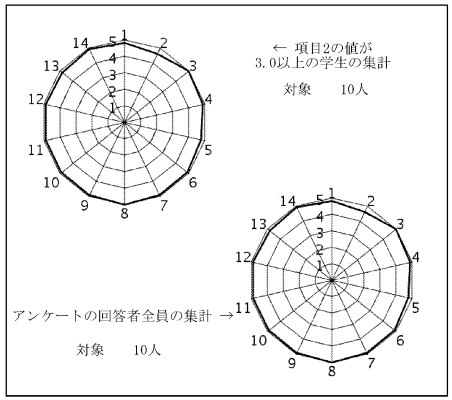

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「ラテンアメリカ史」の授業であったが、スペラテ学科の受講生は少なく（他の必修科目と時間が重なっていたとのこと）、ほとんとが他学部・他学科の学生であった。ゆえに、ラテンアメリカに関する知識をほとんど持っていないという前提で、初歩的な事項から丁寧に説明する必要があった。その結果、授業の進み具合にやや遅れが生じ、シラバス作成の段階で予定していた範囲をすべて終えることはできずに終わった。
　しかし、丁寧な説明の甲斐があり、多くの学生が講義内容に興味を抱いてくれたという手応えはあった。アンケート結果をみても、履修前時点での授業内容への関心が低かったのに対し（項目1: 3.78）、授業を通して得た知識・理解についての充足感は高くなっていた（項目13: 4.45）。また、教員の誠実さ・真剣さについては特に高評価を得ており（項目7: 4.73）、自由記述においても「説明のわかりやすさ」や「理解の深まり」に関するポジティブな声が多くみられた（自由記述・項目15）。
　一方、授業で使用したパワーポイントのスライドに多くの文字を書き込みすぎたため、学生たちがノートをとるのに必死になってしまい、話を聴くことに集中できない時間ができてしまっていたことがわかった（自由記述・項目16）。理解を助けるためのパワーポイントがかえって説明を聴く時間を奪ってしまうのでは全く逆効果なので、この点は大いに反省し、今後はより簡潔に記載するなどして、改善していきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
淺香　幸枝　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 総合政策外国文献講読II(スペイン語) |
| 授業コード | 70175-001 |
| 教員名 | 淺香　幸枝 |
| 教員コード | 000165 |
| 登録人数 | 12 |
| 回答数 | 10 |
| 回答率 | 83.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1～14の平均値は4.87であり、設問3～14の平均値は4.90であった。授業目標は達成できたといえる。一番低い評価の4.60は、主体的に授業に取り組んだかという問2である。少人数クラスであり、学生は授業記述欄に、「ひとりひとりにわかりやすく説明してもらい、わからないところもすぐ聞けてよかった。ひとりひとりの解答や話を一緒に考えてくれる先生の姿勢がとても嬉しかった。文化についてたくさん教えてもらって、教養を身につけることが出来た。」と記している。仕上がったスペイン語の小論は素晴しい出来だっただけでなく、発表するスペイン語もきれいな発音だった。

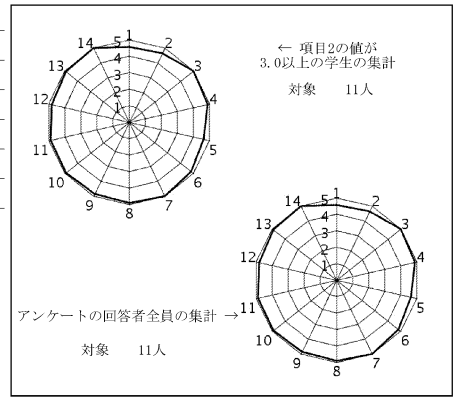
昨年のスペイン語の授業以来、継続して毎回ポートフォリオ型のリアクションペーパーを作成して、Ａ3用紙表裏に可視化する方法を採った。とりわけ、本科目は総合政策学部のなかで、方法論科目に位置づけられ、卒論へとつながる論文の書き方を教えるものである。スペイン語の文献を読むときにも、自分の立ち位置を自覚しながら読み解き、それを利用して自分のスペイン語の文章を毎回書いている。毎回クラス全体で共有しているので、12名の異文化理解をテーマとした作文はどれも個性があった。デジタル・ネイティヴである学生たちはインターネットもうまく使いこなし、作文に取り込んでいたのは素晴らしいことだった。

今後もこの方式を続け、学生の能力を高め、社会に役立つ人材として育てたい。

外国語学部 フランス学科
松川　雄哉　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス語III＜全＞ |
| 授業コード | 11B03-012 |
| 教員名 | 松川　雄哉 |
| 教員コード | 103644 |
| 登録人数 | 11 |
| 回答数 | 11 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



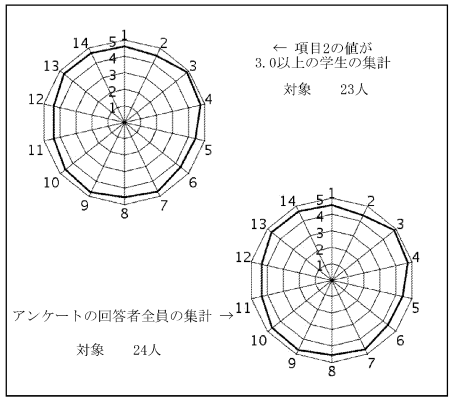

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目である「フランス語IV」では、「フランス語を使って～が出来るようになる」といった事を目標に授業を展開している。そのため、文法や和訳ではなく、フランス語を使うことを重視している。また、言語学習を通した人との交流・コミュニケーションを重視しているため、クラスではペアワークを基本的な活動とした。授業評価の結果を見てみると、数値の面では、全体の満足度は１００％で良かったが、「この授業の到達目標を理解することができましたか。」という問いの平均値は、4.64であった。そのため、どのような状況で、どんな既習事項が使えるかをもっと明確に提示する必要があると感じた。とはいえ、自由記述設問の解答結果を見てみると、「ペアと協力しながらなので今までは自分がわからなかったところを有耶無耶にしがちだったが話し合いできちんとり理解ができるようになった。」、「参加型の授業で、「フランス語を使えるようになる」に特化した授業だった。フランス語圏に行って実際使ってみたくなった」といったポジティブなコメントはあったので、クラスメート同士で学び合うことの重要性を感じられる結果となった。今後は、「習ったフランス語でこんなことができる」といったことを実感できるように、産出活動を工夫したい。

外国語学部 フランス学科
茂木　良治　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス語V[FF]1 |
| 授業コード | 11B05-003 |
| 教員名 | 茂木　良治 |
| 教員コード | 102698 |
| 登録人数 | 38 |
| 回答数 | 24 |
| 回答率 | 63.2% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



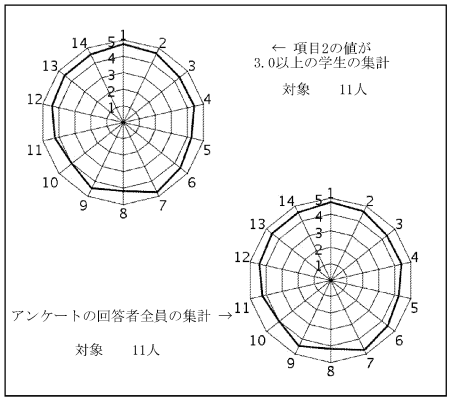

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Zé nith2という教科書を使用して、予定していた1～12課を全て終わらせることができ、当初設定していた授業目標は達成できたと考える。学生たちは欧州言語共通参照枠のA2レベルへの到達に向けて学習したことになる。フランス学科1年生向けの科目のため、教員から見ても授業進度は比較的早いが、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」で4.38点と高い数値を得られていた、また、設問9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って授業を進めましたか。」で4.71点だったことからも適切な授業運営だったことがうかがえる。また、設問3¯14の平均点が4.59と高得点であることからも、授業全体でも満足度が高いといえる。自由記述欄に、「説明がわかりやすかった。小テストを丁寧に直してくれた。」「わからない表現を細かく説明してくれた。」「様々な関連した他の知識が増えてよかった。」とあるように、肯定的な記述が見られた。一方で、授業後の学生からの質問対応に対する否定的な指摘があった。直後に授業があったため急いでおり、対応が不十分であったことに起因すると思われるが、今後は適切に対応したい。いずれにせよ、Q3では授業の進行が少し早かった印象があるため、Q4では復習を適宜入れながら進めていきたい。

外国語学部 フランス学科
平田　周　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス語V[FF]2 |
| 授業コード | 11B05-004 |
| 教員名 | 平田　周 |
| 教員コード | 103583 |
| 登録人数 | 39 |
| 回答数 | 11 |
| 回答率 | 28.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



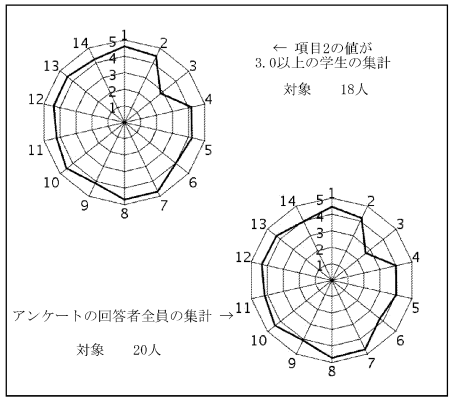

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　当初の授業計画どおりに、教科書12課までの会話と文法事項を終え、毎回の小テストも終えることができた。それゆえ、開講当初に設定していた目標に十分に到達することができた。また多くの学生が根気よく講師の話を聞き、予習と復習をしていたため、学生の理解度も非常に高いと思われる。
②　数値データの項目番号11に問われている学生の学習意欲や積極的な授業参加に関しては、レーダーチャートを見るかぎり、相対的に低い値である。学生の日常を観察するかぎり、友人同士における日常の会話でも、授業内容について話すことがあり、教えたり、教えられたりする関係がある学生のほうが授業の理解度は高い。
③　したがって、外国語（のコミュニケーション）能力を向上させる一環として、対人的関係を広げ、日常的な会話のなかに講義の内容を話す習慣を身につけてもらうことが重要であるように思われる。そのための手段として、例えば、授業時間内で、仲のいい友人同士ではなく、それほど親しくない人同士で、アクティヴィティを実施する時間を設けることは効果的である。また授業の進路の都合上思うように時間が取れていないが、小テストの結果を見ながら、理解につまずいている学生に問題を解かせるなどして、理解を促していきたい。

外国語学部 フランス学科
COURRON, David　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス語VI[FF]1 |
| 授業コード | 11B06-003 |
| 教員名 | COURRON, David |
| 教員コード | 019026 |
| 登録人数 | 26 |
| 回答数 | 20 |
| 回答率 | 76.9% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

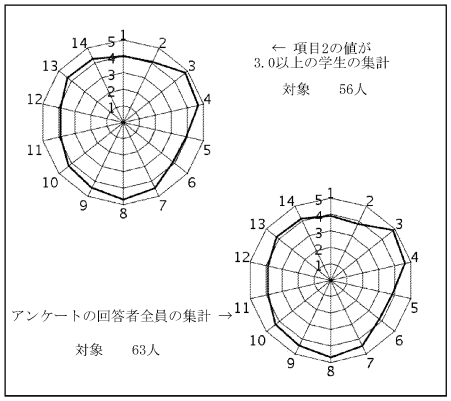
1. Initial course objectives
The aim of this course was to have students practice French through both oral and written exercises, with a particular attention given to pronunciation, spelling and acquisition of grammatical patterns in various contexts of communication.
2. Degree of achievement of initial course objectives
This quarter, even though the amount of homework may have seemed too heavy for a few of them, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them began to use French to communicate with one another inside the class. Some valued every class verb tests and dictations, the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also what was not in the textbook and the frequent chances they were granted to study over and over through their homework.
3. Areas requiring improvement and general remarks
According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future. A majority seems also to have appreciated my grammatical explanations along with my precise checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials on my home page.



外国語学部 フランス学科
真野　倫平　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ヨーロッパとの出会い1 |
| 授業コード | 13B04-001 |
| 教員名 | 真野　倫平 |
| 教員コード | 100083 |
| 登録人数 | 114 |
| 回答数 | 63 |
| 回答率 | 55.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



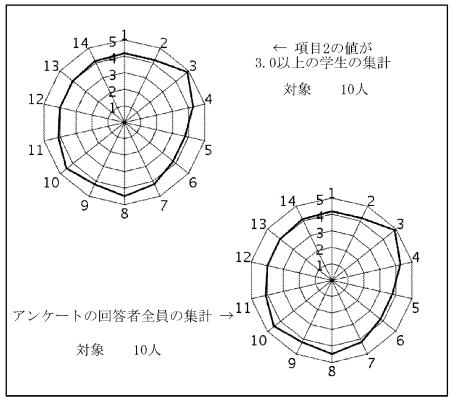

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は1年次生以上を対象とする共通教育科目の学際科目である。フランスの文化や社会を予備知識のない履修者に幅広く紹介することを目的とする。授業では毎回、歴史・社会・文学・芸術・演劇・映画・音楽など特定のテーマを定め、フランスの文化や社会を多面的な角度から概説した。毎回、授業プランならびに関連資料を載せた1～2枚のプリントを配付し、併せてパワーポイント資料も活用した。①目標と到達の程度については、試験の結果から判断すると、1）フランスの歴史・社会・文化・芸術に関する基礎知識を獲得する、2）異文化理解のためのさまざまなアプローチを修得する、という目標はある程度達成できたように思う。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均は4.27であり、学際科目の全体平均4.29とほぼ同じであった。設問を個別に見ると、設問11（授業参加や学習を促す）、12（質問・相談の機会）に関する回答の点数がやや低かった。自由記述欄においてはプリント教材や視聴覚資料に関する好意的な意見が目立った。③改善点・今後の抱負については、学生の積極的学習を引き出すような工夫と、質問・相談の機会をより多く設けることを、今後の課題としたい。

外国語学部 フランス学科
REBOLLAR, Patrick　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス語コミュニケーションの基礎II2 |
| 授業コード | 33A02-002 |
| 教員名 | REBOLLAR, Patrick |
| 教員コード | 100084 |
| 登録人数 | 27 |
| 回答数 | 10 |
| 回答率 | 37.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



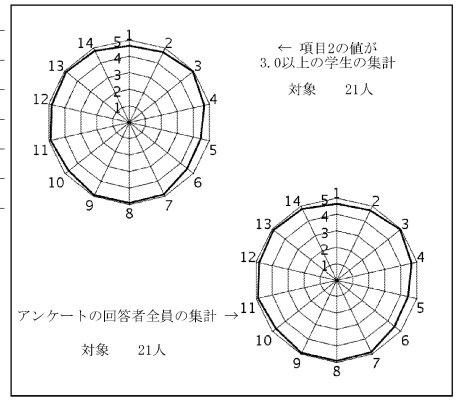

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is about the prononciation of the french language. After the discovery, during the first quarter, of the sounds of the french language, and some familiarisation with the IPA for the French, the aim of the fourth quarter is, by regular practice and exercises usually going from the sound to the meaning, the comprehension of some phonetical patterns, like links between following words in a sentence. Also, the understanding of the large range of sounds involving the "e" letter (about ten different ones), which is the most frequent letter in French, is an important achievement for the students. Of course, a regular reading of texts, dictations and transcriptions from IPA to French, using the textbook for the first year students and some Internet text and audio-video documents. All was also coordinated to finish with a song, using the words, sounds, rules and patterns we've learned. Though, the students could enjoy their practice while understanding a real song about ecology and today's dangers of pollutions. For next year, I would like to imply the students in the choice of the topics of the song, corresponding to their concerns.

外国語学部 フランス学科
中山　俊　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | アカデミックフランス語II1 |
| 授業コード | 33A28-001 |
| 教員名 | 中山　俊 |
| 教員コード | 103891 |
| 登録人数 | 27 |
| 回答数 | 21 |
| 回答率 | 77.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

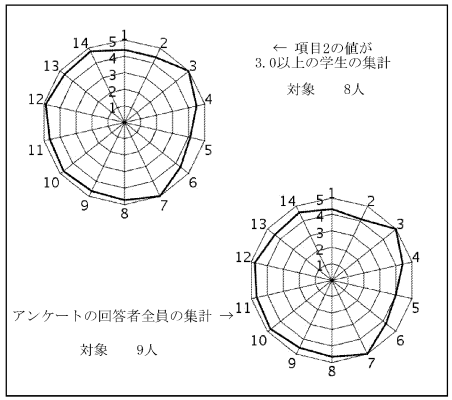
授業中の受け答えや期末試験の結果を見ると、本講義の到達目標のうち、「文章の背景知識を正確に捉え、筆者の意図を十分に理解することができる」、「筆者の意図を踏まえつつ、文章の論理を把握することができる」の2点は、ある程度達成できたのではないかと思われる。ただし、多数の定型表現の習得という目標に関しては、この部分に対応する穴埋め問題の点数が比較的低かった。復習にもっと時間を割くよう指導することが求められるであろう。

本学に着任して初めてのフランス語の授業であったため、当初は受講者30名弱のフランス語力が如何ほどのものか判然としなかった。ある程度わかるようになってからも、個人差が予想よりもかなり大きかったので、どの受講者も興味をもてるような、硬軟織り交ぜた教材作りに励み、それぞれの自主的な学習を期待することにした。この試みはかなりの程度成功したように思われる（受講者の学習意欲の向上に関連する項目11の平均値は4.90点）。また、質問や相談の機会を十分に設けるようにした（項目12は4.81点）。以上のような配慮が功を奏し、全体の満足度もかなり高かった（項目14は4.81点）。次に同じ授業を担当する機会があれば、受講者の理解度に合わせつつも、基本的には今回の授業方法を踏襲したい。

外国語学部 フランス学科
吉澤　英樹　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス文化特殊講義A |
| 授業コード | 33C12-001 |
| 教員名 | 吉澤　英樹 |
| 教員コード | 103584 |
| 登録人数 | 42 |
| 回答数 | 9 |
| 回答率 | 21.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



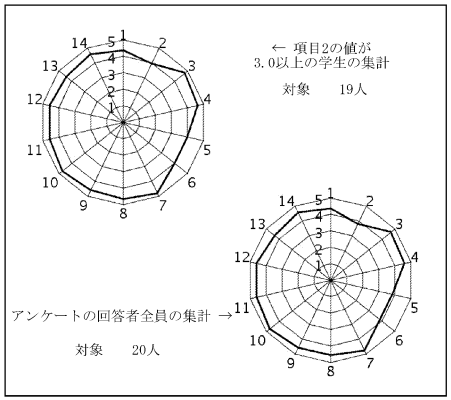

授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初設定していた目標は、担当教員の専門分野である1920年代のフランス文化の特殊性についてその原因と内容について学生が理解することを目標として設定していた。そのため授業内で毎回、学生に授業の内容をまとめコメントを書く作業を指示した。その結果、毎回の授業の内容に関して学生側の関心と肯定的なフィードバックから授業の目標に対してかなりの程度の達成度を上げていることが確認できた。それは期末のレポートの内容にも反映されている。（２）一方でアンケートの結果からは、1920年代という時代を授業のコーパスに設定し、そこに現れる様々なテーマを授業ごとに提示し解説するというスタイルを採用したため、全体像が見にくいという印象を与える結果にもなったと思われる。（３）今後はこの点を踏まえて、毎回、他の回のテーマとの連関や全体の見通しを確認しながら授業運営を心がけたい。またアンケートの回収率も昨年度に比べ大幅に減少したことから、記入を最終日ではなく前倒するように指示したい。

外国語学部 ドイツ学科
水守　亜季　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ドイツ語III＜H＞1 |
| 授業コード | 11C03-001 |
| 教員名 | 水守　亜季 |
| 教員コード | 103678 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 20 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



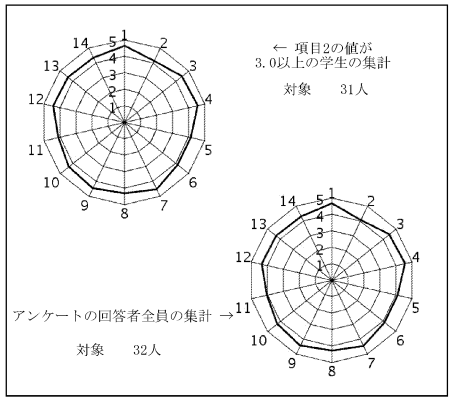

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づいたA１レベルの教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのために授業は以下のように構成した。①ペアワークやグループ学習を積極的に取り入れ、学生がドイツ語を使う機会を多くすると同時に、②文法規則などを学生が自ら見つけるための話し合いの活動も多くした。③図や音声を用いて、自らの知識・経験を手掛かりに未習事項を含んだドイツ語の意味を推測するトレーニングを行った。④ポートフォリオで学習の振り返りを行った。通年でなく、イレギュラーに履修する学生3名については他の学生と比べて学習方法への慣れ方が少なかったが、それでも設問(3)～(14)の平均値4.42はQ２の4.45と大差なく学生からの比較的高い評価を示している。その理由の一つとして教員の配慮があると思われ、教員の授業に対する姿勢を問う設問(6)では4.75と高い評価を得、学習者の理解度に配慮した点も「例がわかりやすい」、「説明がわかりやすい。質問に真摯に答えてくれる」と評価された。さらに授業の良い点として「みんなで相談したり、実際にドイツ語を使う機会の方が多いところ」、「グループワークで相談しながら学習に臨める点」が挙げられているところに、また「面白いです」、「楽しい」という感想が多いことに、学習者中心の授業形態が肯定的に評価されていることが表れている。一方で主体的な授業参加を問う設問（2）が3.80、授業の到達目標の理解を問う設問（5）で3.85、到達目標への到達度を問う設問(6)で3.85と、他の設問より平均値が低い点については、引き続き学習者の理解度に配慮しながら学び方を体感してもらう努力を続け、改善してゆきたい。

外国語学部 ドイツ学科
SZIPPL, Richard　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 世界史 |
| 授業コード | 12B12-001 |
| 教員名 | SZIPPL, Richard |
| 教員コード | 017582 |
| 登録人数 | 87 |
| 回答数 | 32 |
| 回答率 | 36.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達度

本授業の目標は近代における欧州諸国の世界進出の影響と現代世界の成立と現状の歴史的背景についての理解を深めていくことであるが、「到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目への評価が4.13点で、大学全体の科目と基盤科目の平均を0.1点で上回っている。

点検・評価

今回の評価では、大学全体と基盤科目の評価の平均値と比べると、ほとんどの設問に対する評価は少し上回っているか横ばいかであり、大きな問題はないと思われる。項目別に分析してみると、「教員の声や音声機器の音の聞き取り」と「授業の開始・終了の時間」に関する設問にへの評価が平均値を0.3～0.4下回っているが、充電式のマイクが十分充電しておらず声が聴きづらい時もあったと考える。また、自由記述欄にも指摘にもあったように、終了時間を少し延長したこともあり、次の時限にQ棟で授業があって移動する時間が少なくなって困った学生もいたようである。もう一つの問題点は、2回の授業中時間を取っておいたにもかかわらず、回答率（36.8%）が低かったことである。

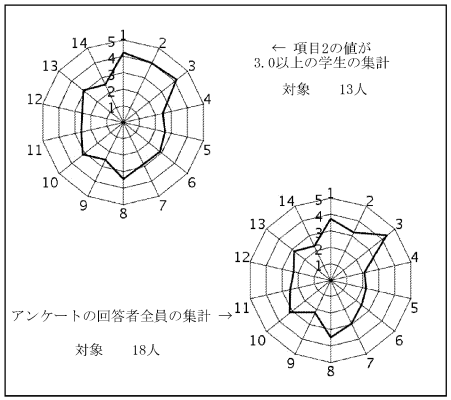
今後の改善に向けて

自由回答欄で、「レジュメやパワーポイントがわかりやすかった」「毎回の文献紹介」がよかったという数件の指摘もあったので、これからも教材の充実に努めながら、マイクの調子と授業の終了時間に注意してこれからも授業の内容と運営全体の充実を図りたい。

外国語学部 ドイツ学科
林田　雄二　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 基礎演習III（言語文化） |
| 授業コード | 34A13-001 |
| 教員名 | 林田　雄二 |
| 教員コード | 017434 |
| 登録人数 | 43 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 41.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

１「ヨーロッパの中でドイツ文学の位置」については学生は学生にとって難解であったようだ。

２「ドイツの代表的な演劇作品を知る」に関しては、ドイツ演劇の代表的な作品２３作品のリストとその翻訳文献表を学生に渡し、それぞれの作品に関して簡単に紹介した。学生はその中から任意の３作品を読んでレポートを纏めなければならなかた。それを通して学生により具体的に演劇作品を知る機会を与えた。

３．「ドイツ演劇と社会との関わり」については、通史的に簡単に説明したが日本史を専攻した学生の反応は薄かった。

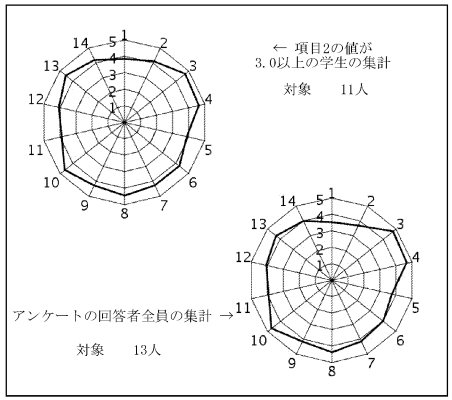
４．「ドイツ語標準語」の成り立ちに関して説明した。関心を示した学生もいた。

文学、映画などの文化現象についてアンケートを行った。学生の読書不足がこの数年著しく強くなっている。この講義ではレポート課題を課した。それはドイツの劇作品の中から３作品を選び、作家、その生きた時代について簡単に纏め、作品を解釈するというものであった。講義は、レポート作成のサポートをする働きもしていた。映像、画像を見せたりして、具体的で分かりやすい説明を試みたが、それらを見せると寝てしまう学生も多々いた。レポート作成により講義内容について興味が湧くという目論見も、レポート提出時期が「授業評価」の後になる学生が殆どでうまく行かなかった。また、寝ている学生に、「何のために大学に来ているのか？」というのが暴言になるのか、「「本は読まないの」という質問が学生を見下した態度になるのか学生評価の意味がわからない。学生は、「無知の知」を指摘されることを大変不快に感じるようだ。次年度から自分が読んだ作品の発表をさせたり、議論させたりして授業を魅力的なものにしたい。授業評価は低かったが、レポートをほぼ全員提出して内容は満足のいくものであった。これは講義を担当したものとしての喜びであった。

外国語学部 ドイツ学科
岡地　稔　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 基礎演習III（社会） |
| 授業コード | 34A13-002 |
| 教員名 | 岡地　稔 |
| 教員コード | 015206 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 13 |
| 回答率 | 72.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



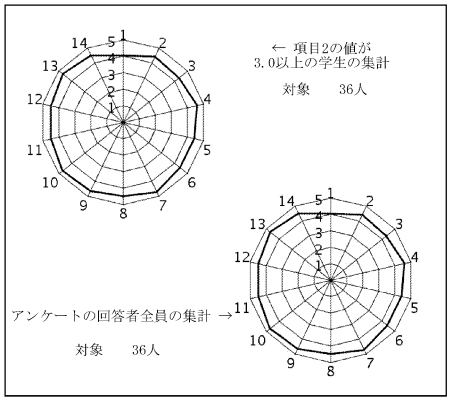

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業「基礎演習Ⅲ」はドイツ学科2年生の必修科目で、受講生が3年次に進学して演習科目（ゼミ）を履修するに当たり、自らが自発的に問題を発見し、解決していくこと、を学習するための予備的・先行的な科目として位置づけられる。そのため、授業期間前半は基礎的な知識の習得・確認にあて、この間に受講者自らが問題を発見・設定し、これを解決すること、を課題として求め、授業期間の後半に個々の受講者にそれを報告・プレゼンさせ、他の受講者にはそれを批評させる形で授業を進めた。もともと受講者数が少ない授業であって、残念なことに回答数も多くなく、授業評価の数字が評価の実態を忠実に反映しているかどうか心もとないが、評価の全体の平均値は4.15、設問項目1・2を除いたそれは4.24であり、まずは及第点と思われる。各設問項目の評価平均値もおおむね近似しており、ことに特徴的な傾向を示す項目はないように思われる。自由記述欄の設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか」において「学生が主体的に取り組むように授業が構成されていたこと」という回答があり、意を強くした。が、反面、設問16「改善すべき点」において「もう少し、視覚的な教材など、文字媒体以外のものもあったらいいなと思います」という回答もあった。さらに改善を図っていきたい。

外国語学部 ドイツ学科
中屋　宏隆　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ドイツの政治と社会 |
| 授業コード | 34A16-001 |
| 教員名 | 中屋　宏隆 |
| 教員コード | 102885 |
| 登録人数 | 47 |
| 回答数 | 36 |
| 回答率 | 76.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



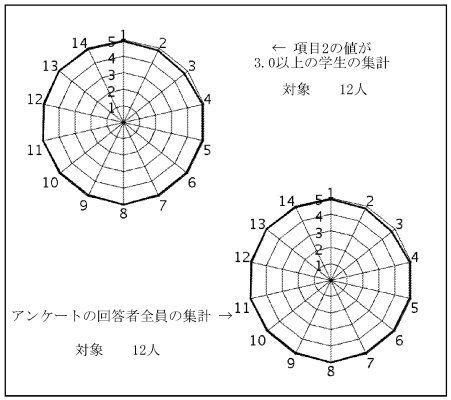

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標は「学生がドイツ社会理解に役立つ基本的知識を習得できること」であった。到達の程度は、問13の平均値が4.69ということもあり、十分に達成されたと言える。
②項目1-14の平均が4.5で、項目3-14の平均が4.55であった。内容的にはドイツ社会を経済的視点から読み解くという、必ずしも簡単なテーマではないものの、学生の意識も高かったのか、想定よりも平均値は高めであった。今後はもう少しレベルを上げた講義を実施しても良いかもしれない。自己点検としてもまとまりのある講義は提供できたと思っている。
③今後の改善点は、アンケート結果に従って、以下の通り。
「設問 4:毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」4評価が18名（平均値4.44）だったので、もう少しゆっくり進める。
「設問 5:この授業の到達目標を理解することができましたか。」4評価が15名（平均値4.42）であったので、講義毎に当日のテーマを明確に伝えてから話す。
「設問 11:学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための～」4評価が12名（4.50）いたので、もっと情報提供する。
以上。

外国語学部 ドイツ学科
RIESSLAND, Andreas　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語インテンシブB
授業コード 34B04-001
教員名　RIESSLAND, Andreas
教員コード 101252
登録人数　15
回答数　12
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

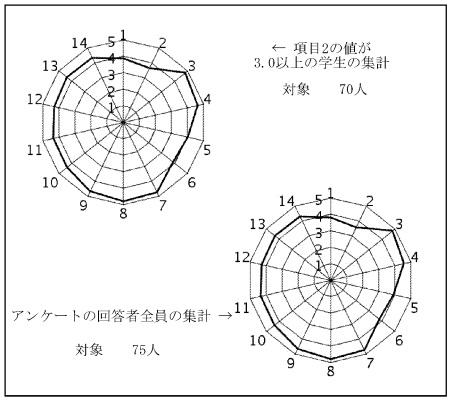
The purpose of this course was to prepare the students for the upcoming B1 language ability test which will allow them to enrol in the language courses offered at Germany's universities. Given the short duration of quarter 3, the students' workload in this course was very challenging indeed.

In view of the almost perfect mark that the students gave this course on each single item, I am very pleased to realize that the course obviously suited the students' expectations and their demands very well. With an overall average mark of 4.92 points, this course evaluation is a clear sign that in spite of the immense workload required of them, the students were well able to perceive the value of this course. But more than in this student evaluation, the merit of this course was obvious in the excellent results that the students achieved in the language test on November 17th. For me as the instructor of this course, this is the greatest reward of our shared hard work.

外国語学部 ドイツ学科
角山　朋子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ思想研究
授業コード 34D11-001
教員名　角山　朋子
教員コード 104039
登録人数　128
回答数　75
回答率　58.6%
休講回数　1 回
補講回数　1 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標におおむね到達したと考える。

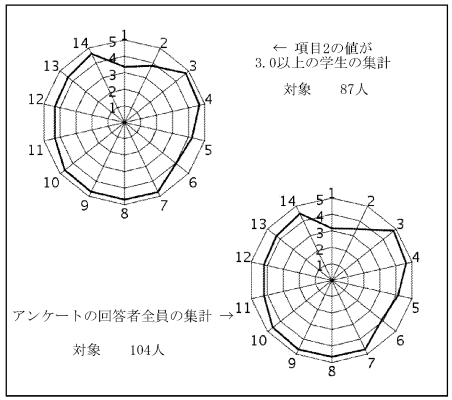
設問（3）から（14）の平均値は4.41であった。設問（5）（6）の評価平均は他の設問よりもやや低い。（5）については、受講者によっては視覚表現を対象とする研究領域が身近でなく、シラバスの記述が理解しづらいものであった可能性がある。この点は、2019年度に改善できるよう、シラバスの書き方を検討したい。（6）については、受講者が新たな知識の習得や学び成果を実感できるような授業づくりを目指したい。設問（12）も比較的評価が低かったが、これは講義人数の影響もあると考える。100人を超す講義であったため、授業後に対応できる人数は限られており、質問や相談は主にコメントペーパーやオフィスアワーに受け付けざるを得なかった。今後、大人数であってもできるだけ受講者の個別の質問や相談に対応できるよう、コメントペーパーやメールの活用、オフィスアワーの周知などに努めたい。自由記述の設問（15）では、多数の作品画像をスライドで提示した点、受講者同士のディスカッションの時間を設けた点などが好評であり、来年度以降も継続するつもりである。設問（16）では、授業の進行が速い、説明がわかりづらいなどの指摘があった。受講者の予備知識のばらつきにも考慮し、改善に努めたい。

以上をふまえ、今後もドイツ語圏の近代芸術・デザイン思想に関わる知識の習得や思考力の鍛錬につながる効果的な授業づくりを目指したい。

外国語学部 アジア学科
MANGGA, Stephanus　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | キリスト教概論[H・F]3 |
| 授業コード | 10A51-004 |
| 教員名 | MANGGA, Stephanus |
| 教員コード | 103578 |
| 登録人数 | 150 |
| 回答数 | 104 |
| 回答率 | 69.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



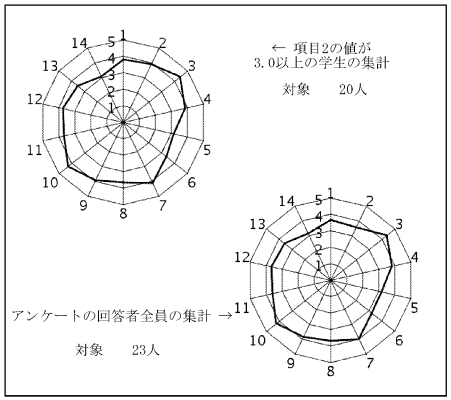

授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．本授業の到達目的は①新約聖書におけるイエス・キリストの知識を身につけている、②イエス・キリストによる「愛・哀れみ・許し」を理解している。第一目的に関して、新約聖書を学生に配ったり、読ませたり、説明したりしました。第二目的に関して、聖書とビデオを使いながらキリスト教における「愛・哀れみ・許し」ということを授業で教えました。それに、学生のレポートのテーマとしては「キリスト教における「愛」あるいは「哀れみ」あるいは「許し」」どちらかを選んで書くことにしました。
2. 学生の皆さんが本授業について評価してくれたことを感謝します。学生の評価データを読んでみますと、平均値は3.15～4.80ということで、悪くはないような気がします。つまり、学生の皆さんはこの授業に興味がり、勉強になったことがあるとそのデータで分かると思います。物足りないというのがありますが、学生が分かるようになるために、簡単な日本語で授業を行いました。授業の良かった点に関して、学生が評価を通していろいろと書いてくれたことをありがたいと思います。どれだけ本授業が彼らにとって役に立つかがそのデータからも見えるのではないかと思います。評価の質問16と17（Q16とQ17）の答えに関して、とくに教室に対する声は去年もおなじ評価点がありました。報告しましたけど、結局今年も同じ教室を使うことになりました。ですので、来年度の一つの検討点はやはり教室のことです。
３．次学期（来年度）以降に向けての改善点に関して、やはり教室のことです。それ以外のはとくにないと思います。以上。

外国語学部 アジア学科
小林　寧子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 思想・文化をめぐって1 |
| 授業コード | 13A06-001 |
| 教員名 | 小林　寧子 |
| 教員コード | 100089 |
| 登録人数 | 47 |
| 回答数 | 23 |
| 回答率 | 48.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



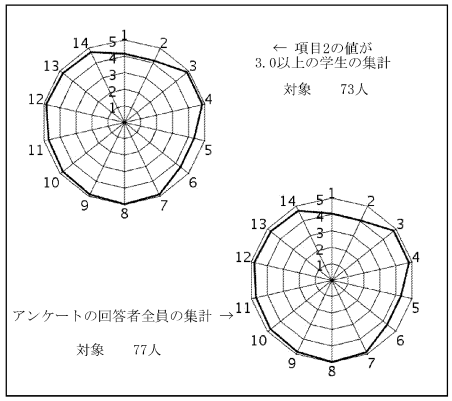

授業評価結果を踏まえた点検・評価

南山大学で最後の年度となる授業のひとつであったのに、今までになく低い評価となってしまい、残念に思っている。内容は昨年度とほとんど変わらないのであるが、学生に不評であった原因はひとつには発声の悪さである。もともと聞き取りにくいというクレームがつきがちであったが、体調不良が続いたために、それが悪化した。2コマ連続の授業で何とか授業するだけで精一杯の状態であった。また、機器の扱いに戸惑うことことが何回かあるという手際の悪さもあったのは反省している（Q4では毎回授業の前に確認するようにしている）。ただ、学生のリスポンスペーパーを見ると例年よりも良く書けており、これが学生の満足度につながらなかったのはなぜかを考えなければならない。その一方、年々他の授業でも多くなるクレームは「出席をなぜ点数にしてくれないのか」ということである。第1週、第2週の講義では何度も、「出席は前提」でありそのうえでリスポンスペーパーやレポートが平常点になる、と告げてある。出席すればそれだけで点数がもらえるという思い込みはどこから来たのだろうか。

外国語学部 アジア学科
宮原　佳昭　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史の諸相1
授業コード　13B06-001
教員名　宮原　佳昭
教員コード　102232
登録人数　99
回答数　77
回答率　77.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①儒教の教義、およびその変遷を理解している。②東アジアにおける儒教の社会的位置づけ、およびその変遷を理解している。③儒教の世界観、儒教の歴史的意義および現代的意義について、各人がイメージを形成している。

上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、授業の要点の事前提示とリアクションペーパーの活用である。すなわち、毎回の授業の冒頭でリアクションペーパーを配布し、当該回の授業の要点が何かを説明して、授業後にその要点を自分の言葉でまとめさせることで、学生の理解を促した。学生の授業評価のコメント欄を見る限り、この進め方は好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

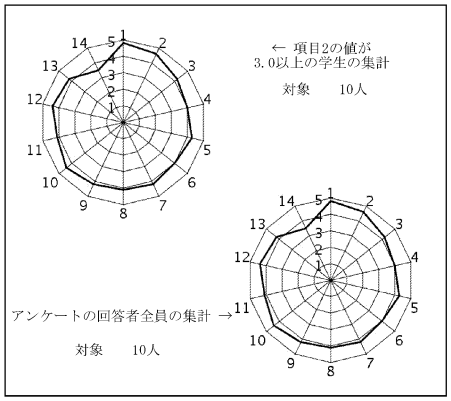
一方で、改善すべき点はリアクションペーパーの大きさである。やや小さめのリアクションペーパーを用いたが、大半の受講生がリアクションペーパーの記入に熱心であったため、複数の学生から「文字を小さく書かなければならなかった。もっと大きいものが欲しい」という声が寄せられた。来年度はより大きめのものを用いたい。



外国語学部 アジア学科
張　玉玲　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I読解1
授業コード　35A09-001
教員名　張　玉玲
教員コード　101049
登録人数　32
回答数　10
回答率　31.3%
休講回数　2　回
補講回数　2　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、中国の地理状況や中国人の生活を内容とする、構造の比較的単純な文章を材料として、読解の初歩的な練習をするとともに、中国に関する知識の修得をもはかることを内容としており、①中国語検定２級～３級程度に対応できる読解力を身につけていることと②1500語程度の単語を使いこなせることが到達目標になっている。学生はアジア学科の二年生で学習意欲が比較的高いのが特徴である。

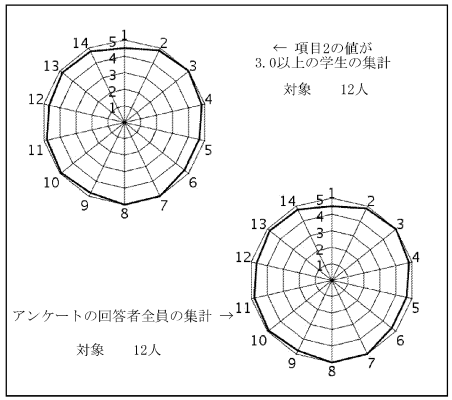
授業評価を踏まえて改めて振り返ってみれば、授業では、テキストを読んで理解する、つまり到達目標の①のほうに比較的に重点が置かれたため、②の「使いこなせる」感を持たせるための、学生による練習がやや不足していたのだと思われる。ほかの設問より、14の設問、すなわち授業への満足度がやや低めなのも、練習から得た達成感が足りなかったのが原因の一つなのかもしれない。

今後、テキスト以外の読解練習や作文練習などを宿題として出すこと、学生の自主的学習のためのコンテンツや情報提供など、達成感の伴われる学習を促進することによって、読解力や運用力を身につけさせていくことを考えている。

外国語学部 アジア学科
蔡　毅　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 中級中国語II会話1 |
| 授業コード | 35A12-001 |
| 教員名 | 蔡　毅 |
| 教員コード | 100086 |
| 登録人数 | 13 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 92.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本学科では二年生の中国語会話授業は習熟度別でクラスを分けることとなり、優秀な学生が集まる上級クラスを担当するので、責任の重さを強く感じており、どうすれば学生のニーズに応えることができるか、かなり苦労しましたが、アンケートの調査によればかなり高得点であり、開講当初に設定した中国語の会話能力をもっと向上させるという授業目標は、おおむね達成したように思われます。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

まずは、普通のクラスとは違って一層厳しく要求しなくてはならないと思いますので、通常授業以外にHSKや中国語検定のために特別訓練を行うべきではないかと考えています。

なお、（5）（6）（12）の目標到達および質問相談についての評価は割合に低かったので、これについては謙虚に受け止め、授業中と授業後はより注意を払おうと考えています。

また、学生の自由記述を読んで、授業方法、学生との交流などについて評判はまあまあですが、どうしたら学生に満足させることができるか、さらに工夫する必要があると思います。

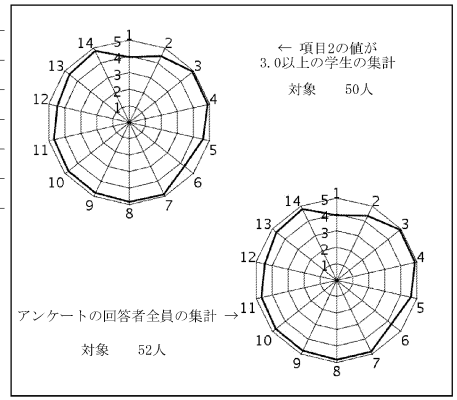
これからも一層の努力を払い、いい授業を学生に提供できるように、取り組んでいく所存であります。



外国語学部 アジア学科
中　裕史　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 中国文学研究 |
| 授業コード | 35C13-001 |
| 教員名 | 中　裕史 |
| 教員コード | 017830 |
| 登録人数 | 105 |
| 回答数 | 52 |
| 回答率 | 49.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



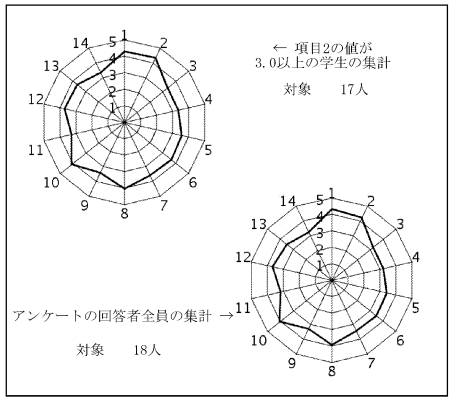

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義の到達目標は①中国文学の流れの把握、②主要な作者と作品についての理解、③中国文学の特長についての理解、の3点に置いていた。到達目標の理解を問う設問6の平均値が4.67であり、到達目標に向けて力を着けているかどうかを問う設問7の平均値が4.27であったことから、開講前に設定した到達目標はほぼ達成できたものと考える。また、履修前の興味を問う設問1の平均値が3.94であったのに対して、新たな知識の獲得と理解の深まりを問う設問13および全体としての満足度を問う設問14の平均値がそれぞれ4.67、4.79であったことを踏まえると、中国文学に関しての関心と知識とを持ってもらうことができたように思う。今年度は新たな取り組みとして事前レポートを課すことによって、講義でとりあげる作家や作品について一定の知識を持ったうえで講義に臨んでもらうようにした。この点は、自由記述でも、すんなり授業に入れたと評価されており、来年度以降も続けようと考えている。一方で、今年度は階段教室であったせいかどうかわからないが、昨年度はほとんどなかった遅刻が割合にあって、足音などが気になる学生もあろうかと思い、着席するまで待ち、注意をしてから話を再開することにしていたが、自由記述ではこの対応を評価する意見と、話を止めることによってむしろ集中が途切れるとする意見とがほぼ同数あった。ただ、遅刻等への対応を問う設問9の平均値は4.77であったので、多くの受講生はこの対応を評価しているものと思うが、遅刻者への対応は来年度以降も要検討である。

経済学部 経済学科
CALANTAS, Teresita　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[G]6 |
| 授業コード | 11A03-037 |
| 教員名 | CALANTAS, Teresita |
| 教員コード | 000187 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course is to refine the skills learned in Q1 & Q2. Students would build more advanced discussion skills, engage in group discussions, give different types of presentations, learn to gather primary data through surveys, increase grammar understanding and vocabulary, engage in academic listening and note-taking, become more familiar with appropriate stress, rhythm, intonation and linking patterns to sound more clear and comprehensible.

In general, students' evaluation of the course is quite high. The three highest valuations were question numbers 1, 2, and 10. On the other hand, the three lowest were numbers 14. The comments were all positive. Students considered Presentation activities valuable, interesting, and good opportunities to learn. They were grateful for the time spent in discussion (with partner and in groups). Students also appreciate the time I spent in giving advice when they're working in groups, and my clear hand writing on the board. One student commented that the class made her/him feel alive.

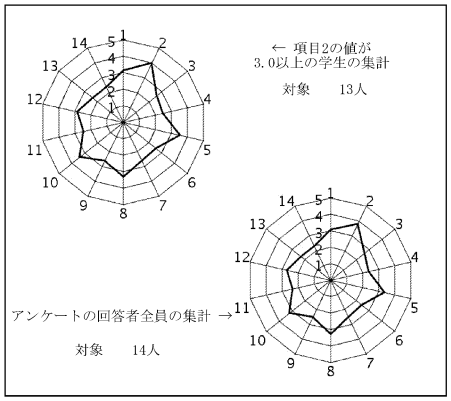
Although there is a gap between the students' valuation and their comments, I am convinced that even those who feel somewhat dissatisfied with the course, have made progress in skills they already know in Q1 & Q2, and have learned new sets of skills in Q3. However, I would make efforts to give feedback in relation to students' progress in attaining their own learning goals.



経済学部 経済学科
V. Bose, James　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]2 |
| 授業コード | 11A15-002 |
| 教員名 | V. Bose, James |
| 教員コード | 100757 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 63.6% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

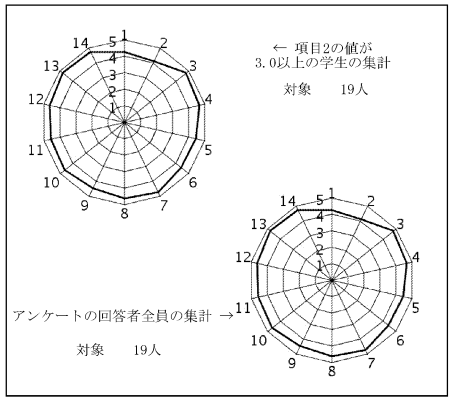
The objectives set were 1.To enable and motivate the students to develop their basic communication skills of listening, speaking, reading and writing in English. 2.To help the students to understand the key vocabulary items in an English text. 3. To help the students to arrange the main points in the correct order and write a good English paragraph on their own.

To achieve these objectives, the following steps were taken 1. After consulting with my more experienced colleagues, appropriate text-books were selected for the course. 2. Basing on the contents of the text-books, appropriate audio-listening exercises and pair/group activities, were provided in the class. 3. Focusing on the text-books and the fundamentals of English grammar, on a lower to higher basis, I prepared teaching materials for students, with activities for class-room and home. 4. To help the students to cope with their insufficient competence in English, I prepared the relevant portions of such materials in English and Japanese. 5. Students were introduced to the web-sites of text-books, in order to encourage autonomous learning. 6. In the first class, a bi-lingual ( English and Japanese) hand-out, which clearly explains the course structure, objectives, policies of attendance and grading, was given to students, so that they know all they need to know about the course.

経済学部 経済学科
林　順子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済の諸相2
授業コード　13C06-002
教員名　林　順子
教員コード　101007
登録人数　37
回答数　19
回答率　51.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

試験結果をみるかぎりでは、設定していた目標（①経済学の基礎的な知識を理解している②新聞記事を読み、その内容を把握できるようになる）は、ほぼ到達しているように見受けられる。小規模クラスであったためか、ここ最近、毎回評価が低い私語の注意と声の聞きづらさの項目も含めて、各設問の回答平均値は全て高めであった。とはいえ、コメントにはやはり、聞き取りにくかったとの意見があった。自己流ながら滑舌練習を始めたので、効果が現れるか、待ちたい。

今回も講義形式で進めたが、このくらい小規模であれば、グループディスカッションなど効果的なアクティブラーニングの方法があったようにも思う。「自己完結で話されているときが多いので、過程と結論を明確にしていただけると助かる」との意見もあった。どのようなときにそれを感じたのかがわからないが、今後、意識するようにしたい。

このところ、他科目も含めてwebclassの活用方法を試行錯誤している。今回の講義教室には大型モニターが設置されていたため、webclassを通じておこなった復習テストの解説をモニターを通しておこなった。このモニターは、自分のPC内に蓄積したおいた資料の提示にも利用した。印刷の負担もなく多くの資料を紹介できたが、時々機器との接続に時間がかかったほか、また、モニターでは見づらいので印刷してほしいとのコメントもあった。とはいえ、同じ量の資料を印刷することは難しく、今後、ゆっくり大きく映すことで対処したい。

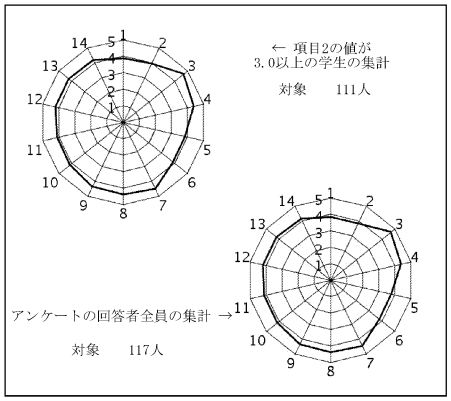
今回はwebclassの復習テストの提出によって出欠をとっていたが、学生の使い方（同時に複数ウィンドウを開くなど）によって提出したはずのものがこちらに届いていないことがわかり、あらためてログインの記録で出欠を確認した。webclassの利用方法には、まだ注意が必要であると感じた。



経済学部 経済学科
蔡　大鵬　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ミクロ経済学1
授業コード　40B01-001
教員名　蔡　大鵬
教員コード　103260
登録人数　181
回答数　117
回答率　64.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

［１］授業目標および達成度

本講義は、（１）市場における複雑な経済主体間の関係を理論的に理解できること、また（２）経済学の応用分野を学ぶための基礎的な考え方を習得することを目標としています。講義では、上記の目標をほぼ達成できたと考えます。

［２］自己点検・評価

授業評価の結果としては、設問3から14の平均値は、「4.23」となり、「設問5」、「設問6」および「設問10」を除き、他の設問はすべて学部平均を上回り、ある程度満足してもらえていると理解しています。

［３］次クォーター・学期以後に向けての改善点等

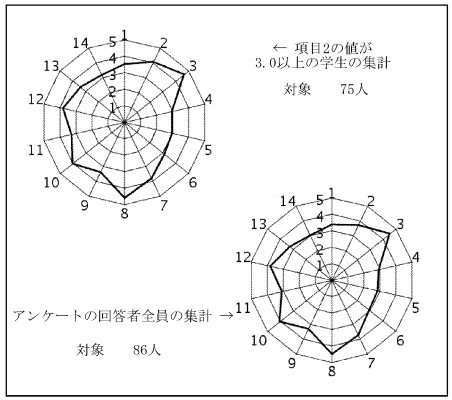
今学期では、WebClassの機能を生かして、ほぼ毎回、授業の達成度を確認するための小テストを実施してきたが、「授業で習ったことを覚えやすかった」との声がありました。今後、WebClassの諸機能をさらに活用していきたいと考えます。

一方、残された課題として、「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生」に対する対処です。そうした学生に対してその都度注意してきたつもりであったが、さらに厳しく対応してほしいとの要望がありました。今後、私語や遅刻に対して、より厳しく対応すると共に、解説の内容をより工夫することで、私語や遅刻の減少につなげたいと考えます。

経済学部 経済学科
實多　康弘　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ミクロ経済学2
授業コード 40B01-002
教員名　實多　康弘
教員コード 100751
登録人数　189
回答数　86
回答率　45.5%
休講回数　1　回
補講回数　1　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

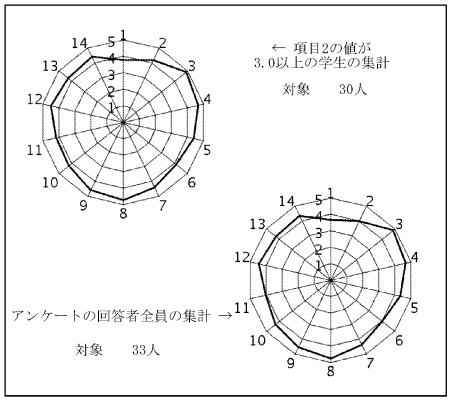
本授業は、経済学部必修のミクロ経済学の授業で、今回はじめて担当した。テキストに沿って基本的なミクロ経済学の内容を説明するとともに、経済のための数学を学んだ後の講義であるので、経済数学を用いて経済モデルが数学的にどのように表現できるかを解説して、ミクロ経済理論の理解を深めてもらうことに努めた。消費者と企業の理論、市場の需給分析まで理解することを目標としている。目標はおおむね達成できた。中間の確認テストで学生の理解を確認して授業の進行を考えた。また、最終講義では授業内容への質問に対して丁寧に解説をした。経済のための数学で、微分などを学んだ後であるのでそれを用いた解説を行ったが、自由記述欄では数学的な説明が難しく分りにくいとの指摘があった。一部の学生であるかもしれないが、今後は、経済数学の復習を一部取り入れつつ、数理モデルの説明をすることが重要であると考えられる。今後の改善点や抱負については、学ぶ目標や今後の学びにどのようにつながるかをより一層丁寧に説明して、基礎的な理解をまず深めてもらい、その上で数理的な分析手法について理解を深められるようにする。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。



経済学部 経済学科
吉根　勝美　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ処理入門6
授業コード 40B03-006
教員名　吉根　勝美
教員コード 018358
登録人数　38
回答数　33
回答率　86.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、日本語ワープロと表計算ソフトの基礎を習得し、データを分析して何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつけることを目標としており、４回のテーマレポートと最終レポートの作成を通じて、ある程度は目標に近づいたとみられる。

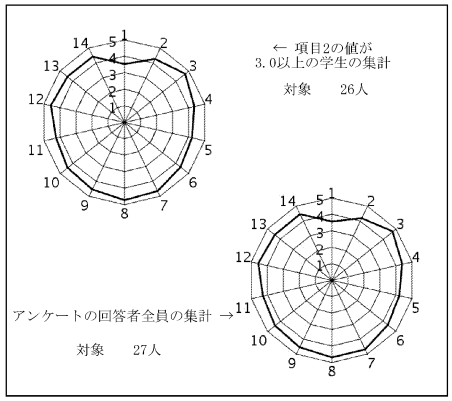
数値データでは、２名以上が２または１と回答した設問が、１、２、７、１０、１１の５問あり、このうち設問１、２を除いて平均値が最も低いのは、設問１１（積極的な授業参加や自主的な学習の促進）であった。自由記述では、良かった点として、授業内容や進め方について合わせて５名から回答があり、うち２名は、同時に改善すべき点として、レポート課題の内容や４回のレポートの提出確認について指摘しており、練習問題やレポート課題について見直しの余地があるようだ。

本授業は複数の担当者で実施しており、１年生は、ペア曜日で週２回授業または同一曜日に２限連続授業のいずれかのクラスで、各自がノートＰＣを持参して受講した。夏期集中で開講している再履修者用クラスは、２年次以上のためＰＣ教室にて実施した。このように受講形態がさまざまなので、現状では週１回授業として作成された授業計画をそのまま適用しているが、ＢＹＯＤに完全移行する時期を目途に、クラスサイズや授業計画の見直しを検討したい。教材、例題、レポート課題も同じ形式で使用しているが、学生の自主的学習を促すための改善も試みる。

経済学部 経済学科
川本　真哉　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | データ処理入門7 |
| 授業コード | 40B03-007 |
| 教員名 | 川本　真哉 |
| 教員コード | 103865 |
| 登録人数 | 37 |
| 回答数 | 27 |
| 回答率 | 73.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について
　本講義の目標は、ワードとエクセルの基礎を習得し、データに基づき自ら発信する力をつけることにあった。まず、前者の目標については、注意深く受講生の作業状況について観察し、適宜アドバイスを与えることで概ね達成できたものと考えている。一方、後者の目標については、前者の目標達成に多くの時間を割いたために、不十分に終わってしまった感が拭えない。この目標達成は来年度の課題となる。

②について
　設問項目14のスコアは4.44となっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。ただし、設問5については4.22とややスコアが低くなっており、本講義の到達目標を受講生に伝える意識が、不十分であった可能性がある。来年度は、講義の冒頭と、各回の講義でいかなるスキルアップを目指すのかについてより強調したいと考えている。

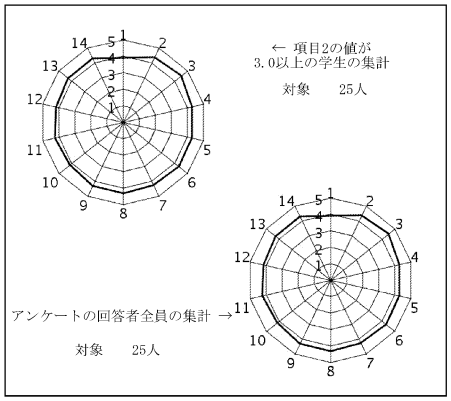
③について
　まず何より、データ分析を通じ、自ら発信する力をつけることに注力して講義を進めていきたいと考えている。このために、エクセルで結果を出力するだけではなく、扱った統計情報にいかなる意味があるのか、それをどのように解釈するのかについて、ポイントを押さえつつより丁寧に伝える必要があるように思われる。また、各自が到達目標をどの程度達成できたかを確認できるよう、可能ならば提出された課題にリプライするよう努めたい。



経済学部 経済学科
相浦　洋志　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 外書講読(政策)B |
| 授業コード | 40C05-001 |
| 教員名 | 相浦　洋志 |
| 教員コード | 103642 |
| 登録人数 | 42 |
| 回答数 | 25 |
| 回答率 | 59.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



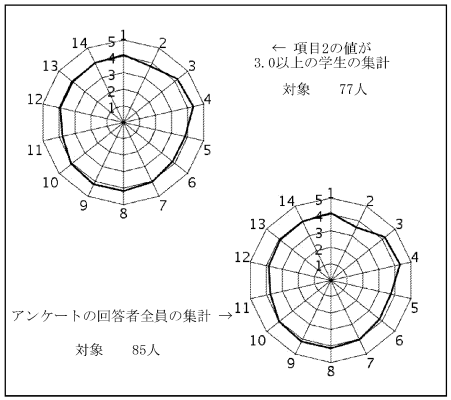

授業評価結果を踏まえた点検・評価

　本授業は受講生40人程度の演習科目である。英語で書かれた経済学の書籍の輪読を行った。小グループに分けて発表をさせ、その発表の内容をグループごとで議論をさせた。また、理解の足りなかった部分については、解説と場合によってはグループワークを課して、飽きないような工夫を行った。その結果、自由記載欄に「自主的に取り組む課題が多く、他の授業にはない良さがある」といった記入がみられ、″受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。″のアンケート項目では4.36ポイントと学部平均よりも0.4ポイント以上高い評価を得られた。
　ただ、授業スタイルの関係上、発表や授業態度が成績評価の８割を占め、期末試験の評価割合を２割としたため、定期試験の正答率が著しく低かった。この結果は″あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。″のアンケート項目が4.32と高い評価とは矛盾しており、知識の定着について本人の意識とのずれが生じている。来年度も本授業を担当するが、その際は知識の定着を促せるよう定期試験に最低基準点を設けるなどの工夫を行いたい。

経済学部 経済学科
上田　薫　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ゲーム理論A
授業コード　40D07-001
教員名　上田　薫
教員コード　016832
登録人数　287
回答数　85
回答率　29.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

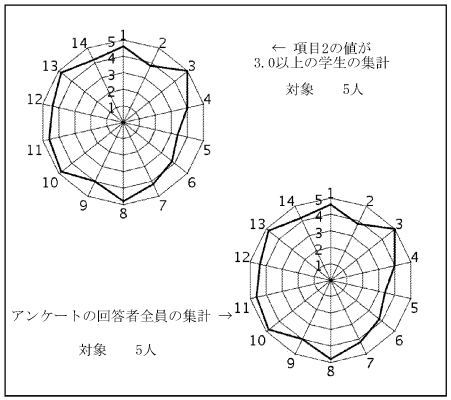
この授業はゲーム理論の基本的な考え方の理解を学修目標とし、特にゲーム理論の基本にあるゼロ和ゲームに関する理論を重点的に説明することを内容としている。例として石取りゲームのバリエーションを採り上げ、学生に実際にプレイさせるという試みも行なった。前回の講義の際と比べ、扱うゲームの種類を増やすと共に、必勝法に関する数学的説明も厳密化した。
設問13と設問14の平均値が3.94と前回より若干低下したのは気になるところである。説明の技術的部分を詳細化したことで忌避した学生がいた可能性もあり、次回以降の反応も見ながら検討していきたい。設問3、7、8、9の平均値のいずれも4.0を超えており、プレゼンテーションに関しては問題ないようである。設問15の記述に「プリントが配布され理解しやすかった」、「私語の無い環境に留意していた」といったものが見られたことも傍証となるだろう。
平均値が最低だったのは設問5と設問11の3.75である。前者については、前回の講義の反省を生かせず、非ゼロ和ゲームへの拡張に関する説明の時間を取れなかったことが問題だと思う。改めてペース配分の修正に努力したい。後者については、設問16の記述なども合わせるに、配布プリントが出席者全員に行き渡らないことが数回あったのが響いているのではないか。出席者数に合わせ配布数を調整していたのだが、複数部持っていってしまう学生がおり不足が生じた。この問題への対応の仕方も課題である。



経済学部 経済学科
焼田　党　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済成長論B
授業コード　40D10-001
教員名　焼田　党
教員コード　102065
登録人数　11
回答数　5
回答率　45.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



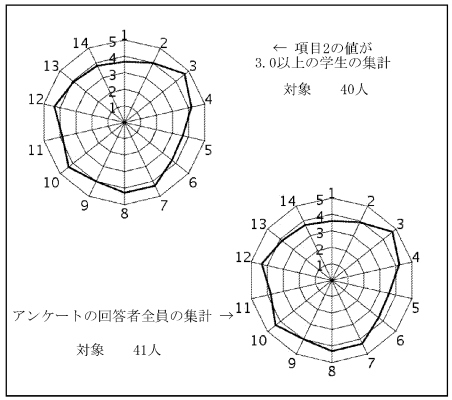

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　講義は予定していた部分まで解説することができたが、内容の設定がやや難しかったので受講者に十分理解してもらえたかどうかやや不安が残った。ただ、もともと細かな計算は確認してもらうだけと考えて、むしろ経済学の一般均衡動学の中で経済問題をどのように扱うかを理解してもらおうとの狙いだったので、かなりの程度納得してもらえたのでないかと考えている。②到達目標をわかりやすく設定しておらず、同一の経済モデルで様々な問題がどのように扱われうるかを解説したので、到達目標が不明確と思われたようである。ただ、設問15では新しい知識や理解が深まったとの評価が高かったので、様々な経済問題には興味をもってもらえたと考えている。授業の満足度も全体としては、高かったので安堵している。内容的には、授業の最初に言ったとおり、大学院レベルに近かったので、むしろ受講生の理解に驚いている。③理解の基となる一般均衡動学の知識をもっていないようなので、経済成長論Aの内容と重複することになるが、基礎的な部分を詳細に解説する必要があるかもしれない。

経済学部 経済学科
大鐘　雄太　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　計量経済学A
授業コード 40D11-001
教員名　大鐘　雄太
教員コード 103641
登録人数　143
回答数　41
回答率　28.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　この授業では、「正しいデータ分析の初歩的・基礎的な考え方について理解できる」ことを目標とした。この目標は、シラバスだけでなく、初回の授業で配布したプリントにも記載したが、設問5は3.59と低かったため、目標の到達には至らなかったと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　数値データでは、設問3から設問14の12項目のうち、半分の6項目が3点台であった。特に、設問5と設問6が、それぞれ3.59および3.66と低かったことから、授業の到達目標があまり伝わっていないことが、この授業の改善すべき点として挙げられる。また、全体の満足度に関する設問（設問14）が3.71と低かった原因も、到達目標が十分に伝わっていないことと関係していると思われる。以上を踏まえると、総合的には、改善点の多い授業内容だったと捉えている。

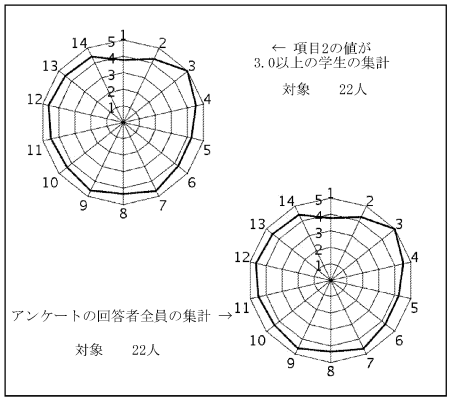
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　来年度の計量経済学Aでは、授業の到達目標に関連する練習問題を増やすことにより、到達目標の周知と知識の定着を実感できるような講義を行いたいと考えている。



経済学部 経済学科
井上　知子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　特別テーマ講義(経済分析の方法)A
授業コード 40D23-001
教員名　井上　知子
教員コード 019166
登録人数　42
回答数　22
回答率　52.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



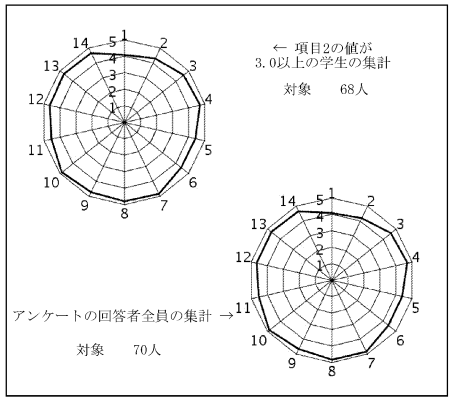

授業評価結果を踏まえた点検・評価

　この授業では４つの単元を扱ったが、初めの3つについては、単元終了後に確認テストをおこない、定期試験では最後の理論分析のところのみから出題をした。段階的に試験をするという進め方について、自由記述を見てみると、「一単元毎のテストは講義の理解にもつながる」、「確認テストがあるおかげで、授業内容がこまめに消化できた」とあり、受講生に受け入れられたのではないかと思う。改善すべき事項にあった3つ意見はいずれも、理論分析の「板書がかなり見にくい」、「ついていけない。でも、この静かな空気感の中、わかりませんという勇気が出ない」という内容であった。教室の前方が空いている状況だったので、数式には添え字がたくさん付くので前の方の席に座ってください、と声をかけたが、静かな雰囲気の中、実行する学生はほぼいなかった。はじめから、後ろの方の席は座らないルールを徹底させるとよかったかもしれない。他方、質問をする勇気が出ない、という意見については、設問12(質問の機会)で2以下を付けた人はいないので、機会はあったけれど、自分からは聞けなかったということだろう。これは、その学生が感じる教員との距離の問題なので、私ができることは、問題を解いている時間に困った顔をしている学生を見つけて、まずはこちらから声をかけてみることだと思う。真剣に取り組む受講生が多く、受講者が少なかったため、全体をみれば、質問も多く受けたし、受講者の毎回の進度も確認テストなどによって把握していたので、シラバス通りに授業ができたと思う。

経済学部 経済学科
西森　晃　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 財政学B |
| 授業コード | 40D27-001 |
| 教員名 | 西森　晃 |
| 教員コード | 100624 |
| 登録人数 | 111 |
| 回答数 | 70 |
| 回答率 | 63.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均が4.58，問14（授業に満足したか）の平均が4.66ということで，かなり高く評価してもらったと考えています。いつもに比べて問2（主体的に参加したか）の値も高く，回答率も6割を越えているということで，良い受講生に恵まれたと感謝しています。おかげで私自身がとても楽しく講義をできました。

自由記述欄にも概ね好意的な内容が書かれていたと考えています。私語厳禁，アクティブラーニングの導入などは今後も続けて行きたいと思います。ごく少数の意見として板書の文字を太くして欲しいとか，練習問題の答えが欲しいという要望がありましたが，最初の授業で言ったように，文字が見にくければ一番前の席に座れば良いし（前の方の席は常に空いていました），練習問題の答えは自分で解答した上で私に見せてくれれば手に入ります。必要なものは自分で手に入れるというということを理解してもらうのも講義の目的の１つなので，「私をもっと甘やかせてください」という希望に添うことはできません。その点はご理解してもらえるとありがたいです。

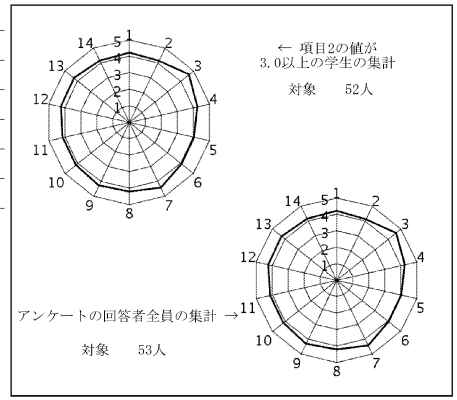
財政学Aに比べて易しかったという意見もありました。これについてはご指摘の通りで，もう少しレベルを上げれば良かったと思っています。レベルのバランスをとるのは難しいですが，来年以降の課題として考えてみたいと思います。



経済学部 経済学科
岸野　悦朗　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 租税論B |
| 授業コード | 40D35-001 |
| 教員名 | 岸野　悦朗 |
| 教員コード | 103035 |
| 登録人数 | 192 |
| 回答数 | 53 |
| 回答率 | 27.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



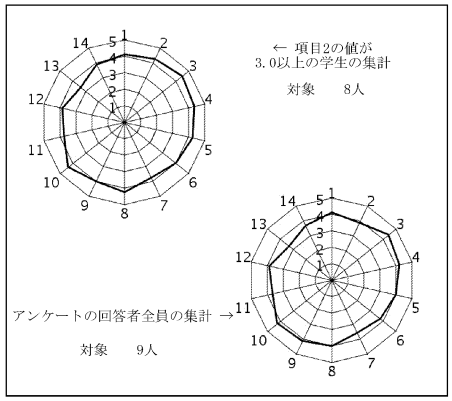

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　この授業は、我国の法人税並びに消費税といった法人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について今後社会人として各種職務活動を行う上において必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。
　この科目の特性として専門的要素が強い等の要因からか昨年度成績はそれほど良好でなかったことから、学習意欲を目的に冒頭税に関する新聞記事を複数回紹介する等により学生に税に関する関心を呼び起こすように努めた。また、昨年度と同様、学生にも理解できるように配慮する観点からパワーポイント資料の見直し授業の進め方等改善に努めた。
　その結果、まだまだ十分ではないと考えるが、ある程度目標の到達に近づきつつあると評価している。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　昨年度に比べて、全体的に評価は良好で、批判的な個別評価は「分かりにくかった。」旨の1件のみで、一方でパワーポイントの構成について評価するものがあった。来年度も引き続きWEBクラスを用いての勉学に向けて学生の学習意欲が向上するように努めたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　次クォーターで当職初めての共通教育科目である「政治・経済の諸相9」を担当するので、他学部の学生目線を意識しつつ、充実した内容となるよう取り組んでまいりたい。

経済学部 経済学科
赤星　立　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　産業組織論B
授業コード 40D37-001
教員名　赤星　立
教員コード 103866
登録人数　60
回答数　9
回答率　15.0%
休講回数　2 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この講義の目標は、様々な応用例や寓話を通じてゲーム理論を応用し、それを２企業間競争のコンテクストに落とし込むことで受講生にゲーム理論の応用可能性を探ってもらうことであった。
　これまで学んできた経済学およびゲーム理論を基にした応用科目と位置付けていたが、残念ながら、受講生のそもそものゲーム理論の理解が足りていなかったため、前半は理論的な講義と問題演習をすることになった。それでも、後半は準備していた話の多くを提供することができたので、ある程度は目標を達成できたと考えている。

②授業中にアンケートを実施した。当日の出席者は20名程度だったと記憶している。そのうち9名が回答したようである。回答数が少なくあまり信頼できるものではないが、さほど悪くない評価のように思える。

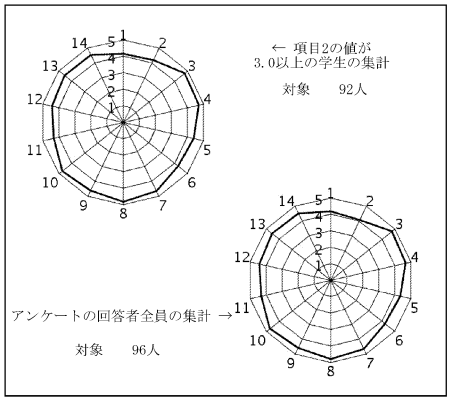
③出席者数を増やす必要がある。９月に本学に着任したが、専任教員として３校目で、本学の学生の出席率の低さに驚いている。この講義では、登録者数７０名程度で、１回目の講義から３０人も来ていなかった。その後の講義でも出席者の顔ぶれはさほど変わりなかったので、２０～３０名が講義に参加し、残りは１度も出席していないものと思われる。しかし、試験のときには６０名程度受験していたので、おそらくこれまでそういった態度でも単位を取得できていたのだろう。１度も来ない学生に対してはどうしようもないので、他の先生方の工夫を伺って参考にさせて頂く。



経済学部 経済学科
太田代　幸雄　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際経済学B
授業コード 40D45-001
教員名　太田代　幸雄
教員コード 100347
登録人数　195
回答数　96
回答率　49.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

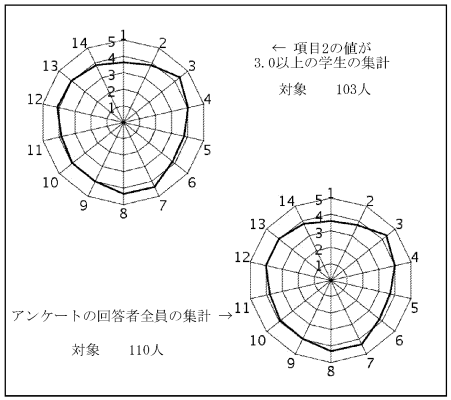
【授業目標および目標達成度】
　この科目は，経済学科2年次生以上向けの選択科目であり，国際経済学関係の科目における基礎的科目であると位置づけられている。今回の講義に際して，担当者が初めて担当する科目であったため，1から講義ノートを作成した。データとしては，回収率が全受講生中49.0%と，これまで担当者が実施したアンケート中でも低い数字であったことが挙げられる。アンケート結果としては，全設問の平均値，設問3～14の平均値がともに4を上回っている。また，ほぼ学部の平均値通りの結果であり，まずまず目標を達成できているのではないかと考えている。

【授業評価について】
　今回の講義で気を付けた点は，週2回のペースでも十分に理解できるよう，適切なスピードで講義を進めるということであったが，設問4の評価がまずまず高かったので安心している。また，設問14で評価の平均値が学部のそれを上回ったのは，非常に嬉しく思っている。次回は，より評価を高めるべく努力して行きたいと考えている。
　自由記述欄についてであるが，今回の講義では好意的な意見，建設的な意見を多く頂いている点について有り難く感じている。これからも，より興味を持って授業に臨んでもらえることを来年度以降の目標の1つとしたい。

経済学部 経済学科
林　尚志　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　開発経済学B
授業コード　40D47-001
教員名　林　尚志
教員コード　017897
登録人数　204
回答数　110
回答率　53.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、経済発展を順調に進めてきた東アジア諸国とその他の国々との“開発戦略のあり方”を比較考察しながら、途上国の“産業育成に向けた取り組み”に対する理解や関心を深めることを目標とした。また、授業中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、これらの疑問に対する解答を探るという形で授業を進めた。

この目標の到達度については、（ア）多くのグラフや図があり、内容理解が深まった、（イ）授業内容はおもしろいものであった等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

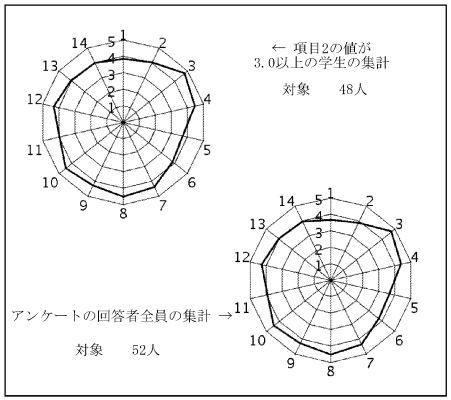
その一方、今後の課題としては、設問（９）と関連し、「話の流れをわかりやすく説明していた」「板書の字の大きさがちょうどよかった」等のコメントがある一方、「板書の字が見づらかった」、「板書量が多く、授業の進行が速かった」等のコメントも見られたため、「内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問(11)に関し、学期の前半で２～３回、「学生への問いかけ」や「議論の時間」をもうけたが、今後、授業進度に支障のない範囲で、これらの取り組みをさらに充実できたらと考えている。



経済学部 経済学科
梅垣　宏嗣　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　西洋経済史A
授業コード　40D60-001
教員名　梅垣　宏嗣
教員コード　102397
登録人数　114
回答数　52
回答率　45.6%
休講回数　1　回
補講回数　1　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

内容的に難しいと感じた学生も多かったようだが、練習問題を毎回出題し、講義時間の中で解答を考えてもらい、解説していたこともあり、少なくとも練習問題で扱った内容については、多くの学生が理解していたと見受けられる。その点については、目標に到達できたものと考えられる。

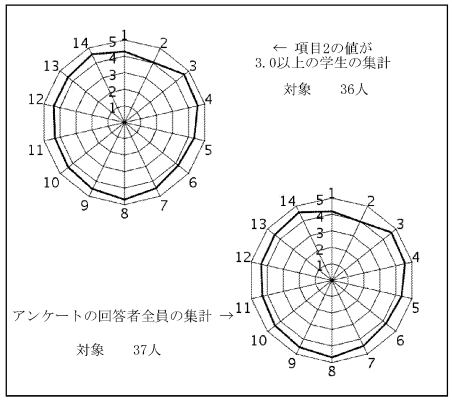
数値データの点では、著しく問題のある箇所はなかったものと見受けられる。ただし、自由記述欄において、「練習問題を解く前に解説して欲しい」という要望があったが、本講義担当者の意図としては、最初から答えを示すのではなく、学生本人に考えてもらった上で解説をしたいということがあり、その点の周知が不充分であり、学生に伝えられていなかったという点を反省しなければならない。

練習問題を講義時間の中で解く時間を設けるのには、一定の有効性がある。しかし、練習問題で取り上げなかった講義内容にも重要な部分があるにも関わらず、学生は試験対策としては練習問題だけやっていたらいいと判断し、練習問題外の内容には関心を持たず、かえって習得内容をせばめてしまうというリスクもある。こうした課題について、今後の講義の中で解消していきたい。

経営学部 経営学科
井岡　佳代子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経済学A5 |
| 授業コード | 12C08-005 |
| 教員名 | 井岡　佳代子 |
| 教員コード | 103647 |
| 登録人数 | 168 |
| 回答数 | 37 |
| 回答率 | 22.0% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

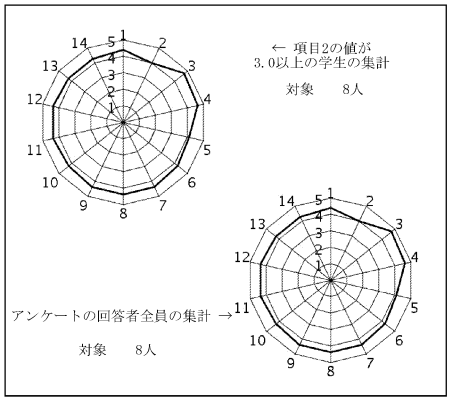
当該科目においては、2018年度の1Qと同様に講義を前半・中半・後半とに分け、それぞれの中で重要な個所を取り上げて小テストを3回にわたり実施した。その結果、受講生の理解度を確認しながら講義を進めることができたことで、開講当初に設定していた目標と到達の程度は達成できたと考えている。また、受講生からのアンケート結果からは、数学が苦手な生徒にも好評な講義であったことが伺えた。当該科目では、数式やグラフだけでなく、理論を丁寧に説明したことが効果的な講義につながったように思う。加えて、より理解を深めるため、また、予習が可能となるように、ウエブクラスに資料を事前にアップしたことも好評であった。ただし、「担当者の声が高いことによりマイクがたまにキーンとなったり、高いゆえに聞き取れないことがあった」ことが、1名の受講生の不満としてアンケートに記載されていた。この点について、可能な限り、次年度に向けて改善をしていきたいと考えている。



経営学部 経営学科
李　エン　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経済学B4 |
| 授業コード | 12C09-004 |
| 教員名 | 李　エン |
| 教員コード | 103648 |
| 登録人数 | 51 |
| 回答数 | 8 |
| 回答率 | 15.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



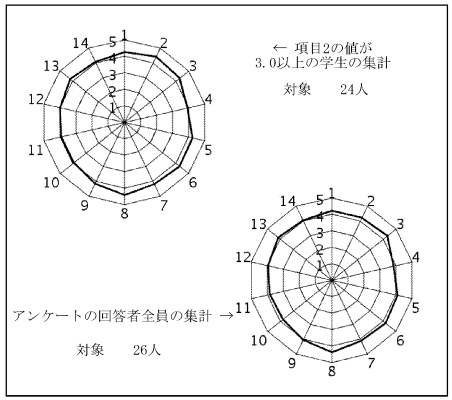

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　本授業では，会計の知識などを利用して企業の実態を分析する学習を実施した。専門的な知識を身につけ，異なる手法に基づいて企業を分析する能力に併せ，より幅広く深く経営学を学ぶ目標を達成していると考えられている。また，大学生に必要とされ，将来お仕事する際に役に立つ実践スキルを身につける目標についても，達成していると考えられている。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　学生が簿記や会計などに対して苦手意識があるが，学生は物凄く真面目に参加し，授業中に設置している練習問題や思考問題をも解いてくれたので，受講状況は良いと思う。また，学生が経営学に関する様々なテーマについて積極的にシミュレーションし，授業の参加度が高い。学生の受講態度が意欲的であるので良いと思う。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など
　配布レジュメに図を入れたり，動画を添付したり，より容易に理解できよう工夫する。また，講義を行う前に，事前に予め習得してほしいポイントを提示し，講義中により効率的に核心の部分について議論できるではないかと考えられている。そして，経営学の専門的な知識および実践技能を幅広く身につけることにより，企業に関わる諸問題に貢献できるようになる能力の育成を抱負としている。

経営学部 経営学科
宮元　忠敏　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 数学B |
| 授業コード | 12E02-001 |
| 教員名 | 宮元　忠敏 |
| 教員コード | 017293 |
| 登録人数 | 158 |
| 回答数 | 26 |
| 回答率 | 16.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

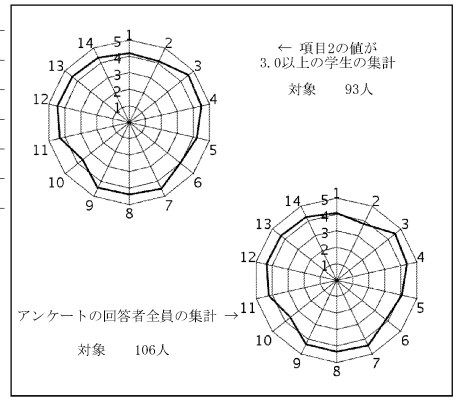
目標と到達の程度：　フェルマーの小定理の2通りの同値表現を出発点にし、2つの方向へ一般化を図る。オイラーの定理とカーマイケル数の2つである。
オイラーの定理では、オイラー関数、既約剰余類、中国剰余定理、ベズーの補題、カーマイケル数では、べき乗の速算法、コルセルトの定理などをあつかった。
共通する事柄として、合同式とその簡単な性質を扱った。また、等差数列上の素数の分布、合成数判定を扱った。概ね予定どうりであるが、後半に、もっと具体的な素数分布の話題を提供したかった。
総合的な自己点検・評価：履修生からのコメントとして、「面白かった」(2)、「しっかり出席をとっていた」、「中間レポートが難しい」、「小言が多い」、「間違いに気づいていない」、「履修生の理解がおいついていないにも関わらず、1人でしゃべっている」。数値例、数値例での証明、文字を使ってでの証明と段階を踏んで繰り返して、講義を進めた。また、記号の用途を含め、抽象的な数学的取扱いの事例を提示した。計算手続きを強調した授業展開も準備した。
今後の抱負、方針：　話題の幅を広げたいと考えている。アイデア、形式的表現、計算手続き、抽象化それぞれ角をつけて、色あざやかに展開する授業を希望する。



経営学部 経営学科
川北　眞紀子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 政治・経済の諸相1 |
| 授業コード | 13C06-001 |
| 教員名 | 川北　眞紀子 |
| 教員コード | 102879 |
| 登録人数 | 225 |
| 回答数 | 106 |
| 回答率 | 47.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



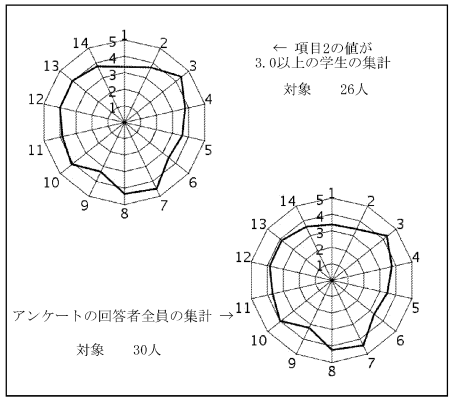

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　当初の目的は、芸術活動のマーケティングやマネジメントについての基礎知識を理解する。クラシック・コンサートのホール、美術館、博物館といったアートを提供する場への興味関心を持つ。アートについて、会話ができるようになる。これらの３点である。基礎知識にがついたかのテストはしていないが、アートを提供する場へ行きレポートするという課題を通して、興味関心を持ってくれたようである。また、一部の積極的な学生は授業内での発言でもアートに関するディスカッションに参加してくれているという点からも達成している。授業をポジティブにとらえている意見が多くあった。
②　「周囲がうるさい」という意見や、私語などへの注意という項目でやや低い点数がついている。非常に目が届きにくい教室であったため、次回からは、人数制限をしてでも受講者との会話が成り立つようにしたい。また、学生の発言に対して先生の意見が異なる
③　せっかく答えたのに先生が「私は違うと思うけどな～」とか「それは違う気がするな～」と変に批評することが多くあった。という指摘があった。異なる意見があることは良いことなので、それを伝えきれてないのが問題なので、言い方に気をつけるなどすべきだという点が改善点。指摘をありがとう。

経営学部 経営学科
澤井　実　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 政治・経済の諸相5 |
| 授業コード | 13C06-005 |
| 教員名 | 澤井　実 |
| 教員コード | 103270 |
| 登録人数 | 58 |
| 回答数 | 30 |
| 回答率 | 51.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

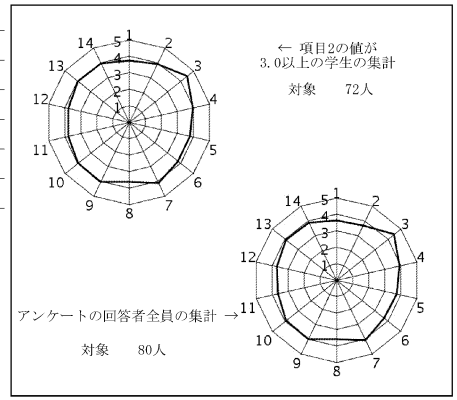
（1）：本科目では現代日本の製造業の基幹産業である機械工業の産業史について基本的な理解を得ることを目的としている。造船業、鉄道車輌工業、紡織機工業、工作機械工業といった注文生産型機械工業を取り上げ、その歴史的展開のプロセスを解説した。期末テストの結果を見ると、よく理解できた学生とそうでない学生の格差が大きい。よくできた学生には講義内容が届いているが、成績の振るわなかった学生には、まったく理解できていなかったか、もしくは教科書等の主体的な勉強を行っていなかったものと思われる。
（2）及び（3）：設問（5）、（6）、（9）の評価が低く、学生の理解度を確かめつつ、授業を展開する点で反省すべき点が多い。また板書と講義内容から要点を記録する学生も多くなく、板書と教科書の関連についてより丁寧な解説が求められていることが分かる。内容的には産業技術史的な解説と経営史的な説明の架橋のさせ方に工夫がいると自覚している。



経営学部 経営学科
長谷川　高則　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 社会システムと環境4 |
| 授業コード | 13D06-004 |
| 教員名 | 長谷川　高則 |
| 教員コード | 000162 |
| 登録人数 | 199 |
| 回答数 | 80 |
| 回答率 | 40.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



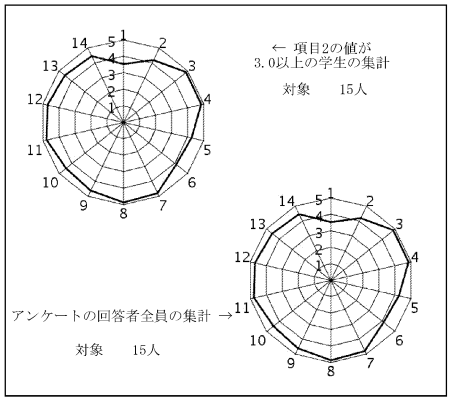

授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．授業目標
この授業では、今後の住環境の在り方を検討するために、住宅政策の変遷を検証し住生活基本法について学習している。今年度も諸外国の住宅政策を紹介し、自然災害・超高齢社会に対応する住環境整備、子育て支援・省エネルギー住宅について考察し、持続可能な社会のシステムと住環境について検討した。
２．目標達成度
今年度は受講者の学科別構成比が例年と違ったため、授業内容を工夫し対応したが授業に集中できない学生も見られ、あまり検討した効果が期待できなかった。最終課題のレポートは理想と現実を意識した住宅・住環境のあり方について各自まとめることができた。
３．授業評価
担当科目の項目1から14の平均値が3.85であり、前回の平均を大きく下回ってしまった。特に設問8の平均値が3.58であり残念な結果になってしまっている。設問1の評価を改善するのは難題であるが、設問11の評価に対しては興味がある情報提供の必要性を強く感じた。自由記述の回答については、それぞれ検討し今後の授業で改善していきたいと思う。
４．今後の抱負
授業に関連する内容に更に興味が持てるようにするため、授業運営を創意工夫し新しいテーマを取り入れ、これからの持続可能な社会システムに対応した授業にしていきたいと思っている。

経営学部 経営学科
高田　一樹　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　職業指導論
授業コード 40E09-001
教員名　高田　一樹
教員コード 102887
登録人数　35
回答数　15
回答率　42.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

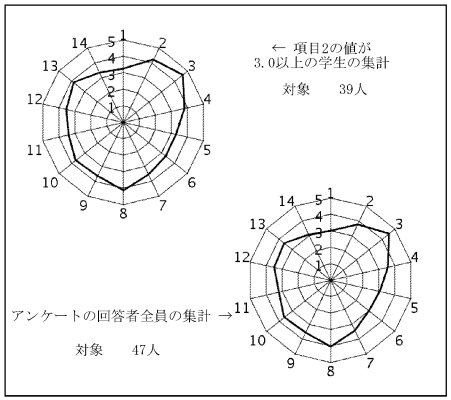
① 本科目は高等学校商業科教職課程の必修科目である。講義計画の狙いとして、受講者が近い将来、教壇に立ち、職業指導を行うための基礎知識と技量の修得を目標に掲げた。具体的には、キャリアの発達心理学に関する文献紹介を通じ、キャリア思想の多様性を理解すること、また各自が教壇に立つことを想定し、高校3年生を対象とする教材の開発と、授業計画案の作成を課題として課した。おおむね当初の計画通り授業を実施できたと考えている。
② 受講者からの評価は良好であった。履修以前の関心（設問1）は3.53と低調だったものの、履修後の知識の広がり（設問13）と授業への満足（設問14）については、それぞれ4.53、4.47と上昇していることから、講義のねらいが受講者に伝わったものと推測する。初回にシラバスの記述を転載してレジュメを作成し、授業概要を詳しく説明したため、興味のない学生は登録を変更し、意欲ある学生が履修したことも一因だと考えられる。
③ 経済、経営両学部生が集まり、本科目の開講意義を再認識した。次期以降も、所期の講義目標を適えるべく、講義の準備に取り組みたいと考えている。前回からアンケートの回答率は伸び悩んでいたため、後半授業2回に分けて10分ほど時間をとり、回答を教示したものの改善にはつながらなかった。来期も同等以上の回答機会と時間を教示することを検討している。



経営学部 経営学科
松井　宗也　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　統計学II1
授業コード 42B02-001
教員名　松井　宗也
教員コード 102275
登録人数　111
回答数　47
回答率　42.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

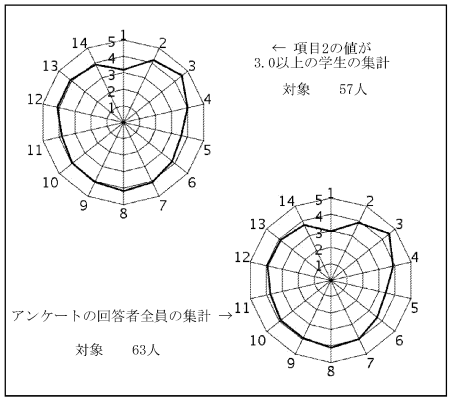
前年度と同様に「経営学を学ぶ上で将来必要となる統計的な考え方を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は標準的な教科書に沿ったもので、数学的に高度な内容をやや噛み砕いた初等的なものである。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。定期試験の結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難いが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってくれれば良い。

以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。設問3～14の平均値と設問1～14の平均値は3点半ばであり、評価基準をクリアーしＱ１をやや上回った。Ｑ１では伝わりにくかった経営学へ応用が見えるようになった影響かも知れない。今後は学生の反応を観察しつつ更に良い評価が得られるよう努めたい。他に平均値が低いのは設問5と6、と設問11と14である。特に前者のグループの平均値が低い。設問5は若干改善したものの、6はぎりぎり3点台の評価しか得ておらずこの点は反省したい。原因としては、シラバスの到達目標を実感し難いことが挙げられる。多くの学生は経営学を学び始めたばかりで、経営に統計がどう役立つのかを理解できていない。単に選択必修だからという理由で学んだ学生がほとんどある。今後は具体例を多用し、統計学が経営にどのように役立つか示しながら授業を進めたい。そうすれば、到達目標へ向けた新しい知識の習得や理解が進んだと学生に実感してもらえると考える。設問11においても同様の原因と改善策が考えらえる。この改善策を実施し、学生に「使える技術的な知識」を身に付けたという満足感を与えられれば、設問14の「満足度」は自ずと上がると考えられる。

経営学部 経営学科
奥田　隆明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 統計学II2 |
| 授業コード | 42B02-002 |
| 教員名 | 奥田　隆明 |
| 教員コード | 102600 |
| 登録人数 | 131 |
| 回答数 | 63 |
| 回答率 | 48.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

1)データの収集方法、2)データの統計的分析方法（点推定、区間推定、仮説検定、回帰分析）を理解し、3)得られた結果を解釈する力をつけることを到達目標とした。2)統計的分析方法については知識を得るだけでなく、これを活用する力をつけるためにExcelを用いた演習問題を毎回実施した。他方で、データの収集方法、結果の解釈については、今後、さらに実践的な演習問題によって実践力がつくように工夫していく必要があると考えている。受講生の評価については、教員の取り組む姿勢、教員の声、授業時間については平均値が4.0を超えるレベルにあるが、到達目標の理解、到達目標に向けた力については平均値が4.0を下回るレベルにあるため、さらに到達目標を意識した授業内容にすることが次年度の課題であると考えている。また、受講生の数学の習得レベルにバラツキがあるため、高校数学の内容に立ち戻って授業内容を再構成することを考えている。今年度に引き続き、Excelを活用して統計学が具体的に理解できるように努力していきたいと考えている。



経営学部 経営学科
赤壁　弘康　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経済原論II |
| 授業コード | 42B06-001 |
| 教員名 | 赤壁　弘康 |
| 教員コード | 100788 |
| 登録人数 | 36 |
| 回答数 | 2 |
| 回答率 | 5.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

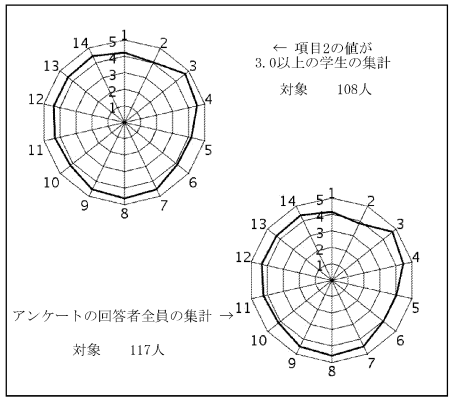
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初設定していた項目では、講義の全体の流れと時間の関係で、第4節「開放経済モデルの展開」をオミットした。それ以外は、問題演習の時間も十分確保できた。各自の出席状況はWebClassで把握できるようにした。課題レポートは、講義した範囲の練習問題から各節2題を選択して解答する形式のものとした。1/3ルールに抵触しない学生は全員レポートを提出し、単位を与えた。
②受講状態は、単純出席確認ではなく、毎回（練習問題解答用の）ショートペーパーを回収することで把握した。結果は担当者が一括してWebClassに転記した。授業中は静粛で、受講態度は概ね良好だった。ただし、ショートペーパー記述中も居眠りしてショートペーパーの回答も白紙の学生が若干いた。近年の全体的な傾向であるが、授業中に質問する学生はほとんどいなかった。
③当該科目を担当するは今回が初めてであるので、次年度以降は時間配分に注意して、学生の理解度をより高めるようにしたい。

経営学部 経営学科
上野　正樹　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経営学総論II1 |
| 授業コード | 42C02-001 |
| 教員名 | 上野　正樹 |
| 教員コード | 101365 |
| 登録人数 | 147 |
| 回答数 | 117 |
| 回答率 | 79.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

経営学総論Ⅱ1は、経営学の基本を学ぶことを目的としている（経営学総論Ⅰは経営戦略、Ⅱは経営組織に焦点をあてる）。新入生を主な対象とした必修科目で、登録人数147名のうち約9割が1年生である。授業は月曜と木曜の2限、B22教室でおこなった。授業評価の結果は次のようになった。回答者117名、回答率79.6%であった。設問1～14の平均値は4.30、設問3～14の平均値は4.35であった。もっとも点数の低い設問は、設問2の「予習と復習、主体的な授業参加」で3.83であった。次に低かったのは設問6の「到達目標に向けて力がついているか」で4.03であった。

自由記述の回答によると、この授業の評価できる点は、講演会が面白い、ディスカッションタイムにいろいろな人の意見が聞ける、スライドと説明がわかりやすい、先生が楽しそうなどである。この授業の改善すべき点は、スライドの展開が速い、教科書が重い、詳細な具体例を聞きたい、勉強意欲を引き出せていないなどである。

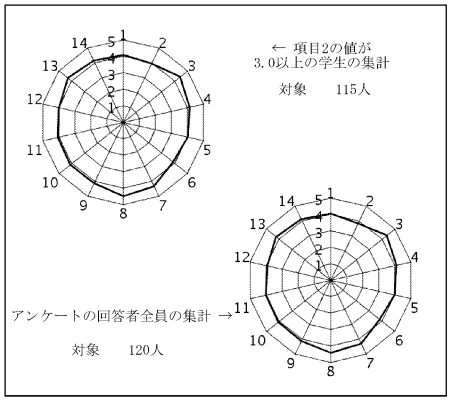
次年度は、予習と連動した小テストを実施し、（多人数講義のため）自己採点して到達度を記述・確認してもらう。これによって主体的な授業参加（設問2）と到達度の実感（設問6）を深めてもらうようにする。



経営学部 経営学科
中島　裕喜　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経営学総論II2 |
| 授業コード | 42C02-002 |
| 教員名 | 中島　裕喜 |
| 教員コード | 103065 |
| 登録人数 | 151 |
| 回答数 | 120 |
| 回答率 | 79.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



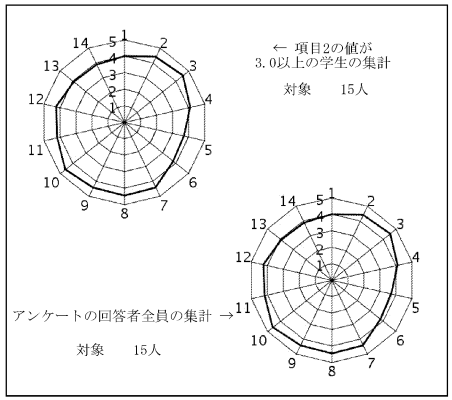

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「教員の声が聞こえやすかったか」という設問は、学生の私語の多さと相関しているため、この項目で4.43という評価をもらっているのは、授業の私語などをなくすことができていたことを示していると思う。記述回答で私語がうるさいという意見も出されているが、160人もの学生が受講している講義としては比較的コントロールできていると自身では考えている。また「授業の開始時間」「真剣さ」といった項目でも、4.2～4.3の評価をもらっているので、真面目に講義に取り組んでいる教員側の姿勢を学生にも一定程度は理解してもらっていると考えている。毎回のことであるが、ノートを取る量が多すぎるというクレームがある。これは１年生の段階からメモをしっかり取る習慣を身に着けていただきたいという方針からなので、今後も継続していくつもりである。「予習復習」の項目については、3.83という全体の中ではやや低めの評価であるが、たしかに宿題などは出していないので、課外での学習を促すための仕組みを検討する必要があるかもしれない。これは今後の課題として考えておきたい。

経営学部 経営学科
竹澤　直哉　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ファイナンスB |
| 授業コード | 42C08-001 |
| 教員名 | 竹澤　直哉 |
| 教員コード | 101191 |
| 登録人数 | 59 |
| 回答数 | 15 |
| 回答率 | 25.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



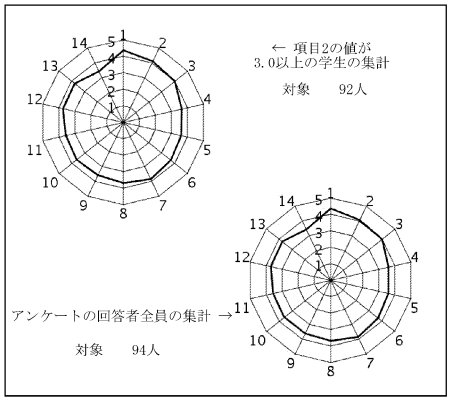

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年も授業目標を以下のように設定した。
　企業価値、資本コスト、キャッシュフローリスクの概念を理解し、企業財務に関する諸問題に応用する知識を修得すること。
履修者数が比較的少なかったため、質疑応答に多くの時間を割くようにし、理解を深める努力を行った。このことが項目4,9,11,12の高い評価につながったと推測される。全体的には、過半数の学生が4または5と評価していることから、目標はおおむね達成されたと評価する。
一方で、平均を押し下げた項目は設問5,6であり、中央値も4であることから学習した効果を感じる機会が少なかったことがうかがえる。評価項目4,5は、前回も同様な傾向が見られたが、進行速度に関する5については改善された。
課題を通して、学生が自らの理解が深まる機会を設けるようにしたが、一部の学生が課題を提出していなかったり、授業を欠席したために解答を理解できずに評価を下げた可能性が高いと考えられる。
以上の分析を踏まえると、今年の授業目標は概ね達成できたと評価する。今後は、授業で得た知識が確実に身についたかどうかを自覚できるよう、課題提出や出席をより厳しく促すような仕組みの導入などを検討する。

経営学部 経営学科
南川　和充　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | マーケティング論B1 |
| 授業コード | 42C10-001 |
| 教員名 | 南川　和充 |
| 教員コード | 100478 |
| 登録人数 | 222 |
| 回答数 | 94 |
| 回答率 | 42.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



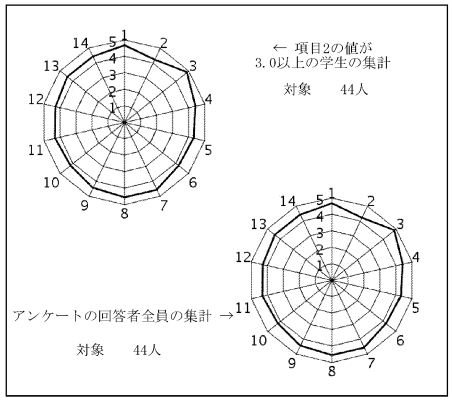

授業評価結果を踏まえた点検・評価

　今年度から本科目が複数教員での担当になったことから、クラスサイズが小さくなることによる授業評価の改善が見られるのではと期待していたが、例年のごとく、設問1と2以外のすべての設問で経営学科科目全体の平均値を下回っており、自分の能力不足を反省している。
　開講当初に設定していた4つの目標をどの程度到達したかの検証を、対応すると思われる自由記述欄の回答を取り挙げることによって確認したい。目標1「マーケティングの基礎的な理論や考え方が修得できるでしょう」については、「課題を通してより理解を深めることができた。」、「たまに理解を確認するためのテストやプリントがあってよかった。」、「授業でやった内容の解答をwebclass 上にアップしてくれたために後から復習をすることができた。」といった回答があった。目標2「事例とマーケティング理論の関連が理解できます」に関しては、「具体例を挙げていたこと。」（が良かった）との回答があった。目標3「経済現象を観察し、それを説明し理解するためのモデルを構築して、推論できるようになります」は、「計算問題が多いので力がつく感じがした」とあった。目標4「ミクロ経済理論を応用するかたちで、ビジネスにおけるマーケティング現象を分析できます」についてはこれに直接対応する回答はなかったが、課題のなかには理論の応用をねらったものを入れているため、「定期的にウェブクラスでの課題があったこと。」を良かったと評価する回答は多かったことを踏まえて判断すると、概ね達成できたといえればよいがなと考える。
　改善すべき点として、授業中での課題や中間試験の実施上での不手際を指摘する回答が多かったことは、今後は無いようにする。

経営学部 経営学科
石垣　智徳　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | マーケティング論B2 |
| 授業コード | 42C10-002 |
| 教員名 | 石垣　智徳 |
| 教員コード | 101889 |
| 登録人数 | 143 |
| 回答数 | 44 |
| 回答率 | 30.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定していた目標と到達の程度については、「マーケティングの基礎的な理論や考え方を習得する」「事例とマーケティング理論ンの関連が理解できる」を掲げていたが、理論や考え方については充分時間をかけて説明した。また、理論のみならず、事例を提示しることも心掛けたので目標は達成できたと考えている。

担当科目に関する総合的な自己点検・評価は、多人数の学部授業の担当であったが、思ったより授業中の私語は少なかったと感じている。14項目から構成される学生アンケートの結果は4点以上であり、学生からも一定の評価があったと考えている。記述回答のところで、授業中の問いかけ（練習問題など）があるとよいという意見もあり、今後適切な状況で反映させていきたい。

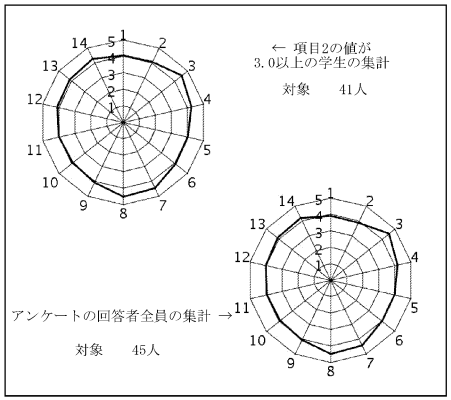
今後に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、受講態度が悪い学生への注意がなかったことが指摘されているので講義内容の情報発信だけではなく、学生の受講態度や内容に対する反応にも注意を向けていきたい。



経営学部 経営学科
安田　忍　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 財務会計論B |
| 授業コード | 42C12-001 |
| 教員名 | 安田　忍 |
| 教員コード | 101561 |
| 登録人数 | 128 |
| 回答数 | 45 |
| 回答率 | 35.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



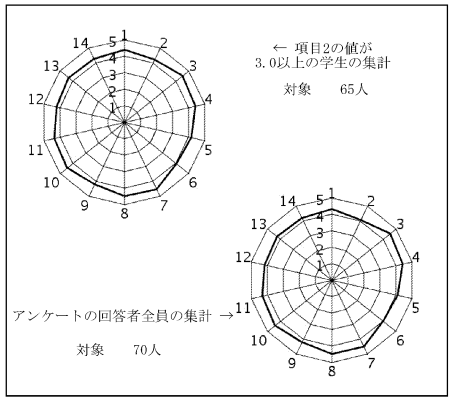

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、とくに貸借対照表の表示および貸借対照表項目の測定、評価に関連して、①.財務報告制度に関する知識の習得、②会計基準の内容と考え方、会計処理との関係の理解、③財務諸表の表示内容と財務情報の意味の理解を目標としている。授業開始時にはシラバスを配布して、授業の全体像を明らかにし、また、授業ごとに、今日は何を問題とするのか、また、問題としたのかを説明して、授業内容の位置づけを意識するよう心掛けてきた。設問5「この授業の到達目標を理解することができたか」は4.02であり、設問６「到達目標に向けて力がついてきていると思うか」は4.00であったので、学生はほぼ目標に到達したとの意識を持っているようである。また、設問14は4.20であり、授業満足度としても平均的なところであった。自由記述で評価された点は、「レジュメが分かりやすく作られていた」、「分かりやすく一生懸命説明してくれた」等があり、改善すべき点として「私語の注意」「板書のマジックの字が薄い」等があった。比較的大きな教室のため、私語が聞こえれば注意しているが、講義で話していると、前まで（教員まで）聞こえず、気づかないこともあったと思う。マジックすべてがかすれて思うように書けないことはホワイトボードの教室では起こりがちであり、これらの指摘は今後も気をつけていきたい。回答率を上げるため今回は授業に初めに十分時間をとって実施した。出席者が少ないこともなかったので、あまり協力してくれないことがわかる。その後も授業ごとに協力要請したが、実施当日以外は回答してくれる学生があまり増えないようであるので、実施についていろいろ試してみたい。

経営学部 経営学科
安藤　史江　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経営組織論B |
| 授業コード | 42C14-001 |
| 教員名 | 安藤　史江 |
| 教員コード | 019554 |
| 登録人数 | 238 |
| 回答数 | 70 |
| 回答率 | 29.4% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、マクロ経営組織論の主要トピックスのうち、組織変革に焦点をあて、その基礎知識を得て実際に使える力や実例を理解する力の習得を目指し、試験結果をみる限り、一定程度の目標達成ができたのではないかと考えている。また、評価得点はいずれの項目も４を超え、3～14の項目の中でも4.5前後になるものが5項目はあったことから、こうした数値的な観点からみても、目標をある程度達成できたと考える。特に学部平均と比較して高く評価されていたのは、項目10に並び、項目11（学習意欲を引き出すための指導や情報提供）で、授業で取り上げた内容に関して興味や意欲をもってくれたものと受け止めている。項目14の総合的な満足度も学部平均より高く、全体としては効果を実感しているところである。

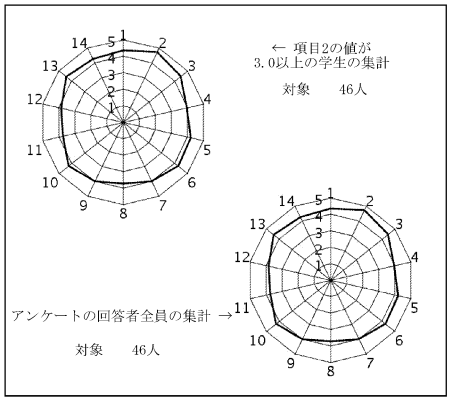
ただし、課題もある。本授業では、スライドの内容を資料として後でWebclassにあげたが、そのタイミングがもう少し早くてもよかったと思われる点（毎回、1週間後にアップした）、また、学生の中にはスライドを先に入手できるようにしてほしいとの要望があった点である。スライドを写すことに専念すると、授業内容をかえって聞き漏らす、写すのが間に合わないうちにスライドが変わってしまう、などの苦情があった。これは、授業中にスマートフォンでスライドの写真撮影を禁止していることとセットの問題という指摘であり、本来は書き取るべき部分の取捨選択のスキルも習得してほしいところであるため、今後どう対応すべきか、熟慮したい。また、教科書も自署の場合は教員側が内容で選定しても、抵抗のある学生が存在するため、今後は教科書として指定しないほうがよいのかもしれない。



経営学部 経営学科
姜　秉国　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 情報処理A |
| 授業コード | 42D02-001 |
| 教員名 | 姜　秉国 |
| 教員コード | 019547 |
| 登録人数 | 50 |
| 回答数 | 46 |
| 回答率 | 92.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



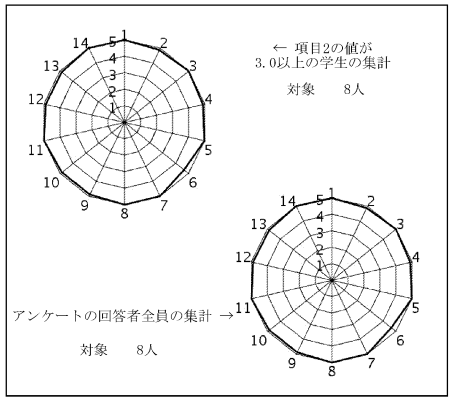

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、「ビジネス情報の基本的な加工・分析ができるようにする」ことであった。学生の出席、またレポートと発表内容から、授業の目標は十分達成されたものと判断している。しかし、表計算ソフトの使い方に関する生徒の習熟度にはばらつきが大きい。
中にはほぼ初めて表計算ソフトに触れるような生徒もいる。そのため、できるだけ講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていくことに努めている。教員一人で50人の生徒の理解度の合わせた個別指導には限界がある。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメントがあった。
－皆んなのレベルに合わせて授業をしてくれた点。
－大学に来て初めて役に立つ授業だと感じた。
－パソコンの基本的な使い方からエクセルの割と高度な使い方まで理解出来るようになった。
－他の授業では使わない関数や、将来役に立ちそうな回帰分析の方法も教えてくださるので、この授業を履修できてよかったと思いました。

経営学部 経営学科
HEATHER, James　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ビジネス英語IIIオーラル・コミュニケーション1 |
| 授業コード | 42G05-001 |
| 教員名 | HEATHER, James |
| 教員コード | 103649 |
| 登録人数 | 11 |
| 回答数 | 8 |
| 回答率 | 72.7% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1). The course itself applies 5 major teaching principles: 1. The immersion classroom; 2. The meta-cognitive classroom; 3. The 4-strands classroom; 4. The communicative classroom; 4. The task based language teaching classroom. My experience tells me these principles are best for Japanese university oral communication classes. There were 2 units covered in this Q3 course. For each unit students learned about a topic. They performed various speaking tasks related to the topic. The tasks are all related to what they will be presenting at the end of the unit. The unit ends with an individual formal presentation related to the topic.

(2). I am not surprised by the positive responses from the students. We have covered lots of interesting business content, the students have had lots of chances to speak English in class - some take advantage of this more than others.

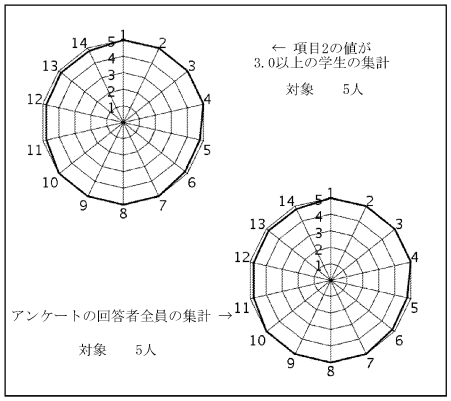
(3). The course is dynamic, that is to say, it is always being tweaked and changed to make it more interesting. Now is no different.



経営学部 経営学科
BIERI, Thomas　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ビジネス英語IIIオーラル・コミュニケーション2 |
| 授業コード | 42G05-002 |
| 教員名 | BIERI, Thomas |
| 教員コード | 102517 |
| 登録人数 | 10 |
| 回答数 | 5 |
| 回答率 | 50.0% |
| 休講回数 | 2 回 |
| 補講回数 | 2 回 |



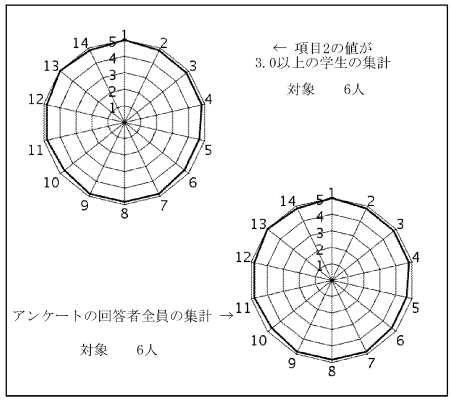

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. All students showed some attainment of the course objectives with most demonstrating good or superior achievements. All students participated adequately in the final presentations and used elements from the coursework as expected.
2. There were no student comments, except one student noting that the classroom is "too far" for first period on Mondays. Most of the students were engaged in the material and classwork most of the time, though there were some inevitable cases of distraction. The materials and exercises seemed to be appropriate for achieving the course objectives and for student levels. The general atmosphere of the class was positive. As to the numerical survey data, all items were scored at 4.8 or above and 8 of 14 achieved perfect 5.0 scores. I could still work on clarifying the objectives and the connection of the exercises to the formative and summative assessments.
3. As always, I will investigate and experiment with ways to improve my teaching practice and do my best to attend to the needs of each set of learners in each course. I will try to offer more explanations about why we are doing certain elements of the coursework.

経営学部 経営学科
KHONDAKER, Rahman M.　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | International Management B＜国際科目群＞ |
| 授業コード | 42G18-901 |
| 教員名 | KHONDAKER, Rahman M. |
| 教員コード | 100361 |
| 登録人数 | 9 |
| 回答数 | 6 |
| 回答率 | 66.7% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



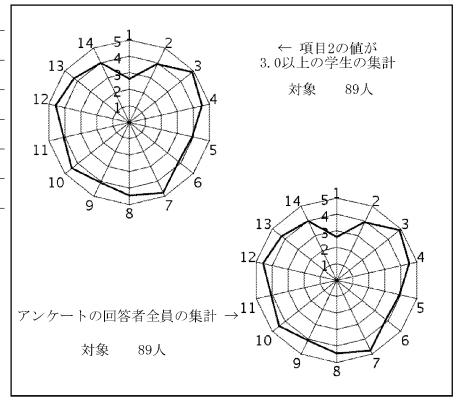

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course, among others, is to help students understand a range of complex factors that underlie operation and management in any multinational enterprise. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.06 and 4.01 for the courses in the band of 42001-001～42H04-999, the scores of this course were 5.00 and 4.83. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.52, 4.18, 3.94, 3.90, and 4.26 for all courses, the scores for this course were 4.83, 4.83, 4.67, 4.67, and 4.83. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.34, 4.13, 4.07, 4.00, and 4.08 for all courses, the scores of this course were 4.83, 4.83, 4.67, 4.83, and 4.83. Regarding “overall evaluation” (Q15 to Q17), compared with scores 4.15 and 4.04 for all courses, the scores of this course were 5.00 and 4.83. All these are higher than the averages. It appears that compared with the other courses in this band, the evaluation of this course was very high. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging. At this moment, I think that the course contents, study materials, and class delivering style are very sound. However, I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming year.

法学部 法律学科
ALVA, Reginald Joaquim　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 宗教論[S]1 |
| 授業コード | 10A01-015 |
| 教員名 | ALVA, Reginald Joaquim |
| 教員コード | 102369 |
| 登録人数 | 91 |
| 回答数 | 89 |
| 回答率 | 97.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



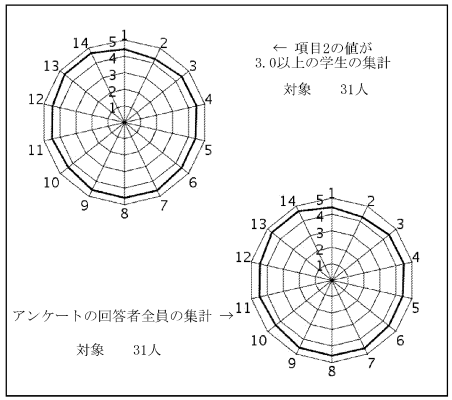

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回も学生達の意欲を引き出すような教材を作成することができました。皆の授業評価を読んで自分が理解してもらいたいことがきちんと伝わっていたように、感じました。また、多くの学生は次のように書いています。「静かに授業を受けることができたこと、専門的な内容まで踏み込んで学べたこと。」「学びたい学生が学べる環境作りを目指し、達成しようという意思が感じられた点」「静かな環境かつ、集中しやすい環境であったためとてもいい授業であった。」多くの学生は静かな環境で専門的なことについて学べてと書いてくれたのでこれからも授業中秩序を保つようにしたいと思います。また、授業で使っていたスライド、プリントなどが役立ったことを嬉しく思っています。学生は次のように書いています。「配布資料が読んでいて楽しい構成になっている。」「ただの資料だけではなく、その宗教に関連する映画のワンシーンや歌などが途中に入れられていたのはとても良かった。」「体裁についてちゃんとレジュメが配られていたため授業への望み方などがわかりやすかった。」これからも学生達の声を大切にしながら授業の構成を改善していきたいと思っています。

法学部 法律学科
森山　花鈴　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳8
授業コード 10D06-008
教員名　森山　花鈴
教員コード 103223
登録人数　114
回答数　31
回答率　27.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については到達していると考える。学生自身が授業中だけでなく、普段から深く考えることができていたことがリアクションペーパーや課題から見ることができた。

数値データでは、ほぼすべての設問において、大学全体の平均値、人間の尊厳科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値を超えることができた。唯一、設問3の「授業の開始と終了の時間」についてのみ平均値よりもやや下回ったが、これは授業の受講人数が多いことから授業時間前までに資料を入口に置き、チャイムとともに授業を開始していること、および授業終了前にリアクションペーパー執筆のための時間を取っていることによるものと思われる。人数の多い授業だと資料の配布・リアクションペーパーの回収に時間がかかるため、どのような形で授業を実施すべきか、また改めて考えていきたい。また、これは以前からの課題であるが、設問2の「予習・復習」の項目については、以前よりは上がったものの、4.26と全体としてみるとやや低いため、改善していきたいと考える。

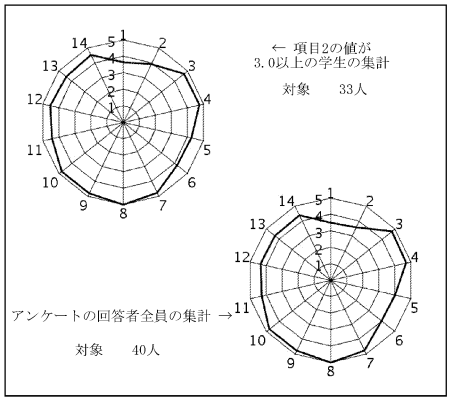
自由記述欄では、以前から続けていることではあるが、リアクションペーパーを通じて毎回学生からの質問に答えていたことに対して、「授業で疑問に思ったことを次の時間までにその回答を聞けて良かった」等の評価があった。オリジナル教材や映像教材も併用した点に対する評価もあがっており、「考えさせられることの多い事をレジュメ、話だけでなく映像を使って自分自身で考える、心に残る授業だった」との評価もあったので、今後も引き続きわかりやすい授業を心がけていきたいと思う。

人数が多い授業となることが多いが、学生との双方向のやり取りを失わないようにしつつ、次クォーター以降も真摯に取り組んでいきたいと考える。

法学部 法律学科
菅原　真　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本国憲法1
授業コード 12C03-001
教員名　菅原　真
教員コード 102064
登録人数　53
回答数　40
回答率　75.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



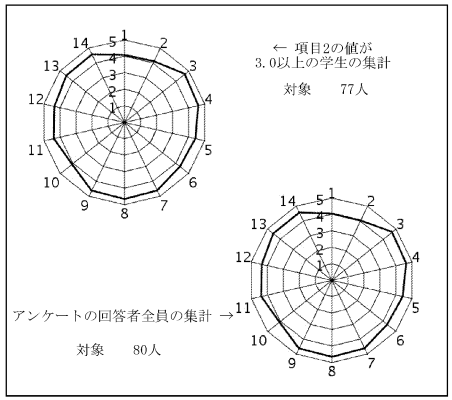

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初に設定した到達目標は概ね達成できたと考える。本授業は「歴史」と「比較」の観点を大切にしながら、日本の戦後史におけるそれぞれの時代の「憲法」に関する問題や判例を扱うというユニークな内容にしている。
学生の授業評価によれば、項目3～14の平均は4.51、項目1～14全体の平均は4.37とまずまずの結果であった。学生の個別意見では、①講義における説明が丁寧であること、②配布レジュメ・資料が詳しく復習しやすいこと、③授業中に関連する映像資料を見せるなどして、学生の理解を促していること、④毎回「設問用紙」（リアクションペーパー）を配布し、最初に論点を提示して考えさせ、解答させるとともに、授業で分からない点なども質問できたこと、⑤授業中に学生に質問を発し、自分の意見を述べたりすることができたこと等について、積極的評価を多数いただいた。他方で、提出した「設問用紙」に解説を書いて返却して欲しい等の改善意見も出された。
授業は、担当教員と受講学生の双方の努力によってより良いものになる。毎回のリアクションペーパーには、授業の分からなかった問題や授業の感想などを記す学生も多く、この毎回の取組を通じて、1回の「授業評価アンケート」だけではすぐにはできないその年の授業改善に役立てることができる。今年は受講者数も50人台と適正規模で、一人ひとりの顔が見え、意見を出してもらうことができたことも高評価につながったと思う。来年度も真摯に取り組んでいきたい。

法学部 法律学科
長谷川　一年　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 政治学A3 |
| 授業コード | 12C04-003 |
| 教員名 | 長谷川　一年 |
| 教員コード | 103576 |
| 登録人数 | 298 |
| 回答数 | 80 |
| 回答率 | 26.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

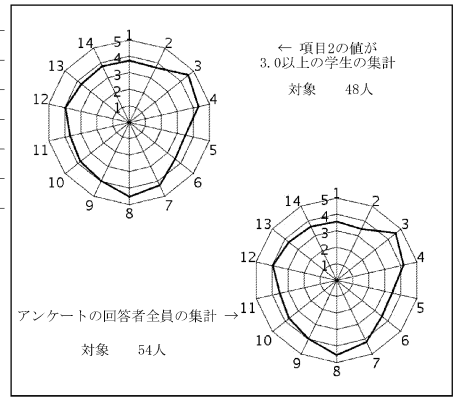
①開講当初に設定していた目標は、１．政治学の基礎概念が理解できる、２．国内外の政治問題を理論的観点から捉えることができる、３．さまざまな政治的トピックスを主体的に考えることができる、という３点であった。シラバスに沿った内容の授業を展開することができ、自由記述式設問の回答として「政治学に関する基礎知識が身に付いた」との反応もあったので、上記の目的はおおむね達成されたと考えている。
②「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていましたか。」という項目は、数値としては４．０８で比較的低い。受講者３００人の多人数の講義で、教室のすみずみの私語や授業中の入退室にまで目を配らせるのはむずかしいが、よりいっそう配慮しなければならないと考えている。
③上記の項目以外については、数値上は比較的高評価であったと思われる。今後ともこれまでの授業方針で臨んでいきたいと考えている。



法学部 法律学科
野口　博史　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | アジアとの出会い3 |
| 授業コード | 13B02-003 |
| 教員名 | 野口　博史 |
| 教員コード | 100473 |
| 登録人数 | 126 |
| 回答数 | 54 |
| 回答率 | 42.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



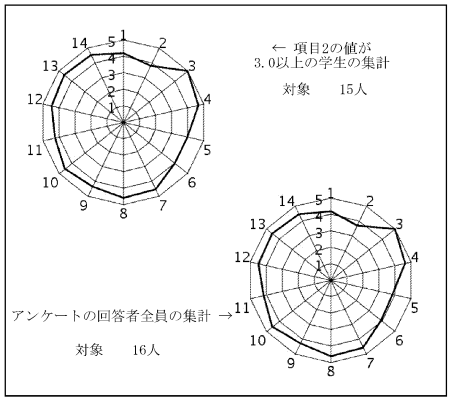

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義はJABEE対応コースA-3（グローバルな視点から多面的にものごとを考えることができる・複数の観点から、社会、文化、価値観等に多様性があることを知っているを学習・到達目標としている。定期試験受験者の93%が単位を取得し、このうち15%が極めて良好な成績を修めたことから、おおむね授業目標を達成したと考えられる。
キャンパス移転の結果、本講義は担当者があたらしく編成したためか、あるいは瀬戸キャンパスにおける講義と比較して受講生の学部・学科が多様となったことに対応できなかったためか、各数値データは担当ほか科目より平均０．２～０．５程度におよんで低かった。歴史を中心とする講義内容と受講生の関心がかならずしも一致しなかったとも思われるが、自由記述は４件あったが、講義において改善すべき点のは記載がなかったため、原因把握がやや困難である。このことは、講義の方法あるいは技術というより内容自体の改善あるいは修正が必要とも考えられる。
現状でただちに対策を示すことはできないが、次回からリアクションペーパー配布などによって受講生の関心を講義内容に反映させてゆくべきと考えている。

法学部 法律学科
三上　佳佑　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 人権をめぐって1 |
| 授業コード | 13C05-001 |
| 教員名 | 三上　佳佑 |
| 教員コード | 103637 |
| 登録人数 | 29 |
| 回答数 | 16 |
| 回答率 | 55.2% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 2　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、前15回の講義中、2回の講義に関してやむをえない理由による休講が生じたが、両回ともに補講を行っており、事前に設定した全ての内容について講じている。試験成績も、全体として最低限の水準は満たしており、「開講当初に設定していた目標と到達の程度」は十分な水準にあるものと考えている。

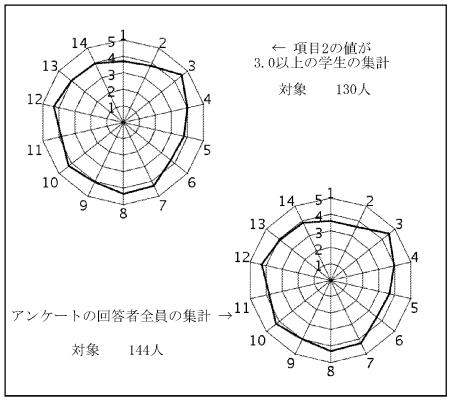
数値データに関してみれば、全体の数値平均は4. 4と概ね高水準であり、本講義を通じて、学生に対して、学生自身の満足・納得の得られる形において、教育機会を提供できたものと考えている。また、自由記述の内容に鑑みても、リアクション・ペーパーへ内容への担当教員によるきめ細やかな対応に対して満足を示すものなど、何れも好意的な内容のものばかりであった。教学の具体的な手段・水準に関して、十分に満足できる、好ましい結果が得られたものと考えている。

以上の諸点から、講義担当者は、本講義を通じて、学生に対する教学の具体的内容・手段・水準に関して、準拠すべき経験が得られたものと判断できる。次クオーター以降の教学においては、これらの経験を活かし、リアクション・ペーパー等の手段によって学生の疑問・ニーズを適宜引き出しながら、きめ細やかな教学を行っていきたいと考えている。

法学部 法律学科
沢登　文治　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 憲法C |
| 授業コード | 44A07-001 |
| 教員名 | 沢登　文治 |
| 教員コード | 017863 |
| 登録人数 | 315 |
| 回答数 | 144 |
| 回答率 | 45.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．　開講当初に設定していた目標と到達の程度について

到達目標は4項目挙げていたが、設問6の回答を見ると3.6と芳しくない。目標を絞るなどの改善を考えたい。

２．数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

(2)「予習や復習をし主体的に授業に参加」は、授業中に予習・復習が大切である旨何回か話したが、未だに3.60と数値として低い。１年次生は、学習態度を身につけることが重要なので、予習・復習をするように一層の働きかけをしたい。(5)「授業の到達目標を理解すること」が3.69と低いのには驚いた。今後、繰り返し到達目標を確認しながら授業を進めたい。(6)それに併行して「到達目標に向けて力が付いてきているか」がさらに低い3.60というのは、注意して指導していきたい。(8)の「教員の声は良く聞き取れたか」は昨年度3.89であったが、今回は4.31と回復している。特に大きな工夫はしようがなかったが、結果としては改善した。(10)私語等への対処は前回とほぼ変わらず、4.24である。また(11)「学習意欲を引き出し積極的な授業参加を促す工夫」は、いまだ4.0に届かないので、さらに工夫をしたい。(12)「質問や相談の機会」については、毎回時間を取っていたためか4.28であり、自由記載においても質問時間がきちんとあることについて評価する記述がほとんどであった。

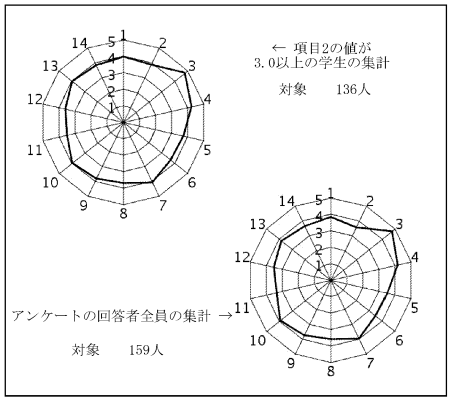
３．次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

理解が深まったか、満足したかという最後の質問項目の評価が良くない点を反省し、高度かつ新規のポイントを含む授業を実施していきたい。

法学部 法律学科
副田　隆重　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民法総論A
授業コード　44A08-001
教員名　副田　隆重
教員コード　045880
登録人数　288
回答数　159
回答率　55.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

大人数の講義ではあるが、法学部の平均値や4.0以上の全体的評価を得たいと思っていたが、3.79とやや及ばなかったのは残念である。項目的には、時間の厳守が4.78、授業構成・進行速度の項目について4.18、授業に取り組む姿勢の誠実さ・熱心さの項目が3.95と、相対的に高い評価であった。反対に、評価が低かった項目として、学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的学習を促す指導があったかの項目が3.38、質問・相談の機会の項目について3.55であった。低評価となっている前者については、評価が低い年が多いため、例年苦労しているが、今後とも工夫して向上させていきたい。質問の機会に関しては、この講義時間の後に別の授業があることもあって、時間的余裕が取りにくいものの、オフィスアワーなどを利用してほしい。

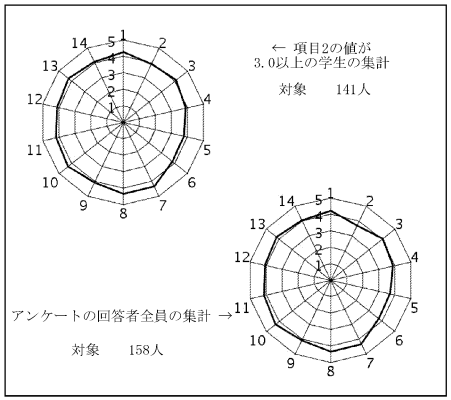
こべつの意見としては、図を多用するなど授業の内容が分かりやすい、授業開始時に全体のレジュメが配布されており、それに沿った授業で予習復習がしやすいとの好意的意見が多く寄せられた。反対に、ホワイトボードの板書の字が小さい、細いとの指摘を多数受けた。細字のマーカーでは不適切なようなので、第四クォーターからは、太字のマーカーを用い、大きな字を書くことを心掛けている。



法学部 法律学科
水留　正流　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　刑法総論A
授業コード　44A10-001
教員名　水留　正流
教員コード　101566
登録人数　306
回答数　158
回答率　51.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

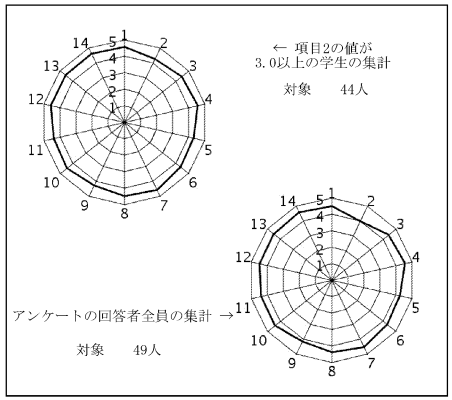
１．故意の単独犯という基本的な類型を念頭に、刑法総論の基本概念を理解し、犯罪の成否の検討方法の基本を修得することが、本講義の到達目標であった。
２．昨年度も同一科目の授業評価を実施したが、項目全体の平均が4点を超えたことから、一定の評価を得たものと考える。昨年度問題であった、設問5（到達目標の理解度：3.71）及び設問6（到達目標の実現感：3.77）もある程度改善したが、なお改善に努める必要があろう。
３．自由記述欄では、「わかりやすい」説明には好意的な評価が多かった。他方で、事例検討形式を取り入れた授業で事例検討が十分にこなし切れていないとの評価も目立ったが、これは担当者の実感にも沿う評価である。丁寧な説明とはなかなか両立できていないところがあるが、この点、「刑法総論B」の授業ではもう少し授業運営を工夫したい。
４．今回の回答率は52%と、昨年度（54%）と比較しても遜色ない数の回答を得、また、自由記述欄にも多くの記述を得た。これらの学生は、きちんと出席し、意欲を持って授業を聞いてくれている学生だと思われる。その中で、昨年度よりも評価の指数を上げることができたことには大きく満足している。

今後とも、出席してくれた学生にはなるべく満足度の高い授業を実現し、同時に学生の実力をも向上できるよう、今後とも努めていきたい。

法学部 法律学科
末道　康之　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 現代社会と刑法各論B |
| 授業コード | 44B08-001 |
| 教員名 | 末道　康之 |
| 教員コード | 100587 |
| 登録人数 | 164 |
| 回答数 | 49 |
| 回答率 | 29.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



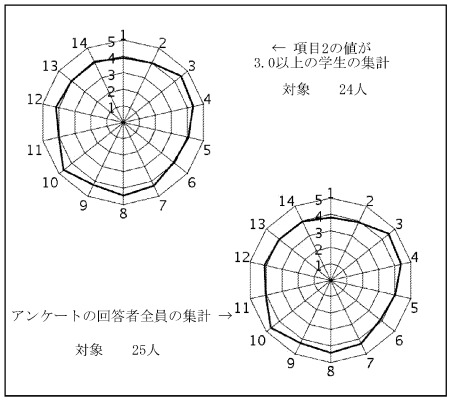

授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均値4.40、項目3～14の平均値4.42という結果であった。項目14全体評価については、4.57という評価であった。概ね9割程度の評価を得たことになるのでその点では評価できると考える。設定していた目標については到達できたと考える。毎年、講義案に改定を加え、講義案を配付しそれに基づき授業を実施している。自由記述においても、講義案に基づく授業がわかりやすいという評価が多く、この形式で授業を行うことについての効果がでていると考えている。また、講義案の中で事例問題を提示し、授業で解説を行った点についても、わかりやすかったという記述があった。なお、ホワイトボードの板書が見にくいということも指摘されていた。この点については、改善をしているつもりではあるが、来年度以降も注意をはらいた。来年度以降も、講義内容や講義案について改善を図り、学生の刑法各論に関する理解を深めることができるような対応を考えていきたい。

法学部 法律学科
洪　恵子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 国際法総論B |
| 授業コード | 44B14-001 |
| 教員名 | 洪　恵子 |
| 教員コード | 103537 |
| 登録人数 | 251 |
| 回答数 | 25 |
| 回答率 | 10.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

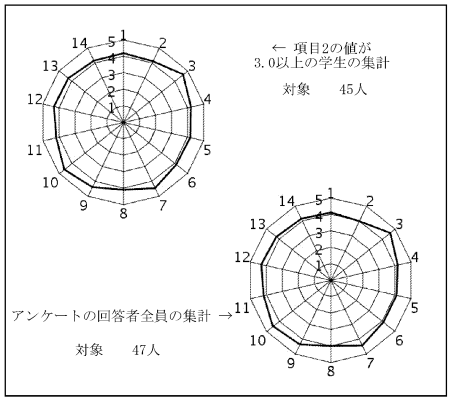
結果はおおむね目標の到達を示す数値で安堵しているが、履修登録者数が200名を超える授業で、回答が25では、正直なところ、受講生の声を適切に反映しているとはいえないのではないだろうか。

また以前にも書いたことだが、学生に授業の「改善」すべきところやその方法について問うのは不適切だと思われる。単なる文句が書かれていて、「より良い授業をしよう」という意欲を失わせるだけである。

法学部 法律学科
王　冷然　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　不法行為法
授業コード 44B19-001
教員名　王　冷然
教員コード 103577
登録人数　167
回答数　47
回答率　28.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、不法行為法に関する基本的な知識の理解だけでなく、具体的な法律問題について、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を身に着けてもらうことを目標としました。学生たちから提出した課題レポートやアンケートの結果からみますと、当初の目標はほぼ達成できたと思われます。

また、学生による授業評価集計の結果によりますと、自分担当の当該科目に関しては、「教員の声はよく聞き取れましたか」という設問以外に、ほかの設問の平均値はすべて法律学科全体の平均値より高く、講義に関する自分の努力は学生たちに伝わったことに安堵しました。ただし、自由記述の中に、自分の日本語や声などが聞き取りにくいという意見は書かれており、さらなる改善が必要と考えています。

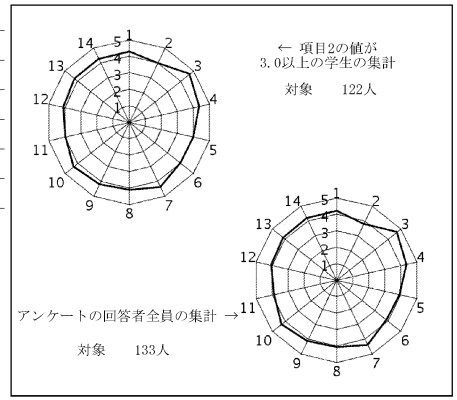
第3クォーターで、途中に学生たちに課題を出したことによって、勉強の促進や期末試験の準備に役に立ったことがわかりました。次クォーターでは、引き続き、学生たちに課題を出して、それに関する解説を行うことにします。また、日本語発音の改善に努めて、学生たちにわかりやすい講義を提供できるように心がけます。



法学部 法律学科
伊藤　司　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　家族法A
授業コード 44B20-001
教員名　伊藤　司
教員コード 100474
登録人数　487
回答数　133
回答率　27.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、民法第四編についての概説し、現代における様々な家族を考えさせる科目であるが、おおむねその目標は達成できたと思われる。

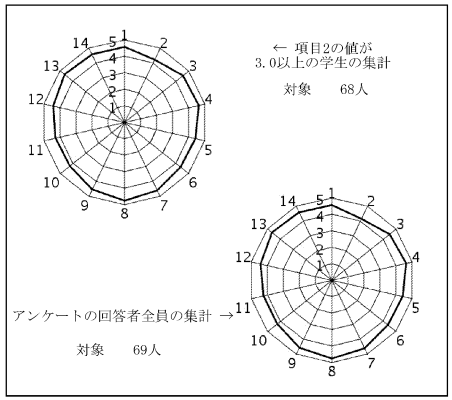
また、全体として、それなりの評価が得られているように思われる。ただし、今回についても以前と同様にアンケートに協力してくれた学生の数が少ない。試験を受けた人数からすると三分の一強ぐらいしか回答されていない。講義をしている限りにおいてはそれほど人数の減少を感じなかったのであるが、アンケートの回答率をみるとそれほどでもない状況である。おそらくこれは講義には出席していたが、アンケートには協力しなかった学生が少なからずいることを反映しているように思われる。これは以前も指摘した点が、もしも授業評価アンケートに協力をする気のない学生が多いということであれば、アンケートのあり方自体を再検討する時期にきているように思われる。講義時間をこれだけ費消して行うべきアンケートであるのかどうか、あるいは毎回全教員を対象にすべきかどうかなど、検討すべき点は多いように思われる。

自由記述においては特に否定的な評価はみられなかった。しかし、このことに満足すべきで無いことは回答率の低さからいっても言えるように思われる。また、従来指摘されてきた問題点が解消されたかどうかは疑わしいと言わざるをえない。第4クォーターにおいても気をつけていくべきであろうと思われる。

法学部 法律学科
緒方　桂子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 労働法A |
| 授業コード | 44B27-001 |
| 教員名 | 緒方　桂子 |
| 教員コード | 103261 |
| 登録人数 | 369 |
| 回答数 | 69 |
| 回答率 | 18.7% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初予定していた目標は、労働法の基本的な知識を習得し、具体的な紛争事案について適宜対応できる力をつけることであったが、その目標はほぼ達成されたと考えている。

今回の授業は、G30という大変大きな講義室で行われたが、電子機器の使用もスムーズで、授業も快適に行うことができた。もっとも、授業の最終日（11月7日）、プロジェクターの故障により、予定していた映像での学習を見送らざるを得なくなった。時間的に余裕があれば、第４Qで再度試みてみたい。

授業評価の自由記述欄で気になったのは、私語に関する記述である。G30は大教室であったためか、私のいる教卓まで聞こえることはなく、おおむね静寂のうちに授業が行われていたと考えていた。しかし、実際はそうではなかったようである。そこで、第４Qに入るまえに、WebClassの掲示板に、私語に関する注意書きを出した。併せて、第４Q1回目の講義の際に、私語について厳しく臨むこと、私語が邪魔で勉強に集中できない環境が生じたら直ちに教員まで申し出ること、及び、講義に集中するためには講義室の前方に座ることを推奨することを、あらためて説明した。

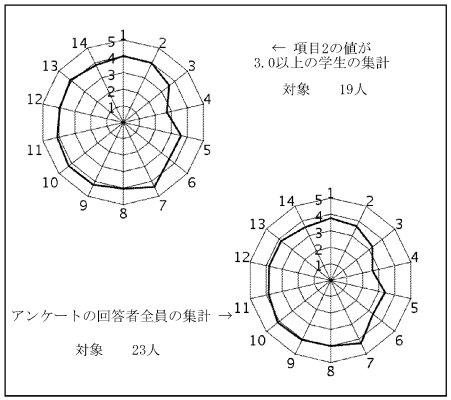
なお、自由記述欄にあった、「新しいことを学びたい」云々は、当該記述者たる学生の誤解か、勘違いである。私の講義内容は、もっとも最新の法律に基づいたものであり、その内容も現実にキャッチアップしたものである。また、今年度社会的に話題になった「働き方改革」の内容は、第３Qで扱った事項は関わりがなく、主に第４Qで扱うことを予定している内容に関わるものである。この点についても、第４Q1回目の講義の際に学生全体に向けてコメントを行った。



法学部 法律学科
服部　寛　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 法哲学B |
| 授業コード | 44B32-001 |
| 教員名 | 服部　寛 |
| 教員コード | 103600 |
| 登録人数 | 90 |
| 回答数 | 23 |
| 回答率 | 25.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

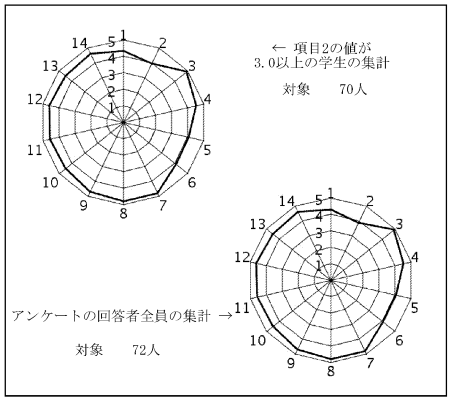
シラバスに掲げた「学習の到達目標」自体については、こちらが講義を通じて提供すべき知識の中でもとりわけ重要なところにつき繰り返し力を入れて話をしたことを通じ、受講者に汲み取ってもらえたと思われる。しかし、他面で、「授業計画」については、予定通りに進まず、遅滞してしまった。この点が、②における各数値が高くないこと及び自由記述における関連する批判に直結してしまっている。これらについては、次年度の改善点として、率直かつ真摯に受け止める（③）。弁解がましいが、（ア）当該講義における適切なテキストが手近にないこと、（イ）扱う話が僭越ながら理論的に高度に過ぎ、かつ抽象的にならざるを得ないこと、（ウ）内容を平易化するとなると、レジュメ・スライド・資料が豊富になり詰め込み過ぎになってしまうこと（今年度はこの点が顕著であった）、（エ）受講者に対しても相応の予習・自習（・復習）を行っていることを想定せざるを得ないこと、といった、科目特有の特殊的な背景的事情が存する。来年度においては、講義の全体の骨子は残しながらも、上記の事情のうち問題となる部分を解消し、平易にかつ（科目担当者にとっても）無理の無いような「授業計画」を立てるようにしたい。

なお、受講者数（あるいは実際に出席するであろうと見込まれる学生数）を想定して、教室を変更したが、かえってかなり窮屈な環境となってしまった。この点は、受講者にとって、（空間的な）ゆとりがないものと思われたであろう心証の環境的一因となったことも否めず、次年度あるいは他の講義に臨むにあたり、自身でも留意したい。

法学部 法律学科
中田　裕子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英米法
授業コード 44B37-001
教員名　中田　裕子
教員コード 103638
登録人数　245
回答数　72
回答率　29.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　目標設定はおおよそ妥当であり、達成度も満足のいくものであった。ただ、日本法を履修していない学生（２年生を中心とする）が沢山履修していたので、それらの学生に取ってはやや設定目標は高めであったかもしれない。来年度から、２年生必修科目の裏に設定されるので、３・４年生が履修の中心となると思われる。したがって、設定目標はこのままでいく予定である。

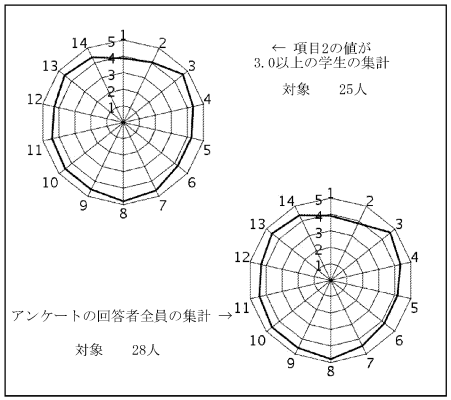
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　スライドを繰るのが早いとの指摘は、恐らく、後ろの方の学生が見えにくく、写しにくいといったものに起因するものと思われる。前方に座る学生の写す速度に併せながら、授業をしていたので、今回の教室が縦長であった点が大きな問題だったと思われる。いずれにせよ、今後もう少し調節したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
次学期はもう少し分かりやすいテーマをちりばめてより理解が進むように努力したい。

法学部 法律学科
齊藤　高広　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済法A
授業コード 44C19-001
教員名　齊藤　高広
教員コード 103599
登録人数　75
回答数　28
回答率　37.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



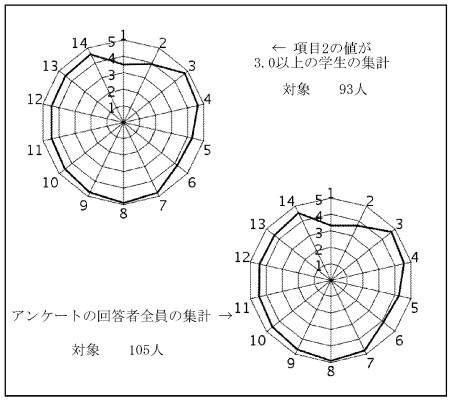

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、独禁法のうち主として共同行為の規制と独占・集中規制を扱った。競争政策の歴史と競争制限行為の規制手法を理解することを目標とした。本年度は、当初の予定どおり、講義を進めることができた。シラバスおよび複数回の授業で告知したように、双方向型の講義を目指した。最終回に実施したアンケートによれば、双方向型講義の必要性に疑問を呈する意見、回答インセンティブ付与の提案、Power Pointの閲覧確認に対する改善提案があった。講義方針については、そもそも、他に選びうるより魅力的な講義が同時並行で開講されている。加点については、本学部の成績評価に係る方針上、積極的に取り入れられない事情がある。スライドについては、WEB CLASSで掲載しており、多くの受講者が活用している。双方向型授業は「時間の無駄」との意見もあった。批判的な趣旨だが、蓋し至言である。大学教員の職務は研究に限ると考える者は授業を「教育負担」と捉える。教育にも熱心な研究者は単なる情報伝達を自習可能な教科書や参考書に委ね、授業では非効率に陥りがちな思考プロセスの追体験に誘う。いずれにせよ教育には「無駄」がついてまわる。「無駄」に対する好意的な意見に頼り過ぎるのも問題だが、理解度評価と比例関係を読み取ることができた。引き続き、講義手法や教材のブラッシュアップとともに、履修ミスマッチへの対策を講じられるよう努めていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
山田　望　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | キリスト教概論[H・F]6 |
| 授業コード | 10A51-007 |
| 教員名 | 山田　望 |
| 教員コード | 000211 |
| 登録人数 | 150 |
| 回答数 | 105 |
| 回答率 | 70.0% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



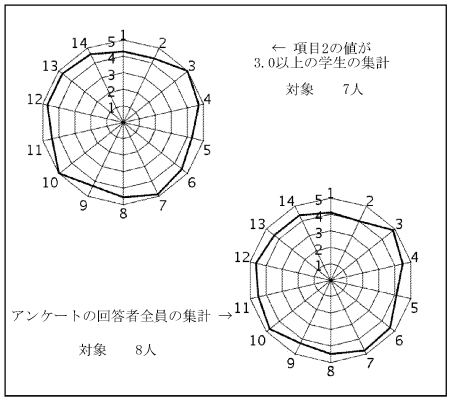

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1回は公務、1回は学会出張により休講を2回行った。補講授業の時間を取ることができなかったので、それぞれ学生に課題を与えてレポートを提出させる形で補講に替えた。授業評価データ平均値の内、今回の私のキリスト教概論の授業の数値が、宗教科目13科目の平均値よりも下回ったのは、設問２、「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようと努めたか」という設問のみであった。それも、宗教科目平均値が3.69だったところ、私のキリスト教概論では3.67と、僅か2ポイント下回ったのみであった。それ以外の設問についてはすべて、宗教科目平均値を上回っており、特に重要な、設問１３、「この授業を通して、新しい知識を得たり、理解が深まったか」という設問では、宗教科目平均値が4.17のところ、本科目では4.38と11ポイント上回っており、設問１４の全体としてこの授業に満足したか、という問いでは、宗教科目平均値が4.11のところ、本科目では4.53と、42ポイントも上回っていた。これら以外の設問でも、ほぼ5ポイントから40ポイント以上上回っていたことにより、ほぼ、本科目の目標は達成できたものと考えられる。自由記述でも、授業内容の説明が分かりやすかった、興味が湧くような工夫がなされていた、など、概ね良好な評価が多数を占めていた。次回は、学生の主体的な勉強を促す工夫を多く採り入れたいと考えている。

総合政策学部 総合政策学科
POTTER, David M.　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 政治学A＜国際科目群＞1 |
| 授業コード | 12C04-901 |
| 教員名 | POTTER, David M. |
| 教員コード | 100098 |
| 登録人数 | 11 |
| 回答数 | 8 |
| 回答率 | 72.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a 国際科目群 course taught strictly in English,  The course topic is an introduction to comparative politics taught from a political science perspective.

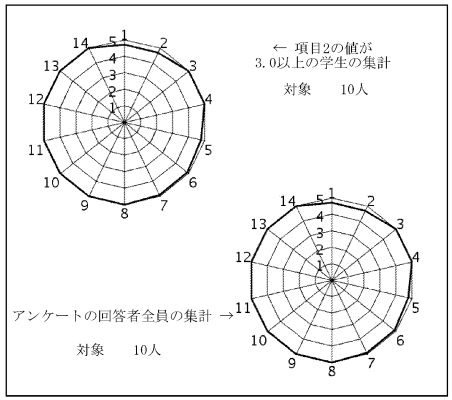
The number of students this time was small, only 9, of whom 8 answered the survey. They were generally happy with the course, although not enthusiastic. As most were students from the foreign language departments I think they had not had political science courses previously and a few were daunted by both the language and the course content.

This course will be offered as a COIL course beginning next year, so course changes will reflect that rather than the responses this round.

総合政策学部 総合政策学科
O’CONNELL, Sean　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化の比較＜国際科目群＞2
授業コード　13A01-902
教員名　O’CONNELL, Sean
教員コード　100448
登録人数　12
回答数　10
回答率　83.3%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



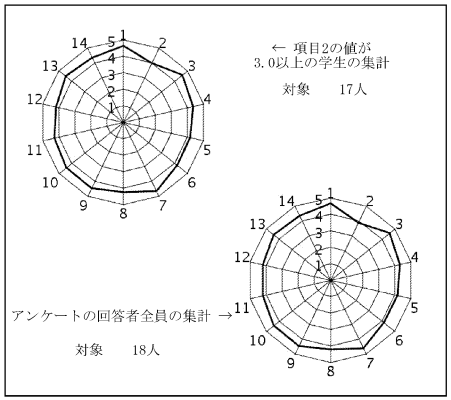

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was created to stimulate and encourage students to compare corporate cultural differences around the world. It was designed as a student-centered course which meant that the students were constantly pushed to participate and give their own opinions on the topics covered. All of the students were engaged and positive in their approach to learning and analyzing the content. The results of the evaluation suggest that all students were extremely satisified with the course design. When the class numbers are small, it gives the students plenty of opportunity to express their thoughts and also to clarify their interpretation of the various topics. Their presentations and reports were excellent, which shows just how serious they were about the course. For future classes, I will endeavor to take a similar approach to the design and class management.

総合政策学部 総合政策学科
成田　靖子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生活環境と物質2
授業コード　13D03-002
教員名　成田　靖子
教員コード　100250
登録人数　34
回答数　18
回答率　52.9%
休講回数　2 回
補講回数　2 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価結果は、項目１・２は4.67と3.89、項目３～１４の平均は4.35であるので、目標はある程度充たしたと考えている。

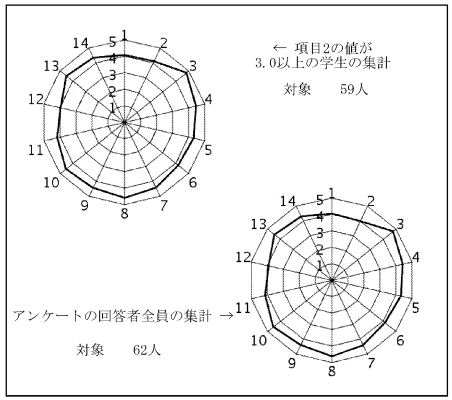
17年度は当該科目を２回開講し、２科目とも授業評価の対象であった。２科目合わせて約500名で開講した。評価点数としては3.8～3.9であったが、私語への注意のしかたなどに対して辛口コメントを複数もらった。今年度は昨年度のコメントを参考にして改善に努めた。今年度の受講者は少数であったので、できる限り受講者の名前と顔を覚えるようにし、受講生の反応を見ながら進めることのできた授業はやりやすかった。また、私語を注意することもなかった。

授業評価の結果を分析する。この科目はDNAと遺伝子操作や再生医療を授業内容としている。質問1「履修前、授業内容に興味を持っていたか」の4.67に対して、これを受ける形の設問13「この授業を通して新しい知識を得、理解を深まったか」は4.44、設問14「授業に満足した」は4.33であった。授業には常に真摯で取り組んでいるが、質問７「事業に取り組む姿勢の誠実さと真剣さ」は4.61であり、思いは伝わったと考える。19年11月29日のニュースで、中国で遺伝子書き換え操作をした双子が生まれたというニュースが流れた。古代から受け継がれた「いのちは授かる」という概念が「いのちはつくるもの」と変わりつつあることに対して、受講生がいのちの芽生えを考える基礎知識となることを願っている。

総合政策学部 総合政策学科
鶴見　哲也　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 社会システムと環境2 |
| 授業コード | 13D06-002 |
| 教員名 | 鶴見　哲也 |
| 教員コード | 102265 |
| 登録人数 | 90 |
| 回答数 | 62 |
| 回答率 | 68.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

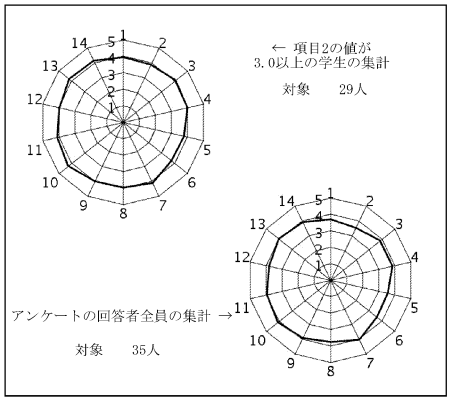
開講当初の目標については講義の最終レポート（論述課題）をみると全体として総合的に期待した到達点に達することができたと考えられた。項目３から項目１４の平均が4.38であり、同じ人数帯の講義の平均値を上回る得点を得ることができ、一定の評価が得られたと考えている。コメントでは具体例を豊富にした点が評価されており、今後も世の中の具体例を使って経済発展と環境の関係をイメージしやすい形で説明することに努めていきたい。一部の学生から紙による配布資料が無駄であるとのコメントがあったが、今回の講義はこの配布資料に講義で話した内容をメモしていく形で講義を受けてもらう形式をとっており、配布資料はノート代わりに活用してもらう方針で配布をしている。講義を真剣に受ければ、紙は無駄になることはないはずであり、当該学生の指摘は当たらないと考えている。今後も具体例をより豊富にし、新しい情報を加えて世の中の状況を把握させ、学生の問題意識を深めるために内容をアップデートしていきたいと考えている。



総合政策学部 総合政策学科
井上　洋　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 行政学A |
| 授業コード | 44B42-001 |
| 教員名 | 井上　洋 |
| 教員コード | 100177 |
| 登録人数 | 220 |
| 回答数 | 35 |
| 回答率 | 15.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



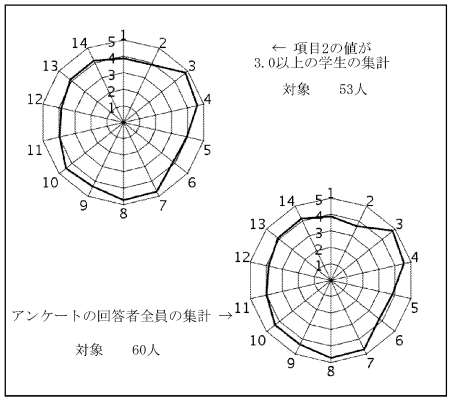

授業評価結果を踏まえた点検・評価

行政学Ａの講義では、例年以上に時事的な問題への解説、さらには2018年の今をどう捉えるかという時代認識について時間を割いた。これが受講生にどう受けとめられるか不透明で心配な点もあったが、アンケートの数字を見て、まったくのくいちがいというのはなかったのかなと少し安堵する気持ちでいる。行政学Aの配当教室はS棟の21番教室で、ホールのような構造で講義はとてもやりづらいものだった。教室の構造と設備は授業そのものに大きく影響するので、教室担当配当部局はまず全教室を足で歩いて確認し、教員からの声に耳を澄ませるべきであると思う。行政学Ａが行政学ＢのようにＢ棟の第22番教室だったら、話しやすさも、場の作りやすさも格段に違っていただろう。そんな難しい場であったにもかかわらず、おおよそ3点台の後半から4点台の前半の評点を付けてくれた受講生の心遣いに感謝している。授業が授業として成り立つ空間は、最後列にすわった学生の顔がはっきりと見えるか（目を合わせられるか）どうかで区切られると思う。

総合政策学部 総合政策学科
山田　哲也　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際機構論
授業コード　44B49-001
教員名　山田　哲也
教員コード　100839
登録人数　201
回答数　60
回答率　29.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



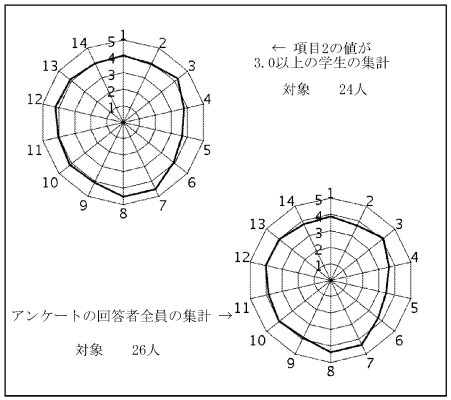

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①従来は、詳細なレジュメ集を用意し、それに沿って授業を行っていたが、今回、教科書を執筆したので、それに沿う形で授業を行った。レジュメ集を基にした教科書ではあるが、当然、内容や構成が「盛り沢山」になったため、講義としてはやや消化不良になってしまった気分が残る。
②学生には、教科書の体裁や内容についてコメントをお願いしたところ、書物としての体裁や内容・レベルについてはおおむね肯定的な評価を得られたことは、（授業そのものへの評価とは別に）教科書の著者としては安堵している。また、板書についても概ね肯定的な評価が得られたが、「板書の量が多い」という評価も見られた。意図的に板書を多くし、ノートをとりやすくするための配慮ではあるが、そうすると①とも関連して、授業で話せる内容が減ってしまうというジレンマに陥ることになってしまい、その辺は悩みどころである。
③一部の学生からは、さらに補助的な教材（レジュメ）を求める意見もあったので、その点については今後の検討課題としたい。

総合政策学部 総合政策学科
松戸　武彦　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会と文明
授業コード　46B08-001
教員名　松戸　武彦
教員コード　100357
登録人数　50
回答数　26
回答率　52.0%
休講回数　0　回
補講回数　1　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

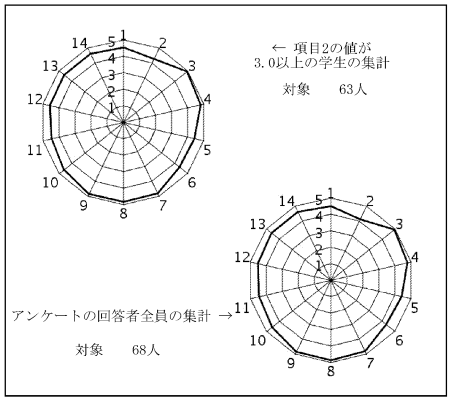
授業目標はおおよそ達成できたと考えている。今回は、全体で15回の講義を4つのパートに区切り、そのパートのメイントピックスを少し丁寧に解説した。その点で従来よりもそれぞれのトピックスについては詳しく話すことができたが、その反面遺り残したトピックスができた。今後の課題としたい。特に比較と言う視点を中心に据えた場合、世界全体を対象にした一種の社会変動論については話したいところであったが、今回そこが少し弱くなった。

また、このような授業の場合、続けて訊いていないと授業目標を適切に読み取れない危惧があるが、この点で今回は、比較的計測してきちんと出席する学生と出席の継続性という点で問題を感じる学生の差を感じた。1つのパートは基本的に同じ社会現象について言及するので、欠席によってここでの論理的継続性についていけない学生が出たことは否めない。そもそもこうした話にストーリー性があると言う構えを持たずに、一種の暗記科目のような構えで授業をとる学生が散見されるが、この点への対応に毎回苦慮するようになった。日常的な推論と同様に授業科目も社会科学を中心に据えるものでは論理的つながりを欠いては何をどのように話そうとしているのかを読み取るのは至難の業にならざるを得ない。そもそもこの講義が何を伝えようとしているのかが理解できなかった学生がいるのではないだろうか。この点への配慮に苦慮している。

総合政策学部 総合政策学科
久村　恵子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　産業心理学
授業コード　46D04-001
教員名　久村　恵子
教員コード　100026
登録人数　134
回答数　68
回答率　50.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、産業社会において心理学がどのように活用され、また研究されてきたのかについて、生産者（労働者）および消費者の視点から理解することを目的としている。具体的に前半では、現在社会における若年者の就労問題を題材にしつつ、生産者（労働者）の視点として「キャリア発達における心理学」について紹介した。後半では、広告や販売手法における心理学の活用や、心理学から見る悪徳商法の罠など「マーケティングにおける心理学」について紹介した。

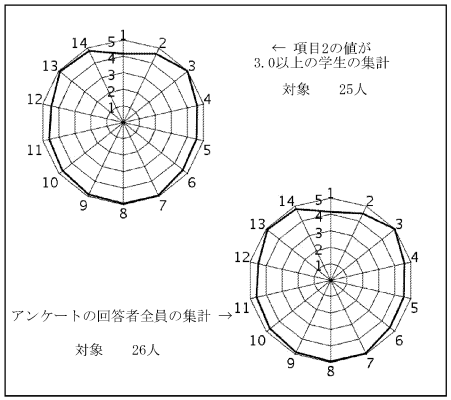
今回の授業評価の結果を見る限り、設問3～設問14の平均値は4.65（同科目前回値も4.65）であり、総合政策学科科目の平均値（4.31）と比較しても、全体として肯定的で高い評価が得られた。自由記述においても「説明が分かりやすい」、「面白かった」、「レジュメやパワーポイントが分かりやすかった」、「私語がなく非常に集中できた」など授業運営に対しても肯定的意見が寄せられた。

その一方で、自主的な学習に関する項目（設問2）の値は4.09であり、前回値（4.04）と比較すれば若干上昇しているが、他の設問結果と比較すると低い値となった。確かに、僅かながらではあるがWebClassでの資料活用方法の事前説明など自主的学習を促す試みへの効果が確認される結果になったとも解釈できるが、今後もより検討しつつ、学生の自主的学習を促す工夫を取り入れ、次年度においても授業改善を図っていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
中島　靖次　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学総論
授業コード　46D11-001
教員名　中島　靖次
教員コード　000246
登録人数　36
回答数　26
回答率　72.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



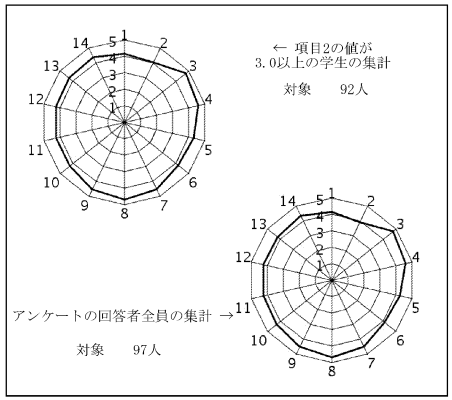

授業評価結果を踏まえた点検・評価

概ねすべての項目において平均を上回り、改善点も学生から示されなかったという結果で、授業としてはこちらの思惑を学生がよく理解してくれたように思う。
昨年は、この授業に対する自由記述で、「授業に関係のない具体例や無駄な話はしないでほしい」であるとか、「話が抽象的だ」といった内容のものがあり、「哲学総論」という内容を自覚して受講しているのか、理解に苦しむ内容のものがあったが、今年度は、「教科書の難しい解説を噛み砕いて、例などを出して説明してくださったので非常に分かりやすかった」や、「具体例が充実している」や、「一つの論点に対し、多角的な説明が加えられ、理解が深まった」など、多数の記述の中に、こちらが用意した具体例の意義や、哲学を離れたたとえば芸術作品の解釈の提示など、抽象的な哲学の議論を理解しやすくするこちら側の工夫をよく理解してくれた様子が非常によくわかる自由記述が多かった。さらに、こうした哲学の授業としては、自分自身が生きること自体に何らかのつながりを見つけてくれればと思いながら授業をしているわけだが、たとえば、「自分の生活を生きるための考え方を提供してもらった」という記述は、授業の意味を実践的に理解しているということもわかり、この意味の手ごたえを受けることができた。

総合政策学部 総合政策学科
金綱　基志　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経営学概論 |
| 授業コード | 46D13-001 |
| 教員名 | 金綱　基志 |
| 教員コード | 102923 |
| 登録人数 | 177 |
| 回答数 | 97 |
| 回答率 | 54.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



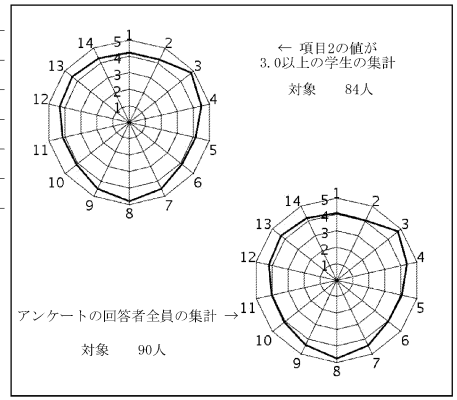

授業評価結果を踏まえた点検・評価

すべての項目で総合政策学部の平均を上回っている。授業構成、進行進度の評価は4.60で特に高かった。到達目標に向けて力がついているかという質問に対しての評価は4.13であり、他の項目と比較すると低いが、社会科学系学部の平均が3点台であるのに比較すると高い評価となっている。資料は、以前はWebclassで学生に印刷させていたが、授業評価での不満が大きかったため、紙ベースで配布する形式に戻した。この点については、自由記述欄で、よかったと回答する学生が何名かいた。自主的な学習を促すため、毎回復習の問題を出している。これらの問題に対するチェックを本来は行う方が効果的であると思われるが、大人数の講義においてこうしたチェックを行うことは、現在の業務の中ではきわめて難しい。こうした授業内容の復習などのチェックは、TAを活用することができれば、より容易になると思われる。講義内容は、毎年改定し、新しい学術的な知見や情報を加えるようにしているが、もう少し時間的な余裕が欲しいところである。

総合政策学部 総合政策学科
藤本　潔　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 環境地理学 |
| 授業コード | 46D14-001 |
| 教員名 | 藤本　潔 |
| 教員コード | 100100 |
| 登録人数 | 268 |
| 回答数 | 90 |
| 回答率 | 33.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



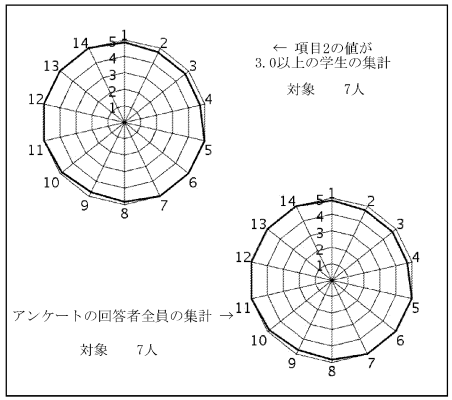

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は昨年度から新たに開講した科目であり、昨年度の授業評価の結果を踏まえ、いくつかの改善を試みた結果、項目3-14の平均が4.15から4.30へ向上した。260名を超えるマスプロ授業としては高い評価が得られたと言えよう。主な改善点は試験と授業参加度（レポートを含む）の比率を8：2から7：3に変更した点である。この科目は当初は実習的要素も取り込んだ科目とする予定であったが、履修者が昨年度は450名、今年度も260名を超えるマスプロ授業となったため、授業内での実習要素を最低限に抑え、そこで行えなかった部分を3度レポートとして課すこととしたが、その負担の割に授業参加度の比率が低いという学生からの指摘があり変更したものである。今回の自由記述欄にさらにこの比率を高めてほしい旨の記載があったが、中にはまったく授業に出席せずに試験だけ受ける学生もおり、そのような学生に単位を与えることにもなりかねないため、もうしばらくはこの比率で様子を見たい。また、レポートに関する事後解説の不足を指摘する意見があったため、この点はさらに改善したい。

総合政策学部 総合政策学科
CROKER, Robert　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | FIELDWORK METHODS＜国際科目群＞ |
| 授業コード | 46E01-901 |
| 教員名 | CROKER, Robert |
| 教員コード | 100082 |
| 登録人数 | 15 |
| 回答数 | 7 |
| 回答率 | 46.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



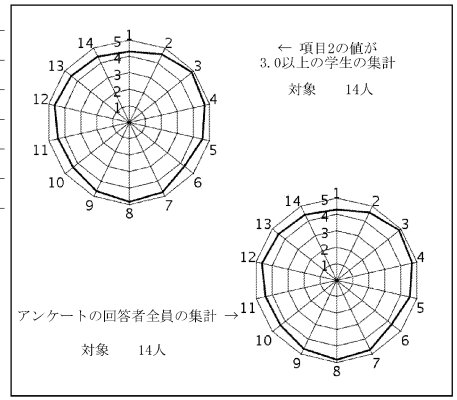

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class was to help students develop an ability to do research in English in the social sciences. Students made small groups of three or four students, and each group researched about a different topic – post-graduation life plans, part-time jobs, and so on. Two main research skills were focused upon – interviewing and writing a questionnaire. Students then analyzed the collected data, and in the final class gave a 10 minute presentation in their small groups. The students worked hard every week to complete this small research project within one quarter. The feedback from students indicated that they enjoyed the class and felt that it was very useful. They also felt that they learned useful research and language skills, which will help them in their third and fourth year seminar classes. I also enjoyed teaching the class very much.

総合政策学部 総合政策学科
梁　暁虹　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 総合政策中国語II1 |
| 授業コード | 46F05-001 |
| 教員名 | 梁　暁虹 |
| 教員コード | 045229 |
| 登録人数 | 14 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1～14の平均値は4.56、設問3～14の平均値は4.58、特に設問3、7、8はかなり高い点であり、学生・教師双方の満足感が窺えよう。学生の自由記述項目15では、「ただ読むだけの授業ではなくて、宿題として書いたりすることが多かったので楽しかった」、「積極的に手を挙げたりできることが良かった」、「テーマに関する知識をより深めるためにビデオなど見せてくれたのが、分かりやすくて良かった」、またこれに近似した「DVDを見たり中国の文化について深く知れてより興味が出ました」等の評価があった。（少々日本語の表現の添削あり。）特にマンネリ化しやすい語学授業をどのようにしたら改善できるかを考慮に入れつつ、努力するつもりである。項目16「この授業の改善すべき点」の所では、「お互いに話すというのをもう少し取り入れてほしかった」という改善策が出たので、今後、更に改善の余地があると考えている。

総合政策学部 総合政策学科
原田　直枝　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 総合政策中国語I12 |
| 授業コード | 46F05-002 |
| 教員名 | 原田　直枝 |
| 教員コード | 018754 |
| 登録人数 | 16 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 18.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目に関して当初設定していた目標と到達の程度は、１）中国語によるコミュニケーション実践に必要な語法・会話の運用力を発展させる、
2）時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する、3）現代中国の諸事情に関する初歩的話題の中国語文献を処理することができる。以上3点であった。
16名の履修者に対して最終授業とその前の授業の2回、授業評価への協力を呼びかけたが、回答数3名という結果で「少ない」という気がする。外国語の習得と訓練、それに現地事情を盛り込んで伝えるなどの計画をこなすうえで、授業時間内に授業評価のために割ける時間をあまり多くとれなかったことは事実であり、回答数の少なさに対する反省点ということができるだろう。授業そのものの達成と、授業評価の実施と、どちらも重要なことだけに両立できるよう今後も工夫していきたい。回答結果を見ると、学生側の取り組みを学生たちはきちんと取り組んだ、と自己評価しているようである。担当者の授業に関しては、授業の進め方や姿勢についてあまり満足でなかったのかも知れないと推測される回答が１件ある。今後への反省点として受け止めたい。



総合政策学部 総合政策学科
森　徹　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 財政学 |
| 授業コード | 46K02-001 |
| 教員名 | 森　徹 |
| 教員コード | 101861 |
| 登録人数 | 13 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 23.1% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

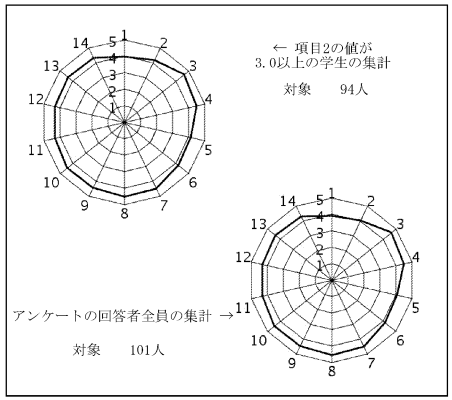
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義では、到達目標として「１．財政が果たすべき役割と日本の財政状況・課題を理解している。２．公共財の性質を理解しと、公共財を効率的に供給するための様々な仕組みの有効性を評価する能力を養う。３．社会保障制度の現状と課題を理解し、社会保障制度を持続的かつ有効に機能させるための財政政策のあり方を考察する能力を養う。４．経済安定化のための財政政策の中心的手段となってきた公共投資の推移と現状を理解し、今後のあり方を考察する能力を養う。５．日本の主要な税制のしくみを理解し，各種の税制が内包している課題を解決していくための方策について自ら考察する力を養う。」の５点を掲げた。これらのうち、１～４点については、十分時間をかけて丁寧な説明を行い、目標は到達できたと考えられ、そのことは、定期試験の結果からもうかがわれた。しかし、５点目の租税制度の現状と課題に関しては、１時間しか講義を行うことができず、十分な理解を得ることができなかった恐れがある。
②上記のことから、今後この授業の担当にあたっては、講義項目間の時間配分を再検討し、到達目標全般にわたり、学生諸君の理解を得るよう心がけたい。
なお、履修登録者が少人数であったためにこの授業に関する評価アンケートの集計は行われなかった。

総合政策学部 総合政策学科
水落　正明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 労働経済論 |
| 授業コード | 46K04-001 |
| 教員名 | 水落　正明 |
| 教員コード | 102745 |
| 登録人数 | 252 |
| 回答数 | 101 |
| 回答率 | 40.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

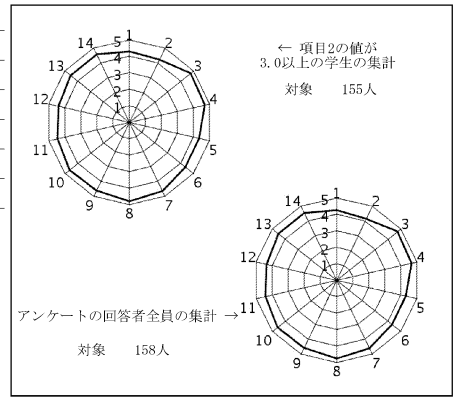
本科目の目標は、経済学の分析枠組みで労働市場に生じている問題（失業や賃金格差など）を理論と実際のデータを通して理解することであった。概ね授業の目標を達成したと考えるが、至らない点もあった。総合的な満足度（設問14）については4.31と、総合政策学科の平均4.20を上回っており、良好な結果であると考える。教科書をベースにしつつも、就職活動に関連するトピックや実際の労働市場で何が起こっているのかの新聞記事等を織り交ぜた内容にした結果、学生の興味を引くことができたと推察され、今後とも、こうした内容を織り込んでいきたい。各項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14項目において、下回った項目は2つで、ほとんどの項目で良好な結果を得ることができた。下回った項目は、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」と設問8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」であった。設問1についてはシラバスの改善で対応するが、設問8については大教室での講義のため、なかなか改善は難しいように思う。自由記述の感想を見ると、練習問題がありその解説が好評であったようだ。また、うるさい学生に注意を与えるところも良かったと複数からコメントがあった。数学的な部分については丁寧に解説したつもりであったが、不得意な学生からはわからないという記述もあった。



総合政策学部 総合政策学科
三輪　まどか　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 人権政策論 |
| 授業コード | 46K06-001 |
| 教員名 | 三輪　まどか |
| 教員コード | 102263 |
| 登録人数 | 341 |
| 回答数 | 158 |
| 回答率 | 46.3% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、現代社会の課題について発見し、その解決のために、社会が、それを構成する自分自身に何ができるのかについて考えられることであるが、定期試験の解答などを見ると、それらについて、しっかりと受け止め、自分自身の問題として捉えることができるようになっていることがつぶさにわかる内容であった。

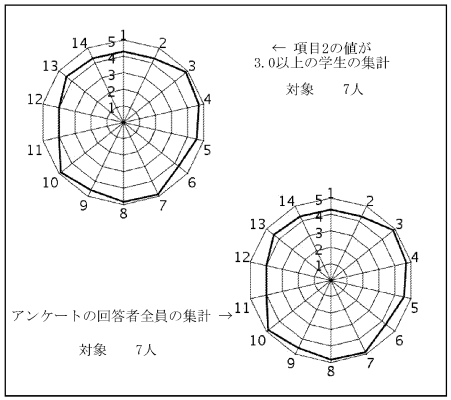
本アンケート結果によれば、全体的な満足度は4.54であり、学科平均4.20を上回り、学科科目として学生の皆さんに満足いただけたものと受け止めている。これはひとえに、私の伝えようとする意思を真摯に受け止めてくださった、学生の皆さんの授業に参加する態度と意識によるものと思われる。この点で、受講してくださった学生の皆さんに大いに感謝したいと思っている。長年の課題であった、予習・復習に関する項目も、4.16と初めて4点台に乗せることができ、教科書の指定と教科書を読んで授業に臨むことを徹底した結果と思われる。予習・復習をしてもらえるように、より工夫をしていきたいと思う。自由記述欄に目を転じると、テーマの選択やビデオを使った内容、教科書とスライドと授業のリンク、間に休憩を挟む点などが好評であった一方で、スライドを変えるタイミングが早いといった意見が多く見られ、この点は注意すべき点だと思われた。

今後も引き続き、学生の皆さんの将来にとってためになり、かつ、新たな発見ができるような授業になるよう、真摯に、かつ熱意を持って取り組んでいきたいと思う。

総合政策学部 総合政策学科
前田　洋枝　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境社会学
授業コード 46M03-001
教員名　前田　洋枝
教員コード 102264
登録人数　18
回答数　7
回答率　38.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

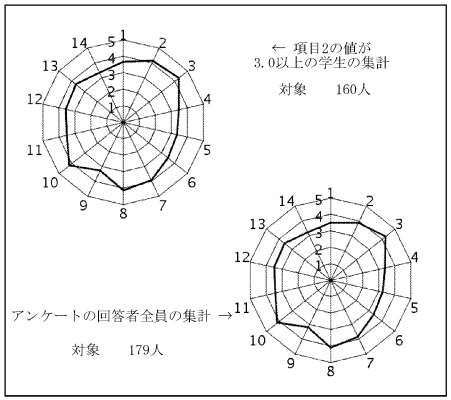
全ての評価項目で平均点が４点を超えていた。特に評価が高かったのは、項目３の授業の開始と終了の時間は守られていましたか、項目７の担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか、項目８の教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか、項目１０の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていましたかであった。教員が授業に取り組む姿勢の誠実さ、真剣さの評価が高かった理由としては、毎回とはいかなかったものの、コメント課題の記入内容に対して個別にフィードバックを行なったことや、授業の配布資料は土日を含まずに３日前を目安に合同研究室に依頼する必要がある関係上、月曜日の授業の配布資料の印刷は前の週の水曜日には印刷依頼をするため、木曜日のコメント課題の振り返りを翌週月曜の授業の配布資料に反映できないが、参考として以前の年度の回答の紹介を行なったりしたことが評価されたものと考えられる。なお、昨年度まではコメント課題は毎回実施していたが、今年度は初めて約半数の回のみの実施とした。自由記述のこの授業の改善すべき点において、コメント課題が毎回あってもいいかも、との書き込みも見られたことから、来年度どうするか検討したい。また、自由記述ではこの授業の良かった点、評価できる点として、ゲーム実習で違う目線から学べることが挙げられていた。来年度以降も継続したいと考えている。



総合政策学部 総合政策学科
佐藤　創　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際金融論
授業コード 46N02-001
教員名　佐藤　創
教員コード 103882
登録人数　442
回答数　179
回答率　40.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



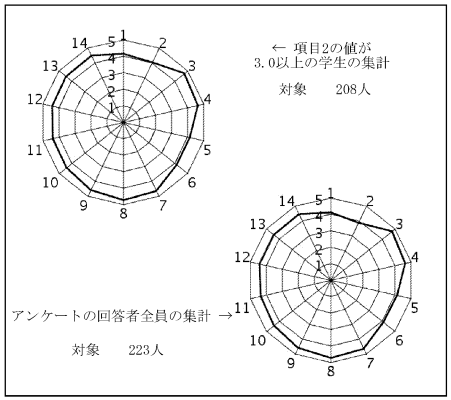

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達については、アンケート及びテストの結果をみると、期待よりも若干低く、授業の進め方にもう一段の工夫を試みたいと考える。
②Ｑ１およびＱ２のマスプロ授業にて、学生の「レジュメ依存」が憂慮すべき水準にあり、レジュメやパワーポイントなどいわば親切にしすぎていることが学生の自発性を低め、学ぶ力を削いでいるのではないかと考えたため、今回はレジュメを事前には配布せず、事後にWebClassにアップするという形を貫いた。また、新聞を参照して答えよという小課題を課したところ、図書館にある新聞の該当部分を破るという事案が生じたこともあり、様々な要望に対してすべて原則論でいわば「教育的に」対応した。レジュメの事後配布やこうした対応姿勢に対して不満が何度か寄せられたため、設問9、11等の数値が相当に悪化すると予想していたが、若干下がった程度であり、平均的にみれば学生は教員の意図を理解し、対応する能力があることがわかった。
③ただし、引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」「社会人としての教育」のバランスの取れたマスプロ授業の方法を模索していく必要があると考えている。とくに、音声情報だけで理解して抽象化して考察するという力を養う機会を経験させることは、近年のマスプロ授業では難しいのかもしれないが、大事な能力だと考えるので、引き続き試行錯誤してよりよい方法を工夫したい。

総合政策学部 総合政策学科
石川　良文　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　都市環境論
授業コード　46N21-001
教員名　石川　良文
教員コード　100650
登録人数　470
回答数　223
回答率　47.4%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



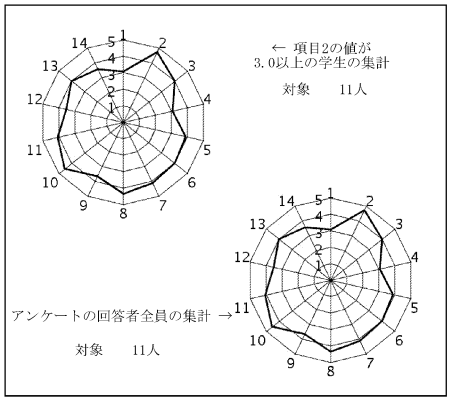

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
定期試験の結果を見る限り、当初設定していた目標については十分達成した。また、授業中に理解度についての質問をwebclassを通じて行い、目標と達成できているか確認しながら進めていたので良かった。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
設問２の予習復習のみ、平均点をやや下回ったが、それ以外の設問は全て平均以上であった。特に、設問3は4.76と大幅に大学平均を上回り、 授業の開始と終了の時間は守られた。また、設問4「毎回の授業の構成や進行速度」設問８「教員の声や音声機器の音」設問９「教員は学生の理解度に配慮」設問１１「積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」も大学平均を大きく上回り、授業の進め方には問題が無かった。設問１４「総合的な満足度」についても大学全体を大きく上回る４．４６であり、十分な内容だったと思われる。また、自由意見でもよかった点、評価できる点が多く書かれており、特に大人数の授業でもweblcassを利用することで双方向の授業運営をしたことに評価が高かった。一方で改善すべき点として、資料を全て印刷して配れという意見が散見されたが、授業の効果が薄れるために意識的に配布していないので、今後も配布しない。

総合政策学部 総合政策学科
小尾　美千代　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策外国文献講読II(英語)2
授業コード　70171-002
教員名　小尾　美千代
教員コード　102453
登録人数　23
回答数　11
回答率　47.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業ではグループワークを中心としてグローバル化に関する入門書の講読を通じて、英語文献の読解力向上と、国際政治学の様々な概念や課題について理解することの2つを到達目標としました。実際の受講生が少なくアンケートの回答者数は11名でした。授業評価については、項目1～14の平均値、項目3～14の平均値ともに3.90でした。大学全体の平均値は4.27と4.31でしたので平均よりも低い結果となりました。設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」との項目については、「5」が3名、「4」が4名、「3」が1名、「2」が2名、「1」が1名で平均は3.55でした。このうち、「2」あるいは「1」と回答した3名の方からはコメント欄で、課題が多かったとの指摘を頂きました。せっかく購入した文献（教科書）の一部しか扱わないことはあまり好ましくはないと考えて授業を計画しましたが、今後は教材の選択や課題のバランスをより考慮したいと思います。また、上記項目で「1」の評価をした方からは「教員の態度が非常に高圧的」「萎縮する様子が私含めすべての学生に見られた」との指摘を受けました。せっかく授業を履修したもののこのような不快な思いをさせてしまって、大変申し訳なく思っています。自分の至らなさを深く反省しており、この場をお借りしてお詫び申し上げます。今後はこうした指摘を受けることがないように十分注意していく所存です。

総合政策学部 総合政策学科
平岩　俊司　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 総合政策外国文献講読II(韓国朝鮮語) |
| 授業コード | 70181-001 |
| 教員名 | 平岩　俊司 |
| 教員コード | 103613 |
| 登録人数 | 9 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 33.3% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

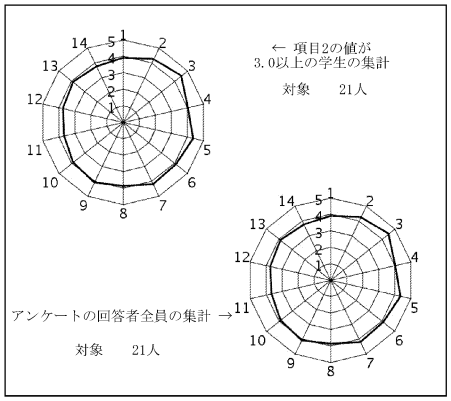
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は次年度非開講科目なので残念ながら今回の評価を次の機会に役立てることができない。ただし、旧カリキュラム対象生の中で希望者がいる場合は開講されるのでその際には今回の評価を反映させたいし、今後、同様の科目（外国語文献を講読する形態）を担当する場合の参考にすることができればと考えている。韓国語については学生の実力にかなり差があるため一つの授業として行う場合、どの学生のレベルに合わせるかが難しい状況である。まだ基礎的な文法への理解の足らない学生に焦点をあわせて授業を行えば優秀な学生にとって退屈な授業となるし、その一方で優秀な学生を対象とすることも難しい。両立が難しいとすれば、同じ講義の中で部分部分でそれぞれにあった講義をするしかないのかも知れない。また、テキストの選び方については学生の関心に合わせるだけでなく、学生の関心を広げる、あるいは今後必ず必要となる内容を含むテキストを選ぶなどの工夫が必要かと思われる。本科目のように語学と専門の双方をつなぐ科目なので上手く機能させることができれば学生にとっても教員にとっても興味深い科目とすることができる可能性があると思われる。

理工学部 システム数理学科
三浦　英俊　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 線形代数学I および演習[SS]1 |
| 授業コード | 50A06-001 |
| 教員名 | 三浦　英俊 |
| 教員コード | 102259 |
| 登録人数 | 34 |
| 回答数 | 21 |
| 回答率 | 61.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
おおむね達成できた.

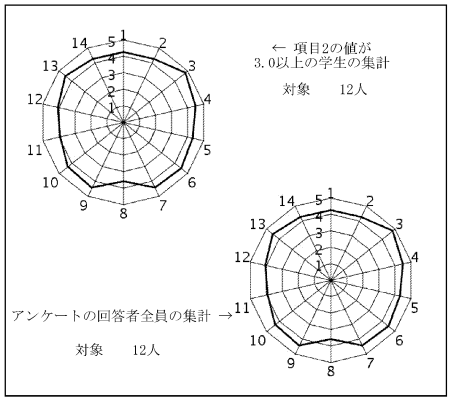
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業の進行速度が遅い，設問４で２と回答している人が４人いる（１はいなかった）など，授業の速度が遅いことに苦情がでたが，これは初めてのことである．内容が当該学生にとって簡単だから遅く感じているのだろうと推測できる．取り扱っている内容は線形代数の初歩であり，簡単だと思う学生がいるであろうことは想定内であるが，さまざまな理解速度の学生がいるため，速度を上げるかどうかは慎重にしなければならない．今後は，学生の様子を確認しつつ，今後の発展につながる説明を授業中にするなど，速度が遅いと感じることがないような対処をしたい.

授業の内容が高校の数学の延長線上にあることは間違いないが，そのため，少しできる学生の幾人かは「油断」しているように感じられた．このような態度では，高度な数学を扱う授業ではついていけなくなるのではないかと危惧する．このことについて授業中に一度注意をしたのだが，学生にうまく伝わったかどうか，心配している.

理工学部 システム数理学科
福嶋　雅夫　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 線形代数学I および演習[SS]2 |
| 授業コード | 50A06-004 |
| 教員名 | 福嶋　雅夫 |
| 教員コード | 042820 |
| 登録人数 | 32 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 37.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



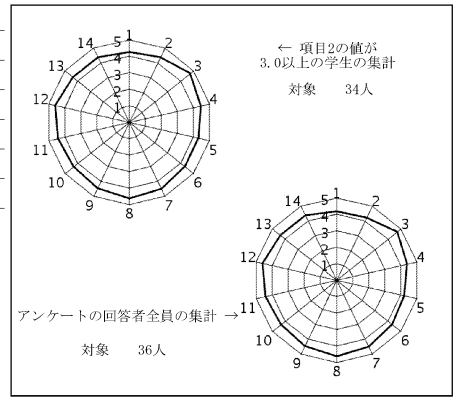

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は1年生を対象に，将来専門科目を学ぶ際に必要となる線形代数学，特にベクトルや行列に関する基本的な性質や計算方法について説明している．奇数回目の授業では，ところどころに空欄を配置した講義資料を配布し，空欄に適切な数式や言葉を埋める作業を行わせながら，説明を行っている．これは学生が自分の手を動かすことにより理解を深めるとともに，授業に対する集中力を保たせることを意図したものであり，学生の回答結果からも概ね目的を達成していると考えられる．次に，配布資料に基づいてひととおり説明を終えたあと，資料の最後に付けた演習問題を，別に配布した用紙に回答させ，ＴＡが採点したものを次回の講義で学生に返している．偶数回目の授業は演習であり，奇数回目の授業で学習した内容に関連する問題をその時間内に実際に解いてみることは，内容の理解を深める意味で効果は大きいと考えている．特に奇数回目の授業では，多人数クラスであることや数学に対する学生の関心と習熟度にかなりばらつきがあるという事情はあるが，丁寧な説明を心がけることにより，学生の学習意欲を引き出すよう努めている．

理工学部 システム数理学科
鈴木　敦夫　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | OR概論 |
| 授業コード | 51A01-001 |
| 教員名 | 鈴木　敦夫 |
| 教員コード | 016469 |
| 登録人数 | 231 |
| 回答数 | 36 |
| 回答率 | 15.6% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



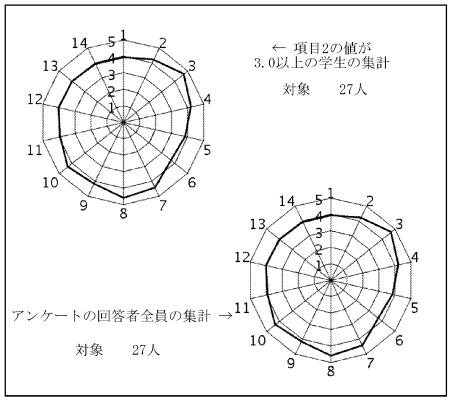

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初の目的はオペレーションズ・リサーチの基礎的な知識と実践力を身につけさせることであったが、授業中に得られた感触では、ほぼ目的は達成された。また、10回行った復習テストの出来もよかった。
②設問１から１４のすべての項目で4以上の評価だった。設問19については
4.基礎的な授業内容だけでなく、発展的、実践的な授業内容についても理解できた
3.基礎的な授業内容は理解できたが、発展的、実践的な授業内容を理解できなかった、または、発展的、実践的な内容についての授業はなかった、の回答が８６％、設問20については、
4.授業内容を未知の問題に応用することができる
3.他の人に授業内容を説明することができる
2.ノートや配布資料を見れば授業内容を自力で調べられる
の回答が８９％だった。ほぼ満足すべき回答である。
③この方法を続けながら、さらに細部を工夫してより良い授業にする。

理工学部 システム数理学科
松田　眞一　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　統計的方法
授業コード　51A02-001
教員名　松田　眞一
教員コード　017566
登録人数　165
回答数　27
回答率　16.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



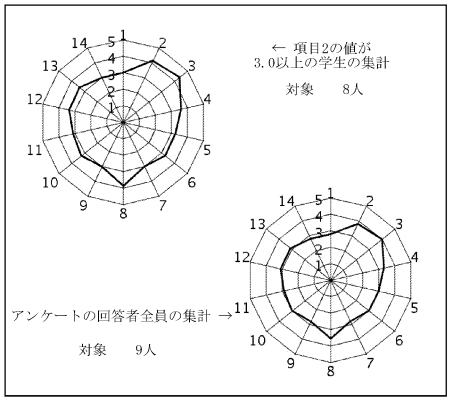

授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標と目標達成度
　本授業の目標は統計的方法の基礎である記述統計と推定・検定を学習することである。Webclassで7回の課題を課した。それらは時間外学習で取り組む。
　まだ成績をつけていないため今年度の目標達成度は不明である。昨年はクォーター制に移行し、全体の成績が下がった。
・授業評価
　昨年より回答率が下がり、約3割が約1割5分となった。授業評価に関する案内は何度か行い、1回は回答時間を設けたが、短時間であったため回答しなかった学生が多いと思われる。
　設問3から14において全学平均を上回った項目は設問3と8だけであった。一方、システム数理平均を下回ったのは6つの設問であった。そのうち差の大きかった2つを考察する。
　設問6は到達目標に向けて力がついてきていると思いますか、という設問であるが、初回の授業で説明している到達目標を理解していない学生がいるためと考えられる。
　設問13は新しい知識を得たり、理解が深まったりしたか、という設問であるが、過去初めて出た項目である。昨年よりは数値が上がっており、全体平均の方が変化している可能性が高い。
・次年度に向けた改善点
　回答率の改善が最重要課題である。少なくとも昨年程度は回答してもらえると思っていたため残念であるが、集計表を見る限り学科全体の問題点のようである。
　到達目標の設問は昨年より改善しているが、さらに工夫の必要がありそうである。

理工学部 システム数理学科
小藤　俊幸　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　代数系入門
授業コード　51B09-001
教員名　小藤　俊幸
教員コード　101907
登録人数　97
回答数　9
回答率　9.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



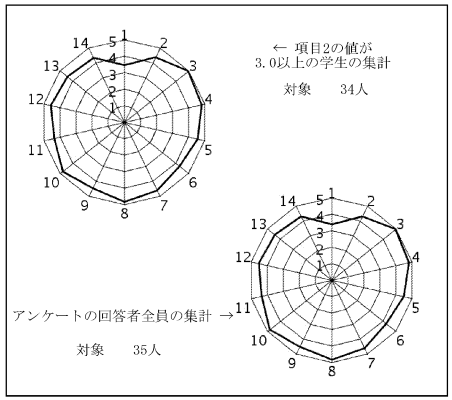

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業名から察するところ、本科目は、もともとは、群、環、体などの抽象代数学への入門を意図した授業であったと思われる。
しかし、現在の大学２年生までの教育内容を考えると、そうした現代数学をきちんと教えることは難しい。そのため、
抽象代数の内容は最小限に留め、現行指導要領では、高校数学「数学A」の内容となっている初等整数論を中心として授業を組み立てた。
本科目が教職の必修科目であることにも配慮したためである。
　主な内容は、以下の通りである。ペアノの公理による自然数の定義から始め、除法の原理を証明する。ユークリッドの互除法や
拡張ユークリッドの互除法を述べ、その応用として、不定方程式や合同式の解法を述べる。さらに、実際的な応用例として、
RSA暗号を紹介する。最後に、環や体などの代数系を紹介する。
　授業内容を初等的なものに限ったこともあって、きちんとした論証ができることを目標とした。定期試験問題も、全５題中４題を何らかの論証が必要な問題とした。今の学生はそうした論証が思った以上に苦手らしく、授業中に出題した練習問題と全く同じ問題はほとんどの学生が解答したが、少し変えると、多くの学生が出来ないという結果になった。要するに、数学の基礎学力が低いということである。それに合わせてレベルを
下げるべきなのか、教職の必修科目であることを重視して（数学の出来ない学生の数学の教員免許を出すことには
抵抗を感じる）、レベルの維持を図るべきなのか、大変悩ましい。

理工学部 ソフトウェア工学科
大月　英明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[HC・HJ・P]3
授業コード　10C01-003
教員名　大月　英明
教員コード　047340
登録人数　44
回答数　35
回答率　79.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

ほとんどの項目で大多数の学生が5または4の評価をしており，数値的にはおおむねうまく運営が行えたと見受けられる．

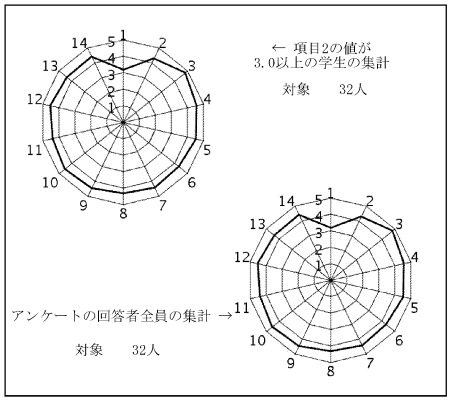
自由記述欄の意見もほとんどがポジティブな意見であるが，ひとつだけ興味深い意見があった．その趣旨は「学生がネットで調べた情報を発表するだけなので正解がわからない．教員も教えてくれない．」というものである．アクティブラーニングの目的の一つとして「トップダウンで物事を教わるのではなく，自分たちで調査し考察する機会を与える」ということがあると理解している．具体的には，ひとつの学生グループが発表し疑問点が出てきた場合，「正解はこうである」と言い切るのはこの目的にそぐわないと思う．なぜそのような疑問が生じたのかを考察し，それを宿題として自分たちで調査するのがこの授業の意義なのではないだろうか．もっと細かいことを言えば，複数のグループが発表するので，ほかのグループの発表に「正解」が含まれていることも多い．今後はこのようなスタンスを説明することも必要だと思った．

最後に，ここ数回は授業評価の回答率が悪かったが，今回は回答する時間を授業内に設けたので，回答率がかなり改善された．これは今後も続けていきたい．

理工学部 ソフトウェア工学科
金山　知俊　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[HA・HP]5
授業コード　10C01-013
教員名　金山　知俊
教員コード　019455
登録人数　35
回答数　32
回答率　91.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目のシラバスに示された3つの到達目標はほぼ達成できたと考える。情報倫理はe-learningとグループディスカッションや発表を組み合わせたアクティブラーニングによって学習を進める科目であり、昨年度と今年度の第2クォータの経験も踏まえて学生の積極的な参加を促しつつ計画通り順調に授業を進めることができた。

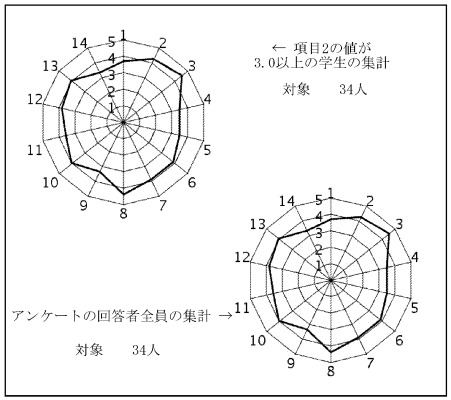
2. 授業評価の結果は項目1¯14の平均が4.37、項目3¯14の平均が4.38であり、情報科目全体の平均値をわずかに上回った。個別の項目の評価では、履修前の授業に対する興味を示す項目1が3.19と低い値であったが、設問2¯14はすべて4以上であり、授業を通して本科目の意義を理解し学習意欲も高められたものと考える。自由記述欄では対面授業で行う内容が明示されていたこと、グループ学習や発表を通して情報倫理に関する理解を深められたこと等が示されており、第2クォータで見られた私語やグループ内での不満も見られず、本授業の内容や形式が学生に受け入れられたものと考える。

3. 昨年度と第2クォータに引き続きの担当であり、e-learningのトラブルもなく、これまでの経験を踏まえて順調に授業を実施することができた。初回ガイダンスを座席指定にしてグループの顔合わせをするようにしたことも効果があったと思われる。今期は履修をあきらめる学生は見られなかったが、レポート未提出や欠席が目立つ学生は数名見られた。次クォータ以降はそのような学生についてできるだけ早い段階からフォローし、より積極的な授業参加を促すようにしたい。

理工学部 ソフトウェア工学科
張　漢明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | プログラミング基礎[SS]1 |
| 授業コード | 50A08-001 |
| 教員名 | 張　漢明 |
| 教員コード | 049627 |
| 登録人数 | 37 |
| 回答数 | 34 |
| 回答率 | 91.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

■当初設定した目標
・プログラムの仕様とその実現としてのプログラミングの基本を理解する。
・手続き型プログラミング言語の基本構成要素を理解する。
・C言語を用いて基本的なプログラムを作成することができる。
■目標達成度
・プログラミングの基本は概ね理解できている。
・計算機の原理とプログラムの関係の理解が達成できていない。
・関数プログラミングと手続き型プログラミングの違いの理解が達成できていない。
■評価
・到達目標を理解（項目5） 3.5、力がついた（項目6）3.88、理解が深まった（項目13）4.0 から、授業内容の理解はできていると思われる。
・質問時間を設けて対応できたことが良かった点として評価されている。
・満足度（項目14）3.32 は低い評価である。講義と演習の連携が不十分であると思われる。
■改善点、今後の抱負、方針など
・授業外のサポートの要望があったので、適切な時間に行うことができるようにする。
・時間外課題のサポートができるようにする。

理工学部 ソフトウェア工学科
江坂　篤侍　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | プログラミング基礎[SE]2 |
| 授業コード | 50A08-004 |
| 教員名 | 江坂　篤侍 |
| 教員コード | 151191 |
| 登録人数 | 54 |
| 回答数 | |
| 回答率 | |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
次の3つを目標としてきた。
・全ての学生についてシラバスにある到達目標を達成する
・質問をしやすい環境を整える
・他の学生と比較して理解度が低い学生については，プログラミングに苦手意識を持たせないようにする
　課題の採点結果から、本科目のシラバスに示された5つの到達目標はおおむね達成できたと考える。質問しやすい環境を整えるために、各時限の開始終了時に質問をする時間を設けた。頻繁に進捗確認をおこない、遅れている学生に対してはTAとの協力のもと個別に対応し、苦手意識を持たせないように努めた。

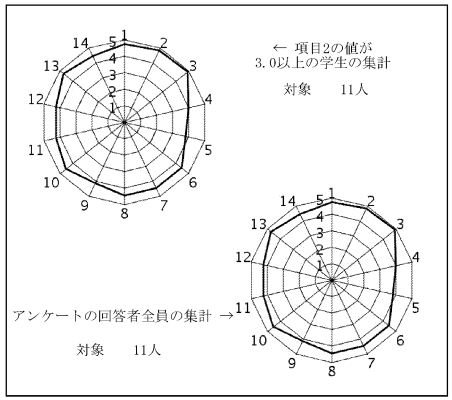
②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
前年度は、質問しやすい環境を整えることはできたが、自発的に質問ができない学生への対応が十分ではなかった。今年度も、ほとんどの学生が全て出席し、まじめに課題に取り組んでいたものの、自発的に質問ができる学生は限られていた。上述のように進捗確認を頻繁に行ない、質問がなくとも個別対応を積極に行なうことができた。

③次クォーター以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
確認した進捗と実際の進捗と異なる学生が見受けられた。また、前の方に着席している学生に対してより多く声をかける傾向にあった。全体的に声をかけて実際の進捗を把握し、対応できるようにしたい。

理工学部 ソフトウェア工学科
横山　哲郎　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | プログラミング基礎[SC]1 |
| 授業コード | 50A08-005 |
| 教員名 | 横山　哲郎 |
| 教員コード | 101934 |
| 登録人数 | 46 |
| 回答数 | 11 |
| 回答率 | 23.9% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

プログラミングは，理工系の学部において必須のスキルであり，またその経験はプログラミング方法論やソフトウェア開発技術の理解を深める上で欠かすことができないものであり，受講生に是非ともその素養を身につけて欲しいと考えている。プログラミング基礎の実習形式の部分において，ちゃんと出席してその場で学んでもらうことは長年の課題である。本授業が対象としているプログラミングの基礎は反復練習が必須であり，その勉強時間にある程度比例して学力が身につく部分があるからである。きちんと授業に参加して貰うように指導を行うようにした。毎週3時間の授業で解く課題の2倍の分量を受講生に課題として課して時間外にも勉強して貰うようにしている。これに対してほとんどすべて解答している受講者が多くいた。

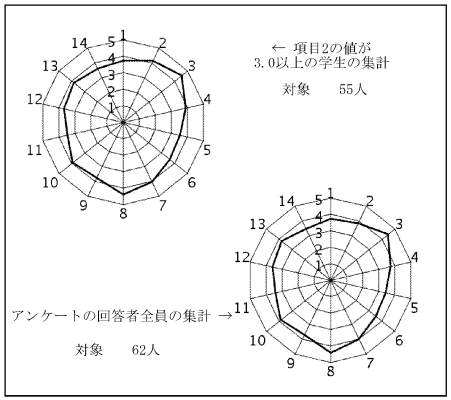
設問12に関連する点では，本授業ではTAに質問できる機会を授業時間外に3コマ設けていた。学生らからの要望もあって開始した取組であったが，だんだんと利用者が減ってきている。数名の学生のためにこれだけのコマ数を確保するべきかは悩ましいところである。

項目21は，「printf関数で用いる書式文字列中の変換指定の%dと%fの違い」という初歩的な内容であるが2.36と低い数値であった。

理工学部 ソフトウェア工学科
宮澤　元　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 計算機アーキテクチャとOS[S] |
| 授業コード | 52A02-001 |
| 教員名 | 宮澤　元 |
| 教員コード | 019422 |
| 登録人数 | 164 |
| 回答数 | 62 |
| 回答率 | 37.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

【事前に設定した目標とその達成状況】
計算機やOSの仕組みについて、単に知識を伝えるだけではなく、理由を考えさせ理解させることを目標とした。しかし、全体の評価は3.79と低めで、また設問19以降の評価が2点台と、目標が十分達成できたとは言えない。

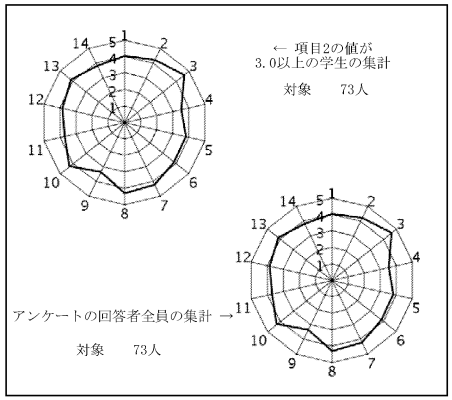
【担当科目に関する総合的な自己点検・評価】
上述以外の設問の評価はほぼ3点台中盤であり、十分とは言えないまでも大きな失敗はなかったのだと思う。自由記述では、講義資料を公開している点や、丁寧に説明をした点について評価が高かった反面、内容が難しいとか資料の説明に終始しているといった指摘が多かった。内容がそもそも難しいということはあるにしても、きちんと伝えきれていない点は反省し、改善していきたい。

【今後の改善】
通常「計算機アーキテクチャ」と「オペレーティングシステム」という2科目で教えられる内容を1科目で扱っており、授業内容の取捨選択には苦労してきたが、今年度の見直しで内容についてはほぼ固まったと感じている。今後は、内容ではなく伝え方の工夫で改善をはかりたい。特に、要望が多かった重要な点を強調するような教え方を心がけたい。例えば、要所で板書を併用するといった方法は検討したい。また、教員が考える前提知識の中にも、実は学生の身についていないものが多いと感じたので、講義資料等を精査し、該当しそうな箇所には注釈を入れるなどの対応を行いたい。

理工学部 ソフトウェア工学科
青山　幹雄　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ソフトウェア工学基礎[S]（2年生対象）
授業コード　52A03-002
教員名　青山　幹雄
教員コード　046243
登録人数　142
回答数　73
回答率　51.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



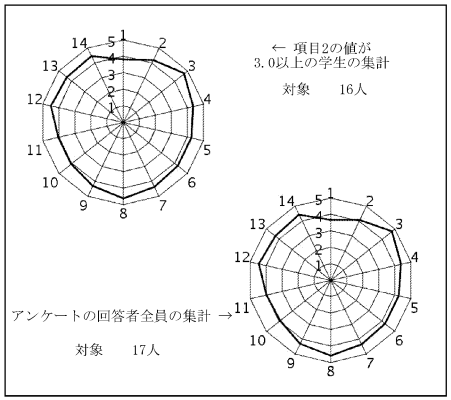

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 本科目はこれまで3年生の学部共通科目として開講していたが，本年度から2年生対象科目となった．目標はソフトウェア工学の基礎を理解させることである．2年生であることに加えて，ソフトウェア工学科以外の学生が1/3程度を占めるため，前提とする知識のレベルが低くなり，かつ知識のバラツキも大きいことから，関心と学習意欲を引き出す必要がある．講義の中で，実社会における開発事例や経験を適宜紹介し，関心を高め，学習意欲を高める工夫を行ってきた．概ね良い評価を得て目標は達成されているが，一部の事項で評価が低い点が見られた．また，今年度から，S22教室で開講しているが，黒板に対して細長い教室であるため，板書が見づらい，空調が良くないなどのコメントがある．
② 教室が黒板に対して細長い構造であるため前方の席に座るように促し，後方5列を着席しないように指示して講義をしているが，教室の構造的に問題がある．一方，ここ数年一部の学生の学力低下が顕著でありその数も増えている．そのため，成績の上位の学生と下位の学生の差が顕著となっている．学力に応じた講義内容のレベル設定などを一層考慮する必要がある．
③ 引き続き板書の見やすさを改善するようにする．教室の変更も検討する．

理工学部 ソフトウェア工学科
佐々木　克巳　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　数理論理学[S]
授業コード　52B07-001
教員名　佐々木　克巳
教員コード　018051
登録人数　99
回答数　17
回答率　17.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



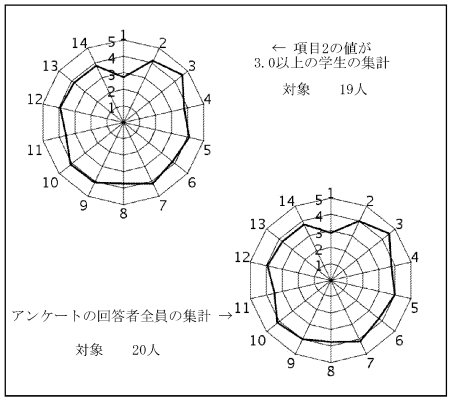

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、数学で用いられる文・推論・証明を形式的に扱うことによるよさを理解することである。具体的には、文を形式化する手法、文を形式化してできる論理式の代数的構造、証明を形式化したLKP証明図のよさを理解することである。実際の授業では、それらのよさの例を、具体例を通して示し、演習により、その理解を深められるようにした。
数値では、設問3～14の平均が4.33(昨年は4.43)で概ねよい結果となった。自由記述（設問15、設問16）では、設問15（良かった点、評価できること）に4件、設問16(改善点など)には2件の記述があった。4件は、演習問題の設定、重要な点の解説、板書(字の大きさ)などで、昨年の傾向と変わっていない。この点は継続したい。2件のうち1件は、板書を消す順序についての指摘で次回からは気をつけたい。
理工学部独自の設問(19～21)の結果からは、回答してもらったすべての学生は、「ノート等をみれば自力で調べられる」段階に達しており、そのうち半数以上は、授業目標に対して、「他の人にも説明できる」段階に達していることがわかった。ここからも、授業運営は概ねうまくいっていると考える。

理工学部 機械電子制御工学科
杉原　桂太　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 情報倫理[HA・HP]3 |
| 授業コード | 10C01-011 |
| 教員名 | 杉原　桂太 |
| 教員コード | 101115 |
| 登録人数 | 35 |
| 回答数 | 20 |
| 回答率 | 57.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は，「アクティブラーニング」を採用し，「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった．そのため，そのような授業が問題なく展開し，受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった．設問項目（1-14）では，項目1は2.85，設問2，3，5，7，9，10は4点台，設問4，6，8，11，12，13，14は3点台であった．項目1から，受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる．3点台の項目の内，項目11は3.5と特に低いため，とりわけ改善を検討したい．

自由記述からは，設問15について，「学生の意見を尊重してくれる点」，「生徒が中心になって授業ができるので、積極的に授業に参加することができたところ」などの評価がある一方で，設問16では，「先生の話し方が少し聞き取りにくくかった。熱意があるのは伝わってきたので、もう少し要点をまとめてもらえると良かった。」，「繰り返し同じような説明を毎回するため、時間の無駄遣いになっているのではないか。と感じた。」などの記述があった．

以上を踏まえ，2点台，3点台の項目，設問16に関して，特に改善点が必要であることが分かる．さらに，この科目では，「アクティブラーニング」，「反転授業」等を実施しているため，対面授業では，「アクティブラーニング」等について受講者の主体的・協力的姿勢をより引き出していく必要がある．このクラスでは，受講者の学部・学科による興味関心を踏まえる必要性を認識している．次のクォーター以降のこの科目においても，「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい．学生による授業評価を含め，受講者からの指摘は，担当教員間でも共有したい．

理工学部 機械電子制御工学科
大石　泰章　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 人間と機械＜国際科目群＞ |
| 授業コード | 13E04-901 |
| 教員名 | 大石　泰章 |
| 教員コード | 101405 |
| 登録人数 | 8 |
| 回答数 | 4 |
| 回答率 | 50.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

○授業の目的

この授業は国際科目の１つとして，動的システムの基礎と応用について英語で講義し，数学の実世界応用を伝えることを目的とする．文系の学生が履修できるように，高校で必修の数学だけ（数学Ⅱ，数学Ｂまで）を仮定し，必要なことはすべて授業中に説明する．

○数値評価（設問１～14）について

理解度に関する項目が低評価であった．「英語で数学」というハードルの高い授業であるため，特に文系の学生には厳しかったかもしれない．しかし，その割に，全体的な評価は悪くないように思われる．

○評価できる点（設問15）について

「説明が丁寧（２件）」「わかりやすい」「英語の授業は新鮮」などとあった．それなりに何かをつかんでくれたようで安心した．

○改善すべき点（設問16）について

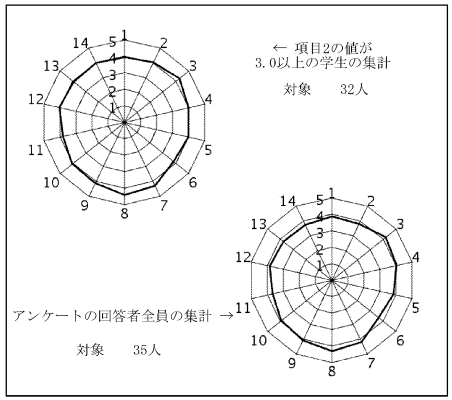
「出席者が少ない（２件）」とあった．今回は履修者が８名ともともと少なく，さらに欠席のために出席者が３名しかいないこともあった．全員の顔を覚えられるなど，少人数ならではメリットもあったが，もう少し履修者がいた方がお互いにやりやすいかもしれない．来年度は意識的にこの科目の宣伝をしたい．

「高校で数学Ⅲと物理をやっていないと難しい」という指摘もあった．難しいかもしれないが，文系の学生できちんと理解している者もいるので，決して不可能ではないと思う．授業のレベルを落としたくはないので，内容はこのままでいきたいと思う．

理工学部 機械電子制御工学科
奥村　康行　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | マルチメディア情報通信[S] |
| 授業コード | 52B08-001 |
| 教員名 | 奥村　康行 |
| 教員コード | 101219 |
| 登録人数 | 223 |
| 回答数 | 35 |
| 回答率 | 15.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



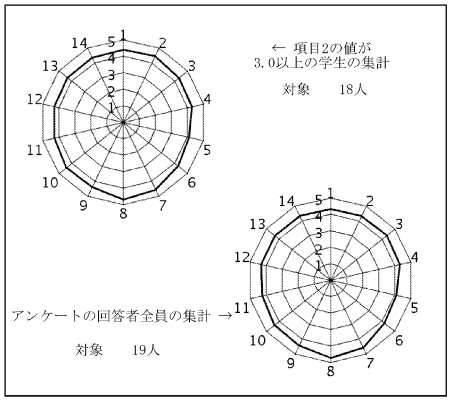

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標:　通信システムの開発・運用に携わるときに必要となる知識であるデータ圧縮技術を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度:　期末試験結果より，約55%の受講者が目標を達成したが，これは例年より10%低い。定期試験答案で目立ったのは、過去問の解答をそのまま、ならびに、設問とは無関係だが学生が復習した項目だけ、を書いたものだった。また、受講生230名に対し500人定員の教室だったので、最後尾の座席から埋まり、前半分の着席者は20%程度だったことも理由の一つではないかと思われる。初回の講義で前方の着先を促したが、強制はしなかった。
3.　担当科目についての授業評価:　この科目の評定値は学科科目の平均値と同じだった。自由記述のうち改善を希望された項目は、声が聞き取りにくい(1)、板書スピードが早い (1)、終了時刻を超えることがあった(1)、講義中に配布資料を取りに来る学生が目障り(1)、板書の字が小さい(2)であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として，演習が有益(2)、講義のわかりやすさ(2)、進行速度が適切(1)、などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の方針:　着席場所についての注意を少しきつく与えることとするが、何度も注意するのは子ども扱いに過ぎると考える。また、かつてなかったことに、問13(新しい知識を得たり理解が深まったか)および問18(真面目に取り組んだか)のポイントはそれぞれ3.7および4.5なのに、問21(講義で説明されたマルチメディア技術が身に付いたか)は2.2だった。このギャップを埋めるため、本格的な演習課題の他に、簡単なクイズを出題するなど試行錯誤をしてみる。

理工学部 機械電子制御工学科
中島　明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 制御システム実習1 |
| 授業コード | 53A02-001 |
| 教員名 | 中島　明 |
| 教員コード | 103140 |
| 登録人数 | 44 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 43.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



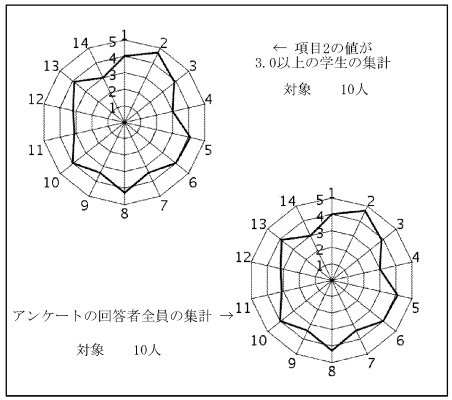

授業評価結果を踏まえた点検・評価

ここ数年は平均すれば高いスコアであり，4点台を下回ることはないことは素直に評価して良いと思われる．しかしながら，項目19については3点台前半，また，項目20に至っては2点台と非常にロースコアであり，昨年と同様である．例年通りの考察となってしまうが，原因は(1)学生の学力が不足している，(2)この実習に至るまでに学ぶ他の基礎専門科目が十分ではない（貧弱），の2点に尽きる．対策は(1)カリキュラムを改善する，(2)学生の学力を向上させる，(3)授業内容をより（劇的に）易しくする，であるが，(1)，(2)は学部・学科全体で長期に取り組むべき課題であり，現状は(3)しかあり得ない．具体的には，易しくする，というよりは，現状の知識先行型から，体験先行型にすることが挙げられる．内容自体は同じであっても，学ぶ順番を変えることで，より学生の興味や学習意欲（学問の必要性の実感）を引き出す授業形態を模索していきたい．

理工学部 機械電子制御工学科
野田　聡人　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 電子通信工学実習1 |
| 授業コード | 53A03-001 |
| 教員名 | 野田　聡人 |
| 教員コード | 103679 |
| 登録人数 | 48 |
| 回答数 | 10 |
| 回答率 | 20.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

授業内容としてはシラバスに記載通りの内容を完了した．受講生の学習到達度としては，すべての実習を完了する程度の水準には到達している．レポートの記述は期待する水準に到達していない受講生が多いが，初回から最終回までのレポートを比較すると受講前後で相当の進歩が認められる．

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

「内容が身に付いたか」との設問に対する回答の点数が他の項目と比較して相対的に低い．本学科でそもそも実習科目が少なく，少ない実習時間に内容を詰め込むことになり消化不良の受講生は多いかもしれない．しかしそれはそもそも受講生が中学理科レベルの知識すらおぼつかないことに原因の一端があり，本科目の工夫だけで解決するものではない．

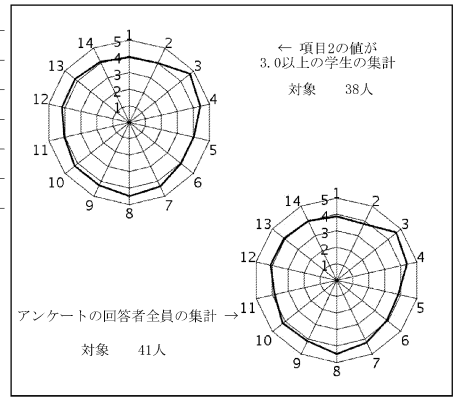
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

大学工学部2年生にふさわしい実習内容を維持するには，これ以上の内容の削減は不適切と考える．また，授業時間の都合で，実習の進捗の遅い受講生に対してTAと教員により過度に干渉している部分もあり，本来であればもっと受講生自身が考え，最後まで自分でやりきるべきである．受講生目線での授業評価に過度に振り回されることなく，「相当の努力をしなければ合格できない必修科目がある」ということを認識させ，他の科目も含めた学習意欲（危機感）の醸成を目指したい．

理工学部 機械電子制御工学科
高見　勲　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | システム理論[S] |
| 授業コード | 53B01-001 |
| 教員名 | 高見　勲 |
| 教員コード | 100495 |
| 登録人数 | 172 |
| 回答数 | 41 |
| 回答率 | 23.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



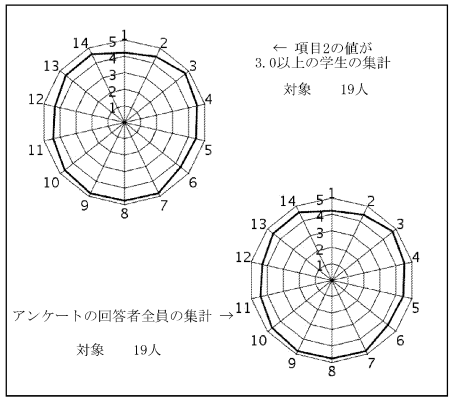

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について：授業目標は、システムの概念、対象システムのモデリング、モデルに基づくシステムの特性解析の手法の知識と、問題解決能力を習得することである。目標達成度は、受講生は概ね所期の学力を習得しており、この授業の目標は達成できたものと考える。
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：評価項目11・・・学生の意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか（平均値3.88）。毎年この項目の評価が低いので反省すべき点である。
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：より高い効果をあげられるよう、次の点に注力することが望ましい。
（1）　主体的に授業に取り組む：当該分野の技術及びその応用製品について具体的に理解し、自主的に取り組むよう誘導することを心がける。システム工学はものづくりに必須な学問であり、この授業を受講し理解すれば、技術者としての必須能力が身につくことを強調し理解させることに努める。
（2）　授業の達成目標の確認：授業開始時のみならず、適宜授業の達成目標を確認するようにする。モチベーション：学生が積極的に授業に取り組むよう、意義、有用性を世の中での具体的事例を踏まえて理解するようにする。

理工学部 機械電子制御工学科
石原　靖哲　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 通信プロトコル[S] |
| 授業コード | 53B07-001 |
| 教員名 | 石原　靖哲 |
| 教員コード | 103810 |
| 登録人数 | 94 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 20.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



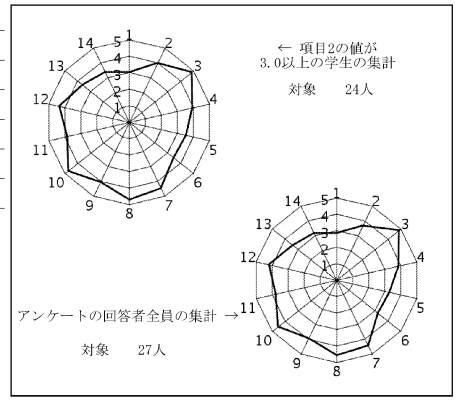

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①通信プロトコルの階層化の意義に関する理解度や，フロー制御などの個々の技術の習得度に関しては，個人差はあったものの，おおむね目標に到達できたと考えている．
②この科目は今回初担当であり，しかも過去に同様の内容を教えた経験はおろか学生時代に教わった経験もなく，完全に手探りであったが，おおむね高評価を得られてほっとしている．授業準備にかなりの時間をかけた分，授業での説明が丁寧に行えたのではないかと考えている．
③上で述べたように，授業のよさは準備にかけた時間・手間と大いに相関があると思うので，次クォーター以降も，再担当科目であっても気を抜かずにしっかりと準備していきたい．また，今年度は，授業期間中に出した４つの小課題について，期間中にフィードバックを行う時間的余裕がなかった．来年度は一から授業内容をこしらえなくてよい分，フィードバックのための時間を確保できるはずなので，そのあたりも改善していきたい．

国際教養学部 国際教養学科
VOLPE, Angelina　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | キリスト教概論[H・F]2 |
| 授業コード | 10A51-003 |
| 教員名 | VOLPE, Angelina |
| 教員コード | 000167 |
| 登録人数 | 94 |
| 回答数 | 27 |
| 回答率 | 28.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



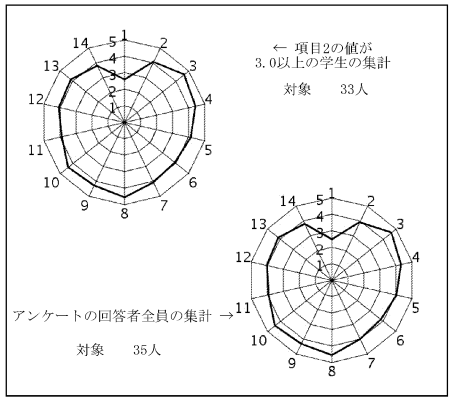

授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の目標
1. 神の啓示は理性の仮説であることを理解している。
2. 歴史上のナザレのイエスの生涯を理解している。
3. 人間性をより豊かにする人生観として、キリスト教の普遍的要素を理解している
は果たされたかどうか。
94人の学生のうち27人だけが回答し、判断することは難しいが、定期的な感想文と最終レポートから見た限り、多くの学生が話の核心を掴んだと言える。
各事項を分析すると、もっとも低い平均値は、設問１）この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか（2.85）であった。
モティベーションなしにこの講義を履修していれば（90%の学生は抽選漏れだったと言う）、充分な好奇心と情熱が湧いてこないだろう。同じ教員や同じ教育方法にも関わらず、なぜ「キリスト教概論」の平均値は「人間の尊厳」の平均値よりも低いのか。これはキリスト教への興味と知識不足が問題ではないだろうか。今後、この課題は教育上の大きなチャレンジになるだろう。

国際教養学部 国際教養学科
後藤　邦夫　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[HC・HJ・P]1
授業コード　10C01-001
教員名　後藤　邦夫
教員コード　016428
登録人数　44
回答数　35
回答率　79.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目的は、真面目に授業に取り組む受講者が良い成績で目標を達成することである。成績をつけたところ、ほとんどの学生がAまたはA+評価を得た。

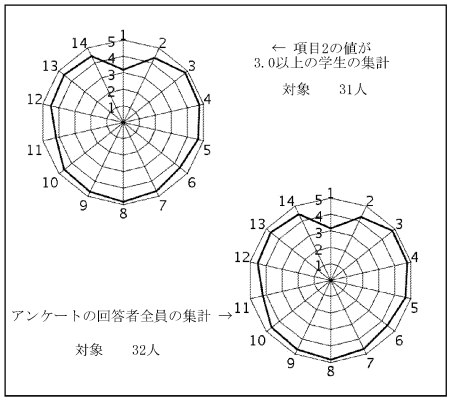
情報科目の平均と比較すると全体的にやや低いが、情報倫理以外の科目もカテゴリに含まれるので、他の情報倫理クラスと比較しないと詳細はわからない。スコアが4を下回った項目は、2(予習復習 3.9)、6(力が付いたと思うか 3.8)、11(意欲を引き出す工夫 3.9)、14(全体満足度 3.8)である。予習復習については共通のコース設計で、予習復習を強制しているのに低い理由が不明である。意欲を引き出すために追加資料を用意するなど工夫しているが、空回りしたことになる。
一部の自由記述で教員の態度に対する批判(第3者から、学生の質問にあいまいな回答と指摘)があった。大学1年生を大人として扱い接することに問題があったかもしれない。具体的なコメントとして、5名のグループであとの4名が真面目に取り組まないという不満があった。グループの不満は申し出るように伝えたが、匿名のアンケート内での情報なので、対応できなくて残念である。

次年度に向けて、科目担当者の会合にて、グループの組み方、組み替えについて協議する。また、いまどきの大学1年生との接し方、コーチングなどについて個人的に学ぶつもりである。

国際教養学部 国際教養学科
吉田　敦　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[HJ・P]1
授業コード　10C01-005
教員名　吉田　敦
教員コード　101920
登録人数　50
回答数　32
回答率　64.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3の情報倫理は、1クラスあたりの受講生が多く、グループ数も 10 と多い授業であった。よって、すべてのグループが時間内に発表できるようにしつつ、グループ間の発表内容が重複して飽きてしまわないようにすることを目標とした。発表時間については、発表時間を守るよう指示するとともに、質問を行うグループも事前に指定し、テンポ良く進むようにした。また、Q2 のときと同様に、発表テーマは、その趣旨から外れない範囲で変えて良いようにした。ただし、Q2 のときにテーマの重なりを避けるよう働きかけたところ、内容が薄くなるという傾向があったので、自由に決めてもらうようにした。これにより、テーマを変えるグループは、そのテーマに対して深めに調べられる見込みがある場合に決断し、それ以外のグループは標準のテーマでの発表をするものの、発表方法を工夫することに力を入れるようになった。全体としては、興味深いものや面白い発表があり、他のグループの発表のときに聞いていない学生は目立たなかった。結果として、質疑においてもすぐに質問が行われ、全体としてはスムーズに授業が行われた。授業評価結果では、これまで通り受講前の期待は低いものの、満足してもらえたことが伺える。次年度の情報倫理でも今回のやり方をベースに進めたいと考えている。

国際教養学部 国際教養学科
YARDLEY, Gabriel　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[G]1 |
| 授業コード | 11A03-032 |
| 教員名 | YARDLEY, Gabriel |
| 教員コード | 016998 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 4 |
| 回答率 | 22.2% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

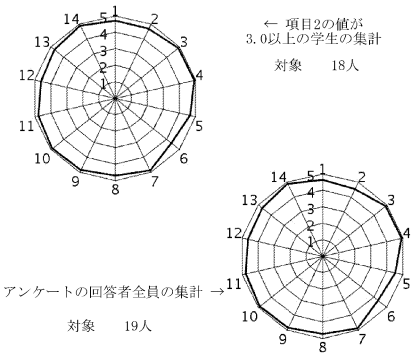
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Most students failed to complete the evaluation. Those few who did were positive about the content and style of the class. Generally, so were comments from all students following individual interviews. There was general satisfaction with the course regarding the syllabus, knowledge acquired and materials and teaching methods used. The objectives for this subject as presented in the course outline were met in full. It should be said, however, that some students had a rather relaxed attitude to punctuality and attendance. Additionally, in comments made privately, class members who were always reliably present found the lack of consistent punctuality from some members of the class discouraging. It is further worth noting that a negative attitude to certain aspects of their studies has also featured in other courses. A significant number of those interviewed confidentially referred to a lack of motivation with certain aspects of their first-year studies. This was disappointing because when such students did decide to attend, their contributions were encouraging and the class was a pleasure to teach. I will endeavour to further motivate these students with their studies.

国際教養学部 国際教養学科
DEACON, Bradley　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[G]2 |
| 授業コード | 11A03-033 |
| 教員名 | DEACON, Bradley |
| 教員コード | 046920 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

The student feedback for this course was quite positive.

The main goals of the course were to build on what students covered in Q1 and Q2 and extend their skills in listening to academic content, discuss and present academic content, and set self-directed learning goals. I was pleased with the student efforts in all of these areas.

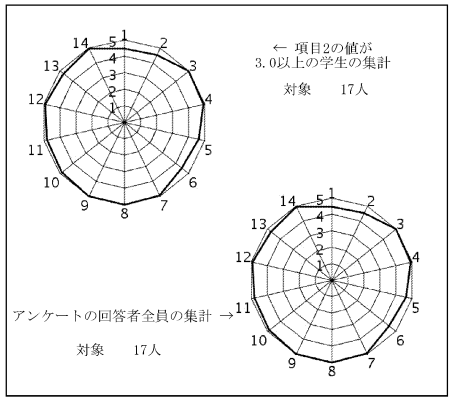
At the beginning of the quarter the students were asked to summarize that they felt was both interesting and effective for their learning in Q1 and Q2. They were also asked to share what they would like to do differently in Q3 in our class. This feedback is a valuable way for me to understand how students are perceiving their learning experiences and to encourage them to take more agency in their own learning. It also is one aspect of why they evaluate their experience in our classes highly - they are being listened to and realize that their ideas count.

In Q4 I will continue to invite students to reflect on their learning experiences and will continue to make use of their input to guide my teaching.

国際教養学部 国際教養学科
鹿野　緑　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語III リテラシー[G]8 |
| 授業コード | 11A07-039 |
| 教員名 | 鹿野　緑 |
| 教員コード | 101092 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 94.4% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 学修目標の到達度について：Q3のリテラシーの目標は、cause and effect構成とcomparison and contrast構成のエッセーを書くこと。また、よりアカデミックな内容の英文を読んで理解することであった。特にエッセーライティングについては、各学生は非常に努力し何度も推敲を重ねており、概ね「よく構成されたエッセー」を時間をかけて書くことはできた。ただし、正確な英文を短時間に書くような瞬発力のある英語力にやや欠けていた。また、ある程度まとまった長さの読解には、まだ一層の読書経験が必要な学生が多いため、本を読みこむ「講読型」の側面も忘れないよう心がけたい。目標達成についての学生アンケートの設問6（目標に到達したと感じるか）の数値は4.47であった。

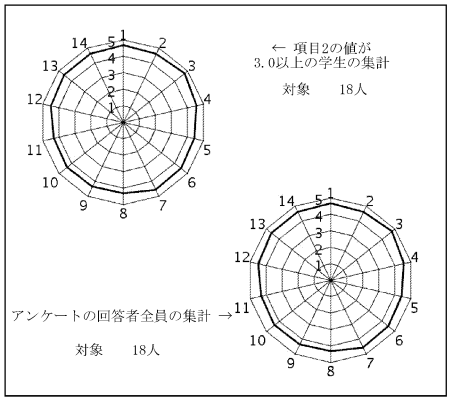
②アンケートの数値データにおいて、総合的な評価は4.81（項目1¯14）、4.86（項目3¯14）であり概ね満足度の得られる授業だったと考えて良い。

③今後の授業改善点としては、表面的な会話や対人コミュニケーション能力を「英語力」と捉えるような学生が多く、リテラシーの重要さを知るような授業にするとともに、学生が実際に「本を読める」ように授業をデザインし運んで行きたい。

国際教養学部 国際教養学科
大竹　弘二　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ドイツ語I＜G＞ |
| 授業コード | 11C01-011 |
| 教員名 | 大竹　弘二 |
| 教員コード | 101968 |
| 登録人数 | 30 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 60.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

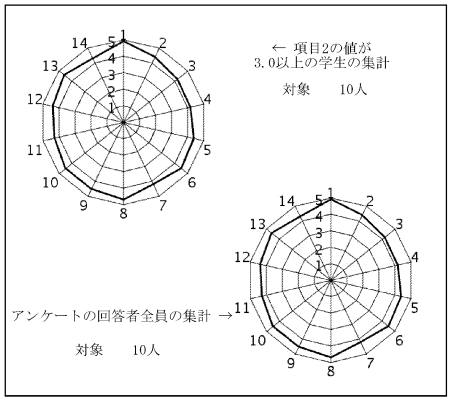
本科目は国際教養学部2年次生を対象とした初級ドイツ語科目であり、受講者はみなドイツ語初学者であった。単純に文法を教えるだけにならないように、映像資料なども用いつつ、ある程度会話の練習を取り入れながら授業を進めるようにした。本学部では2年次Q3から3クオーターにわたって合計週4コマの第2外国語の授業が必修化されており、3年次Q2の海外フィールドワークに向けて一定レベル以上の第2外国語能力を身に付けることを目指しているが、とはいえ学習の進度に気を使うあまり学生の理解が不十分になってしまっては本末転倒なので、復習を繰り返しながら丁寧に授業を進めるよう配慮した。

しかし、ドイツ学科生対象の授業とはやはり要領が異なり、さらに進度をゆっくりにしても良かったように思われる。英語ではそれほど馴染みのない動詞の人称変化や代名詞・冠詞の格変化などに学生たちは苦慮しているようで、なお学習進度が速いと感じている学生もいるようである。実際、授業数が多いとはいえ、学習を初めてまた2か月足らずしか経っていないので、文法事項に関しても発音に関しても、いまだ定着が不十分にとどまっている。今後は学習進度に焦ることなく、内容についていくことのできない学生が出ないことを最優先として、グループワークや小テストなどで何度も復習を繰り返しながら、さらに丁寧に授業を進めるよう心掛けたい。

国際教養学部 国際教養学科
安原　毅　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語I＜G＞
授業コード 11D01-013
教員名　安原　毅
教員コード 017905
登録人数　44
回答数　10
回答率　22.7%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



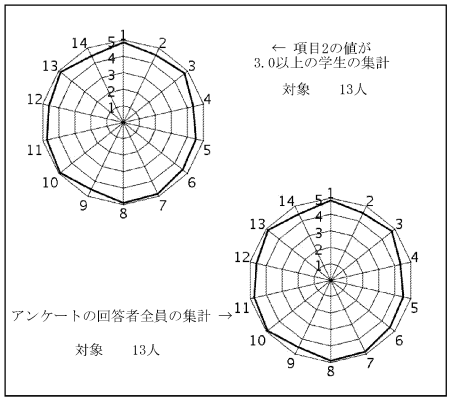

授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答数が予想外に少なかったのは反省材料として受け止める。授業中にアナウンスしたが十分ではなかったかと考える。
少ない回答数の中ではあるが，評価平均が全項目で４．０を上回った結果から見れば，当初の目標は達成できたと考える。以前の第二外国語と違い担当者が自分でテキストを選定できったため，文法の説明が十分詳しいものを選択して使ったので担当者としても授業がしやすかった。また１週間２回の授業なため前回の復習に時間を割く必要がなかったのはよかった。
その反面で，少し病気なので欠席した学生はすぐに授業についてこれなくなり不便が多かったようだ。４５名という大人数ながら全体的に出席率は高かったが，１５回のうち３－４回欠席したものも数名いた。
また会話作文の担当者とのコミュニケーションには留意したが，まだ不十分だったかもしれない。これらの点を反省材料としたい。

国際教養学部 国際教養学科
森山　幹弘　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　インドネシア語I＜G＞
授業コード 11H01-005
教員名　森山　幹弘
教員コード 100090
登録人数　15
回答数　13
回答率　86.7%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



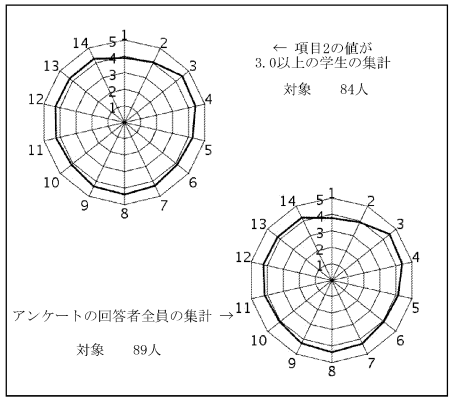

授業評価結果を踏まえた点検・評価

初めてインドネシア語を学ぶ学生に対し、インドネシア語の基本文法を理解させることを目標とした授業であったが、最終の試験の結果から全員がほぼ基本文法の理解に到達していたことから、開講当初の目標は達成できたと考えられる。一方、毎回の単語テストの成績には学生によるバラツキがあり、努力をする学生とそうでない学生の違いはほぼ最終試験と相関関係があった。初めて学ぶ新しい言語に対して興味を持たせるために、意図的にインドネシアの文化や社会についての話を文法の授業の中に混ぜたが、そのことは学生の自由記述にも肯定的な評価が得られており、狙い通りであった。学生の要望には「練習問題を増やして欲しい」という希望があり、学生の学習意欲が感じられ喜ばしいが、次のクォーターの授業運営においては練習問題を増やして文法知識の定着を図りたい。この授業は国際教養学科の科目として初めて開講されたものであったが、意欲的な学生が受講していたこと、少人数のクラスであったこともプラスに働き、学生の満足度が高い授業ができたと言える。引き続き学生の学習意欲を高めつつ、より高度の文法知識を身につけさせる授業の運営ができるように努力していきたい。

国際教養学部 国際教養学科
神崎　宣次　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 環境と倫理問題5 |
| 授業コード | 13D01-005 |
| 教員名 | 神崎　宣次 |
| 教員コード | 103280 |
| 登録人数 | 400 |
| 回答数 | 89 |
| 回答率 | 22.3% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

1）当初の目標に関しては、おおむね達成したと考える。到達の程度に関していえば、二回分ぐらいの内容（古典的な環境倫理学に関する部分）が他の内容に比べて抽象的であるので、やや曖昧であるかもしれない。この部分については説明の仕方に検討の余地がある。
2）1Qでの同タイトルの授業に比べて登録者が倍になったことに対応して、スライドの内容の変更、板書の排除、配布資料の簡略化、成績評価のための課題の変更などを行ったが、コメントを見る限り、これらの措置は適切であったといってよいだろう。
3）来年度に関しては、今季の内容をベースに修正を加えるのが適当だろう。なお、コメントでの改善要求の中に教室の後方からスライドが見えない場合があったというものがあった。収容人数400人の教室だが階段教室でスクリーンも大きいので見えないことはないと思われるが、一スライドあたりの文字数が多い場合は見にくく思われることがあったかもしれない。文献からの引用を人数分印刷することはできないので、来年度以降何らかの方法でスライドに必要な改善を加えたい。

国際教養学部 国際教養学科
松永　隆　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語科教育法B1 |
| 授業コード | 15B10-001 |
| 教員名 | 松永　隆 |
| 教員コード | 015081 |
| 登録人数 | 6 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 50.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義概要
教職関連科目としての英語科教育法である。第二言語としての、あるいは外国語としての英語の習得理論と教育の実践的なスキルを習得することを目的とした。実践面では、グループによる教案のディスカッション、模擬授業、ビデオによる授業観察を講義に導入した。教案２回、模擬授業２回を課題として課した。教材収集・教材研究・教材準備にとってコンピューターリテラシーが重要であることも考慮し、提出物はすべてコンピューター利用を義務づけた。

授業評価に回答した学生が3名と極端に少なかったので統計的な集計は出ませんでした。

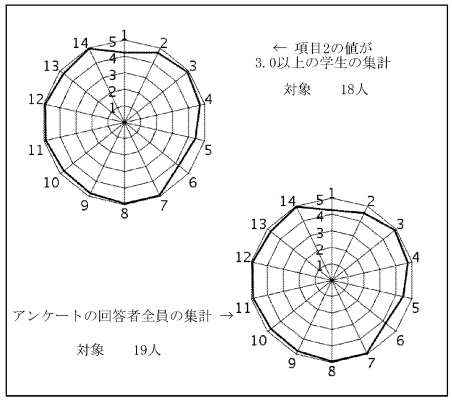
高く評価できる点
模擬授業への取り組みも積極的で、楽しそうにおこなっていました。レポート課題に対しても熱心な取り組みが見られた。多くの学生たちが言語活動のデザインにユニークな工夫をしていました。「人数が少なかったので、模擬授業の十分な時間が設けられていた」、「生徒間でのフィードバックがたくさんあった」、「クラスの雰囲気が良く、楽しかった」などの回答があった。

改善点
使用するデモ授業のDVDについてはバラエティーを増やしたいと思います。

国際教養学部 国際教養学科
MILES, Richard　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | GLS English III3 |
| 授業コード | 48A07-003 |
| 教員名 | MILES, Richard |
| 教員コード | 101363 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the course went. Students were very positive in terms of their comments and the scores they gave the course. This is still a new course, for a new faculty, and for new students, so there was a certain amount of apprehension about what to expect. The course was designed specifically to help students learn about different academic fields, in English, through active learning. Students answered very positively to questions #13 and #14, indicating they felt they had achieved a lot, had improved their skills and gained a better understanding of the course materials. Students also responded positively to question 9, indicating they thought the level of the class was appropriate.

2. The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the teacher and students, as well as the interaction between students. In particular, students enjoyed and seemed to benefit from the daily news stories. Responses to question #4 also indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students.

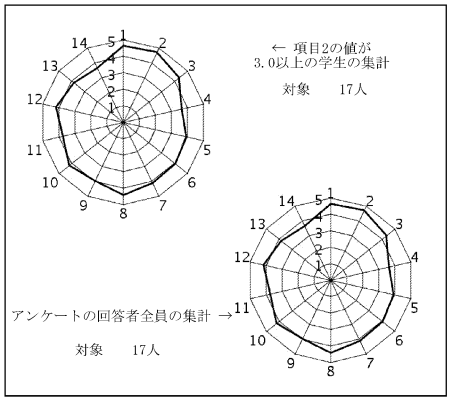
3. For the fourth quarter, I intend to continue to build on the skills learned in the third quarter. I also intend to provide more positive feedback to students, as their responses to question #6 indicated they were still unsure of the overall progress.



国際教養学部 国際教養学科
森泉　哲　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | GLS English III7 |
| 授業コード | 48A07-007 |
| 教員名 | 森泉　哲 |
| 教員コード | 100542 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 85.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



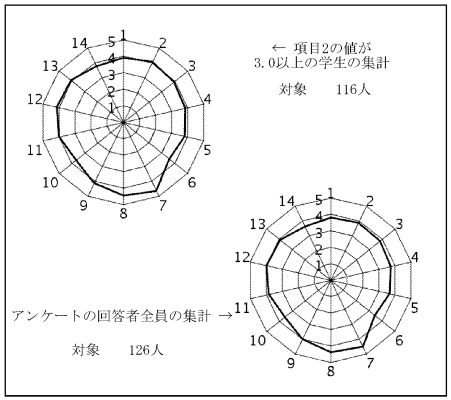

授業評価結果を踏まえた点検・評価

GLS English III は、IIからの発展でアカデミック・コンテンツの観点からディスカッションできるスキルを養成する授業であった。授業評価の結果から判断すると、決して高評価がえられたわけではなく、自己反省をしなければならない課題が多々ある結果であった。特に相対的に授業評価の得点が低い項目は、「毎回の授業構成や進行速度が適切であった」ならびに「授業に満足した」であり、3.65であった。これに関連して、自由記述で指摘された点は、「説明がくどい」「学生に発言の機会をもっと多くしてほしい」などであったことから、。活動の指示を明確に1度で出し、学生の活動に移るなど、メリハリのある授業を目指したい。特に、一部の学生から進度を速めるとともに、学生がペアワークやグループワークで話す活動を増やしてほしいという要望が寄せられているように感じるので、あまり説明を加えずに様々な活動を行うように心がけていきたい。さらに、一部の学生から授業全体に対して低い評価があるので、このような結果に陥る前に、授業の進行とともに、学生の意見を聴取するとともに、こちらの意図や授業目標を伝えていきたい。多くの学生が新たなことを学び、英語がグローバル化という文脈の中で使えるようになり、本授業に対して満足感が高まるような授業のあり方を引き続き考え、実践していく。

国際教養学部 国際教養学科
斎藤　衛　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 国際教養学概論 / Introduction to Global Liberal Studies |
| 授業コード | 48B02-001 |
| 教員名 | 斎藤　衛 |
| 教員コード | 018333 |
| 登録人数 | 148 |
| 回答数 | 126 |
| 回答率 | 85.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年初めてこの授業を担当し、設問14（満足度）の平均値が3.0以下であった。今年は3.61であり、一定の改善が見られた。昨年は、様々なトピックについて講義をし、参考文献をあげて、受講生各自が興味のあるテーマをさらに追求するように指示した。今年は、講義は最初の6回とし、その後は、受講生によるプレゼンとそれに対するコメントという形で授業を進めた。プレゼンは、150名を6人ずつのグループに分け、各グループが指定された図書の中から２冊ずつ選択して、10分程度の発表を２回行うという形式をとった。

肯定的な自由記述は、新たな知識を得て、理解が深まったということに代表されよう。本を読む機会が与えられたこと、グループで学べたこと、多くのテーマに関するプレゼンが聞けたことに言及するものも多かった。プレゼンに関して改善すべき点の記述は、多くのグループが同じ図書を選ぶ事態は避けるべきなど、参考になるものであった。

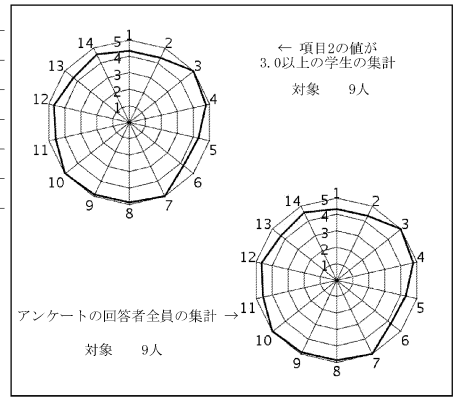
講義の部分は、物理、哲学や歴史に言及しつつも、言語学の題材を中心に、表層的な現象の背後のあるメカニズムを問うことの重要性を論じた。楽しかった、もっと聞きたかったという記述が多かったが、国際教養の授業で言語学を教えられる意味がわからない、国際政治や経済を中心に講義すべきといった記述もかなりあり、学生が「国際教養」にもつイメージの多様さが、約15%の受講生の満足度の低さに関連していることがわかる。この点については、科目の到達目標を徹底して示すこと、また、学科内でカリキュラム、ディプロマ・ポリシーについて議論を深めることの必要性を感じる。



国際教養学部 国際教養学科
永井　英治　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 歴史学 / History |
| 授業コード | 48C07-001 |
| 教員名 | 永井　英治 |
| 教員コード | 018861 |
| 登録人数 | 10 |
| 回答数 | 9 |
| 回答率 | 90.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

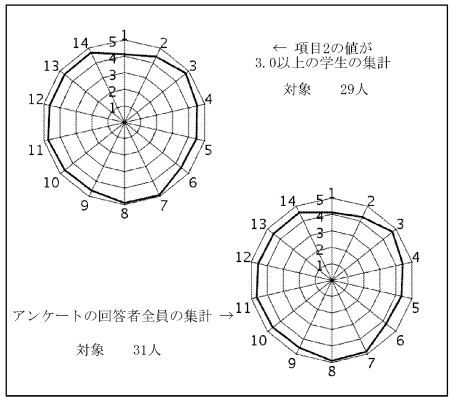
この授業の到達目標は、①歴史を現代的関心からみる視座の獲得、②日本列島の歴史に関する基礎的知識の修得である。授業評価のうち、とくに自由記述から②について理解が得られたことがわかるが、授業の到達目標への理解度に係る項目が他に比べて低い結果となったことから、①のような授業への関心そのものに直結する課題については、なお検討すべき余地があると考えている。個別のテーマに関して理解を深めるよう努力を続けながら、そのうえで各テーマを①の現代的関心として理解できるよう導入を工夫し、全体のなかでの位置付けが明確になるようにしていきたい。ただし、関心のあり方は多様であるはずなので、一律の視点の獲得を目指しているわけではないことに注意したいと考える。

理解の深化という点では、授業で配布する資料をわかりやすくしてほしいという自由記述に対応することを課題としたい。配布資料では、記述の方式を統一し、できるだけ短い文、語句でまとめるよう注意したのであるが、ビジュアルにわかりやすい資料とは言い難いものであった。配布資料に記された情報はできるだけ過剰にならないよう配慮したのであるが、なお再考を求められていることがわかった。技術的に改善できることは積極的に改善していきたいと考えるので、具体的には、紙面の使い方を工夫し、情報を精選し、同じ情報量でもわかりやすい構成となるよう心がけたい。

国際教養学部 国際教養学科
山岸　敬和　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 政治学 / Political Science |
| 授業コード | 48C09-001 |
| 教員名 | 山岸　敬和 |
| 教員コード | 101411 |
| 登録人数 | 71 |
| 回答数 | 31 |
| 回答率 | 43.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は国際教養学部で初めて開講したものであった。アメリカ政治を日本やその他の国と比較しながらその特徴を理解していくという内容のもので、それを日本語と英語を混ぜながら進めていくという形式のものであった。

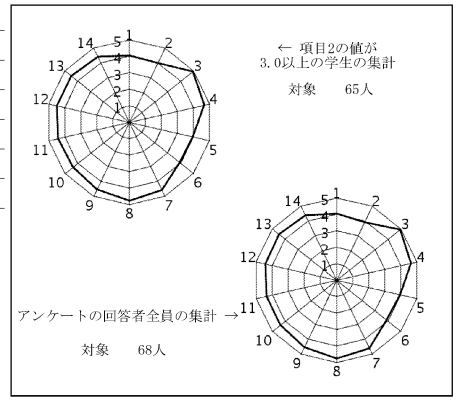
開講当初に設定していた、各国の政治システム、市民社会、国家形成過程の特徴を把握するという目標は概ね達成できたと考える。しかし、当初予定していた内容よりもアメリカと日本に比重を置いた内容になったため、学生の中には他国の事例をもっと紹介してほしかったという声が聞かれた。しかしこれは限られた時間内で多くの事例を紹介すると内容が薄まってしまうと判断した結果だった。

数値データーについては、学科科目の平均値と比べると高い数値であったためある程度の評価はできると考える。しかし、5、6の設問に対しては少し評価が低かった点については、上述の講義の内容変更の目的が学生にうまく伝わっていなかったためと考える。この点については反省し、次回の授業で活かしていきたい。

短期大学部 英語科
丹羽　牧代　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ことばとは6 |
| 授業コード | 13E02-006 |
| 教員名 | 丹羽　牧代 |
| 教員コード | 055715 |
| 登録人数 | 106 |
| 回答数 | 68 |
| 回答率 | 64.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



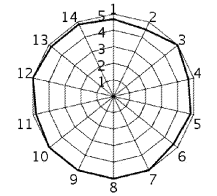

授業評価結果を踏まえた点検・評価

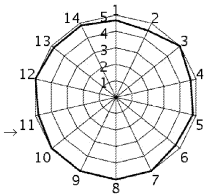
授業評価に該当したのは今年初めて担当する共通教育科目の講義科目であり、全学対象であることも履修者が100名を越えることも初めてのことであった。よって、授業デザインにはかなり試行錯誤することとなり、成功した部分とうまくいかなかった部分とが混在することとなった。まず①目標と到達の程度であるが、ことばの運用を可能にしている言語構造と言語使用の仕組みについて、ある程度までは受講者の理解を引き出せたことは、授業内で行ったアンケートや小クイズなどの結果から裏付けられている。ただし、問題としては、各回の講義内容に応じて理解度のばらつきがかなり出たことであった。言語構造の解説部分は抽象度が高いことから「難しい」という反応がでるのはある程度予想はしていたが、言語の内部構造に関するクイズでの平均点の低さは際立っており、それに比べると言語の使用に関する問いに対する反応は、期待以上のよい発想の解答が得られている。②数値データから見ると、おおむね良い評価であるようではあるが、やや低めになっているのが、到達目標の理解とそこに対して得た力、の部分であり、前項目について記述したように抽象度の高い言語の内部構造についての理解促進と、「それが何を学習者にもたらしてくれるのか」について履修者目線にたっての授業デザインをもう少し考慮すべきであると感じる。③次回以降の同科目については、提示するテーマについて見直し、共通教育科目としての学習成果をどこに持っていくべきかというラインに沿って修正をするつもりである。

短期大学部 英語科
市瀬　英昭　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　典礼学(典礼暦年A)
授業コード　21C48-001
教員名　市瀬　英昭
教員コード　055525
登録人数　10
回答数　6
回答率　60.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



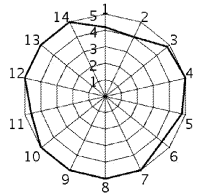

授業評価結果を踏まえた点検・評価

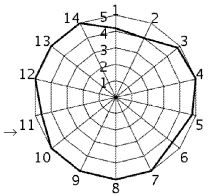
開講当初に設定していた目標と到達の程度についてはほぼ予定どうりであった。一名（全回欠席）を除いて、背景的な知識をある程度有する受講生のクラスであったので、専門的な水準を落とすことなく講義できたと思われる。ただし、日本語研修後間もない受講生が数名いたため、解説を一専門用語、日本語の内容説明も含めて一丁重に行うように心がけた。チャートおよび数値データに関しては、6項目が5.00、項目3から14の平均が4, 89となっており、高評価である。理由としては、時間厳守で、毎回必要な資料を配布しながら、丁寧に解説を行ったことがあると思われる。自由記述欄では「説明が分かりやすかった」との感想があり、担当者の意向、意図は通じていると考えられる。講義中には使用しない一時間の関係上一資料も多く配布して、各自の学習の材料にするようにと伝えた。次クォーターへ向けての改善点、方針に関しては、特段大きな変更は考えていない。抱負としては、受講生の背景的な知識の有無、程度を確かめながら、受講生の興味関心を引き出すことの出来るような講義を目指したい。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
豊島　明子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法と人間の尊厳6
授業コード　10D05-006
教員名　豊島　明子
教員コード　101192
登録人数　8
回答数　5
回答率　62.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



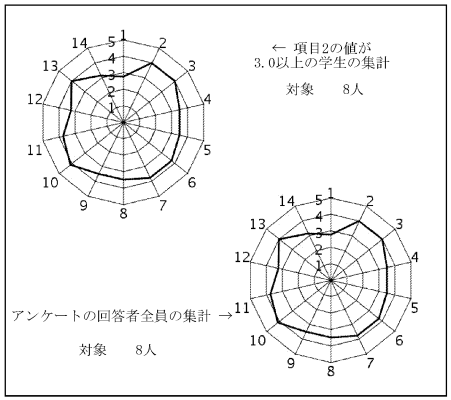

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は毎年度開講しているが、今年度は受講者数が8人と少なく、どういうわけか毎回数人の欠席者がいたため、常に5人程度のきわめて少人数の授業形態となった。授業では毎回リアクションペーパーの提出を求め、次回授業冒頭でその内容を紹介したり、質問が書かれている場合にはそれへの解答を口頭で行うなど、必ず毎回そのフィードバックを行う時間を設けるようにした。また、今年度の新たな試みとして、授業でとりあげたテーマについて学生同士が議論する時間を設けた。具体的には、2～3人のグループに分かれて話し合ってもらい、その後、議論の内容を発表してもらい全体で共有した後、教員と全学生との間でさらなる双方向のやりとりをし、まとめていく授業スタイルである。この試みに対する学生の評判は非常に良いものであったが、今年度はこの試みを１回を採り入れた以外には、従来どおりの講義スタイルの一方的な授業形態で実施した。そのせいであろう、自由記述の意見として、より多くの双方向の時間を設けることを指摘する者が複数見られた。一方、授業評価の評点は、5.0の評価も多く、少人数クラスの場合には高得点の傾向が一般的に見られるとはいえ、全体として満足度の高い授業を提供でき、良かった。
以上の結果を踏まえ、次年度以降は、学生同士が話し合う時間を増やすなど、双方向性を向上させ、より満足度の高い授業を目指したい。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
清原　泰司　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法学概論
授業コード　40F08-001
教員名　清原　泰司
教員コード　100774
登録人数　14
回答数　8
回答率　57.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

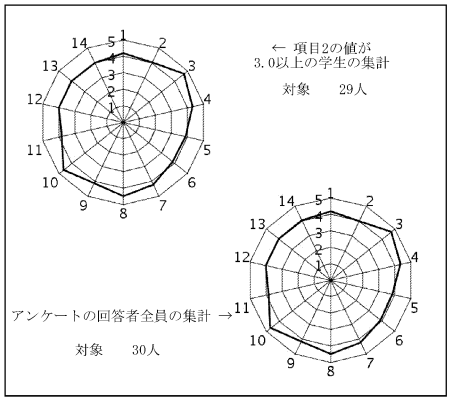
本科目は、法学部以外の学生を対象とする教職課程必修科目で、受講登録数14名はすべて2年次生である。回答者が、当日の授業出席者12名中、8名と少なかったのは残念である。授業では、少しでも法学に興味を持ってもらうために、日常生活に関係する民法を中心に、法の歴史、法の目的、法の概念などを講義し、新聞等の記事を素材として、できるだけ具体的に説明するように説明したが、授業評価の結果を見る限り、私の意図は、あまり理解されなかったようである。特に、設問項目14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」の評価が3.13というのは、他の項目が3.5¯4.13の間にあるのに比し特に低いのは、ショックである。自由記述欄の回答は2名のみで、授業に対する肯定的評価は、「法学は勉強したことはなく、教職課程のためにとった。難しい用語が多いが知っていると役に立つし、ニュースも法律の話が出ても敬遠しなくなった。先生が繰り返し重要な点を説明してくれる点は良かった」が1名で、否定的評価は、「先生の言っていることに注意しないと、今どの場所を授業でしているのか分からないので、ついていくのに苦労した。教科書や六法全書への出費が気になった」が1名である。法学部以外の学生を対象とする授業なので、特に後者の意見を踏まえた授業改善を工夫したいと考えている。



法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
榊原　秀訓　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　行政救済法
授業コード　44B06-001
教員名　榊原　秀訓
教員コード　100548
登録人数　82
回答数　30
回答率　36.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



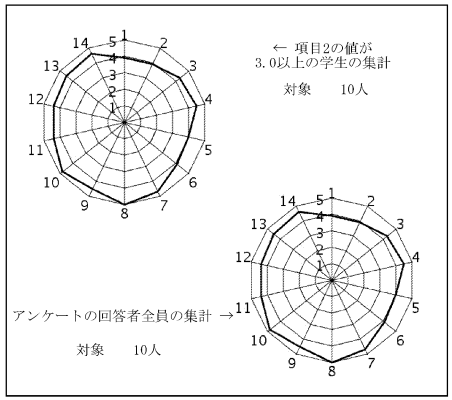

授業評価結果を踏まえた点検・評価

行政救済法は、2014年に担当してから数年ぶりに担当した。2014年はクォータ制導入前であったので、クォータ制が導入されてからは最初の評価となる。まず、履修登録者が2010年の3分の1、2014年の2分の1になっており驚く。科目の系統的な履修よりも時間割で決定するからかと思われ、かなり深刻な状況だと考える。回答数30というのも圧倒的に少なく、比較がし難いところがある。各項目4点前後であるが、3点台のものをピックアップすると、設問2を別にすると、設問5「到達目標の理解」が3.87、設問6「到達目標に向けて力がついた」が3.90、設問11「学生の意欲を引き出したか」が3.87であった。設問5と設問6がやや低いのは行政法各論でも同様であった。「学生の意欲を引き出す工夫」は2010年も2014年も低い数値だった。行政法各論でも書いたように、受講生が「到達目標」をどのように理解しているのかとも考えるが、比較的熱心な参加者でも「到達目標」に照らして評価が低い可能性があるので、今後、学生の理解を深めるようより一層の工夫をしていきたい。他方、レジュメでは重要判決を比較的長めに引用しているが、好意的に評価されているようである。もっとも、終了時間間際に判決を説明するなという声もあった。運用（授業の仕方）に注意していきたい。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
永江　亘　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　企業法総論
授業コード　44B22-001
教員名　永江　亘
教員コード　103861
登録人数　17
回答数　10
回答率　58.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

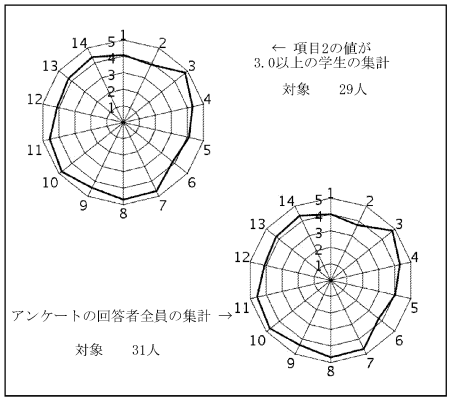
本講義では商取引法を範囲として、民法と商法の考え方の相違や、これを反映した制度設計、解釈上の問題点などを中心に取り扱った。学習計画に従いながら、レベル感を学生の反応から調整することで、制度設計の説明に時間を割くこととしたため、学習目標の達成に効果的であったと考えられる。商取引という学生には見えづらい範囲であったことからアンケートからは学問的興味などを持ちにくい側面があったように見えるが、情報量のコントロールと選択が学生にとって誠実に見えたようであるとの評価は率直に喜ばしいものと考えている。自由記述欄にて板書の文字サイズについて言及があったが、講義開始当初より、ホワイトボードのサイズ上の制約もあり、前列席は席が空いているので後列に座りながらの評価は批判に値しないと指摘していた。改善余地はあるものの、時間的制約も踏まえると改善は限定的と考えている。
次クオーターでの講義も改善点を意識しながら進めていきたいと考えている。



法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
石田　秀博　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民事執行法
授業コード　44C21-001
教員名　石田　秀博
教員コード　101939
登録人数　142
回答数　31
回答率　21.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価は、設問１～１４の平均が４．３１、項目３～１４の平均が４．４９であった。設問６（授業の到達目標に向けて力がついてきたと思うか）が３．７７と相対的には低い評価であったが、民事執行法という学習内容から、やむを得ない部分もあり、また、自由記述においても、「興味がわいた」、「わかりやすかった」などの肯定的評価を複数頂いたので、「民事執行・保全手続につき、その全体像を把握することができる。権利の実現場面における基本的問題点につき理解することができる。」との到達目標は達成できたと考えている。

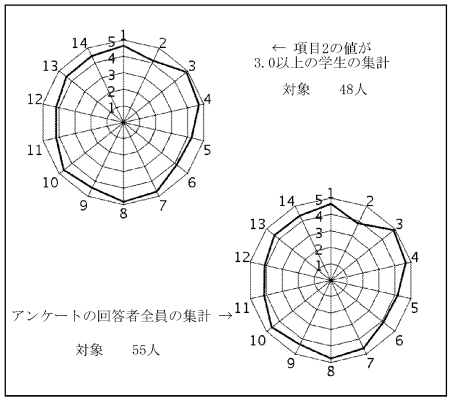
今後の改善点については、レジュメの量が多いことに関する意見が複数あった。手続法の内容であること、設問も織り込んでいること、判例も載せていることからどうしても量が多くなってしまうきらいがあるが、今後なるべく、コンパクトにまとめたい（なお、レジュメに関しては、わかりやすかった、設問があるので良かったとの評価も複数あったので、説明の質は落とさないように留意したい）。関連して、レジュメのポイントがより分かるようにしてほしいとの意見もあり、講義中で触れているつもりであるが、今後よりわかりやすいものとなるよう心掛けたい。また、「用事で授業を休んで講義に出るとどこをやっているかわからなくなる時があった」との意見もあった。講義開始時には必ず、レジュメ及び教科書の該当箇所を適示してから行うよう心掛けているが、今後も十分留意したい。

今回の評価を踏まえて、今後も授業の改善に取り組んでいきたいが、若干気になったのが、回答数の少なさである。回答がないのは不満がないのか、そもそも興味がないのかよくわからないが、講義についても学生との双方向のやり取りが少しでも可能となるよう、学生の皆さんにも積極的な参加をお願いしたい。

教職センター 教職センター
大塚　弥生　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学A5
授業コード 12E03-005
教員名　大塚　弥生
教員コード 000065
登録人数　101
回答数　55
回答率　54.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

基礎的な心理学は、受講者が事前に抱いている「心理学」のイメージとはかけ離れている場合が多い。特に「心理学A」は「心理学B」に比べ、日常生活との接点を見出すことが難しい内容となっている。本授業の目標は、心理学の基礎的な概念を学び、生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連付けることができるようになることであるが、「心理学」に対する当初のイメージをどう修正していけるかがポイントとなると考える。

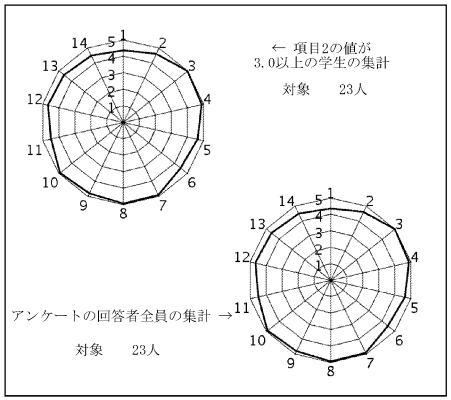
その点において、授業全体についての満足度は4.35であること、また設問4～14のすべてが4ポイント以上であったことから、本授業の目的はほぼ達成できたものと考える。自由記述からは、授業において映像を多用していたことが受講者の興味を促進させ、また理解を深めたことがうかがわれる。また進行速度も適当であったと考えられ、この進め方は、今後も続けていきたいと考える。

今後の課題としては、設問4～14のうち、最もポイントが低かった項目6（評価ポイント4.09「あなたは、この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）を改善することであろう。次期の授業では、受講者自身が自分の理解度を認知できるよう、小レポートなどの確認課題を適宜取り入れていきたい。

教職センター 教職センター
宇田　光　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教職入門3
授業コード 15A02-003
教員名　宇田　光
教員コード 100494
登録人数　26
回答数　23
回答率　88.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の主に１年生向け必修科目で、教員の職務の特徴や養成、採用、研修などに関して学んでいく。履修登録者数は26名。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をして、学期の後半ではグループワークを取り入れている。満足度を示す設問14の平均値は4.48、設問３から14の平均値も4.74となっていて、レーダーチャートでも大きな落ち込み部分はない。全体としては、まずまず満足であるという回答を得た。

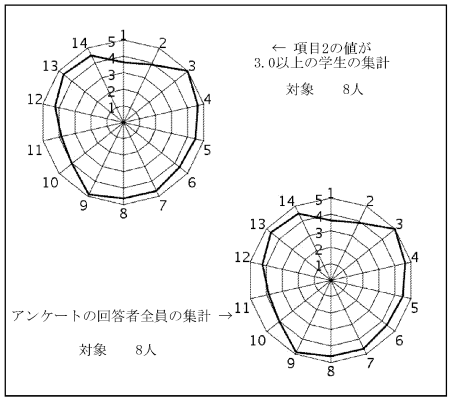
個別の自由記述では（ａ）良かった点として、「書くことが多いので眠くならない 」「グループワーク」、「教職とはどうゆうものであるのか詳細に知ることができること」、「レポートの書き方を学ぶことができた」「生徒に自主的に考えさせる授業であり、かつ質の高い知識を得られる授業であった」など。

一方、（ｂ）改善すべき点については３点あり、「面白くしてほしい」、「特になし」、「なし」であった。確かに、ユーモアのあふれる語りとはいかなかったので、話術を磨きたい。
今後さらに内容や授業方法を工夫していきたい。

教職センター 教職センター
山崎　智子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育原論A3
授業コード 15A03-003
教員名　山崎　智子
教員コード 103555
登録人数　28
回答数　8
回答率　28.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は教職課程の「教職に関する科目」にあたる必修科目であり、受講者はすべて教職課程履修者であった。

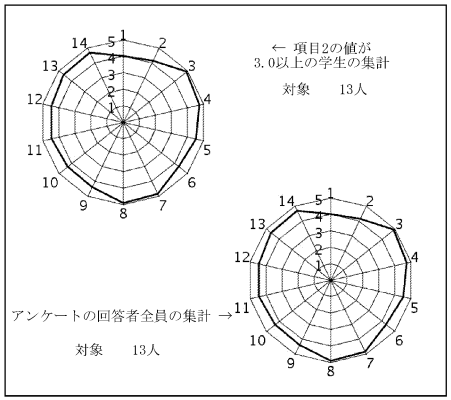
この授業では、教育の歴史や思想、理念に関する基礎的・基本的な知識を得るとともに、教育の歴史や思想、理念が現在の教育制度や教育実践にどのように引き継がれているのかということについて、自分なりに考えることを到達目標として設定していた。到達目標については、初回授業より繰り返し説明し、また、自分の考えをまとめる時間を毎回取っていたため、ほぼすべての受講者が到達目標を意識して受講することができていた。

科目の性質上、どうしても一方的に教える講義形式になりやすい授業科目ではあるが、できるだけ視聴覚教材やディスカッション等の時間を確保するように心がけてきた。この点については、「視聴資料を見る目的がはっきりしていて、学習に効果的だった」「映像資料が適宜挟んであり、またディスカッションの機会がありより知識を深めることができました」という受講者の記述から、一定の学習効果はあったと考えられる。今後も、同様の方針で授業を行っていく予定である。

教職センター 教職センター
五島　敦子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　比較教育学
授業コード 23C14-001
教員名　五島　敦子
教員コード 101282
登録人数　37
回答数　13
回答率　35.1%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



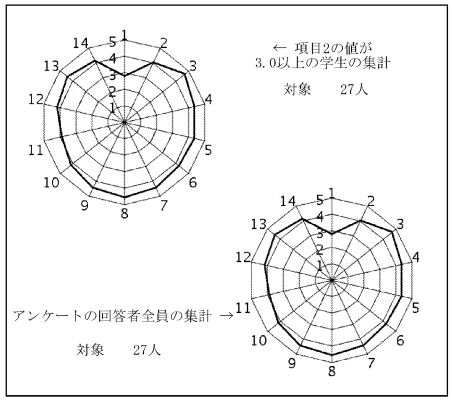

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、比較教育学の基礎を踏まえ諸外国の教育制度を比較考察することを目的とする概論科目である。（問１）開講前の期待値4.0に対して、（問14）総合満足度4.67であったことから、当初の目標を十分に達成していると考えられる。（問7)講師の切実さ・熱心さ4.85、（問4）授業の構成4.77、(問3)時間の開始・終了4.92等の数値は、講義の計画・実行が適切であり、学生と十分なコミュニケーションが取れていたことを示している。自由記述でも、「PowerPointによる講義形式と、ディスカッション形式と、webclassによるeラーニング形式を全て用いており、効果的な授業構成であったと感じている」「総合的に楽しい授業だった」「自分の意見を述べる時間があったのはよかった」とある。ただし、「遅刻、私語に対してできれば対処していただきたいです」とのコメントにあるように、遅刻する学生やディスカッションへの参加に問題がある学生に対して、適切な指導ができなかったことは反省すべき点である。次学期では、厳正に対処するとともに、配慮すべきケースについて理解を求めるよう指導したい。

情報センター 情報センター
楽原　寛明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[HA・HP]1
授業コード　10C01-009
教員名　楽原　寛明
教員コード　103522
登録人数　31
回答数　27
回答率　87.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

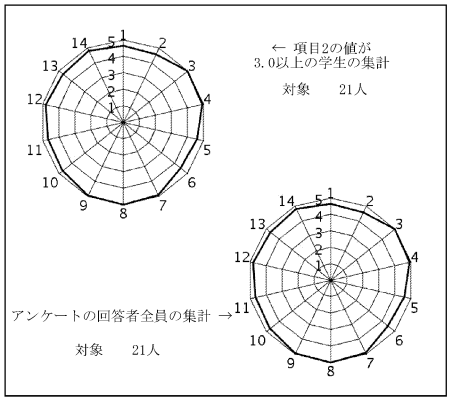
本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出して合格した受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。特に、ネット上の行動とプライバシーや著作権との関わりに対して理解を深められたと思われる。

授業はe-learningと対面授業を組み合わせて実施され、e-learningで学習した内容に関して対面授業でグループディスカッションや発表を行うことで理解を深めるようになっている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、大半の受講生は十分に理解を深めることができたと思われる。ただし、一部の受講生について、e-learning教材の一部あるいは大半に目を通した記録がないことは非常に残念である。小テストやレポートとは異なり必須としていないが、教材も必ず読むあるいは視聴するようにしてほしい。対面授業については授業の中心となるグループ活動に十分な時間を確保するように努めた結果、いずれのグループも十分にディスカッションや発表の準備を行うことができたと思う。各グループのディスカッションや発表の内容に多様性を持たせるために、最新の話題や出来事の提供を継続して行っていく必要がある。

外国語教育センター 外国語教育センター
ELLIOTT, Darren　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIIオーラルコミュニケーション[FB]1
授業コード　11A03-001
教員名　ELLIOTT, Darren
教員コード　101579
登録人数　24
回答数　21
回答率　87.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

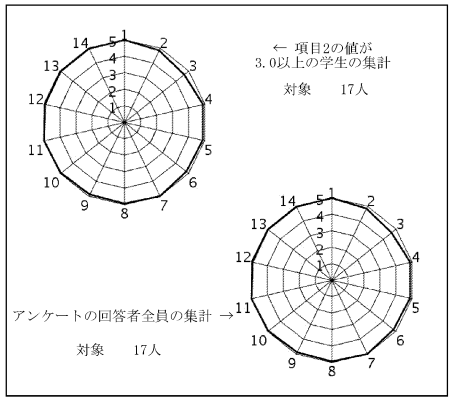
Overall, this was a satisfactory evaluation from the students. This class is already proficient in English, intellectually curious, and generally well-motivated, so I have to admit they are very easy to teach. The goal for this class is to introduce the learners to a variety of authentic,, challenging material and have them respond to that material. I am particularly keen to move on from the kind of traditional classroom activities they have already experienced, and we certainly achieved that goal.

However, although the evaluation scores were very positive there is always room for improvement. It seems that the students might be clearer on the aims of the course. Q5 & Q6 relate to the students understanding and achievement of the class attainment targets, and both were scored a little lower than other evaluation items. To address this, I plan to be more explicit in explaining the purposes and benefits of tasks and activities.

外国語教育センター 外国語教育センター
BAILDON, MARTIN　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[FB]6 |
| 授業コード | 11A03-006 |
| 教員名 | BAILDON, MARTIN |
| 教員コード | 102326 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 77.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

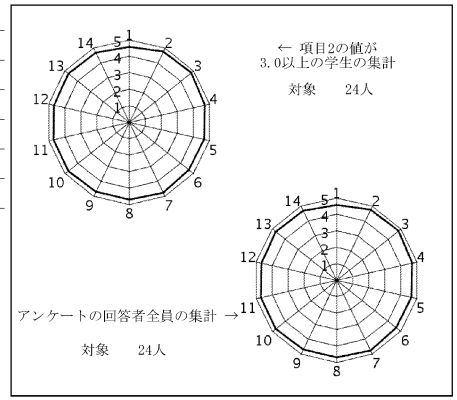
The goals of the class were to provide opportunity and motivation to communicate in English throughout the classes and reflect on the purpose and goal of each class. Students had a great deal of autonomy over choosing materials, topics for discussion and opinion based interaction. Students were encouraged to learn about current topics affecting Japan and the world. The students were also provided with mechanisms for improving their vocabulary and language skills at their own level. To this end the goals were achieved as comments in Q15 show students were aware of those opportunities and scores for Questions 11-14 were consistently high (4.94-5.00). Except for Q3 (4.65) all the answers were above 4.82 with a total average of 4.90. I intend to continue to provide enthusiasm and fully prepared classes in following quarters and am grateful students appreciated those factors (Q7 - 5.00). This was my first quarter teaching at Nanzan University as a full time employee and I was still becoming used to the start and finish times of classes. I hope to improve my time management of classes this quarter as I am now more aware of class times at this institution.



外国語教育センター 外国語教育センター
都築　千絵　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]5 |
| 授業コード | 11A03-012 |
| 教員名 | 都築　千絵 |
| 教員コード | 103924 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 24 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、英語のスピーキングに焦点を置き、コミュニケーションの道具として英語を使う力を向上させることを目指した。学生はリラックスした雰囲気の中で、ペアワーク、グループワークを行い、小テストやスピーキング課題をこなしながら、英語で言いたいことが言えるように頑張ってきており、第３クォーターを終えて、この1年の目標到達に近づいている。

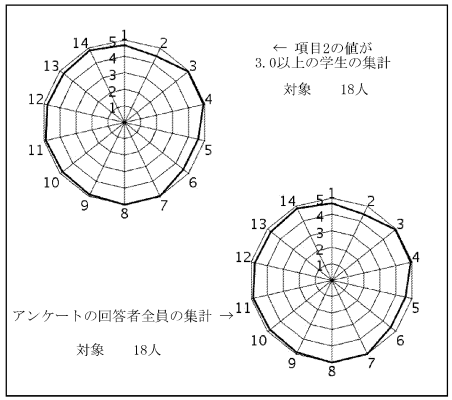
学生アンケートの評価結果は、全員が回答し平均値が4.70と高かったのは嬉しい。他の項目ではすべての学生が４あるいは５を選んでいたが、設問７、設問８では３を選ぶ学生が一人ずついた。特に設問８（教員の声や音声機器の音がよく聞き取れましたか。）では、スピーキングのクラスではあるが、教員が指示をしている時にも話し続ける学生が複数名おり、聞き取れない理由の一つと思われる。授業評価の自由記述では、良かったことが「秘密」という記述だけだった。アンケートをする時間が授業の終わりだったので、書かずに早く終わらせたかったのかもしれないが、少し残念だった。

今回の授業評価の結果を踏まえ、設問７と設問８の項目に特に留意し、すべての学生が教員の声を聞ける状況を作ってから、指示を始めるようにしたい。また、次回アンケート時にはコメントも書くように促し、時間も長めに取りたいと思う。今後は他の授業でも同じような評価をえることができるように、授業運営をしていきたいと思う。

外国語教育センター 外国語教育センター
WOOD, Joseph　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[P]7 |
| 授業コード | 11A03-026 |
| 教員名 | WOOD, Joseph |
| 教員コード | 103072 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 90.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals I set at the beginning of the school year are being met in class. Students are becoming able to have timed-conversations in English for longer periods of time with more confidence and less breakdowns in communication. They are becoming better at explaining their opinions in English with the help of communication strategies which they are learning in class. Students performed quite well in their final speaking test for quarter three. Not only speaking, but students' listening skills in English are also improving in the class. Based on the survey results from students, I now know that students enjoy the class and thing that the activities we do are both interesting and useful. It is good to know that they both enjoyed the class as well as improved their English abilities in it. I will continue to find ways to improve my teaching and to better help students learn.

外国語教育センター 外国語教育センター
FLORES, Ana Maria　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[P]8 |
| 授業コード | 11A03-027 |
| 教員名 | FLORES, Ana Maria |
| 教員コード | 102899 |
| 登録人数 | 21 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 14.3% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

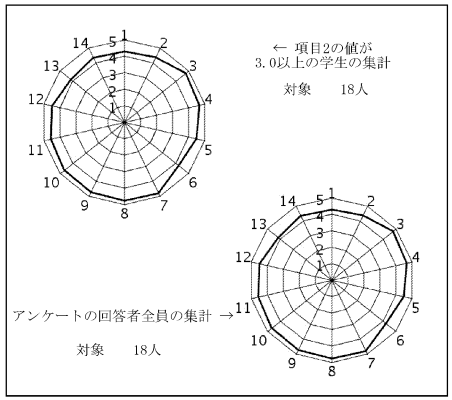
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course is to help students improve their overall ability to use spoken English for communication through a variety of exercises and activities. Role plays and simulations have been utilized to provide students a near-authentic situation where they can practice and also demonstrate the use of the language. As a foreign language teacher, I believe that aside from the language skills that are targeted for the students to achieve and to improve, it is only just as important that instructions are carefully designed to ensure that students accurately understood the skills that they are expected to demonstrate in a particular language activity or task. Based on one written response, the instructions used during the class were understood well; and as a result the students have been able to complete tasks according to what was instructed and required.

外国語教育センター 外国語教育センター
OTTOSON, Kevin　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[P]12 |
| 授業コード | 11A03-031 |
| 教員名 | OTTOSON, Kevin |
| 教員コード | 103121 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 94.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



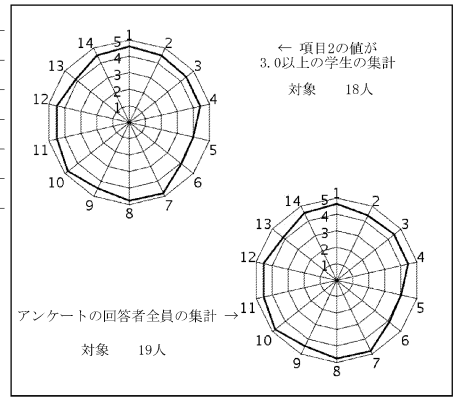

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) For this class, the students achieved many of the goals for this class in regards to communicating about themselves and familiar topics. However, this quarter we need to work on more academic topics and topics related to their major.
2) One of the lower points of my assessment was #6 (4.22). I included some self assessment activities throughout the course. However, perhaps they felt that they were not making the anticipated progress towards the class' goals. Additionally, #13, was rated lower than others (4.17). I can understand their feeling as they may have felt that they did not deepened their understanding through this course. We covered really basic topics for conversation. We did not really spend much time thinking critically about issues related to these topics.
3) To address #6, I asked the students to share their goals with me for Quarter 4. I need to make more of an effort to help the students accomplish their own goals and to see how their goals are in line with the courses's goals. In order to address #13, we will cover more deeper and abstract topics and work on thinking critically about these topics.

外国語教育センター 外国語教育センター
GOTOH, Mie　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[G]3 |
| 授業コード | 11A03-034 |
| 教員名 | GOTOH, Mie |
| 教員コード | 100186 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 95.0% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



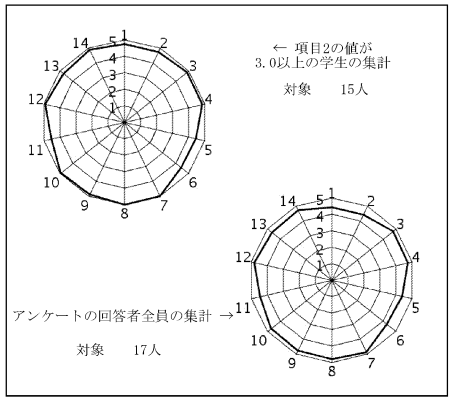

授業評価結果を踏まえた点検・評価

第３クウォーターは、プレゼンテーション力やディスカッション力が向上出来るようになることを目標にして行いました。ペアワークやグループワークを毎回多く取り入れ、生徒間でたくさんのコミュニケーションを英語で取る練習を重ねました。生徒のコメントには、「先生がはっきりと話してくれるのでわかりやすい」、「プレゼンの回数が多く、回を重ねるごとに力がついた」、「たくさん英語で話す機会が設けられていてよかった」などの内容が多かったです。ただ、進行速度が速いと感じた生徒も少なからずいたので、その点は以後注意して授業を進めていきたいと思います。そして今後の課題として挙げられるのは、講義目標や毎回の授業での到達目標を明確にし、生徒が自分の英語力が着実に向上していることを実感してもらえるように工夫したいと思います。これからも、一人でも多くの生徒に英語の楽しさ・おもしろさを伝えられるような授業作りに努めたいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
HOWREY, John　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[G]4 |
| 授業コード | 11A03-035 |
| 教員名 | HOWREY, John |
| 教員コード | 100371 |
| 登録人数 | 17 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to give students more fluency and confidence speaking in English over a variety of topics with emphasis on building conversation skills, discussion skills, and presentation skills. Students finished the term with a discussion test and a debate.

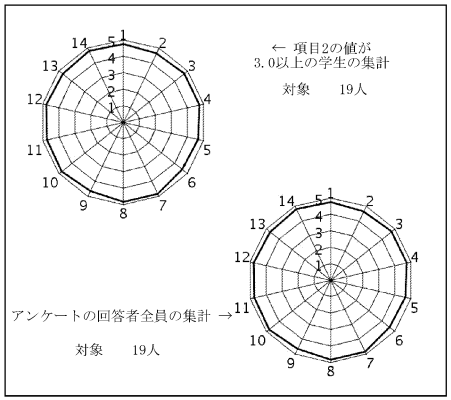
I am pleased with the student feedback. It's always a challenge to switch sections in the fall, meet new students, assess their levels, and yet still cover all the intended material. However, students were motivated and engaged and the materials matched their level of English ability.

Student feedback was positive. Most scores were 4.7 or better. Students commented that they could learn discussion and debate techniques, learn about foreign culture, and useful phrases. They said my explanations were easy to understand and that I gave them opportunities to ask questions in class if there was anything they did not understand. They said there was a nice balance of input and output as well. One criticism was that they wanted to know about the details of the final exam earlier. I actually explained the details right after they did the class evaluation and we did a practice session in the following class so I don't think is much of a problem.

外国語教育センター 外国語教育センター
BROADBY, Deborah　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIリテラシー[FB]4 |
| 授業コード | 11A07-004 |
| 教員名 | BROADBY, Deborah |
| 教員コード | 103594 |
| 登録人数 | 21 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 90.5% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



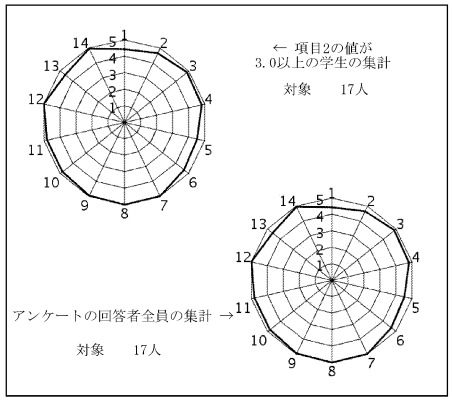

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals set at the beginning of this course were met to a high degree. While the numerical data and comments were mainly positive, I believe that as a teacher I can always try my hardest to improve my teaching and learn from my mistakes. From the results, I was pleased to notice that 19 out of 20 students in the filled out the questionnaire. In the following quarter, in this class I hope to challenge myself by creating and developing fun and interactive lessons along with continuing to listen, adapt and modify my lessons to suits the needs, level and interests of my students. I will also continue to ask my peers and senior advisors for advice on ways to help me be a better teacher. I would like to continue to create a positive and enjoyable learning environment for my future students.

外国語教育センター 外国語教育センター
LOTT, Danielle　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIリテラシー[P]1 |
| 授業コード | 11A07-020 |
| 教員名 | LOTT, Danielle |
| 教員コード | 103593 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 94.4% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |



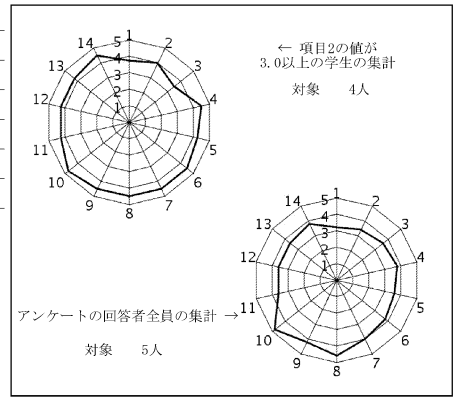

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) My goals were to develop students' literacy through exposure to real-world, authentic texts. For example, I had them use the target literacy skills to assess the veracity of a famous person's tweets. I also wanted to create a free atmosphere in which they would feel comfortable exchanging their own opinions and ideas with myself and with each other. Next, I wanted to give more personal feedback to students on their writing. Finally, I wanted to provide more structured support and direct instruction in terms of grammar and vocabulary. In my first three goals, I believe I succeeded; however I feel I need more work in providing more direct attention to grammar and vocabulary. I'm not sure if my course is challenging enough for the students.
2) Based on the numerical data and comments, I feel that from the students' point of view the course was a success.
3) So far, my attention to grammar and vocabulary has been almost completely incidental, and my focus has been on content. In the future I would like to use vocabulary learning apps. and try focus-on-form instruction for more challenging grammar structures. If this isn't possible in Q4, then I would like to pursue these changes from 2019. In addition, in Q4, I have slowed down the pace to allow more time for direct instruction, reflection, and an in-depth research project to provide a greater challenge.

外国語教育センター 外国語教育センター
BLYTH, Andrew　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]5 |
| 授業コード | 11A11-005 |
| 教員名 | BLYTH, Andrew |
| 教員コード | 102982 |
| 登録人数 | 21 |
| 回答数 | 5 |
| 回答率 | 23.8% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

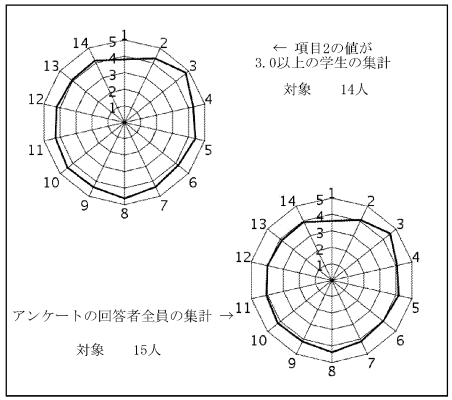
This survey is rather difficult to comment on. The results would be considered quite bad by my own normal standards. However, for a statistically reliable measure, you must have a lot more than 5 survey participants. With only five survey participants it is easy for one person's responses to exaggerate the results. Consequently, in normal statistical analysis, a survey of 5 is considered insufficient to draw any conclusions on. On the day I intended to tell my students to do the survey we were busy doing poster presentations on the extensive reading they have been doing. However, we ended the class with me forgetting to tell them all to do the survey. Unfortunately, there is nothing that we can learn from this survey result.

In the past, I've had much better results, and especially this year I've been getting better results than any other time in my teaching career. This is because I am incrementally improving my teaching skills, and getting more adept at class management, motivation management, learning management, and many other such micro skills. The only point that I can say that I need to improve upon is in remembering to tell my students to do the survey. Otherwise, the results of previous surveys are more reliable, and can better provide feedback.

外国語教育センター 外国語教育センター
KUMAI William N.　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]1 |
| 授業コード | 11A13-001 |
| 教員名 | KUMAI William N. |
| 教員コード | 000204 |
| 登録人数 | 23 |
| 回答数 | 15 |
| 回答率 | 65.2% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



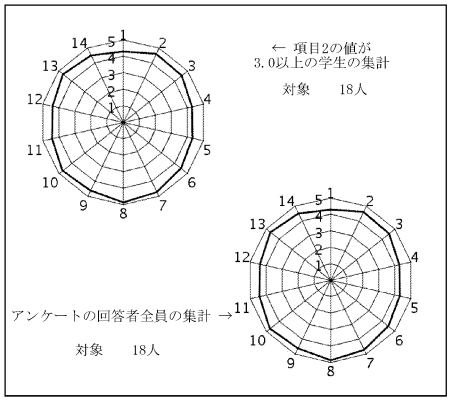

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The content of this class had to be constructed from almost a clean sheet because this instructor has never before taught a class that combines speaking and reading skills together. The largest hurdle to overcome was the differing time scales related to reading and speaking; reading is much slower requiring the class to cover fewer topics than speaking. Other hurdles were the fact that this class had the highest scores and presentations were to be given based on student majors. In fact the syllabus received had a large number of laundry list style items. It was decided to decouple the reading and speaking as much as possible to overcome the time scale quandary. As for presentations, a modified time-limited PowerPoint-based style known as PechaKucha was implemented with good results. As the class progressed the level and interest of students could be gauged and the class content was adapted weekly. On the first day of class, however, several students demanded to be transferred although this instructor had no authority to implement it. Consequently two students never returned after the initial class.

外国語教育センター 外国語教育センター
梶浦　直子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ドイツ語III＜E・B＞1 |
| 授業コード | 11C03-007 |
| 教員名 | 梶浦　直子 |
| 教員コード | 102557 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 94.7% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



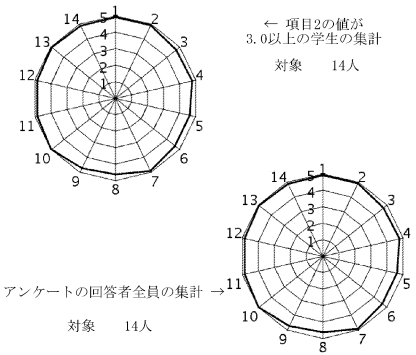

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、ドイツ語の基礎的な語彙・文法知識の習得だけでなくドイツ語の運用力をつけることにある。授業ではグループワークを取り入れ、学習者を中心に進めている。このクラスはQ1当初、積極的に授業に参加するということに対する抵抗が非常に大きかった。とりわけ明示的に文法構造が扱われないことに対して拒否反応を見せる学習者もいた。しかし、授業が進むにつれて学習態度に変化が見られ、グループ学習を活用してそれぞれの理解を深めていることがうかがえた。特にQ3では再履修者が数名入り、元々履修していた学習者が再履修者を支援する形で協働学習がうまく機能していた。「とてもアクティブラーニングがなされている」「全員が授業に"参加"できるところ」を学習者が授業のよいところと感じていることから、学習目標にふさわしい学習に近づいているのが読み取れる。設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」（4.67）、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」（4.50）の評価が比較的高かったことからも、学習者の日頃の努力が感じられる。ただし、Q3は扱う内容が多くQ1、2と比較して授業の時間配分に苦労した。設問12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」（4.39）の評価が比較的低いことにもつながっていると考えられる。今後は学習フォローの時間を確保できるように授業を進めていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
LANDEROS NERI, Sergio Gustavo 先生

## 2018年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スペイン語V[FS]2 |
| 授業コード | 11D05-002 |
| 教員名 | LANDEROS NERI, Sergio Gustavo |
| 教員コード | 103688 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 77.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

Evaluation report for class 11D05 002 (FS)2, 3rd. quarter.
Prof. Sergio Neri.
We were working on developing a communicative competence that allows students to:
-talk about food and their content.
-talk about use proper measurements for uncountable nouns.
-talk about professions and studies.
-talk about previous experience.
-talk about its own capabilities.
-talk about appointments, schedules, etc.

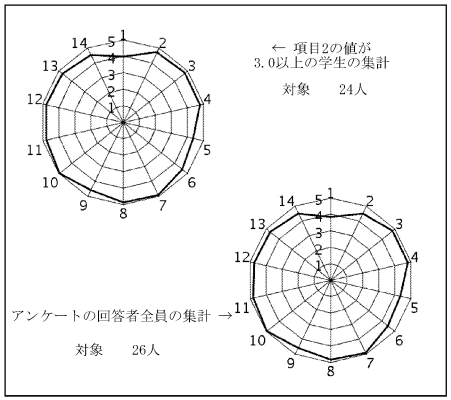
In order to achieve that students learned to:
-describe and evaluate food.
-ask for the ingredients of food and answer such questions.
-use the right counters for countable and uncountable nons.
-use the impersonal form “se” to express the passivity of subjects.
-talk about their own abilities and the ones from other people.
-evaluate the abilities needed for a job or profession.
-talk about previous studies, work and experience in those fields.
-talk about dates, hours, days and their parts.

As for the results of the survey, as it can be interpreted in the graph, the answers of the students were positive compared to the media. Still there is more work to do in the next quarter.

外国語教育センター 外国語教育センター
虞 萍 先生

## 2018年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 中国語III<H>2 |
| 授業コード | 11F03-002 |
| 教員名 | 虞 萍 |
| 教員コード | 101432 |
| 登録人数 | 28 |
| 回答数 | 26 |
| 回答率 | 92.9% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生にとって、授業が面白いかどうか、有意義かどうか、勉強に役立つかどうかは教科書が大いに関係しています。幸い、Q3の授業で拙著『みんなで学ぼう！中国語』（中国書店）を使用することができました。

「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という設問に対して、学生から「生徒一人一人が平等に参加出来ている」「理解しにくい点があるときちんと解説して下さったところ」「先生の教え方が分かりやすかった」「先生の説明がわかりやすかった」「丁寧に説明してくれる」「先生がとても熱心だった」「中国の話を聞けて面白かった」などのコメントをいただきました。「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。」「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていましたか。」などの設問も高い評価をいただくことができました。

Q3の初回の授業で語学勉強において予習と復習の重要性について強調したため、今学期では多くの学生は予習と復習に積極的に取り込んでいました。開講当初に設定した目標に到達することができました。

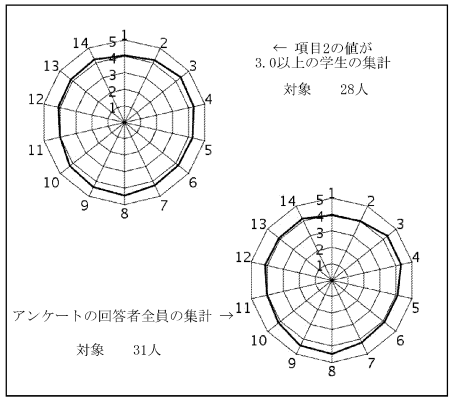
また、学生が中国語の勉強に興味が涌くように、授業では時間が許す限り、中国語の勉強以外、中国の文化や中国人の習慣、日中文化の差異などのことについても触れました。多くの学生は興味津々に耳を傾けてくれました。

今後も学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を摸索したいと考えています。

外国語教育センター 外国語教育センター
陸　心芬　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 韓国朝鮮語III＜E・B＞ |
| 授業コード | 11G03-003 |
| 教員名 | 陸　心芬 |
| 教員コード | 101225 |
| 登録人数 | 40 |
| 回答数 | 31 |
| 回答率 | 77.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3の授業目標にしていた、初級レベルの基礎文法の習得や基礎会話ができることについて、おおむね達成したと言える。学生による授業の評価の設問項目の平均値が4を超えており、評価にそれが現れていると思われる。

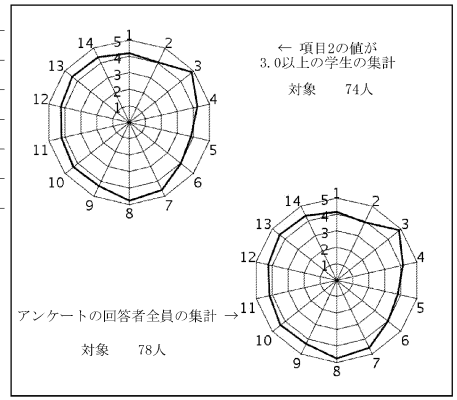
今回の基礎文法の重点は、用言の活用が自由自在に対応できるようにすることだった。用言の語尾が文法的な要素と組み合わせることで様々なパターンに変わるので慣れるまでには多少時間を割り当てる必要があった。学習プリント及び宿題のチェック、小テストの段階を通して学生の間違いやすい点を繰り返し注意し確認させながら指導を続けた。特に、可能な限り個別チェック及び細かい説明を重ね、学生の理解度が深まるようにした。なお、学生が授業を積極的に取り組む姿勢は「分かる、できる」ようになった時によく現れたことから、今後も授業の内容がより「分かる、できる」ように可能限り個別指導を続けて行うつもりである。

学生の自由記述欄の良かった点としては、「授業の進み方のパターンが決まっているので取り組みやすかった」「声が聞き取りやすい点」があった。改善すべき点としては、「進行速度が早いなと感じた」「簡単だよーと煽らないでほしい」があった。改善点については、今後、学生の状況をより把握しながらニーズに合う授業になるように工夫を続けたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
石崎　保明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | ことばとは5 |
| 授業コード | 13E02-005 |
| 教員名 | 石崎　保明 |
| 教員コード | 102444 |
| 登録人数 | 92 |
| 回答数 | 78 |
| 回答率 | 84.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



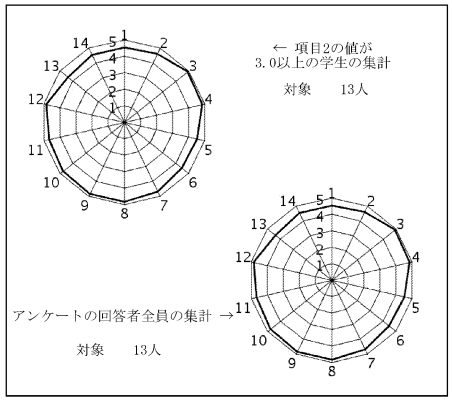

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、今回初めて担当する学際科目で、かつ、様々な学科の学生が多く受講するということもあり、可能なかぎり日常的な事例を題材とすることによって、言語のさまざまな側面に関心を持ってもらうことを主たる目標としました。学生からの自由記述から、その目標をおおむね達成できたと考えます。数値データについては、学際科目の平均値と比較してみると、いずれもわずかではあるものの、14項目中11項目で平均値を超えました。平均値を下回った3つの項目（項目4, 5, 9）についてもほぼ平均値と同じであったものの、自由記述欄と照らし合わせると、授業の進度がやや速いこと、授業中に映したスライドの文字が見えにくかった、という２点でやや評価が下がったものと考えられます。これらについては、初めてで不慣れな授業であったことに加えて、設置審の関係上、この科目のシラバス内容を担当者で変更することが難しいということもあり、結果として提供する情報量が過多になったことが原因であると考えられます。シラバスの変更が難しい点については次回以降も続きますが、改善点としては、時間をかけて扱うべき内容を厳選することによって、より良い理解を引き出すような授業運営を試みていきたいと考えています。

外国語教育センター 外国語教育センター
KJELDGAARD, Marie　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語ワークショップD＜全＞3
授業コード 14A04-003
教員名　KJELDGAARD, Marie
教員コード 103478
登録人数　19
回答数　13
回答率　68.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



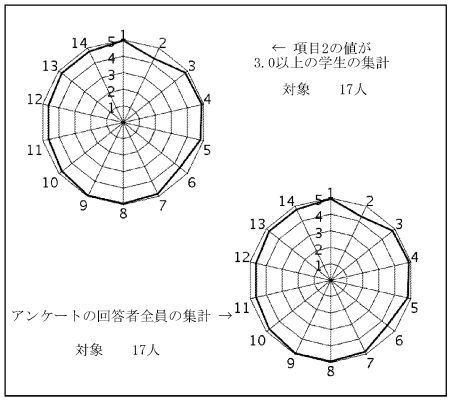

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was a workshop class, aimed at developing students' English ability through instruction about another subject in English. The topic of this class was comics in English. Students learned about the history of comics, different comic types, and styles of art and writing that are used in comics. I believe that students in this class were able to achieve the course goals.
According to student comments, the format and pace of the course were well received. Students also felt that class exercises and materials were appropriate and understandable. As a large portion of the class materials were designed for native-speaker level students, I was especially glad to see that students felt those materials were comprehensible.
Students were a little less confident in their own progress in class, with a few students not sure they understood the course goals, or uncertain that they had been able to achieve them or learn new skills. However, overall the comments were quite positive, and students seemed to value the class contents.
For the next quarter, I will try to explain and outline the class goals more clearly, and provide more feedback so that students can be more confident in their progress. I will continue to carefully introduce and explain the challenging course materials.

外国語教育センター 外国語教育センター
FILER, Benjamin　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　実践英語IA＜全＞試験対策TOEIC2
授業コード 14A09-002
教員名　FILER, Benjamin
教員コード 103850
登録人数　22
回答数　17
回答率　77.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

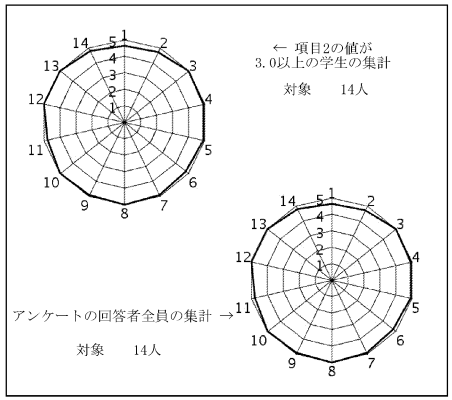
There were two main goals of this course: to help students to get familiar with the TOEIC test, and to learn various strategies to help tackle the test. I am satisfied that I met these goals. I did have an advantage with the first goal because the majority of the students were already familiar with the test before starting. In terms of increasing their knowledge of specific test taking strategies, I feel that I acheived this goal. I am pleased to see the results of the survey that was conducted - the students' feedback is extremely gratifying.

There is one comment that I will take into account when I tesch this course again. The comment relates to the student wishing there was a stronger focus on vocabulary learning on this course. Therefore, I will endeavour to include this in my planning of this course in the future to meet these needs. I have also reflected personally on this course and think it would greatly benefit the students if I spent some time in class looking at the most useful methods of self-study for TOEIC once the course is finished. This would mean that the students are able to continue their TOEIC preparation by themselves.

外国語教育センター 外国語教育センター
MORRISH, Jaime　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 実践英語IC＜全＞試験対策IELTS3 |
| 授業コード | 14A11-003 |
| 教員名 | MORRISH, Jaime |
| 教員コード | 103479 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 73.7% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

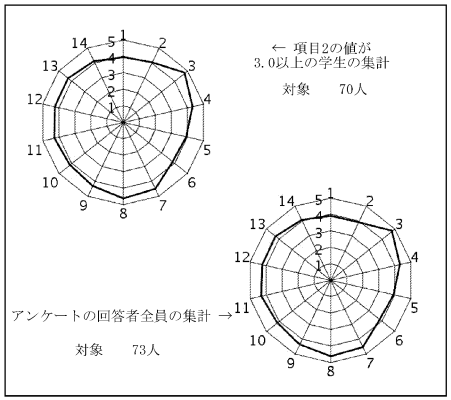
The course objectives were completed by all of the students, this was reflected in the feedback I received where students commented that they had ample opportunities for interacting in English and practising a variety of past examination questions. The students' attendance was mostly very good with only a few students missing more than 2 classes, and only 3 students missing 3 or more and none missing more than 5. The overall motivation and attitude was very good. I aim to give the students as many opportunities as possible to interact with each other, one aspect that received positive feedback was the random allocation of partners so that all students had the chance to talk with everyone in the class. The students seemed to appreciate this as it was reflected well in the student feedback I received. I will take the quarter 3 comments and feedback on board and strive to improve the class as a whole. Maintaining those things that worked well and improving on those that didn't work so well. Overall, this class is very enjoyable and rewarding to teach. I hope that by taking note of the comments from the students, I can improve on what is already a great class. I feel that by varying the in-class activities and changing partners and group members regularly contributes to a lively classroom atmosphere. Also, by keeping the students' on a continuous class by class assessment through the homework they submit in conjunction with their attitude and performance in class, helps me achieve an accurate overall assessment of the students' abilities. This also allows me to make a good prediction of their score for the actual IELTS examination.



外国語教育センター 外国語教育センター
六川　雅彦　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 日本語教育入門 |
| 授業コード | 24C05-001 |
| 教員名 | 六川　雅彦 |
| 教員コード | 101221 |
| 登録人数 | 195 |
| 回答数 | 73 |
| 回答率 | 37.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の自己点検・評価報告を書くのは、今回がクォーター制が始まって2回目であるが、前回に比べて全体的に評価が高かった。前回の問題点が改善できたということだと考えている。また、到達目標の達成具合に関しては、今回の評価コメントから、おおむね達成できたと判断している。以下いくつかに絞ってもう少し詳しく述べる。

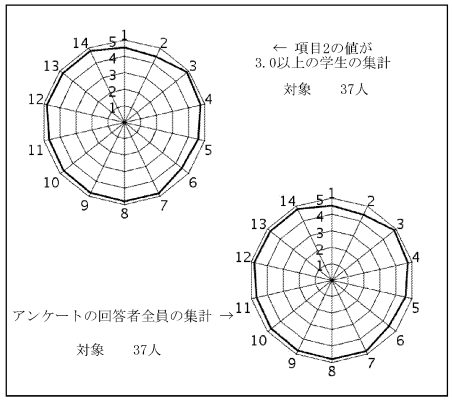
まず、評価全体の平均値に関しては、0.15ぐらい改善できた。平均値が4.0を超えた設問の数は前回が9だったのに対し、今回は10と微増であったが、前回平均値が3.5を下回った設問が2あったのに対し、今回は1つの設問を除き全て3.9を超えていた。最も低かったのが設問6の3.82であったが、その設問6は前回3.45であったことを考えると、大幅に改善できたといえる。また、前回は「2」「1」と評価した学生がそれなりの割合で存在したが、今回はその割合も激減していた。

最後に自由記述に関しては、授業の進め方、私の熱意に関する好意的なコメントが最も多かった。この点には満足している。否定的なコメントとして最大数だったのは数人の学生からの板書の文字の大きさのコメントであった。初めて使う階段教室ということもあり、時々自分の文字を教室の後ろから確認して問題ないと思っていたが、予想以上に視力に問題のある学生がいたようである。次回以降はもう少し気をつけたい。

体育教育センター 体育教育センター
飯田　祥明　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スポーツ科学論2 |
| 授業コード | 12D08-002 |
| 教員名 | 飯田　祥明 |
| 教員コード | 103610 |
| 登録人数 | 60 |
| 回答数 | 37 |
| 回答率 | 61.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目の目標は、「トレーニングによる身体の適応について理解・説明できる」、「身体機能を向上させるのに有効な食事・休養などの生活習慣について理解・説明できる」、「人間の運動の仕組みについて筋骨格的なメカニズムを理解・説明できる」、「学んだスポーツ科学知識を実践し、結果を適切に評価できる」であった。全ての目標に共通して、知識を持っているだけでなく活用・説明できることを目標として掲げ、講義科目ではあったがクイズ形式や演習形式の内容を積極的に取り入れた。自由記述回答に「自分で考えることができた」という旨の回答が多かったことから、目標の達成度は全体的に高かったものと推察される。

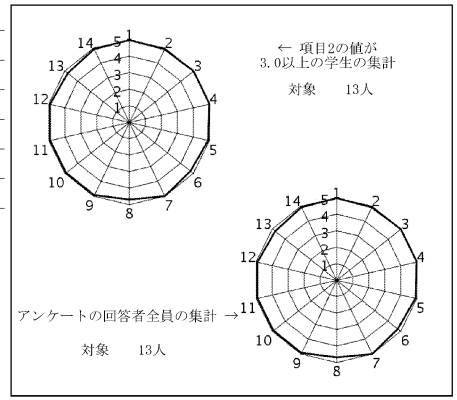
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
設問3以下の問いのうち、問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」だけが4.5を下回る評価であった。この点に関しては、授業理解度を確かめる機会が少なかったことが原因だと考えられる。また、自由記述による「改善すべき点」として、ディスカッションのテーマの曖昧さと最終レポートの規定の連絡の甘さが指摘されていたため、次回は改善に努めたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
最終レポートを学んだスポーツ科学の実践として位置づけ、受講生も積極的に調査や実践に取り組んでいた。ただ、準備時間が不足していたようなので、次回以降は最終レポートの内容提示を序盤に行うようにしていきたい。

体育教育センター 体育教育センター
平川　武仁　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スポーツ実技(健康スポーツ)バドミントン |
| 授業コード | 14E04-001 |
| 教員名 | 平川　武仁 |
| 教員コード | 101419 |
| 登録人数 | 33 |
| 回答数 | 13 |
| 回答率 | 39.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



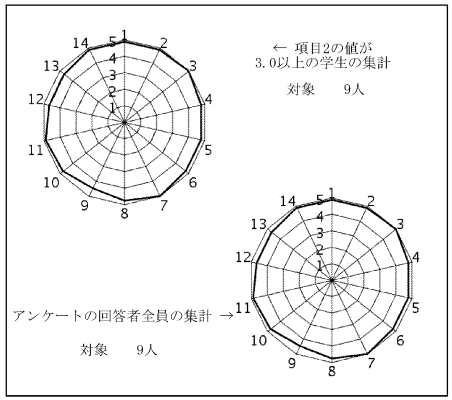

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、テニスの「ルールを理解」し、実践できる「技能」を修得していること、マナーを遵守し、実践できること、ゲームの審判、試合の企画・運営ができること、バドミントンで発生しやすい障害・事故の知識があり、対処方法を理解し、実践できることであった。
授業内容に関する設問3から14の平均値が4.90、これらの設問の平均値で4.69から5.00という評価が得られたことを総合すると、学修目標は概ね達成された、と考えられる。
しかしながら、設問5、8、13の平均値が若干低かった点（それぞれ4.66、4.77、4.77）に関しては、今後、さらに学生との対話の機会を設け、善処していく所存である。
また、設問3、4、7の平均値が高かった点（平均5.00）は、授業を展開する姿勢が評価されたと理解し、今後も継続していきたい。
また設問4で高い得点（5.00）を得ることができていたことは、学習者に対して授業計画を明示化し、学修内容を構造化して、授業を展開していることが学修者に伝わっていることとの成果として捉える一方で、設問6、13の平均点（4.77）が今後も高まるように、学修者の力をつけてきている実感や知識の獲得を促進する授業を構成し、授業改善を続けていく所存である。

体育教育センター 体育教育センター
中路　恭平　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スポーツ実技(生涯スポーツ)バスケットボール |
| 授業コード | 14E05-003 |
| 教員名 | 中路　恭平 |
| 教員コード | 015255 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 9 |
| 回答率 | 50.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



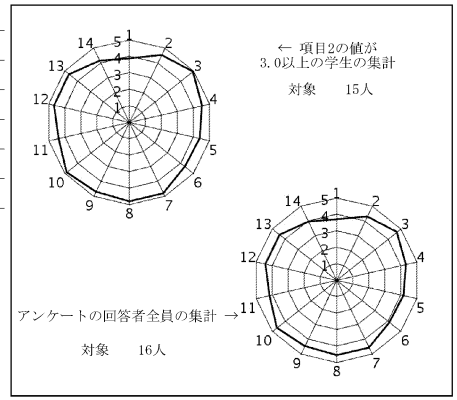

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業登録者が18名であったが、アンケート回答者が9名と半数しかいなかったことがまず残念だった。
しかし、回答してくれた学生の評価は概ね高く、授業においての学生の反応も良かったので、開講当初に設定していた目標はほぼ達成されたと感じる。
この授業は選択のスポーツ実技であり、男女共修のクラスであった。バスケットボールの経験者が多く、初心者は3分の1程度であった。全体的にレベルが高い中で、初心者がどのように自分の役割を見つけてくれるかが一つの課題となったが、練習内容によっては初心者だけ集めて解説を加えながら実施することで理解を深めようとした。また、ゲーム場面においては、初心者のゴール成功時の得点を大きくしたことによって、積極的にシュートトライアルをしていた様子が見られた。ただ、自由記述を見ると、もっと初心者に手厚い練習を行っても良かったと思われ、今後の参考としたい。
バスケットボールというゲームの特徴上、どうしても体格差でハンディキャップが生じ、男女一緒に行うことの難しさがある。かといって、女子クラスを作っても人数不足で成立しない可能性もある。社会に出ると男女一緒に行っているクラブが多いので、このような男女共修のクラスで行うことも学生たちにとって良い経験となるだろうと考える。

人文学部 人類文化学科
関口　哲矢　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 日本史概論 |
| 授業コード | 22C03-001 |
| 教員名 | 関口　哲矢 |
| 教員コード | 103639 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 16 |
| 回答率 | 64.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



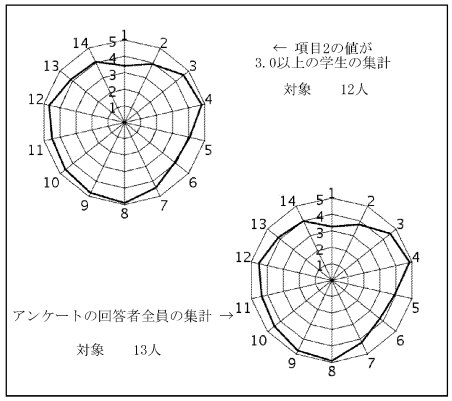

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、日本近代史の基本的な事項を定着させること、知識を自分の言葉で表現でき個々の知識を関連づけることを狙いとしています。
コメントに質問を取り上げたことへの好印象がありました。質問内容を紹介するようにしておりましたが、それが受講生の共有事項として浸透したようで何よりです。学生がすすんで考える授業にも好評価がありました。要所で質問を投げかける進め方がよいアクセントになっていたのでしたら救われた気がします。一方で厳しいコメントもありました。授業ルールが管理的ではないかということです。確かにもっと学生の自律性に委ねることができたかもしれません。ただ私のルールはさほど厳しいものではないと思います（出席者にのみプリントを渡すことや、始業とともに出席カードをくばることなど）。
2限通しで行うことへの工夫が足りなかった点が心残りです。何よりチーム報告会の準備時間の確保が厳しかったです。準備会を4回設けるとしたとき、セメスター制では4週間確保できますが、クォーター制では半分となり落ち着いて進めることができません。また内容面の精選が必要だとも感じました。じっくり考えてもらう場面が確保できなかった感があるからです。学生に考えてもらう展開を実現するには、必要最小限の内容だけ授業で取り上げ、残る事項は予習復習で補ってもらうなどの工夫が必要です。
最後に、貴重な課題を提供してくれた学生の皆様に感謝します。

人文学部 人類文化学科
竹下　至　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　知識と社会
授業コード 22C21-001
教員名　竹下　至
教員コード 103135
登録人数　47
回答数　13
回答率　27.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

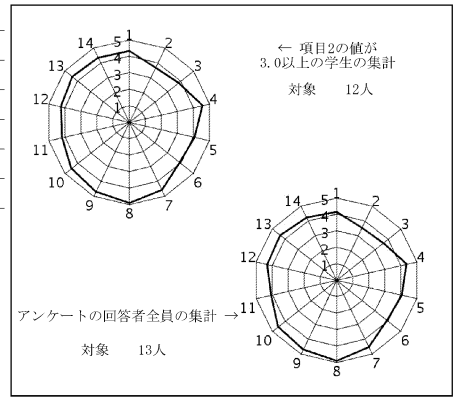
①について
開講当初に設定していた目標は、科学にまつわる哲学的問題を理解するというもので、その達成度には学生毎に大きな差があった。これはレポート課題の出来映えを見ての判断であるが、アンケート設問6（学生本人の判断、実感を反映していると思われる項目）の値にもこのことが反映されていると思われる。
②について
今回気になったのは、設問1（「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」）の値が低かったことである。学生は授業選択の際にシラバスを見てある程度は興味を持てる授業を選んでいるものだと思っていたが、そうではないあるいはそうできない学生が予想よりも多い（あるいは今回は多かった）ことが分かる。この点について十分配慮できていなかったことが、上で触れた学習到達度のばらつきの一因になっているのかもしれないと推測している。
③について
上記の反省点から、元々当該授業に興味・関心を持っていない学生の学習意欲を駆り立てるような工夫が必要だと思われる。このため、授業で扱う内容について背景から説き起こすということは当然行ってはいるが、そうした導入部分にもっと時間をかける必要があると思われる。また、講義内容と日常的な事柄とのつながりをより強調して興味・関心を引くということも忘れずに行うことにしたい。



人文学部 人類文化学科
亀井　伸孝　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化と進化
授業コード 22C32-001
教員名　亀井　伸孝
教員コード 102690
登録人数　58
回答数　13
回答率　22.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
文化と進化をめぐる人類学の最新の知見を、体系的に紹介することができた。目標は、十分に達成した。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができた」
「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めた」
「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていた」
「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じた」
などの各点において、高い評価を得た。履修学生における学びが大いにあったと自己評価している。

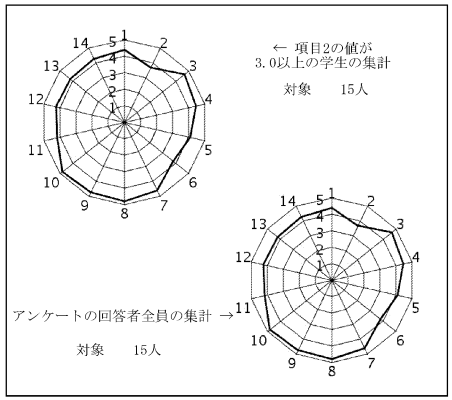
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
映像を用いたワークショップ形式の授業実践、体系的なデータ収集と分析方法を教示することで、調査のスキルが身に付いたという記述があり、このような取り組みは今後も続けたい。大学祭時期に重なる補講と課題に関する苦情が1件あったが、学生の要望を聞きつつも、楽することができる授業を目指すつもりはなく、この点は今後とも毅然として指導をするつもりである。

以上

人文学部 人類文化学科
奥野　絵美　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　東アジア考古学C
授業コード 22C40-001
教員名　奥野　絵美
教員コード 150648
登録人数　60
回答数　15
回答率　25.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

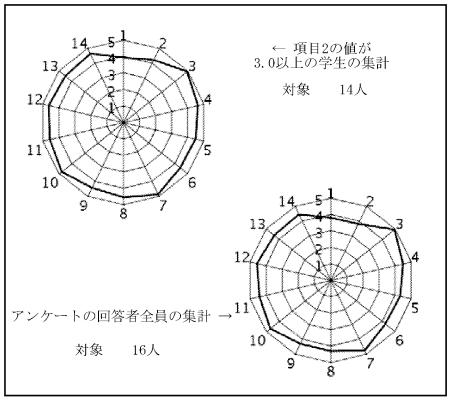
目標到達について、シラバスでは、「1.考古学の遺跡調査の意義と基本的手法を知っている。2.環境考古学の基礎的な研究手法を理解している。3.自然環境と人間活動のかかわりを考えることの意義について、独自の観点から意見を述べる事ができる。」の３つを目標にあげた。授業では基本的事項の解説は予定通り行えたが、その分発展的内容が少なくなってしまった。また途中、基本事項に関して授業内容を追加したこともあり、シラバスのスケジュールとは大きくずれることになったので、今後の改善が必要に感じた。次回以降のスケジュールを今回の結果を踏まえて組み立て直したいと思う。

前年と比較して、授業の方法自体の評価は上がったように感じたが、引き続き予習や復習の方法を生徒が難しく感じているように思う。内容的に難しい部分もあるが、教材の内容を工夫して、取り組みやすいようにしたいと思う。授業のメリハリをよくし、生徒が今後授業後も学習を続けるくらいに興味を育てるようにして行きたい。

人文学部 心理人間学科
児玉　克己　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　福祉論
授業コード 20A11-001
教員名　児玉　克己
教員コード 102510
登録人数　89
回答数　16
回答率　18.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

地域包括支援の重要性が高まっている現在、「福祉」という言葉の意味が、「社会的弱者の救済」と代表される意味合いだけではなく、自分たちの生活全般において深い関わりがあることを知り、受動的に、ときには能動的に関わっていることを理解し、その関わりの中で、何を感じ、何ができるのかを学ぶ機会になってほしいとの講義内容であり、おおむね授業目標は達成できたのではないかと思っている。

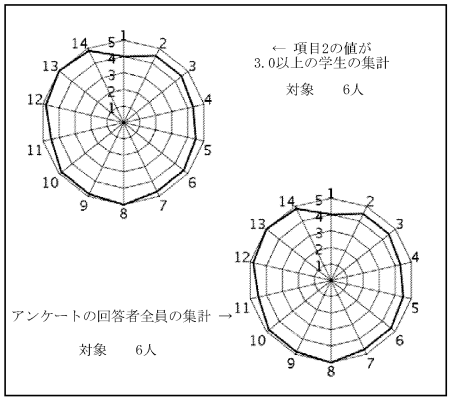
日々の生活の中で「福祉」に自らが関わっていることの再認識してもらうために、家族や友人、知人等との会話において、「しあわせ」とは、「いきる」とは、「ささえる」とは何か等を、日常的に語れる学生の意識を高めることを目指した講義内容を今後の目標にする。

学ぶことが一方的な講義（児童・しょうがい・高齢等の現状や資料説明）に終止することなく、自らが考え、発言する機会や意見交換ができる学生参加型の講義形式にしていくことを考えている。

人文学部 心理人間学科
脇田　貴文　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理教育データ解析法
授業コード 23363-001
教員名　脇田　貴文
教員コード 101105
登録人数　20
回答数　6
回答率　30.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業では統計ソフトRを使い、心理・教育データの分析を行うことができるようになることが主眼である。卒業研究の執筆において必要な統計的知識・スキルを伝達することを目的としている。学生全体を見れば、ＰＣ操作の得意不得意、統計知識のレベルによってばらつきはあると思うが、概ね目標を達成できていると考える。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
回答者が６名ではあるが、いずれの項目に関してもほぼ5,4の評価であり、学生の望む水準は達成できていると考える。自由記述においても、「知りたいこと、欲しい情報が得られたと思う。」という記述が合ったことから概ね目的は達成できている。それ以外の記述は無かった。
講義時の学生の取り組みに関しても熱心であり、十分教育効果が得られていると考えられる。

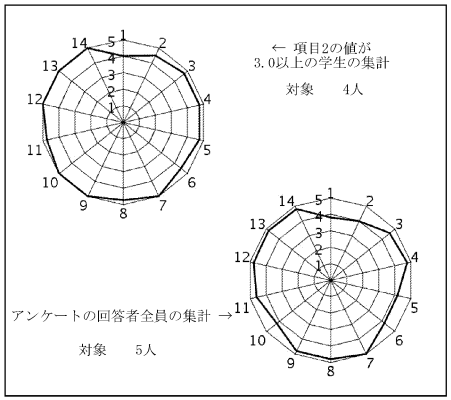
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
本科目は今年度で終了する。なお、内容の一部は心理教育統計法に含める予定であるため、反応の良かった内容に関しては踏襲する。



人文学部 心理人間学科
神田　浩史　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域開発と人間関係I
授業コード 23C64-001
教員名　神田　浩史
教員コード 103071
登録人数　29
回答数　5
回答率　17.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



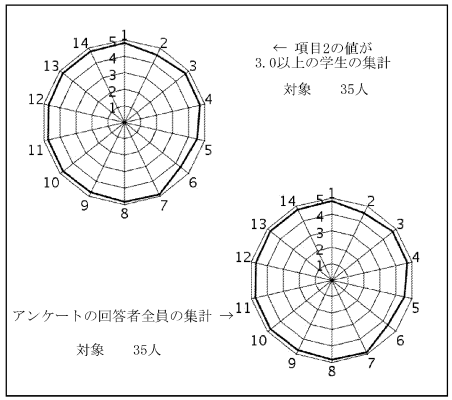

授業評価結果を踏まえた点検・評価

・受講生総数に比して回答学生数が少なく、数値としての有意性を限定的なものとしている。
・オムニバス形式で学ぶ形態であるために、それぞれの回で授業の到達目標との関連を考える必要があるが、そこについては本アンケートからは学生がどのように受け止めたかはわかりにくい。
・設問10において1をつけた学生が見られる。授業においては、私語などが極めて少ないので、これは遅刻対応についての評価かと思われる。遅刻については、いちいち咎め立てはしていないが、成績には反映させていることは学生には十分に伝わっていなかったものと思われる。
・先述したように、回答数が少なすぎるので、この評価で良しとするわけにはいかないと考えている。それは、Q3の受講を前提としたQ4の受講生数の少なさにも現れている。

人文学部 日本文化学科
吉川　望　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文章表現法1
授業コード 24C08-001
教員名　吉川　望
教員コード 101123
登録人数　48
回答数　35
回答率　72.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

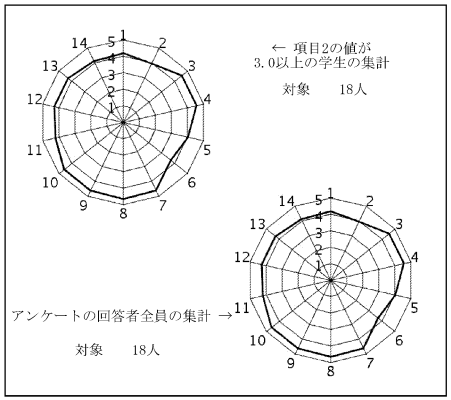
この授業は、文章技法の解説と文章作成演習を行い、添削して翌週返却するという形式で進めている。集計結果をみると、全項目において平均以上、「全体的な評価（設問13・14）」も肯定的評価が9割を超えていたので安堵した。また「自由記述欄」の「良かった点」には、文章技法が段階的に身につく、教員による添削と他の人の文章を参照できることが効果的だったなどの記載があった。書画カメラを用いた講評のほかに、今学期は特にピア活動の内容を工夫し、意見交換の回数を増やした。このような他者の意見に触れる機会が学習意欲を高めることにつながったとすれば、よかったと思う。毎回の提出原稿には真剣な取り組みとその成果が見て取れるものが多かった。したがって概ね当初の授業目標は達成できたと思う。

今後改善すべきと思われるのは、時間内に書き上げられない学生、習熟度が十分に上っていないと感じている学生への対応である。昨年度以来2コマ連続の授業のため、課題演習の時間は以前より増やせている。また解説内容や時間配分にも毎年工夫を重ねてきており、上のような学生の数は多くはない。よって、今後はさらに、授業内での個別指導をきめ細やかに行うようにしたいと考えている。

人文学部 日本文化学科
猪瀬　千尋　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本芸能史
授業コード 24C16-001
教員名　猪瀬　千尋
教員コード 103661
登録人数　89
回答数　18
回答率　20.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



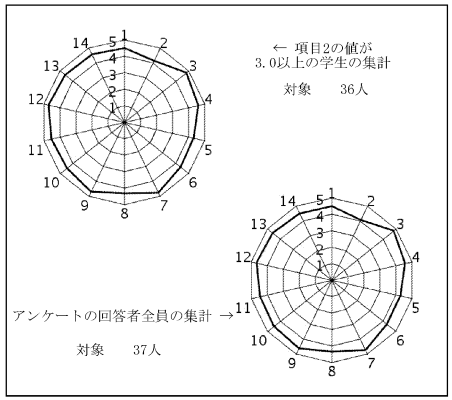

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
基本的にシラバス通りに進むことができた。一方で思いの外、時間がかかる部分と早く終わってしまう部分があり、それぞれの場合に応じた対応（要点をしぼって話すこと、トピックの周縁についても話すこと）を入念に準備する必要があることを感じた。到達目標としてシラバスでは（１）芸能が時代や社会とどのように関わり合うのかを理解している。（２）芸能の特色について理解している、の二つを掲げたが（１）については未到達の部分も多いと思われた。時代・社会に関わる知識を、きちんと説明していく必要があると感じた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
視聴覚資料を使用したアクティヴ・ラーニング等（雅楽を流しそれぞれで、拍子をとってもらう等）、学生の能動的な思考を促すような手法は効果的であったと考えられた。反面、受講生の知識・情報を考えず（人文学部以外の受講生も多く含まれていた）、難解な内容に踏み込んでしまったこともあり、トピックを話す上で前提となる知識を共有していくことが必要であると考えた。板書についてもやや乱雑な部分があり、今後は授業ノートをしっかりとまとめた上で、板書をしていきたいと考えている。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記①②でも述べたが、やはり授業トピックの前提となる知識を、まずしっかりと伝えなければならないことを痛感した。その点を踏まえ、学生の興味を促すような講義に努めたい。お昼あけの三、四限という通しの授業で、伝統芸能という多くの人にあまり馴染みのない内容でもあり、受講している学生については、忍耐強さが求められる講義ではなかったかと考えた。「雅楽が流れる授業であるせいか、どの授業よりも静か」という授業コメントがあり、どう捉えるか悩んだが、ほどよい緊張感の中で今後も講義が続けられたらと考える。

人文学部 日本文化学科
安井　永子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 社会言語学 |
| 授業コード | 24C53-001 |
| 教員名 | 安井　永子 |
| 教員コード | 102889 |
| 登録人数 | 67 |
| 回答数 | 37 |
| 回答率 | 55.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



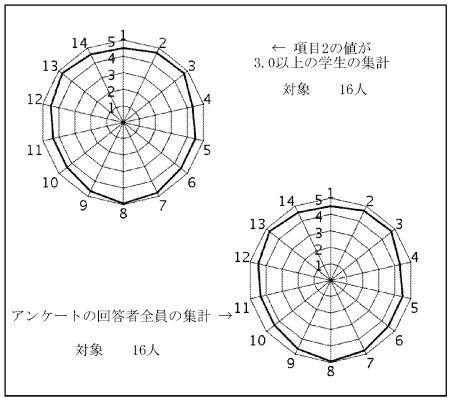

授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートでは、「授業のトピックに興味を持った」、「日常会話にかんして新しい発見があった」、というコメントが複数見られた。数値データでも、設問１３「この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったと感じますか」という項目で高い評価を得ることができた。これらは、日常における「当たり前」に気付き、日常会話を形成する微細な仕組みについて理解するという本授業の重要な到達目標が概ね達成されたことを示しているだろう。アンケートでのコメントには他にも、「学生からの質問へ丁寧に答えていた」、「説明が丁寧だった」、という意見が複数あった。数値上でも、設問３、７、９、１１、１２で高い評価が得られていた。これらは、学生のレベルとニーズにあった授業が提供できたことを示していると考えられる。リアクションペーパーの提出を毎回義務付け、学生とのコミュニケーションの手段として用いたことが功を奏したと感じている。一方で、アンケートからは、工夫すべき点があることも示された。特に、授業内で扱うビデオの音声が小さい場合があったこと（教室が広すぎることも一因かと思われる）、授業のレジュメの配布方法を工夫する必要があること（受講人数が多すぎるため、紙媒体のレジュメの配布ではなく、ウェブクラスにアップすることにしているが、それを不便に感じる学生もいるようである）などが今後の課題である。また、多くの学生が意欲的に予習や復習をしたわけではなかったことも問題である。毎度少なからず課題を設けるなど、学生にとってもう少しチャレンジングな授業にする必要があるかもしれない。

人文学部 日本文化学科
伊藤　恵美子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 日本語教育教材研究 |
| 授業コード | 24C62-001 |
| 教員名 | 伊藤　恵美子 |
| 教員コード | 102909 |
| 登録人数 | 23 |
| 回答数 | 16 |
| 回答率 | 69.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



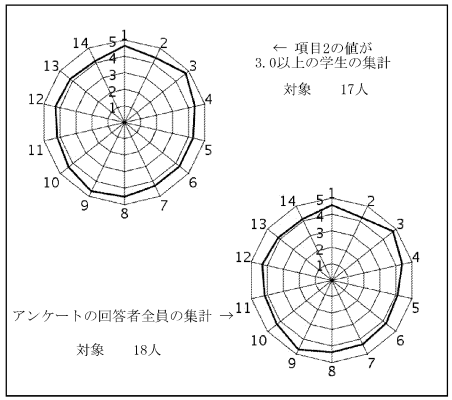

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、日本語教育教材のレベル別特徴を知っている、日本語教育教材のスキル別特徴を知っている、日本語学習者のニーズに合う教材が作成できるようになる、の３つである。教材のレベル別特徴・スキル別特徴・学習者のニーズを理解してから、教材作成を行った。今年度もコース開始後の履修中止がなく、全ての学生が最後まで教材作成に前向きに取り組み、全員が合格であった。よって、目標は達成できた。全項目の平均値も設問3～14の平均値も4.58で、全体（前者4.27、後者4.31）・日本文化学科（前者4.45、後者4.50）の平均値を上回っている。授業の開始・終了時間、教員の授業に取り組む姿勢、新たな知識の獲得や理解の深まりは4.75、教員の声は4.94と高く、学生の満足度は4.56であった。自由記述式設問で授業の良かった点として「日本語教育教材を実際に作って発表し、共有できたこと」「講義だけでなく、他の学生の意見を聞けたり、グループワークで協力して作り上げるという点で、学びが多く、良かったです」「積極的なグループワークの推奨、質問への適切な返答等、生徒を良質な学習に導く素晴らしい手腕の発揮されていたところを挙げればきりがありません」とある（そのまま引用）。対象が２年次以上で選択科目なので履修生の知識に差があり、一人ひとりの学修レベルに合わせるのは制度的に難しい面はあるが、安定した成果を収めているので、今後も引き続きこのような評価が得られるようにしたい。

外国語学部 英米学科
クマイ　恭子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー[G]2
授業コード 11A07-033
教員名　クマイ　恭子
教員コード 101131
登録人数　19
回答数　18
回答率　94.7%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



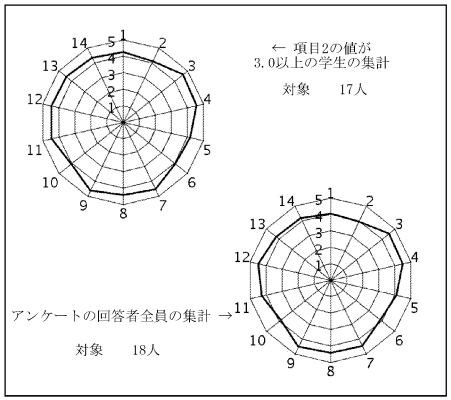

授業評価結果を踏まえた点検・評価

よりアカデミックで洗練されたエッセイライティングと精読・多読力の向上を目標とした。英文エッセイは概念レベルから日本語のそれとは異なるものを要求されるため、言葉や表現の選択、ロジカルな文章構成などが課題となる学生が多かったように思う。Independent　Writerになるということを目指してもらうため、ドラフトを必要とするエッセイと、最初からファイナルヴァージョンで提出するエッセイとの両方を課した。リーディングではテキスト以外にも時事的内容を扱ったもの、学生自身が選んだ記事などの報告を行ったが、読むという行為にどうやって興味を持ってもらえるかが教員としての課題のような気がしている。ただ、学業への興味というのは、学生自身の内から湧き出てくるもので、教員にできるのはさまざまなあり方を提示して、その「内」にあるものが大きくなってくれるようにと、ある意味祈るような気持ちで行うことしかできないこともまた真実だと思う。それでも多くの学生がQ3当初よりもファイナルエッセイで向上したところを見ると、練習課題をそれなりの回数こなすことには大きな意義があると感じた。

外国語学部 英米学科
橋本　惠　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　作家作品研究(イギリス文学)B
授業コード 31287-001
教員名　橋本　惠
教員コード 014068
登録人数　103
回答数　18
回答率　17.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

題目　児童文学とファンタジー
[講義概要]　この授業は演習形式と講義形式で行われる。
文学作品を文化と関連させて読む。そのためにテキストとして作品を読むと同時に、歴史、社会的、文化的背景を学ぶ。これを科目の基本的姿勢として、二十世紀および今日の英米小説の代表的作品をよみ、文学と文化について考えることが科目の内容であり目的である。２０１８年度は、テキストとして英語圏の児童文学とファンタジー文学を取り上げる。
[授業方法]
１．　講義で取り上げる作家、作品の文化的背景、歴史的背景について、資料を用いて解説する。これは文学や芸術の重層的理解の為である。
２．　当該の作家の代表的作品は必ず実際に読解する。作品内容に触れることを重視する。
３．　アクティブ・ラーニングの手法を用いる。
４．　文字テキストに加えて、DVD、オーディオテープ、図版、写真を用いる。
[評価]　講義を受けている学生一人一人に文学作品にまた作家に、いかに興味を持ってもらうことができるか。さらには、イギリス文学、イギリス文化により興味を持ってもらえるか。これらの事柄を念頭に置き、講義を行った。このことが評価されたと考える。
　また、アクティブ・ラーニングの手法に基づいて行った学期中の小レポート、感想エッセイ、そして質問時間を設けたことは、学生の授業受容度を知る方法として有効であったと評価されたと考える。

外国語学部 英米学科
RICART, Michael　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | Academic English A III3 |
| 授業コード | 31A03-003 |
| 教員名 | RICART, Michael |
| 教員コード | 103617 |
| 登録人数 | 28 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 10.7% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

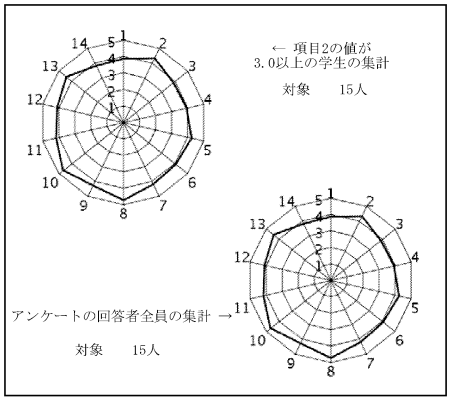
授業評価結果を踏まえた点検・評価

On completion of the course, students should be able to:
①Listening. Students have done well in both classes regarding listening tasks, formal talks and academic lectures.
② Reading. Many students are developing scanning and skimming techniques to find key information.
③ Crtitical Thinking. Students are deepening their understanding of arguments and counter arguments to view points.
④ Discussion and Debate. Students practiced informal discussions and debates, and are considering other view points in debates .
⑤ Presentations. Students made informal class-fronted presentations, expressed confidence and better skills than previous quarters.
⑥ Posters. Students designed posters detailing information and research which they personally carried out.
⑦ Papers. Students submitted papers using APA format and citing references. Still some students are weak at writing papers, and more instruction is needed to improve this.
2. As I have taught this class before, and have also appreciated, I taught my lessons with enthusiasm. Again, my biggest setback is my lack of technological skills which the students need for making presentations. Through support of my colleagues I have compensated for this problem.
3. I look forward to the next semester as they will cover two of my favorite topics, politics and history. I am working on the lessons to provide students with clear and understandable information to develop the goals of the next quarter.

外国語学部 英米学科
ESSERTIER, Joseph　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | Special Topics in English: Contemporary Japan C |
| 授業コード | 31C23-001 |
| 教員名 | ESSERTIER, Joseph |
| 教員コード | 103540 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 15 |
| 回答率 | 62.5% |
| 休講回数 | 4 回 |
| 補講回数 | 4 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

In general, I was satisfied with both my performance and the performance of the students in my course on contemporary Japan—my first time. Most of the students had excellent attendance. A few participated very actively in discussions and shared with the whole class and small groups. Most did the readings regularly, but some did not do them or had difficulty understanding them. That is understandable. Since they read about literature, culture, politics, and even economics, the content was not easy. I did choose the easiest-to-read, high-quality, short readings available that would teach them a lot in a short time in terms of content and academic English vocabulary, but there were many new words for them and they had to use their dictionaries a lot.

I gave them three quizzes to check their comprehension and evaluate them. I plan to do that again, as it allowed me to know where their weak areas were right away, and the first quiz showed the weaker students that they would need to work harder. Towards the end of the course, all the weaker students were studying diligently. I would like to provide them with more study aids, such as lists of key vocabulary and comprehension questions, from the beginning if/when I teach this course again. Next time I will aim to know the schedule of classes in detail and plan accordingly.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
HOPKINS Mariella 先生

## 2018年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スペイン語V[FS]1 |
| 授業コード | 11D05-001 |
| 教員名 | HOPKINS Mariella |
| 教員コード | 103653 |
| 登録人数 | 15 |
| 回答数 | 4 |
| 回答率 | 26.7% |
| 休講回数 | 2 回 |
| 補講回数 | 2 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

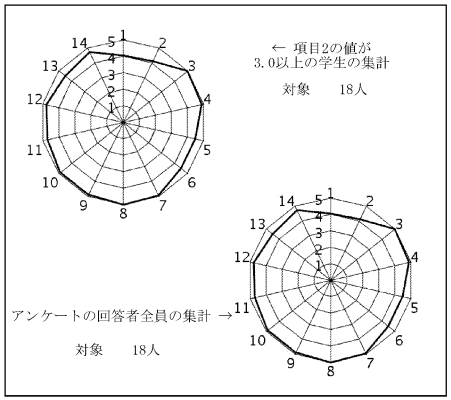
(1) Los objetivos del tercer trimestre fueron integramente cumplidos, tanto en el desarrollo de las clases como en la realización de las tareas. Los alumnos han demostrado un mayor interes en las diferentes actividades realizadas en este periodo. Se han realizado videos con muy buenos resultados, interecciones en clases que nos permiten una mayor fluidez en la lengua, actividades grupales y en parejas para una mayor interaccion.
(2) De acuerdo a los resultados de la encuesta vemos necesario poner mayor énfasis en la estructura de las clases, dejando claramente establecido las metas que debemos alcanzar en cada unidad y en cada clase, para lo cual daremos mas detalle e intercambiaremos opiniones. De igual forma es importante que exista una retroalimentacion en relación a las tareas para que se pueda dar una orientación mas adecuada que permita que los alumnos las realicen sin dificultad.
(3)Como objetivos para el próximo trimestre vemos impresindible dar a los alumnos mayores herramientas e informacion sobre el proceso de adquisicion de una segunda lengua(en lo oral, lo escrito, etc), por lo que desarrolleremos nuevas estrategias de comunicacion que permitan alcanzar estos objetivos.



外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria 先生

## 2018年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 上級スペイン語IIB2 |
| 授業コード | 32A21-002 |
| 教員名 | GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria |
| 教員コード | 103652 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 90.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



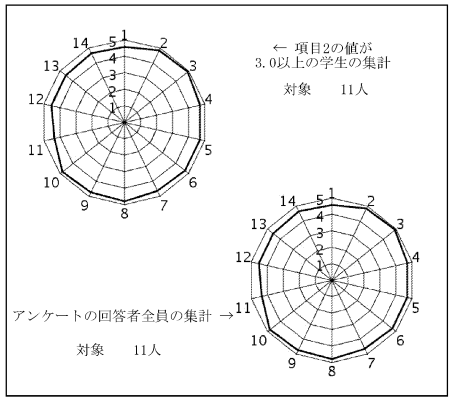

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the beginning of the course were overall achieved. We completed the material scheduled for Quarter 3 and I am sure the students learned a lot in class. However, we also faced some challenges. The content was sometimes difficult for the students as the topics to be covered required specific vocabulary regarding life in the future. We spent extra time learning vocabulary and phrases so that we could use it in the conversation. Another lesson covered included expressing in a conversation format, students' own feelings about love, hardships in life, relationship issues, heartbreaks, etc. The students sometimes seemed reluctant or shy to express their own feelings so the conversation among them and in an open class with professor seemed difficult to freely flow.
To avoid these silence gaps in the conversation class in the future I will use more role plays using make-believe characters and make-believe scenarios to make them relaxed about the topics in the book. I will also give them more vocabulary homework as additional study material.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
JAIME LAZO, Alan Christian 先生

## 2018年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 上級スペイン語IIB3 |
| 授業コード | 32A21-003 |
| 教員名 | JAIME LAZO, Alan Christian |
| 教員コード | 103654 |
| 登録人数 | 23 |
| 回答数 | 11 |
| 回答率 | 47.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

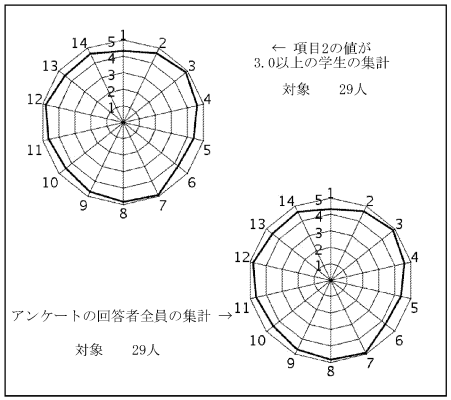
The main goals of this communicative course are to identify and use texts suitable to express personal opinions as well as to describe interpersonal relationships. To a certain extent the development of pedagogical activities in the textbook has contributed to check how some essential patterns determine many interactions associated with social values, economic development or technical progress. In doing so, every student is aware that it is the beginning for several paths of specialization in the Spanish language and I consider that they are able to find the adequate resources so as to deepen their future fields of interest. This is because most of students now can recognise the communicative functions of text such as advertisements, interviews, discussions, opinion articles or decalogues.

Overall, in spite of the fact that there is an a acceptable perception for this subject, it will be necessary to rethink about how our students are building their identities from the perspective of communicative Spanish and if somehow those potential users are able to participate actively in different communities apart from university classrooms. To make use of appropriate strategies while writing or speaking has been one of the most frequent advice during these lessons, but these must be sharped by special aspirations.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue 先生

## 2018年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 上級スペイン語IC2 |
| 授業コード | 32A22-002 |
| 教員名 | ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue |
| 教員コード | 103464 |
| 登録人数 | 34 |
| 回答数 | 29 |
| 回答率 | 85.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標を達成することができたと思っております。学生の発想から作文力を引き出せたと確信しています。
自由記述欄には、「わかりやすい」ということばがありました。前クオ―ター―の改善点を確実に直せ、目標を達成することができたため、
次クオーターへも引き続き行っていきたいです。
今後行っていきたいことは、文房具や色、画用紙を準備し授業で自由に使えるようにしたいです。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
SALA, Lidia　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 上級スペイン語IV2 |
| 授業コード | 32A27-002 |
| 教員名 | SALA, Lidia |
| 教員コード | 101563 |
| 登録人数 | 23 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 13.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

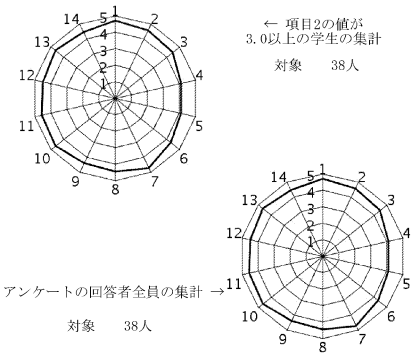
Although few students completed the evaluation, I believe course objectives were achieved. An average of 4.5 in  in questions 15 show that students feel that they improved their reading skills.  Results in question 3 show that they perceived the course demands as very high (3.88 average) but, also, felt they acquired knowledge at the end (Q13, average 4.3). As this year clase materials and class objectives were renewed, high averages in questions 5 and 9 (5 in both) are highly appreciated.

As for next year, I am planning to keep working towards making classroom a atmosphere of constant engagement, but also positive, relaxed and prone to learn. Finally, to overcome learning difficulties, I am determined to provide a more individual attention to the students when necessary.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
APAZA, Pablo　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | GLSスペイン語I |
| 授業コード | 48A21-001 |
| 教員名 | APAZA, Pablo |
| 教員コード | 100878 |
| 登録人数 | 44 |
| 回答数 | 38 |
| 回答率 | 86.4% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



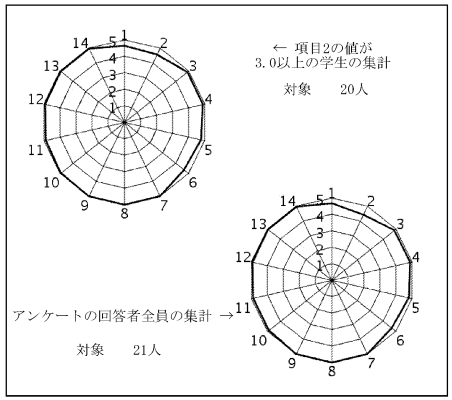

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals presented in the syllabus were understood by the students and on the diagnostic of the first class, according to the needs of the students, we realized that they choose the class because they had lots of interest about Spanish language and countries, and because the native speakers and students of Spanish as a second language is growing fast in the world.
The goals were achieved during this quarter, we could do much better, but the number of students 45, for a conversation class and a classroom size were difficult to have a dynamic group conversation, so most of the learning and practice were in pairs.
We did a hard work in class, and a very enthusiastic performance to make the students interested in the Spanish language. It’s hard trying to have a conversation class with lots of students, but in general we did it, with the help of the students all the time.
As the students wrote on the comments, they did and learned lots of new things considering that 99 % of the students started the Spanish language for the first time.
Finally, we think that for the next quarter, we hope to have a bigger classroom to work much better, which may help to work in groups properly.

外国語学部 フランス学科
LAUTIER Fabien　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス語VI[FF]2 |
| 授業コード | 11B06-004 |
| 教員名 | LAUTIER Fabien |
| 教員コード | 104047 |
| 登録人数 | 27 |
| 回答数 | 21 |
| 回答率 | 77.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

After watching the results of the enquiry that has been done in my class, i have been glad to read that the students enjoyed the way i taught them french and they could progress a bit along the third quarter. For me, it has been a bit difficult at the begining because of the amount of structures, grammar and vocabulary i had to teach them. We spent almost the whole class doing a text compré hension and grammatical explanations. The part of oral production was too short i think.  the students might have needed more oral production. That's why i am planning to change a bit the structure of my class so that i will focus a bit more on the oral production. Moreover, i would like to try to insert linguistic games inside the class too.
In conclusion, i think the students enjoyed the way i taught them french and how i tried to help them. However, even if the students seem to enjoyed the class, there are some points i need to improve like giving more time to the oral production and trying to insert games so that the class will be more dynamic.

外国語学部 フランス学科
清水　ベアトリックス　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | コミュニケーション特論B |
| 授業コード | 33C02-001 |
| 教員名 | 清水　ベアトリックス |
| 教員コード | 047845 |
| 登録人数 | 9 |
| 回答数 | 3 |
| 回答率 | 33.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Preparation for this lecture was done meticulously so as to ensure that students' interest would will stimulated during 3 hours.

The goals for the third quarter were to get students communicating individually and interactively about a different theme each week and also prepare for a variety of oral examinations conducted in French. Chosen themes generally compared and contrasted similar situations in France and Japan, mostly concerning social issues. A lot of work was based on the study of newspaper articles and research was widely conducted on the internet.

By the end of the third quarter students' communication skills had really gained in momentum. They had improved their confidence in speaking in front of their peers, exchanging ideas and debating. The number of attendants was rather small and although students may not have responded to the online survey, they definitely showed interest in the course and satisfaction regarding its organization.

In the future, the lecture will continue to be organized along the same lines, always keeping in mind the students' fields of interests and adjusting goals to their individual skills and goals.

外国語学部 ドイツ学科
高畑　祐人　先生

2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 環境と倫理問題2 |
| 授業コード | 13D01-002 |
| 教員名 | 高畑　祐人 |
| 教員コード | 048736 |
| 登録人数 | 13 |
| 回答数 | 2 |
| 回答率 | 15.4% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず全体として受講者数の少ない授業の場合はたいてい、授業内容に対して積極的な関心を持っている学生が出席している可能性が高いので、高めの結果が出るものと思われる。全体としていえば、授業内容上（倫理学・哲学）、どうしても話は抽象的になるので、学生の満足度が低くなり、また一般教育科目であることで、学生が自分の学習過程の中への位置づけに今ひとつはっきりした意識を持ちにくいことは覚悟している。その点を少しでも改善するために、
(1)授業に対する学生の関心を喚起し維持するために、授業に関係する身の回りの具体的な出来事を導入に使う、(2)学生の理解度を確認するために、授業の中で学生に質問を発して学生の言葉を引き出し対話することを心がけた。また(3)学生の授業態度に対するこちらからの注意の仕方に関しては、言葉使いに留意し教室の雰囲気が険悪にならないように心がけた。今後もこうした点に留意した授業の仕方を持続させていきたいと思う。

外国語学部 アジア学科
廣田　緑　先生

2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | アジア芸術研究 |
| 授業コード | 35288-001 |
| 教員名 | 廣田　緑 |
| 教員コード | 103886 |
| 登録人数 | 21 |
| 回答数 | 2 |
| 回答率 | 9.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
各学生と意思疎通、議論のやりとりが可能な受講生数だったので、毎回集めるリアクションペーパーにコメントを返す、次回の授業開始時にコメントを発展させて議論するといった方法を取ることができた。そのため、細かい部分まで学生の意識を確認することができ、目標に近づくことができたと感じている。学生それぞれが自身の研究（卒論テーマ）に絡めて東南アジアの芸術に触れる意識が高まったと思う。

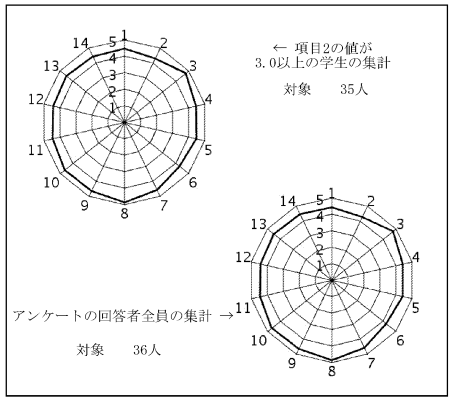
②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
受講生数、教室のサイズが講義内容にも適しており、伝えたいこと、学んで欲しいことが一人ずつに届けやすかった。
質問に対して、各学生が他者の考えに耳を傾けることができた。
基本的にはシラバスどおりだが、学生の反応を見ながら、興味ある点、卒論のテーマに関わりのある部分などにフォーカスし、学ぶテーマを選択させ対応することができた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
アカデミックな研究と、芸術制作の領域を結びつけ、制作者でなければ伝えられない部分を活かした授業、指導を行いたい。

外国語学部 アジア学科
金　美淑　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 韓国・朝鮮の言語と文化I |
| 授業コード | 35C01-001 |
| 教員名 | 金　美淑 |
| 教員コード | 102466 |
| 登録人数 | 49 |
| 回答数 | 36 |
| 回答率 | 73.5% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は語学と文化を同時に身につけれるという良い点もある反面、両方面とも時間的制約により深く学ぶことはできない悪い点も存在する。さらに、学生数が61名と多いため、外国語の初期学習時に必要なきめ細かな対応ができたか、ともて不安であった。しかし、学生のアンケート結果をみると、平均値よりすべてにおいて、数値が高かったのをみると、満足いく授業ができたのではないかと思う。

その中で、あえて低い数値の項目をあげると、「学生の努力」「到達目標に向けて力がついてきたか」に関しては、本授業の中の他の質問項目に比べて低いことが分かる。これは、学生の人数が多い授業ほど低くなるのは仕方ないようではあるが、次回の授業に向けて学生の努力を引き出すような課題を出してみる予定である。

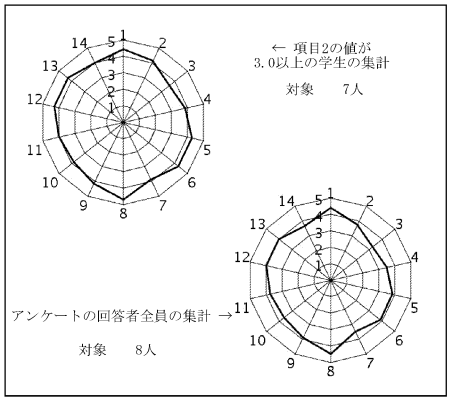
到達j目標の韓国語に関する基礎知識は概ね達成できていることと、朝鮮戦争以降の韓国についてもその知識が深まったことと思われる。

自由回答では、前回の復習をしたことに関しての好意的な意見が多かった。次回ではこのまま続けていきたいと思う。

外国語学部 アジア学科
加藤　久美子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | タイの言語と社会 |
| 授業コード | 35D14-001 |
| 教員名 | 加藤　久美子 |
| 教員コード | 100483 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 8 |
| 回答率 | 32.0% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

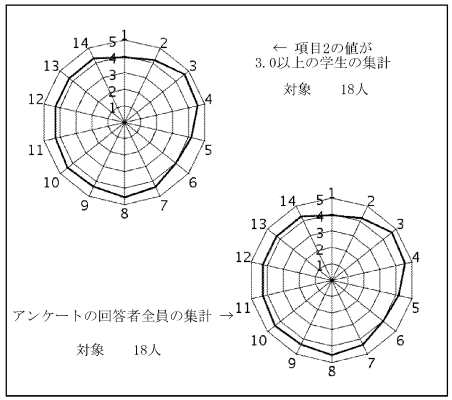
本授業の目標は、タイ語の初歩的な会話表現を身につけることと、タイの社会に関する基礎的知識を得ることであった。設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」に対して5点と回答した人が37.5%、4点と回答した人が37.5%であったことから、受講生の皆さんが目標達成に向けてかなりの努力をしてくれた結果、全体の4分の3の人が力がついてきていると感じていたことが分かり、うれしく思った。また、設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」に対しては、5点と回答した人が50%であり、到達目標との関連は分からないが、半数の人が授業を通して得るものがかなりあったと感じてくれたことに感謝している。

だが一方で、3点以下の評価も多く、反省・改善すべき点も多いことが分かる。自由記載欄を見ると、休講とその補講について意見を書いてくれた人が二人いた。授業を休講としてしまったことと、受講生の中で出席できない人がいる日時にその補講をせざるを得なかったことについては、全面的に教員に責任があり、受講生にご迷惑をおかけしたことに対して心から謝罪したい。また、授業ではグループワークをおこなうこともかなりあったが、シラバスにそのことを書かなかったことをはじめとして、この点でも一部受講生にはたいへん迷惑をかけたことが分かり、反省している。次回からは、このようなことがないよう気をつけたい。

経済学部 経済学科
神野　真敏　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 国際金融論A |
| 授業コード | 40D48-001 |
| 教員名 | 神野　真敏 |
| 教員コード | 103880 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 75.0% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、国際金融の中でも特に外国為替に対して様々なアプローチが存在すること、その上で、現実の金融政策が為替レートにどのような効果を発揮するのかについて説明しました。到達目標としては、外国為替レートがどのようなメカニズムで決定されているのかを理論的に理解でき、そして身につけた知識を応用し、外国為替レートの推移を自分なりに説明できるようになることを掲げました。

上記の目標を学生が達成できるように、できる限り分かりやすく、重ねて専門用語をできる限り学生に身近な単語に言い換えて説明するような講義を心掛けました。また、学生が眠くならないよう、視覚的な部分からの理解も高まるよう、講義資料にはPPTのアニメーションをふんだんに使うようにもしました。講義資料の作成にはかなり時間をかけたこともあり、講義における説明や用いた資料についてなど、全体的に学生から高い評価をしてもらえました。特に「授業運営」に関する設問や「全体的な評価」に関する設問などでは、相対的により高い評価をもらえたことはとてもうれしく思っております。

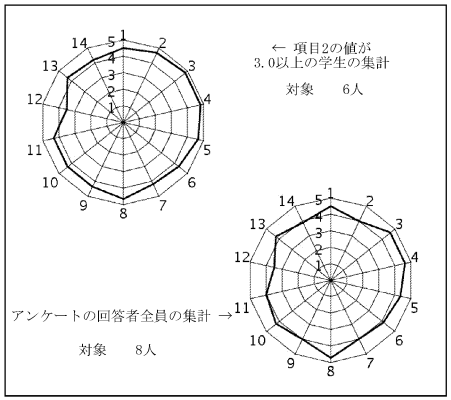
ただ、設問6に関しては、相対的には高いものの、まだ改善の余地があることを実感させられました。授業を聞いて、自分の頭で考え、そして、理解する中で、「そうなのか」、「そうだったのか」と、本当に「力がついてきている」と学生が実感できるように、さらに改善をしていきたいと思っております。



経済学部 経済学科
大橋　陽　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | アメリカ経済論B |
| 授業コード | 40D57-001 |
| 教員名 | 大橋　陽 |
| 教員コード | 102462 |
| 登録人数 | 64 |
| 回答数 | 8 |
| 回答率 | 12.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初下記のような到達目標を設定していた。

アメリカ経済の特定の問題について知識・理解を向上させる。

アメリカの中間層とその危機について、多角的な情報に基づいて批判的思考力を働かせて自らの見解を持つことができる。

アメリカの中間層とその危機について、自らの見解を文章化できる。

②担当科目に関する総合的な自己点検・評価

履修者数に比べて相当少ないわずか８名の数値データである。その乖離については、非常勤の私には推測するしか理解する術がない。それについてここで書くことはないが、授業満足度が3.88と他の項目に比べて低かったのは悔やまれる。だが、出席をしていた学生については、到達目標を達成したものと思われる。

クォータ制になって初めての授業担当であり、授業進行にかなりの戸惑いを覚えたが、２時限ワンセットの授業進行を念頭にシラバスも作成した。従来、アメリカ経済論A/Bに出講した際には、200～300名の履修があったが、今回は65名であった。履修者が多いものと思い込み、出欠はとらず、成績評価も定期試験100%にした結果、レジュメだけ持って帰る者、かなりの遅刻、２二限目から出席など、目に余る学生が多かった。

これは受講人数が少なければ十分に対応可能な問題である。

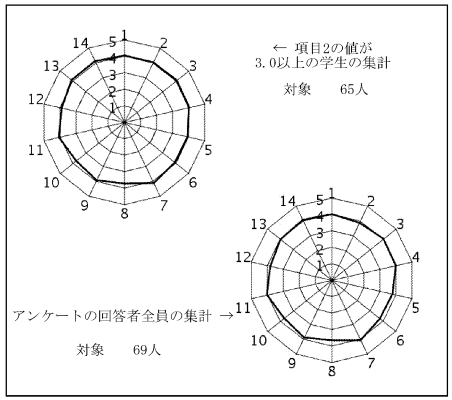
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

授業満足度が4.00は上回るようにしたい。また、質問の機会等についても数値が低めというのはかなり意外であった。確かに授業内容について質問する学生がほとんどなかった。従来の出講とは異なっていたので、この点を改善したい。

経済学部 経済学科
安藤　隆穂　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経済思想史B |
| 授業コード | 40D65-001 |
| 教員名 | 安藤　隆穂 |
| 教員コード | 100507 |
| 登録人数 | 427 |
| 回答数 | 69 |
| 回答率 | 16.2% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

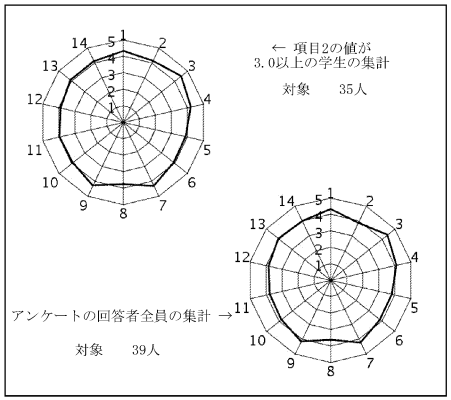
①　クオーター制としての春学期に次いで2度目の経験でしたが、やはりまだ不慣れで、失敗も多くありました。特に、時間配分が前回同様うまくいきませんでした。大教室での講義にもなかなかなじめず、板書の文字の大きさ、声の大きさ、マイクの使い方等、適切でなかったようです。また、今回は、事情があったとはいえ、開始1時間前に休講にしたことがあり、苦情をいただきました。お詫びします。今回の評価はとても低かったのですが、内容よりも、講義技術の問題と受け止めています。
②　受講者の皆さんの反響をみると、今回も、よい評価と悪い評価に大きく分かれ、中間が少なく、平均点を下げていると思います。今回も、全員に満足いただく方向が見いだせなかったということです。しかし、今回も、相当数の受講者から授業後に毎回熱心で内容の濃い質問を受け、手ごたえも感じましたし、とても水準の高いレポートにも恵まれました。長所は消さずに、改善したいと思います。
③　今回も、知識を幅広く獲得することよりも、経済思想史という方法意識を軸とする基礎的学力を身につけることを狙いとし、文学などの分野に積極的に踏み込みました。現代経済をみる上で直接役に立たないという不満が強くあることも察知しています。しかし、直接的効果という指標に惑わされることなく、方法意識の次元での基礎的学力を身につけることは重要と思います。初心は手放さず、講義技術を中心に改善に努めます。



経済学部 経済学科
服部　光訓　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 企業と業界の研究2 |
| 授業コード | 40E03-002 |
| 教員名 | 服部　光訓 |
| 教員コード | 101893 |
| 登録人数 | 146 |
| 回答数 | 39 |
| 回答率 | 26.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

「企業とは何か、働くことの意味は何かを理解し、主要産業の歴史と現状を知ることで自分のキャリアを考える」という学習目標は概ね達成できた。設問13の「新しい知識を得たり、理解が深まったと感じますか」の平均値が4.05 、設問14の「授業に満足しましたか」の平均値が4.00 だったことが、それを裏付けている。

到達目標の一番目は、新聞（電子版含む）を読む習慣の身につけることだ。１週間の経済ニュースの中から、一番関心を持った記事について、関心を持った理由とそのニュースの影響をリポートで提出することを義務付けている。この授業評価とは別に求めた感想では、「初めて新聞を読むようになった」「初めは宿題のためにしぶしぶ読むことにしたが、回を重ねるうちに、個別の出来事の背景には共通した点があることがわかってきた」などの感想が目立った。「授業とは別に今後も読んで自分の意見をまとめる作業を続けたい」との決意を表明する学生も数人いた。

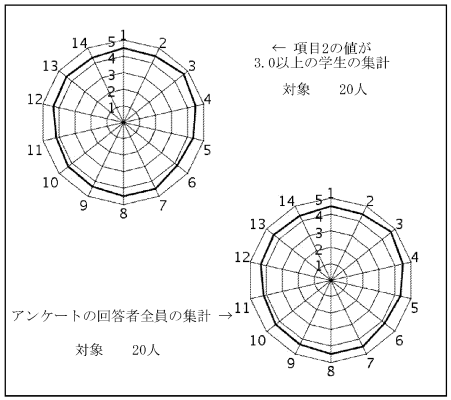
「リポートの採点結果や改善点を示して返却してほしい」との要望もあったものの、大人数の講義型授業では、実現が難しく要望に沿えないのは残念と思う。

パワーポイント資料の印刷後に発生した最新情報を画面で追加表示する方法も評価されたようで、設問7の「誠実さ・真剣さ」の平均値も4.23と高かった。春の要望では、追加画面もプリントで配布してほしいとの要望もあったので2回追加資料を配布した。

経済学部 経済学科
森川　信子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　時事英語B1
授業コード　40E07-001
教員名　森川　信子
教員コード　100136
登録人数　41
回答数　20
回答率　48.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

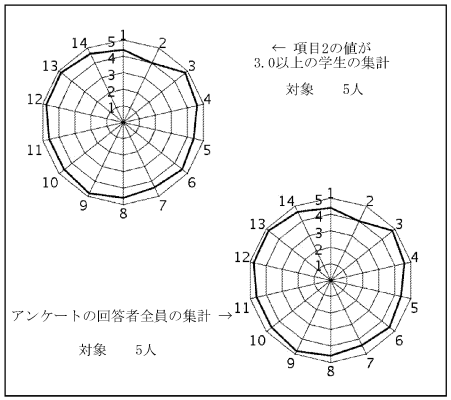
この科目では、The Japan Timesなど日本の新聞社が発行する英字新聞や通信社等の記事を収録したテキストを使用し、社会問題や環境、科学技術、スポーツなど身近なトピックを中心とした記事のリーディングを通して、英文記事に慣れながら読解力と語彙力を養うことを目的として、授業を行いました。アンケート結果のレーダーチャートを見ると、同じテキストで授業を行った今年度のQ1と比べて全体的に輪がやや大きくなっており、このことは前回の経験なり反省点なりを生かすことができて授業が少しは良くなったからと受け取ってもいいのかもしれません（あるいは何かほかの要因が影響しているのかもしれませんが）。学期を通して、とくに問題なく順調に授業を進められたとは思います。期末試験結果の集計がまだなのではっきりとは言えませんが、真面目に取り組んだ人は到達目標のラインに到達できたのではないかと思います。自由記述式の回答では、「リーディングに関して、基礎を再確認できる点」がよかったという回答がありました。基礎を再確認し、より難しい文章にも対応する力がついているならばうれしく思います。



経済学部 経済学科
仮屋　篤子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民法A
授業コード　40F04-001
教員名　仮屋　篤子
教員コード　102079
登録人数　25
回答数　5
回答率　20.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



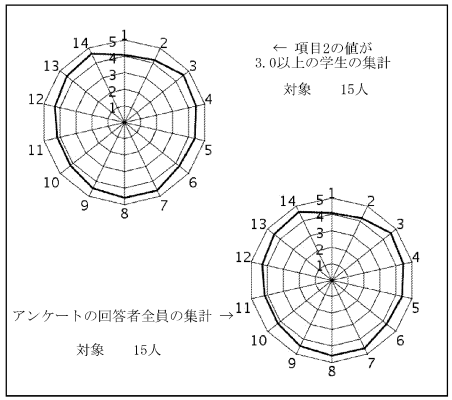

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初にに設定していた目標は、ほぼ達成できたと考えます。
教材は全て自作し、重要な用語を空欄にして授業中に埋めさせるなど、飽きさせない工夫がなされています。
また事例を多く出すことによって、問題を具体的にイメージできるようにし、学習への興味を喚起する工夫をしています。
学習の効果を図るため、小テストを実施し（3回）、学生の理解度の把握に努めました。
今回は、受講者数が少なかったため、小テスト（3回実施）については全て添削して学生に返還しました。
また、リアクションペーパーを毎回実施し、これに毎回授業で回答することにより、学生の理解と満足度のアップにつながったと思います。
学生のアンケート結果については、回答者数が少ないため、余り有意な結果が得られているとは考えられませんが、回答した学生については、授業の満足が得られたようです。
受講者数が多くなると、きめ細かな対応をすることが難しくなりますが、出来る限り今後も丁寧な対応をしたいと考えています。

経済学部 経済学科
村上　康司　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 商法A |
| 授業コード | 40F06-001 |
| 教員名 | 村上　康司 |
| 教員コード | 103658 |
| 登録人数 | 115 |
| 回答数 | 15 |
| 回答率 | 13.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

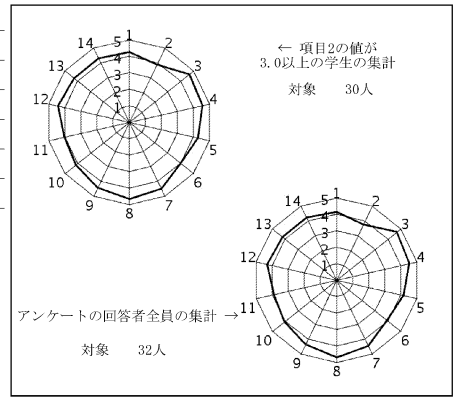
1)本講義は、ビジネス活動に関する法ルールとして会社法の基礎的知識を習得すると同時に、関連するトピックについても理解できるようになることを目標とした。成績評価は、小テストおよび期末試験によったが、いずれも平均点が昨年よりも高く、最終的に高い合格率に達したことは、学生の理解水準が十分であったといえよう。その意味で、当初の目標は相当程度達成できたものと考える。
2)本講義に対するアンケート結果は、おおむね高評価を得た。また、自由記述にも、肯定的な意見が寄せられた。個別項目を見てみると、項目１（4.07：当初の関心）のスコアと比較すると、項目６（4.27：学習の実感）を経て、項目１３（4.47：学習の成果）および１４（4.60：満足）と数値が上昇する結果が表れており、この点からも、学生の学習意欲におおむねかなうものになっていたのではないかと考える。
3)昨年度の結果を基に、講義内容の見直し（構成と導入資料の増加）を行ったことが良かったのか、一過性のものなのかは、ただちに判別しないが、上記のとおりの結果が得られた。もっとも、回答者数が決して多くはなく、それゆえに、「アンケートを真面目に回答する学生にとっては、一定の評価が得られた」というところが正しいのかもしれない。その他、多くの学生一般も、自らの学習成果が感じられるような講義内容のアップデートに努めていきたい。



経営学部 経営学科
余合　淳　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 人事管理論B |
| 授業コード | 42C28-001 |
| 教員名 | 余合　淳 |
| 教員コード | 103585 |
| 登録人数 | 76 |
| 回答数 | 32 |
| 回答率 | 42.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



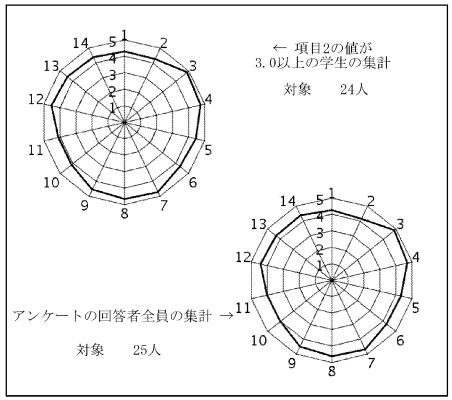

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
人事管理に関する基礎的な知識を踏まえ，企業に代表される組織と人のかかわり方，特に組織側の視点に立ち，組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて，特に理論と実践の関係性について理解することにあった。講義では，通常消費者，あるいは労働者として接する機会の多い企業のマネジメントを対象に，特に人材マネジメントの観点から，企人事や労働を学習した。レポート及び期末試験の結果からは，概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データ全体の平均値は，経営学科平均値より0.1～0.2程度高く良好である。満足度を問う問１４に関しても，平均値より0.2程度高い。特に項目８については高く，適切な声量で講義を行うことを心がけている。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
最も数値の低いものが予習復習と到達目標の理解であった。講義の中で到達目標を具体的に明示するような形をとっているが，その到達目標を達成しているかを学生がより確認しやすい形をとるような仕組みを検討する。また，予習復習を促すような課題を毎回課すことも検討するが，一方で毎回のレポート実施には講義内容の見直しが必要になるため，可能なレベルで適切に実施するものとする。

経営学部 経営学科
塩川　順久　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(電子・電機産業論)2
授業コード 42F03-002
教員名　塩川　順久
教員コード 103587
登録人数　99
回答数　25
回答率　25.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問５の”この授業の到達目標の理解度が低い”ことを考慮し、授業の目指す内容の説明をシラバスにも明記し
　授業時にも明確にしていきたい。
設問12で触れられてる質問や相談の機会について、出欠表にコメント・質問を書いてもらい、次回の講義時冒頭に
　出来る限り多くの点に応答したが、多くの学生に評価され喜んで貰えたので継続していきたい。
私語に関し何回となく注意し指導したが講師には限界があり、大学側・教務課等からの強い指導・教育が欲しい。
15回の講義を通じて、世界政治経済の歴史の中での電子電機産業の歴史と現状分析、Man Managementの需要さ、
　経営理念・基本方針、電子・電機産業の将来性、マーケティングに関しての興味が非常に高く私の講義内容も更に補強して行きたい。

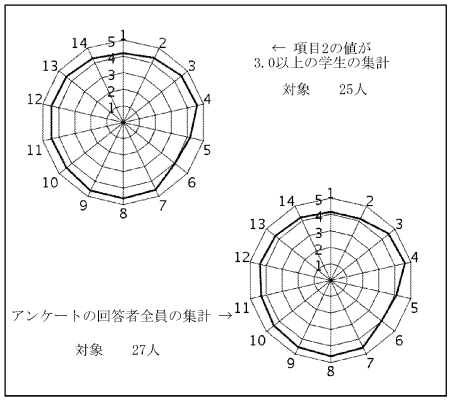
塩川順久



経営学部 経営学科
村井　清　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(自動車産業論)2
授業コード 42F04-002
教員名　村井　清
教員コード 103111
登録人数　100
回答数　27
回答率　27.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



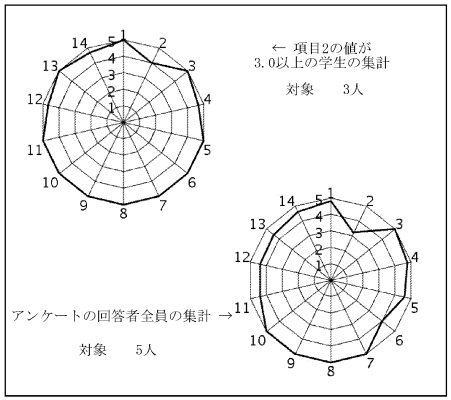

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達程度については、中間テストの解答、学生から寄せられた質問票の内容からみると設定した目標と到達の程度は満たしていると判断。一方「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の回答平均値が唯一３．９６と３点台であり、次回に向けて工夫を要する点と思われる。②学生の回答「新しい知識を得たり、理解が深まったと感じますか」４．３０「全体としてこの授業に満足しましたか」４．２２と登録者数別集計（６６人～１２０人）の平均よりわずかに下回っているが、他の項目をみると総合的には満足のゆくものである。特に月３・４限目連続授業から火４限目、金４限目に変更したことで学生の集中力が連続授業よりも改善され、教える側の授業準備をしっかり行うことができ双方に満足ゆくものであった。③改善点としては画面の展開が速すぎ（上映時間が短い）、学生の理解がついてこれない面を感じており、次回授業で資料配布など従来以上に工夫を加えたい。また前回までの出席確認方法は受講者名簿を回覧して記入させる方式であったが学生の一部からは「出席していない学生の分まで記入されている」とする不満があったが、今回は理解度テストを毎回実施し提出者を出席とした。このことは継続して実施し、加えて理解度を向上に結び付けるようにしてゆく。

経営学部 経営学科
水野　孝彦　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　商業簿記中級II
授業コード 42H02-001
教員名　水野　孝彦
教員コード 103878
登録人数　6
回答数　5
回答率　83.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

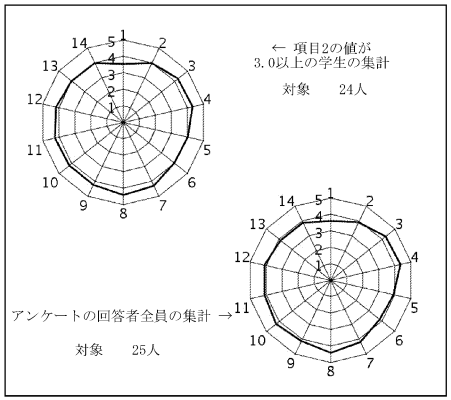
この科目は「商業簿記中級I」の継続科目に位置付けられており、日商簿記２級商業簿記の学習範囲の後半を扱いました。その内容は、最近の出題範囲の改正によって導入された新論点が多くを占めています。初回の授業で、これまでの簿記の学習経験（独学で２級を学んでおられる他学部生も複数おられました）や学習意欲を確認し、重要度の高い新論点（連結会計・税効果会計）を学びたいという希望も確認できましたので、履修生の了承を得たうえで、重要度・優先度の高い順で講義することが出来ました。テキストの解説と合わせて、問題集を使った問題演習を実施することで、少しでも知識や技術が身につき、興味・関心が沸いてくれたらと思って授業を行いました。一部、時間的制約から取り扱うことができない論点がでてしまい、目標の到達は完全ではありませんが、重要度の高いところは網羅的に学習することができたと思います。

全体的に良好な結果が得られ、ほっとしています。「分かりやすく学ぶことができた」「時間が限られていたため重要な点、難易度の高い項目を優先して解説していただけた」といったコメントをいただきました。この授業を通して得た簿記・会計の知識や技術は、企業の財務情報や経済事象を読み解くうえでも必要ですので、これからも興味・関心を広げていって欲しいと思います。

法学部 法律学科
前田　智彦　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法社会学
授業コード 44B33-001
教員名　前田　智彦
教員コード 103860
登録人数　114
回答数　25
回答率　21.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

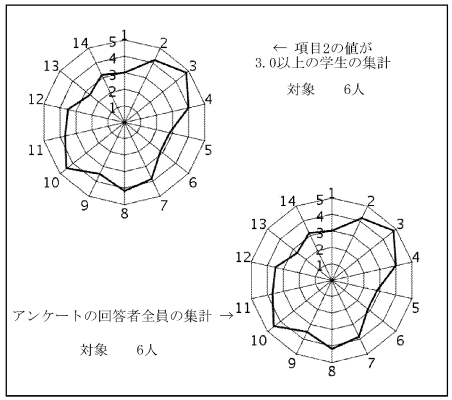
１：開講時に設定した目標は，学生が法学に対して社会科学的な批判の視点を持つことであったが，一部の学生については受講態度・レポートなどから目標に到達したといえる。
２：「ものすごく法学部向けというよりは他学部のための授業に思えました。申し訳ないのですが、あまり興味をそそられる授業ではありませんでした。」との自由記述があったが，法学部生こそ法学（あるいはリーガルマインド）の前提命題に対して批判の視点を持つべきであり，法社会学はそれに貢献できる数少ない科目である。そのような批判の視点を寄り道と考える学生が基礎法学科目を履修するのは教員・学生の双方にとって不幸であるので，シラバスや授業のイントロダクションでその旨を明確にしてミスマッチを減らすべきであったかとは考える。

ピアレビューを成績に反映することについて，悪意ある学生が成績を悪くつけるおそれがあるとの自由記述，および教務課を通じた申出があったが，学生相互の信頼感に欠けること，良い意味でのおおらかさに欠けることの証左で，南山大学の学生の偏差値的な「優秀さ」の弊害が出ているように思う。
３：今年度限りの約束で引き受けた非常勤であり，南山大学での改善予定はない。授業内容の準備に追われて，課題の詳細設定など細かな実施面に気が回りかねたことは反省すべきであったので，今回の講義資料を手直しして他校での授業に備えたい。

法学部 法律学科
石井　三記　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス法 |
| 授業コード | 44B39-001 |
| 教員名 | 石井　三記 |
| 教員コード | 101849 |
| 登録人数 | 62 |
| 回答数 | 6 |
| 回答率 | 9.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



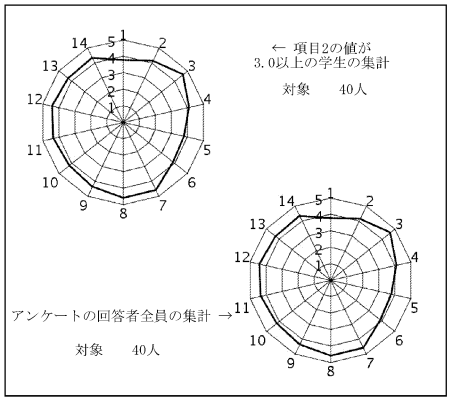

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①学修目標の「フランス法制度の基本的な成り立ちを歴史的に理解し、日本の法制度を広い視野から検討する参照枠を獲得する」ため、授業計画にそくして、フランス法の近代日本の法制度に及ぼした影響、フランスの裁判制度、憲法・民法・刑法について理解を深めてもらうようにした。
②上記の目標を達成するためにはフランス語など一定の基礎知識が必要となり、授業評価アンケートの結果は低くなっているが、アンケート回答者の数が少ないこともあり、一概にこの目標が達成されていないといえるか検討の余地があるようには思う。もちろん、授業アンケートの自由記載欄に「難しい」との記載もあるので、この点については、フランス社会やフランス語の知識がないと確かに難解と思われるが、逆に「フランスのことがわかり興味深かった」との感想も聞いた。
③上記の問題点も勘案し、今後は双方向の授業で理解の程度を確認し、また小レポートなどを課すことなどしつつ、当該対象国のことと日本の法制度の双方の理解を目指す二重の目標を堅持していきたいと考えている。

法学部 法律学科
川地　啓介　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 経済原論A |
| 授業コード | 44B52-001 |
| 教員名 | 川地　啓介 |
| 教員コード | 103289 |
| 登録人数 | 189 |
| 回答数 | 40 |
| 回答率 | 21.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、消費者と生産者の行動原理に加え、資源配分における市場の役割について理解できるようになることを設定し、授業期間内に授業目標に関する内容を講義することができた。しかしながら、授業評価の到達目標に関する項目および履修前の授業への興味に関する項目について、平均値が4を割っている。初回の授業で授業目標などを丁寧に説明しているが、今年度から開講時間を午後に変更して学生が履修しやすくなったことで、昨年度までと異なり授業期間の途中から履修変更してくる学生が目立ったことが要因として挙げられる。その他の項目については、おおむね良好だったと判断されるが、昨年度よりも僅かに下がっている。金曜日の授業のため補講日に授業が割り当てられたこと、最終授業の翌日の土曜日に試験を実施したことが、受講者への負担となり授業の理解度に影響した可能性がある。来年度は、上記の点を改善できるように、授業の到達目標の説明を何度も行うこと、試験までの勉強時間を確保できるように試験日を調整することに気をつけたい。さらに、例年以上に数式の理解に苦労する学生が目立ったため、グラフと文章による直感的な説明の比重を増やすことで受講生の理解を促すよう授業構成を工夫したい。

法学部 法律学科
水島　朋則　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 国際経済組織法 |
| 授業コード | 44C11-001 |
| 教員名 | 水島　朋則 |
| 教員コード | 103634 |
| 登録人数 | 11 |
| 回答数 | 2 |
| 回答率 | 18.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

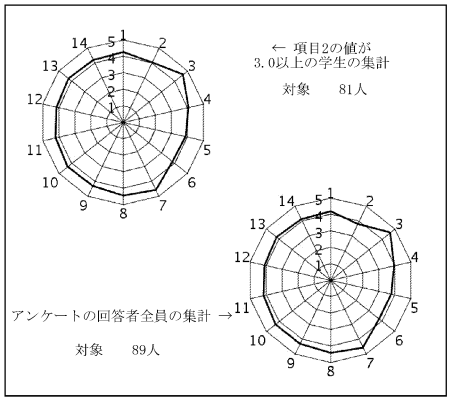
①この科目を初めて担当した前年度は（第２Ｑ）、開講当初に想定していた数の何倍もの受講生がおり、意欲のない学生が相当な割合で含まれていたが、今年度は幸いなことに受講者数が大幅に減ったこととも（11人）おそらくは関係して、目標に達していない学生（不合格）が、前年度は全体の約３割もいたが、今年度はこれも幸いなことに０人であった。その意味では、開講当初に設定していた目標は十分に到達したと言えよう。
②残念ながら回答者が２人のみのため、数値データの評価については留保したい。項目15に関して「今まで不十分だった国際感覚を持つことができた。」「レポートは大変だったけど、先生の解説を聞いて頑張ってメモする動機付けになった。結果、学びを得ることができた。」という自由記述があり（やはり回答率が低いことに留意する必要はあるが）担当教員が大学の授業で目指していることが評価されており、今年度は授業をした甲斐があったと感ずる。項目16に関しては「やや早口かもしれません…。」という記述があったが、本務校等でも以前から指摘されることがある点であり、注意したい。
③今年度は、成績評価の75%をレポート（計5回）によることとし、かつ、各レポートに対して簡単なコメントを付ける際に仮の点数を知らせたが、単位が取れれば成績の良し悪しは気にしない学生が思ったよりも多いようで、レポートの仮の点数が60点を超えた学生の中に、定期試験で明らかに手を抜いている者が見られたのは残念であり、来年度は何らかの対策を工夫したい。



総合政策学部 総合政策学科
梅田　守彦　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 会計学 |
| 授業コード | 46D08-001 |
| 教員名 | 梅田　守彦 |
| 教員コード | 103893 |
| 登録人数 | 155 |
| 回答数 | 89 |
| 回答率 | 57.4% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



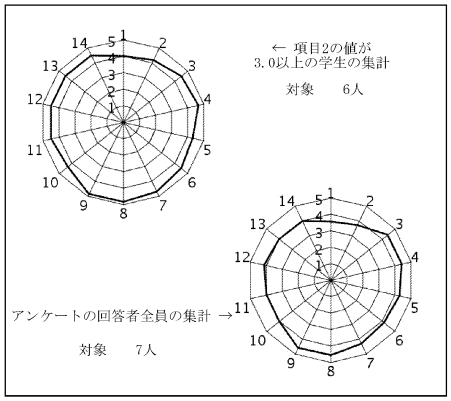

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
この講義では、貸借対照表・損益計算書の構造、簿記の基礎的考え方、経営分析の初歩について講義を進めた。説明を省略した項目もいくつかあるが、おおよそは当初に予定していた領域をこなすことができたものと判断している。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
各質問項目の評価値は、総合政策学部の開講科目の平均値とほぼ同じか若干下回るものになった。改善すべき点としてあげられたのは「難しい」「進度が早い」「どの部分を説明しているのか分からなくなる」「私語を注意すべき」などといったものである。一方で、自由記述項目の「よかった・評価できる」の回答数は「改善すべき点」に関するものより多く、「丁寧な説明であった」「プリントの資料が多い」などの肯定的な評価もそれなりに得たものと受け止めている。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
積み重ね型の科目はどうしても評価が大きく分かれる傾向にあるが、受講生の不満を緩和することができるように心がけたい。

総合政策学部 総合政策学科
柳澤　幾美　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　近現代史
授業コード 46D10-001
教員名　柳澤　幾美
教員コード 101592
登録人数　39
回答数　7
回答率　17.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



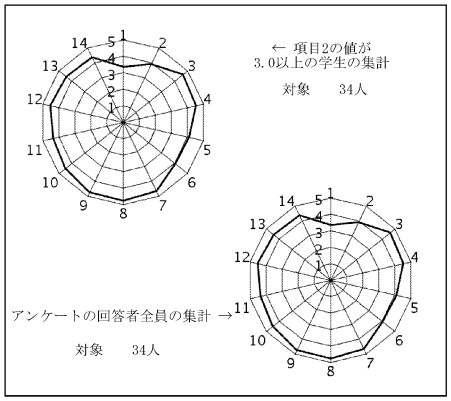

授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．開講当初に設定した授業目標
　a.　授業の内容について問題意識を持つこと
　b.　できるだけ授業に関与すること
　c.　マイノリティの視点を持つこと
　d.　歴史記述における権力の偏在を認識すること
２．その目標達成度
　上記目標を達成するために、毎回授業後にリアクション・ペーパー（コメント、質問）を課した。いいコメントについては次の授業の最初でなるべく紹介し、重要な質問には答えるようにした。回を追うごとに徐々に学生のコメントがよくなり、また反応もよかったことから、ある程度は達成できたのではないかと自負している。
３．担当科目についての点検・評価
　学生による当該科目の評価について、ほとんどの科目がほぼ平均値であった。自由記述はなかった。
４．次学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針
　今後も学生が充分に授業に関与できるよう、また問題意識を持てるように、誠心誠意を持って授業に取り組みたい。

総合政策学部 総合政策学科
柳田　純也　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　公会計論
授業コード 46N15-001
教員名　柳田　純也
教員コード 103883
登録人数　44
回答数　34
回答率　77.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



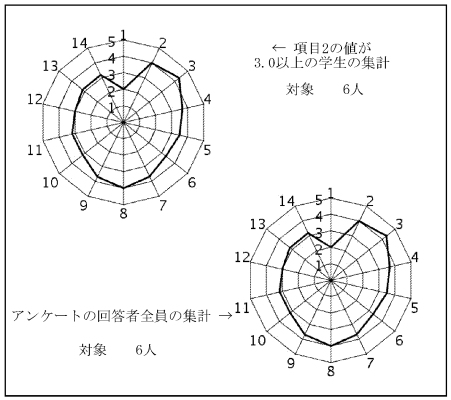

授業評価結果を踏まえた点検・評価

　本年度、南山大学にて初めて担当した「公会計論」では、講義と演習形式（コメントペーパーへの記入と意見交換）を実施したことにより、開講当初に設定していた到達目標を概ね達成することができたのではないか、と考えております。
　設問項目では、項目1から14の平均が4.36、項目3から14の平均が4.48であることから、履修する前より履修後の評価の方が高いことが読み取れます。自由記述では、「分かりやすかった、自分で意見を考える時間が多かった、内容が面白かった、リアクションペーパーをただ書くだけではなく、発表することで他の人がどのように考えているか聞くことができ、そういう考えもあるのかと、考えの幅をひろげることができた」等々、授業担当者の予想を上回る良いコメントをいただき、受講生の方々に心から感謝しております。
　一方、改善点をご指摘いただきましたので、今後の授業で修正・改善して行きたいと思います。具体的には、「ノートを作りにくい黒板でした、もう少し板書しやすい黒板をお願いします」というご意見をいただきました。この点は、ご指摘のとおりですので、今後の授業で改善するよう心掛けて参りたいと思います。授業で話すこと、伝えることに集中しておりますと、分かりやすい板書を実施することが疎かになる傾向がありますので、大変有益なご指摘です。ご指摘をいただき、ありがとうございました。

理工学部 システム数理学科
山本　修身　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　位相幾何学入門
授業コード　51B10-001
教員名　山本　修身
教員コード　101051
登録人数　83
回答数　6
回答率　7.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

「位相幾何学入門」は今年度から担当した科目であった。これまで「幾何学入門」という科目を担当してきた。「幾何学入門」では位相幾何学と微分幾何学を半々くらいの割合で解説していたが、新しい「 位相幾何学入門」では従来やってきた位相幾何学の部分に大幅に演習問題を加えて教える範囲としては以前の位相幾何学の部分から大幅に増えないように工夫した。位相幾何学の場合、初めてこの分野の数学に触れる学生が多いと考えられ、なるべく既存の数学との接点を強調して解説をしているが、授業内容に即した演習問題が学生のレベルに合わない部分も多少あったと考えられる。 アンケートの自由記述の部分でも小テストが難しいという意見があるが、内容的にはそれほど難しくなくても、計算が主体の数学とは異なり、物事を説明したり証明したりする部分がメインとなることから、難しく感じたのではないかと思われる。実際、小テストの解答を見ると、学生によって理解度に大きな違いがあるように感じた。このようなギャップを埋めるように来年度に向けてさらに改善していきたいと考えている。機械的な計算ではなく、柔軟に論理的、数学的な思考ができるようになることがこの講義の目標だと考えられるが、学生の持つ既存の知識や方法論をうまく利用しつつなるべくスムーズに数学的感覚を習得してもらうことが今後の課題である。

共通教育 仏語
遠藤　美加　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語I＜G＞
授業コード　11B01-012
教員名　遠藤　美加
教員コード　101551
登録人数　15
回答数　4
回答率　26.7%
休講回数　1　回
補講回数　1　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、国際教養学部２年生が受講する初習フランス語クラスである。目標として、基本的な発音、簡単な日常会話、平易な文章の読み書きができることを目指している。ネイティブの先生とペアとなるような授業として、フランスで出版されたテクストを主に用い、自然な会話、口語表現を習得しつつ、日本語の文法テクストで理論的理解を促している。語学を得意とする熱意ある学生が多く、初習クラスにしては、大量の学習事項・大量の文章にたいして、理解・習得が早い印象がある。クラスの大部分は目標を達成している。

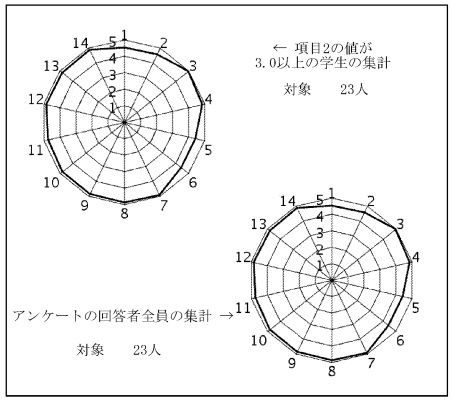
アンケートのウェブ登録を初めて経験した今回は、授業の最後に時間を設けたものの、一部学生が登録済みであったことから、学生の自主性に一任するように終了してしまい、結果少数の登録にとどまってしまった。これを反省し、次回はきちんと授業内に登録してもらうようにする。少ない回答の中、設問11で３の回答が目を引いた。学生の学習意欲を引き出すような適切な話題作り、自主的学習のための指導は、常に工夫を要する問題である。

Ｑ４はＱ３での学習を土台にし、新学習事項の分かりやすい導入と、学生の積極性に対応した比較的高度な課題の設定に心がけている。時間不足は感じているが、自然で楽しい会話の習得、仏検受験に備えた訓練、フランス文化の紹介等、様々なアプローチで授業を充実させるよう努める。

共通教育 仏語
NISHINO, Aurelie　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス語VI[FF]3 |
| 授業コード | 11B06-005 |
| 教員名 | NISHINO, Aurelie |
| 教員コード | 103640 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 23 |
| 回答率 | 95.8% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

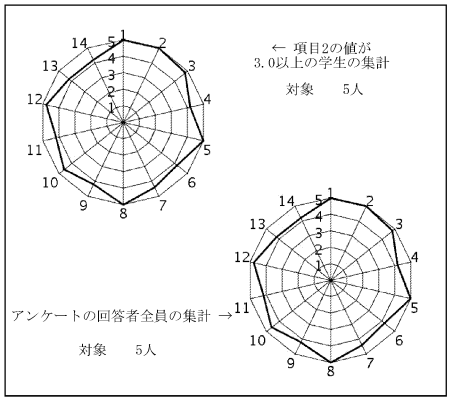
1. The goals for the lesson was to continue the students book and we manage to finish the parts that were planned to do, we also manage to do some review in the last lesson. Students were really motivated and it was easy to teach to them.
2. The subject I am in charge of is French and I think I manage to achieve the goals. It was quite difficult because we had to see so many new notions and the time was short but the students really tried their best.
3. For the next quarter, I think I have to be better organized in my time to be able to see a little bit more the grammar which seem to be a big problem for my students.



共通教育 仏語
HERGOTT, Florian　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | フランス語コミュニケーションの基礎 II3 |
| 授業コード | 33A02-003 |
| 教員名 | HERGOTT, Florian |
| 教員コード | 101725 |
| 登録人数 | 26 |
| 回答数 | 5 |
| 回答率 | 19.2% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



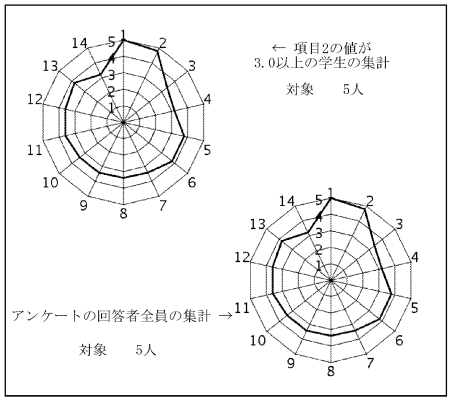

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students have adhered to the textbook used in class.
The steady pace seems to be appropriat and allows to realize all the units of the manual.
Continuous testing tests are also plucked by students.
Working in pairs with 2 teachers also seems to be nice for them.
Lastly, if it is possible to do so, I would like to give a little more time to speak during class hours.

共通教育 西語
VILLALOBOS Antelma　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級スペイン語IIB2
授業コード　32A12-002
教員名　VILLALOBOS Antelma
教員コード　101011
登録人数　27
回答数　5
回答率　18.5%
休講回数　3　回
補講回数　4　回



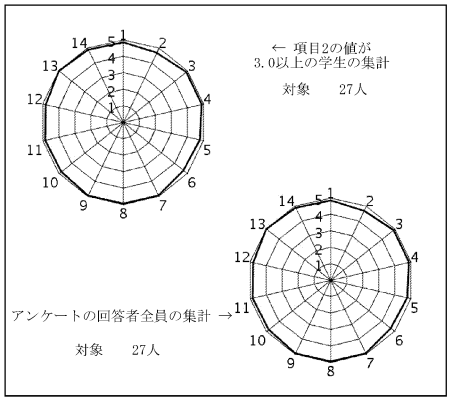

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a good  evaluation from the students and I think  that the general objectives of this course were well fulfilled. The students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester.
As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.
In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.
Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

共通教育 中国語
中野　麻里子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語I＜G＞
授業コード　11F01-027
教員名　中野　麻里子
教員コード　102125
登録人数　33
回答数　27
回答率　81.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の到達目標は、すべて達成できた。ピンインをまだ読み間違える学生はいるが、違うことを指摘すればなおせるようになっている。週４回中国語の授業を受けている効果がかなりあるように思われる。学生もよく努力している。

ノートをとる時間がもう少しほしいという指摘があった。この点は次の授業で気をつけるようにする。ただ、ある程度シラバス通りに進めようと思うと時々早く進めないといけない場合もあるため、次回のシラバス設定の時にもこの点も留意して考えたい。

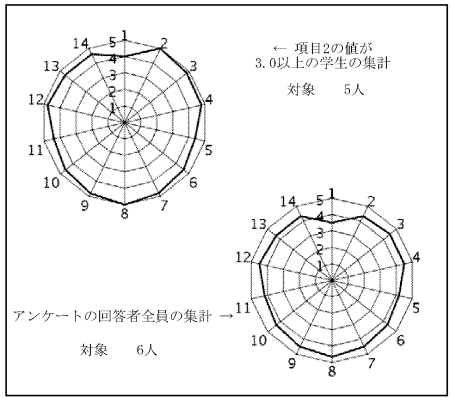
また、もう一つの授業と内容が重なるという点についての指摘は、わたしも気になっていたところである。特に発音のところはたくさん重複したと思われる。もうひつとの授業を担当されている先生と相談をしながらしてはいるが、うまく重ならないようにやりきれていないかもしれない。２度聞いて復習になるということもあると思うが、週２回ではなく、週４回中国語の授業を受けているために、週２で授業を受ける学生よりも、内容の重なりが気になるのかもしれない。その点は考えたことがなかったので、もう少し計画性をもって重複を避けるようにした方がいいかもしれない。次回の課題としたい。

次のクオーターではさらに文法事項が難しくなってくるので、理解できていない学生に配慮しながら、わかりやすい説明や知識をきちんと定着させることを心掛けたい。

共通教育 中国語
李　香善　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語III＜全＞1
授業コード 11F03-027
教員名　李　香善
教員コード 103871
登録人数　40
回答数　6
回答率　15.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

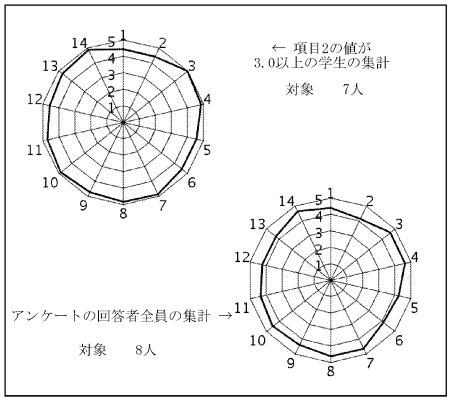
毎回授業計画通りに進められ、二回に一度小テストを行う事で、授業効果を確認しました。授業中、朗読は高い声で繰り返し読むように求め、
ピンイン表記も丁寧に繰り返し練習します。偶に、二人でペアを組んで会話練習も行いますが、徐々に定着していくうちに学生も喜んで取り込見ました。
受講生の中で、半分近い学生は中国語に興味を持って、欠席も少なく、熱心にメモや発音練習をし、質問もしたり、毎回の小テスト成績もほぼ満点でした。Q３終了後、2名の学生が中国語がとても好きになったと言ってくれたのには大変嬉しく思いました。一部の学生は単位修得のために来ている感じで、積極的な受講姿勢に欠けていました。５回欠席では受験資格喪失と伝えたら、４回まで安心して欠席する学生がいるので、今後の授業において、学生が休まず、毎回受講しに来たくなるような授業にすることが今後の課題の一つだと思います。
とにかく、教師が一方的に説明ばかりする授業でなく、学生同士にたくさん会話をさせたり、一緒に正解を求めさせたりするのが、より授業効果アップに繋がるのではと思います。



共通教育 中国語
許　暁敏　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I読解2
授業コード 35A09-002
教員名　許　暁敏
教員コード 048686
登録人数　10
回答数　8
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



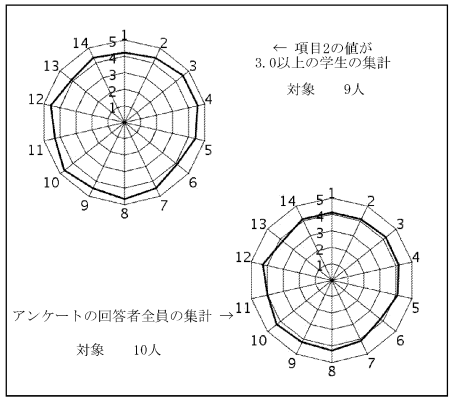

授業評価結果を踏まえた点検・評価

１、高く評価された点
「授業評価集計」によれば、設問内容の３、４、７、８、１４あわせて５項目は４．６３%になり、１０項目は４．５%に達したことが分かった。学生諸君に高く評価された。これは学生が私の授業「中国語読解」をよく理解できるとは言え、嬉しく思う。
２、今後改善すべき点
統計によれば、設問６は平均値が一番低い（４．１３%）ことが分かった。設問１２、１３は平均値が４．２５%になり、ちょっと自分の力が足りないと感じた。クオーター３の授業は私のクラスには僅か１０名の学生が履修したが、８名だけ授業アンケートに答えた。私のクラスには授業中文法や文章の分析も中国式で教えるから、学生にとって一部理解しにくいところがあったと思う。
また、学生達の「自由記述」に見れば、褒める言葉（「先生の声が聞こえやすく、まるでＣＤのようで良かった。」「許さんはいい人です。」「先生が面白かった。」）を３つ書いていたが、授業に関する意見やアドバイスなどを何も書かなかった。
３、今後の抱負、方針
これからも、学生諸君の理解度に配慮し、よい教え方を考えて、活発な学習雰囲気や環境を作り、学生達にもっと楽しい授業を参加させ、授業目標を十分に達成するよう努力したいと考えている。

共通教育 中国語
張　静萱　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語II会話2
授業コード　35A12-002
教員名　張　静萱
教員コード　048047
登録人数　24
回答数　10
回答率　41.7%
休講回数　2　回
補講回数　2　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、「中級中国語Ⅱ会話」ということで、会話を中心に受講生のみなさんの話す力を伸ばそうと工夫すると同時に、中国や中国語に関する新しい知識も身につけるよう気を配りながら、授業を進めてきました。学生の授業評価の集計を見れば、けっこう高い評価を頂いており、開講当初に設定された授業の目標に達したと思われます。評価された点においては、今後も引き続き、努力していきたいと思います。

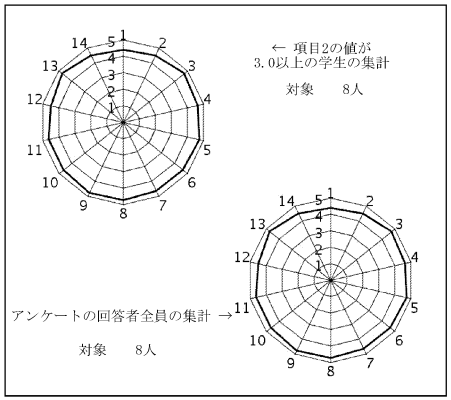
また、これから、いかにもっと学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すよう、さらに工夫を凝らし、更なる授業の改善策を考え、取り込んでいきたいと思います。具体的には、（１）明るい教室の雰囲気を作り、学生とのコミュニケーションを活発にし、語学に興味を持たせ、（２）授業と関連のある情報や新しい知識を毎回少しずつ紹介し、（３）どんどん会話の力を伸ばせるように、かさねて練習させ、よりよい効果的な授業を進めていきたいと考えております。



共通教育 中国語
趙　晴　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語II会話3
授業コード　35A12-003
教員名　趙　晴
教員コード　100960
登録人数　16
回答数　8
回答率　50.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



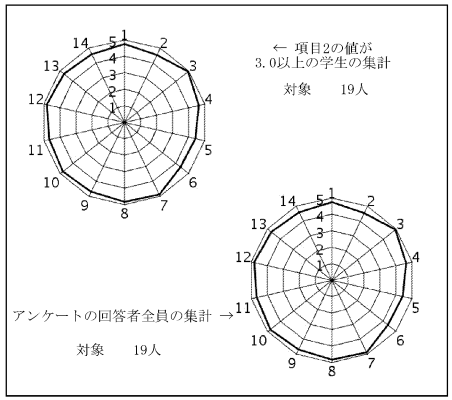

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標はほぼ到達できたと思います。
学生たちは明るく真面目に勉強していました。聴き取りの練習も徐々に慣れてきて、発音もきれいです。
女子が多いこともあって、可愛い会話もとても楽しいです。クラスの雰囲気が良く、よく学んでいたので、教室ルールなど勉強以外のことで学生たちを注意することは殆どありませんでした。単語小テストはほぼ毎回行っていましたが、毎回頑張って覚えようと努力していました。
これからも学生たちの特徴や個性をよく見て、学生たちに最も合った授業方法で講義を行っていきたいと思います。基礎知識を固めながら応用能力も高めるように、常にもっと何か有効な教え方法があるかを考える必要があると思います。
教員の姿勢や熱意は学生たちに伝わるので、いつもと同じように、教員と学生は一緒に頑張らなければならないと思います。
よく学生たちに言っているように、学ぶことは楽しいことですが、楽なことではありません。努力、努力、また努力です！
一緒に頑張ろう！

共通教育 中国語
陳　志平　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 中国語作文B |
| 授業コード | 35C11-001 |
| 教員名 | 陳　志平 |
| 教員コード | 049346 |
| 登録人数 | 29 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 65.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業評価集計」によれば、設問５（到達目標）を除いた全ての設問に対する評価の平均値が「アジア学科」を上回ることができた。「授業全体」（4.65）、「授業運営」（4.76）、「全体的な評価」（4.63）、設問3から14の平均4.70、その内設問7「誠実さ・真剣さ」（4.89）、設問12「質問・相談／事前・事後指導」（4.84）などの数値データ及びレーダーチャート、自由記述を見た限りでは、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。学生から、「作文の授業にも関わらず中国語を話す機会が多かったことがとても良かった。日本語と中国語を両方使って授業してくれた点でどのレベルの生徒にも理解できるように配慮されていると感じた。」、「説明が丁寧だった。」、「語法など苦手分野を重点的に練習、解説していた点。」、「プリントの後に質問をする機会を作ってくれて、一つ一つ丁寧に回答してくださり親身な指導を受けることができた。」、「中国語で意見を言う時間もあり、積極的に参加できるような授業体制がとられていて本当に毎回楽しかった。」と言ったような有難きコメントを頂いた。

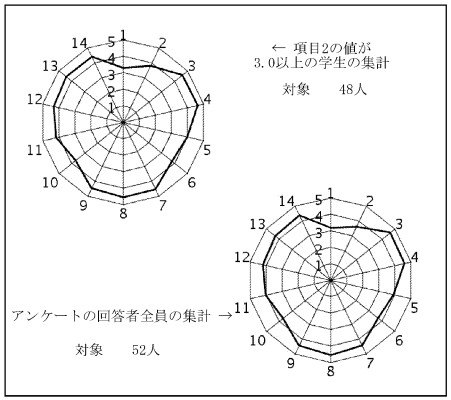
今学期も、受講生のレベルのばらつきが大きいので、一人でも多くの学生がためになる授業を楽しく受けられて、有意義な時間を過ごせるように、課題選びや質問・相談を含めた事後指導などに細心の注意を払うことを心掛けた。

次学期からは、もっと学生に寄り添った質の高い授業が提供できるよう、授業改善の努力を重ねて参りたいと考えている。また、冒頭にも触れたように、今回「到達目標」に関する設問5の平均値が低い（4.42）ことから、今後履修者にシラバス閲覧と到達目標の理解を呼びかけたいと思う。

共通教育 共通
浅井　太郎　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 宗教論[S]2 |
| 授業コード | 10A01-016 |
| 教員名 | 浅井　太郎 |
| 教員コード | 102951 |
| 登録人数 | 150 |
| 回答数 | 52 |
| 回答率 | 34.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



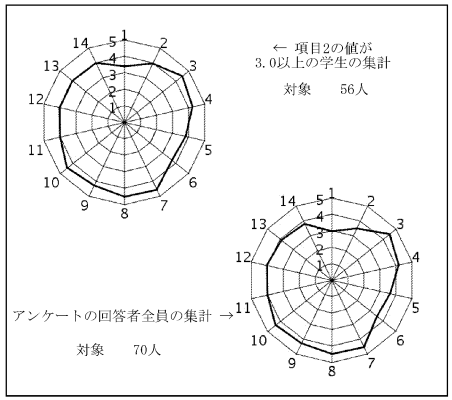

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標について言えば、おおむね到達していたと思います。アンケートによれば、「先生の話もわかりやすく映像資料もほとんど知識のない人にも分かりやすいものだった。」「宗教に興味のない人でも興味が持てるような授業であった。」
パワーポイントの使い方はまだまだ工夫が必要のようです。「パワーポイントで説明されることが多いが、1ページにおける文字数が多く読みにくかった」という意見がアンケートの中にありました。他方、「パワポがわかりやすかった」「スライドで動画などを流してくれていたのでわかりやすかった」「映像などを用いてわかりやすくやっていたこと」「映像を見ながらだったので、頭にはいってきた。」「ビデオを見ることでわかりやすく理解できること。」「ビデオがとてもよかった。」といった意見があり、パワーポイントと映像資料の組み合わせが好評であったので、ほっとしています。
一番問題と感じていることは、私語の多さです。どうしたら静謐な授業空間を確保できるかが課題です。学生からは強く注意することの必要性も指摘されていますが、私自身それは苦手です。他方、強く沈黙を要求できるためには、講義をとおして伝える知識の質が問われていると考えます。どうしても伝えたい、理解してほしい知識を厳選することで学生たちに訴える力を強め、それによって私語を減らしたいと願っています。

共通教育 共通
SANTIAGO, Edgardo　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | キリスト教概論[P]3 |
| 授業コード | 10A51-016 |
| 教員名 | SANTIAGO, Edgardo |
| 教員コード | 101284 |
| 登録人数 | 150 |
| 回答数 | 70 |
| 回答率 | 46.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

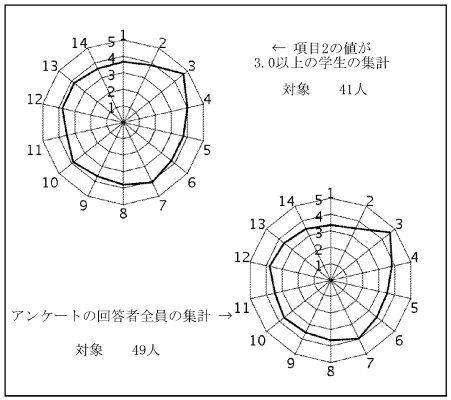
My deepest gratitude to Nanzan University for the opportunity to teach this course. Though it was indeed an enriching experience for me, the class size is too big (150 students) for a theme in which most of the students have no interest from the beginning. The course objectives and requirements were explained thoroughly at the beginning of the quarter, and were reviewed from time to time, especially on the last class. Set goals were met accordingly and satisfactorily. Most of the students had not read the Bible nor had any background on Christianity at the start. But gradually they became accustomed to reading the Bible in every class (on some occasions, perhaps there were too much), learning substantially about its background and interpretation, learning about Christian values, and other special themes using helpful tools and methods (such as printed materials and video).
Although the numerical data in the evaluation sheet may not be very impressive, they are however satisfactory which reveals the contentment of the class for this quarter. More creative methods would help in presenting the matter more understandable to them and effective use of available equipment (PC, Projector, Video, Microphone, etc.) is necessary as there were times the instructor was not able to attain the expected outcome in the presentation of the lesson.
Overall, this course evaluated for the Third Quarter of 2018 was a successful one and since this will be my last, I thank all the students and staff of the university for this valuable experience.



共通教育 共通
浦　英雄　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 思想史に学ぶ人間の尊厳1 |
| 授業コード | 10D03-001 |
| 教員名 | 浦　英雄 |
| 教員コード | 101166 |
| 登録人数 | 101 |
| 回答数 | 49 |
| 回答率 | 48.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



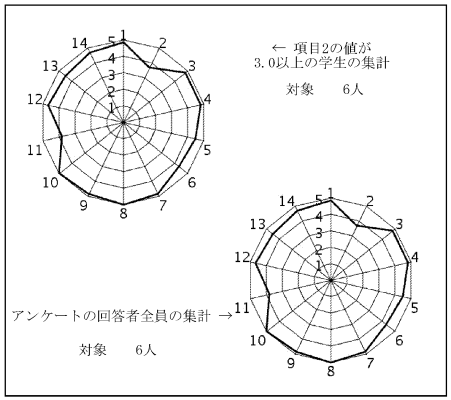

授業評価結果を踏まえた点検・評価

私の講義は、生命に関する様々な問題点を次々と指摘した上で、或る哲学者の主張を出発点として論理的に考えて行き、解答を試みるというスタイルを取っている。別の哲学者の主張を出発点とすると、別の解答に到達して矛盾してしまうが、あなただったらどう答えるか、という具合に講義は進むから、「話に一貫性がなく、最終的に何を言いたいのかが分からない」との印象を与えてしまっても仕方ない。結論は重要ではなく、学生の前で哲学活動を実践してみせるのが講義の主眼点で、学生自身が考えるように促すのを最終目標としているのだが、到達出来たかは疑わしい。資料は話の皮切りでしかないから、「資料が何のためにあるか不明」と言う学生は、授業に出ていないのだろう。哲学活動の実演を見ていれば良いのだから、板書は最小限しかしないし、話をまとめもしなかったが、「板書が少ない」とか「まとめるべきところはまとめるべき」と御不満の様なので、来年度は毎回その日の話をまとめ、板書しよう。予習も復習も必要ないが、配布する「文献一覧」の膨大な本を、一冊でも多く読んでみるように、仕向けたい。「生徒の視線を気にしなさすぎ」と言うが、気にしてどうなる。私は誰の視線も気にしていない。

共通教育 共通
大橋　真砂子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳3
授業コード 10D06-003
教員名　大橋　真砂子
教員コード 100233
登録人数　12
回答数　6
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



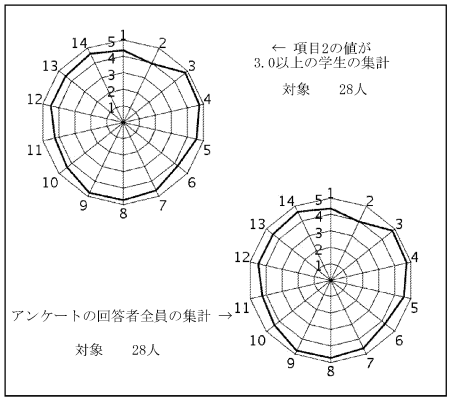

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、「ヨーロッパ史にみる生・病・死」と題して、ヨーロッパの歴史を振り返りながら人間の尊厳に関わるテーマを取り扱った。今回から、従来のプリントに加えて、プリントの内容を補足するためにスクリーンによる授業内容の提示を試みた。付加的に板書も用いたが、従来のような板書のみの授業進行に比べれば、学生にとってわかりやすかったのではないかと考えている。授業に関しては、開講当初に設定していた内容について概ね扱うことができた。授業のテーマの性格上、学生の学習の到達を数値化するなどは不可能であるが、「人間の尊厳」について自ら考えるきっかけを作ることができたのではないかと期待している。今回は受講者数が少なく、私語等の問題もほとんどなく授業を進めることができた。来年度の同じテーマ科目に関しても、スクリーンの利用を積極的に行い、かつ、映像・画像の資料などもあわせて活用していきたい。。

共通教育 共通
三谷　竜彦　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳5
授業コード 10D06-005
教員名　三谷　竜彦
教員コード 102441
登録人数　58
回答数　28
回答率　48.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生数は58名、回答者数は28名（回答率48%）でした。今学期も全体的に好意的な評価をいただいたようで、ほっとしております。設問3～14の平均値は4.56で、受講生数および回答者数がほぼ同数である昨年度後期（受講生数が63名、回答者数が30名（回答率48%））の4.58と、ほぼ同じでした。いつも最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、設問13が4.46、設問14が4.61でした。いずれも昨年度後期（設問17が4.73、設問18が4.83）より大分下がってしまいましたが、「人間の尊厳」科目全体の平均（設問17が4.25、設問18が4.23）よりは大分上回りました。またすべての設問において、「人間の尊厳」科目全体の平均を上回りました。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していってよいのだろうと思っています。もちろん細かい点での改善など（具体的には、配布プリントやプレゼン資料の内容面・形式面のいっそうの充実化、発声のいっそうの明瞭化など）には、今後もたえず取り組んでいきたいと思います。

共通教育 共通
星　揚一郎　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 哲学B2 |
| 授業コード | 12A02-002 |
| 教員名 | 星　揚一郎 |
| 教員コード | 100986 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 4 |
| 回答率 | 21.1% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

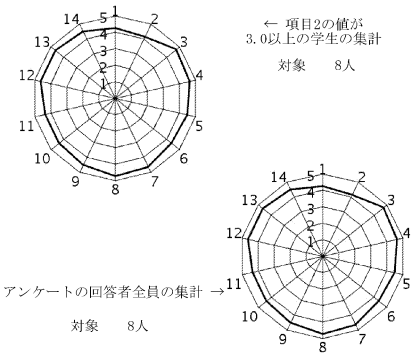
シラバスの通り、20世紀以降の現代の哲学史をふまえたうえで、現代社会や身近な問題と関連付けて考察しました。基礎知識の有無にばらつきがあるため基本を丁寧に扱い、授業の内外で質問に対応し、さらなる読書や考察を促しました。その結果、意図を汲んで真摯に学んだ方は極めて深い内容のレポートが提出されました（自ら問いを立てて根拠をもって主張を論述するという課題でした）。つまり、一番初めに説明した授業の意義が理解できたかどうかで、大きく差がついてしまったようです。これはアンケートの記述より明白です。以後、さらに、授業内で問題を提起し、理解度を見ながら進めていくように改善してまいります。入試にでる知識のみを重視し、そうした知識を生活や学術に繋げようとしない学生の狭隘な視野を広げ、真の教養を志向するように促してまいります。



共通教育 共通
池田　洋子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 美術B |
| 授業コード | 12A06-001 |
| 教員名 | 池田　洋子 |
| 教員コード | 044362 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 8 |
| 回答率 | 33.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



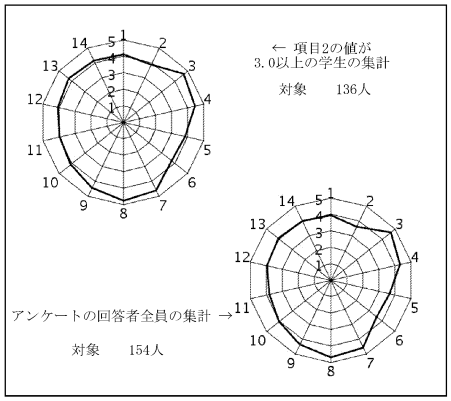

授業評価結果を踏まえた点検・評価

絵画の見方を学習し、個々の作品を理解すると同時に、日本の美術の史的展開を認識できるようにする。
毎回、作品の見方に従い全員に質問し、次第にほとんどの学生さんがその方法で描かれているものを理解できるようになり、作者ごとの違いを認識できるようになった。学生さんたちは、同じようにしか見えなかった日本絵画の違いを理解していき、絵画作品の傾向が次第に変化していっていることに気付き、絵画を通して日本美術が展開していることを認識していった。
数値データおよび自由記述等
数値データは、当初は授業内容に興味がなった学生も、毎回の授業で目標に向けて力がついてきたと感じていたことがわかった。毎回の配布プリントも役立っていたようである。しかし、学習意欲のより強い引き出しが必要とされていることがわかった。
次学期以降に向けての改善点、今後の抱負、
更に、学生さんたちに意欲を持って講義に臨んでもらうよう工夫をして、より積極的な参加ができるように改善したい。次期以降は今回同様に、全員に学習に参加していただき、理解度を増やして次のレベルの作品解釈の方法へと進んでいけるように望みたい。

共通教育 共通
吉田　文　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　音楽A2
授業コード　12A07-002
教員名　吉田　文
教員コード　102447
登録人数　294
回答数　154
回答率　52.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①1.学生の個人差はあるが、常に「聞く」と「聴く」の相違や意味を説明したり考察を促すことにより、意欲的に授業に臨んでいた学生に関しては、リアクションペーパーの記述からも到達できたと考える。
2.ミサ曲をただ紹介するだけではなく、作品の成立背景や他ジャンルの美術等との関連性を説明することにより、それぞれの作品に関する理解度は深まったと考える。
3.作品としてのミサ曲だけではなく、実際に儀式として行われているミサを紹介しながら講義を進めたり、作曲家について紹介することにより、宗教音楽と精神文化の関連性について理解が深まっているという目標に到達できたと考える。

②前任者から引き継いだシラバスを、いかに自分なりに学生に伝え、学生の興味を促し、主体的な学びへとつなげることができるか工夫をした。
一般教養科目であり、300人の学生が受講していることから、全ての学生が興味を持った上で受講することは前提とできない環境で、予想以上に多くの学生が肯定的に授業を受け止め、、主体的に参加し、興味を持って学んでいたことが読み取れた。授業を進める上で学生に自主的にメモを取るように促し、必要な用語や投影提示した事項はレジュメに記載したが、さらに細かなレジュメが必要である。

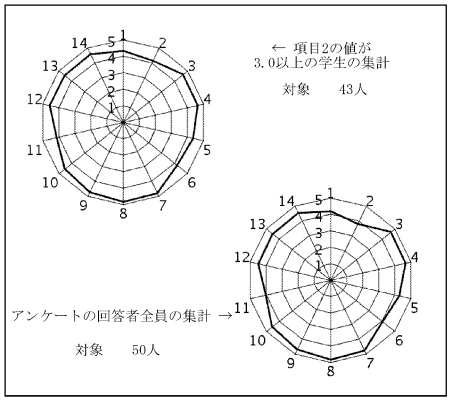
③今期の授業内容は基本的に来年度の内容の基礎とできることが判明した。今後は、基本的に授業に参加する意欲のない学生から学習意欲を引き出すこと、そして遅刻・早退者のより詳細な把握など授業運営に関して改善していきたい。



共通教育 共通
小沢　優子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　音楽B2
授業コード　12A08-002
教員名　小沢　優子
教員コード　101168
登録人数　79
回答数　50
回答率　63.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



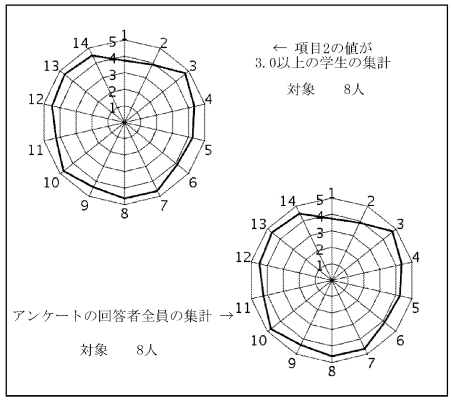

授業評価結果を踏まえた点検・評価

教室の都合上、今期はピアノではなく電子ピアノを使いながらの講義だったが、授業の良かった点として「CDだけでなくピアノ（電子ピアノ）を使っていたところ」「CDやDVDを使用して音楽を聴いたりオペラを見ることができた」「色々な音楽を聴けた点」などが挙げられており、楽曲の鑑賞、体験を伴った音楽の学習が電子ピアノや視聴覚教材によっておおむね達成されていたのではないかと思う。また、配布しているレジュメやボードの使い方については、「レジュメが見やすかった。黒板の字も見やすかった」「レジュメが丁寧」。わかりやすかったようで安心している。
また、アンケートの設問の数値は、平均値が設問1～14で「4.44」、設問3～14で「4.51」。比較的高く、中でも設問13が「4.50」、設問14が「4.52」なので、授業内容の理解、満足は大体得られたのだと考えている。一方で、今後の課題となるのが、主体的、積極的な授業参加や自主的な学習をどのように促すのか、である（設問2が「3.80」、設問11が「4.04」）。音楽を聴く時間をなるべく多く設けている講義なので受動的な受講態度にはなりがちではあるが、学生の学習意欲をより高めるようなやり方を工夫していきたい。

共通教育 共通
鈴木　康弘　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　自然地理学2
授業コード　12B10-002
教員名　鈴木　康弘
教員コード　102905
登録人数　24
回答数　8
回答率　33.3%
休講回数　2　回
補講回数　2　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

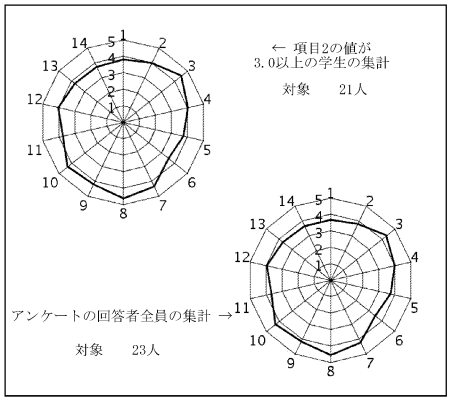
本授業は、日本の風土の特異性および社会の現状に鑑みて、今後、自然災害と如何に共存するかについて、俯瞰型の地理学的視点から考えることを目的とした。また具体的な到達目標として、①自然地理学とはどのような学問分野かを理解する、②自然地理学と社会との接点のひとつとして防災・減災を捉えられる、③自然地理学の俯瞰的な視点の重要性を理解することを掲げた。学生による授業評価を見る限り、授業内容に関わる設問3～14の平均（および全項目平均）は4.48（4.38）であり、いずれも基盤科目の平均4.35（4.30）より高い。とくに項目13（新しい知識を得たり理解が深まったと思うか）は4.63、項目14（満足度）は4.50であり、授業目標は達成されたと考えられる。また、4回のレポートと最終レポートを通じて自らの考えを高められたと判断される。学生の授業への出席状況は概ね良好で私語等もない。今後はさらに自ら考える機会を増やすため、授業時間内における発言の機会等を増やしたい。



共通教育 共通
佐藤　久美　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地誌概論2
授業コード　12B11-002
教員名　佐藤　久美
教員コード　102924
登録人数　107
回答数　23
回答率　21.5%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



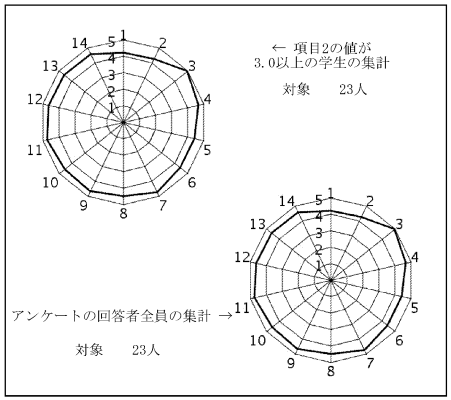

授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生の約4/1の学生によるアンケートへの回答であるためどの程度、受講生全体の感想等であるのかよくわからない点もあるが、項目番号の７～１０（教員の授業に取り組む姿勢、教員の声や音声機器の音、学生の理解度への配慮、配布資料、視聴覚教材などの効果的な使用、授業の妨げになる学生の行為に対しての適切な対処）に対しては4.22から4.57という評価となっていることはよかった。一方で、項目6（この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）に対しては3.48という低い数値となっている点について、検証を行いたい。到達目標として掲げた事項のうち、「自文化の枠組みを相対化した上で、異文化背景を持つ人々の価値観を理解できるようになる」、「世界の人々との交流の意義を考えることができるようになる」について、考えさせるような時間を設けたい。

共通教育 共通
長尾　良子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法学A1
授業コード　12C01-001
教員名　長尾　良子
教員コード　102081
登録人数　30
回答数　23
回答率　76.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は共通教育科目の法学で、法の基本構造、裁判の仕組み、民法・刑法の基本を理解するという授業目標はおおむね達成されたと思われる。今期はクォーター制が導入され2年目だったので、昨年の経験を踏まえ学生も教員も昨年に比べて戸惑うことが逓減した。授業評価の数値データの平均値もすべて昨年を上まわっている。自由記述欄でも、１年生から4年生まで、学部も人文、外国語、経済、理工学部、特別聴講生と多岐にわたっている点を積極的にとらえて学生参加型のグループ・ワークを多用したため、好評価を得ている。また自由記述欄及び最終講の記名式の自由記述アンケートでも、Ａ棟の法廷教室における模擬裁判員裁判について貴重な経験だった、面白かったという意見が多かった。ただ設問8の教員の声については集計の平均値を下回っており、さらに課題の提出方法に関しても改善を望む意見が出されたため、来期はこうした点をふまえて改善していきたい。

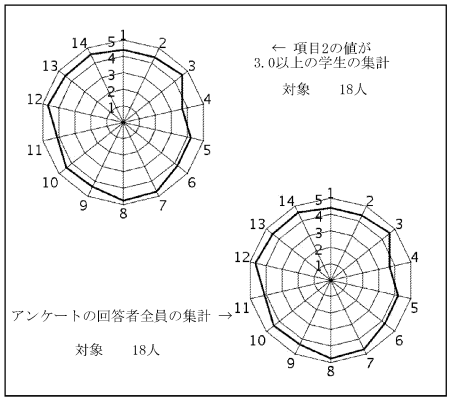
今後も、学生間のグループ・ワーク等を通して、学部・学年間の差異を肯定的に展開する工夫をしながら、授業の満足度・理解度を高める努力を一層重ねていきたい。



共通教育 共通
大園　誠　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治学B
授業コード　12C05-001
教員名　大園　誠
教員コード　102910
登録人数　53
回答数　18
回答率　34.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



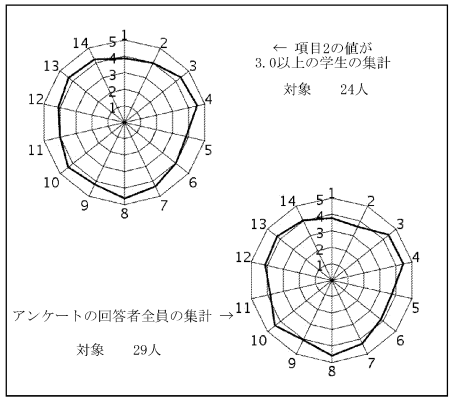

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：昨年度同様に本講義の実施に当たり最も苦慮したのは予め設定されている【授業概要】の内容である。現代政治の諸課題について「国内および国際政治の両面」から「日本近代の歴史と文化の中に位置づけて」検討し、「憲法」を論じ、「国際機構や組織の動向について概観」もするという盛り沢山の内容を15コマで扱うのは困難を極めた。【授業計画】と【到達目標】には【授業概要】の内容を全て盛り込んだが、実際の授業進行では最後まで苦しんだ。さらにそのことは「授業評価」において、昨年度同様、唯一平均値が４を下回った項目（3.67）が「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」だったことにも示されている。担当講師と受講生双方が困難を共有しているのが現状である。何とかならないものだろうか。②：最も評価の高い項目（4.67）は「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができたか」と「質問や相談の機会が十分に設けられていたか」である。また自由記述では、毎回配布・回収する「コメント用紙」によって疑問点が解消された、「難しい内容でもわかりやすく詳しく解説してもらえたのですごく良かった」という評価がある一方で、「コメント返しに時間がかかりすぎ」「講義の進行が遅れた」「板書が少し読みづらかった」との批判も寄せられた。③：よって、来年度に向けての改善点としては、【授業概要】を尊重しつつも、実質的には今年度以上にさらに授業内容を絞り込むにはどうすべきか、担当講師なりに知恵を絞り独自の工夫を施すことに尽きる。

共通教育 共通
梅村　麦生　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会学B2
授業コード　12C07-002
教員名　梅村　麦生
教員コード　103283
登録人数　54
回答数　29
回答率　53.7%
休講回数　2　回
補講回数　2　回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初設定していた到達目標は、「1. 社会学の基本概念と、社会学的な発想を身につける。2. 近代社会の特性について考え、自分が今いる社会を相 対化する視点を身につける。」である。設問５、６、13の回答から、ある程度は達成できていると考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
設問３～14の平均で４を超えており、当初設定した到達目標のとおりにある程度進められたと考えられる。ただし、設問５、６、11に表されている内容ついては改善の余地がある。

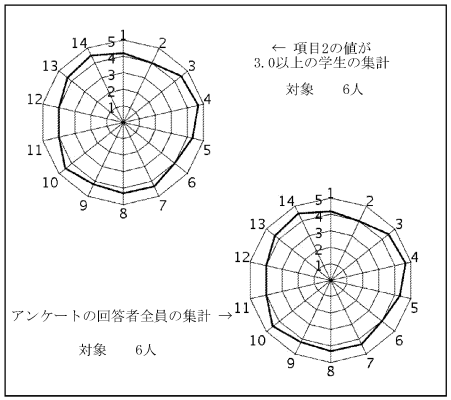
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
自由記述項目へのコメントで評価が分かれているように、パワーポイントを使用した授業には課題もある。今後は、授業内で提供する情報の充実に加えて、学生の理解や予習・復習により資する提示の仕方についても、さらに改善を加えたい。



共通教育 共通
本村　扇仁　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　物理学B
授業コード　12D02-001
教員名　本村　扇仁
教員コード　102685
登録人数　19
回答数　6
回答率　31.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



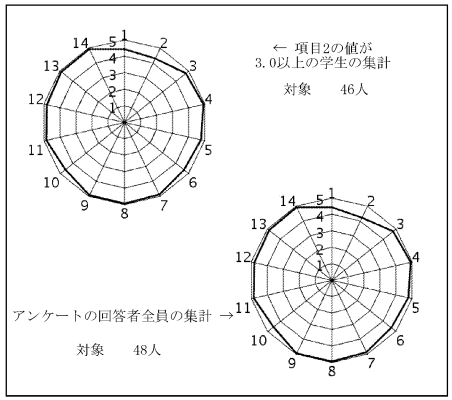

授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、取り上げた知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。このような展開について、説問4の数値から、おおむね成功であったと考えられる。自由記述の声に、WebClassにupする資料が授業で見せるものと異なるところがあるという指摘があった。WebClassにupする資料は概ね授業配付資料と同じであったため、例えば例題に対する解答例に当たる部分はないという点があった。このような点についてはupする資料の内容を今後検討したい。映像資料については、実感を伴った理解につながるという点から要所で取り入れる展開を今後も継続したい。教室内で簡単な演示実験を行う取り組みは、物理学で実験が果たす重要性を実感できるという点から今後も継続していきたい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介など常に工夫を加えていきたい。

共通教育 共通
田中　康平　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 生命自然史2 |
| 授業コード | 12D03-002 |
| 教員名 | 田中　康平 |
| 教員コード | 103935 |
| 登録人数 | 71 |
| 回答数 | 48 |
| 回答率 | 67.6% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目は、第2クォーターに続く2度目の開講であり、前回の実績から、シラバスに記載した到達目標は、達成できたと考えている。シラバス掲載の授業計画はすべて遂行することができたほか、学生の中間試験・期末試験の結果からも、シラバスに掲げた到達目標を達成することができたと考えている。授業では、一方的な講義にならないよう、前回同様、ワークシートに取り組んでもらったり、映像を流したり、学生と一緒に考える時間を設けた。また、前クォーターで難解だと思われた箇所は内容を変更し、より分かりやすい講義内容へと改善した。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
全体として高評価を頂いていることを有難く思っている。前クォーターでの反省点が生かされた結果ではないかと思う。

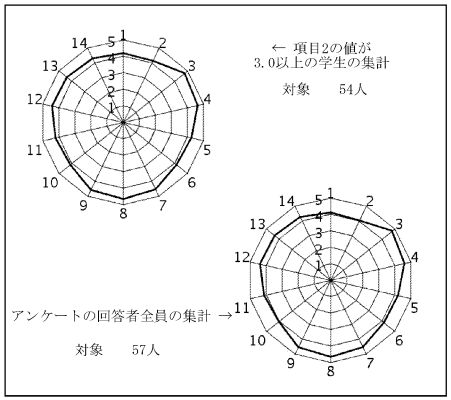
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次クォーター・次学期に授業を行う予定はありません。



共通教育 共通
藤波　初木　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 地球科学B1 |
| 授業コード | 12D07-001 |
| 教員名 | 藤波　初木 |
| 教員コード | 102077 |
| 登録人数 | 147 |
| 回答数 | 57 |
| 回答率 | 38.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

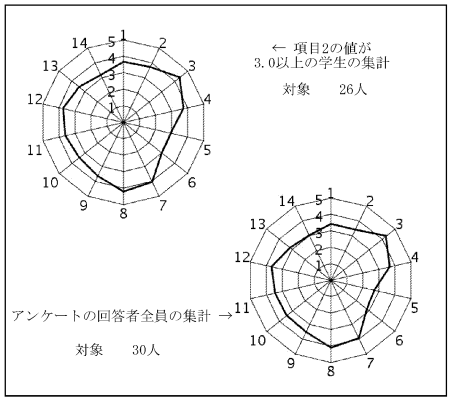
開講当初に設定していた授業目標はほぼ達成できた。学生評価では、この授業全般に対し概ね良好な評価を得た。またアンケートの任意解答でも「丁寧な説明で理解がしやすい」との回答を得た。授業資料のパワーポイントを、授業のある週の月曜日までにwebにアップするようにした。これにより、予習が可能になった。また、授業中もスマートフォンなどで資料を確認出来るようになった。授業資料はなるべく難しい数式を使わず、理系の専門用語の使用も最小限にとどめ、身近な気象現象から地球規模の環境問題の成因をできるだけ論理的に追いかけられるように努力した。また、新聞等で報じられるアップデートな環境問題も、授業資料に逐次掲載した。また、授業のある週に観測された天気の変化や異常気象などに関する説明を動画や天気図などを用いて解説し、授業内容がどのように実際に適用できるのかなどを説明した。実際に数名から天気図の見方が分かるようになったとの解答を得ており、それなりの効果があったと思われる。

本科目はクォーター制の2コマ連続授業である。教養科目での2コマ連続での授業は、集中力の持続が依然として課題である。また、出席を取らないため、2限目で学生数が減少することが多かった。また、150名の履修人数で150名収容の部屋は、学生にとって窮屈であり、使用する部屋の選定など、大学側にも改善を求めたい。

共通教育 共通
古澤　文江　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 地球科学B3 |
| 授業コード | 12D07-003 |
| 教員名 | 古澤　文江 |
| 教員コード | 103906 |
| 登録人数 | 111 |
| 回答数 | 30 |
| 回答率 | 27.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



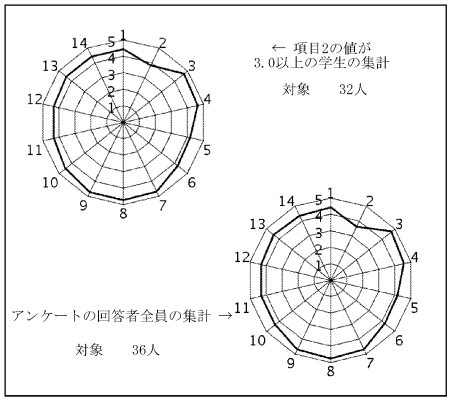

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①1つ目「熱や放射の基礎物理の習得」、2つ目「応用例の理解」の目標は、全員がこなせたかは不明だが、質問に正解する姿が見られた。
3つ目の「身の回りの現象について物理的に考察する能力を養う」という目標については、基礎物理の習得のために多くの身の回りの現象を説明したので、身に付いていると期待される。レポートでもその片鱗が伺える。
②難しい先端科学の話と日常の科学の話を取り入れ、画像で説明することは文系の学生にも受け入れられたと思われる。一方で、式や計算が出てくると拒否反応が出るようである。しかし、大学の科目であるため一定のレベルが保たれていると良いと思う。また、計算するという手を動かす作業をするとともに、得られた結果の値を自分の感覚で理解してもらいたい。数値データでは、「この授業の到達目標を理解することができましたか。」という所が最も低かったので、最初の授業だけでなく、全体の到達目標と各回の到達目標を明確にするよう務める。
③学生との相互作用を目指し、リアクションペーパーを配布したい。学生の私語を注意するように心掛ける。式やグラフの利便性を説明することで、アレルギー反応を弱める努力をする。

共通教育 共通
西田　裕紀子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 心理学A1 |
| 授業コード | 12E03-001 |
| 教員名 | 西田　裕紀子 |
| 教員コード | 101587 |
| 登録人数 | 63 |
| 回答数 | 36 |
| 回答率 | 57.1% |
| 休講回数 | 2　回 |
| 補講回数 | 2　回 |



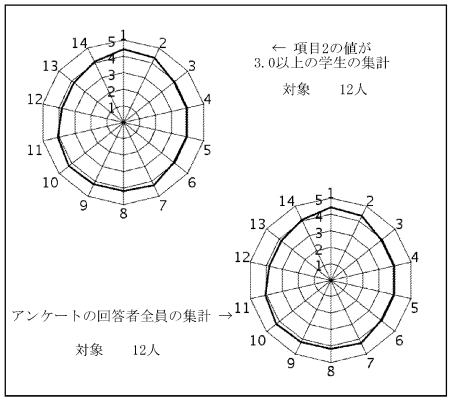

授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問14項目中、12項目で全体の平均値を上回っていた。特に平均値よりも高い値（4.50以上）を示していた設問は、「3. 授業の開始と終了の時間は守られていましたか（4.75）」、「4. 毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか（4.56）」、「7. 担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか（4.69）」、「8. 教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか（4.78）」「9. 教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料などを効果的に使って適切に授業を進めましたか（4.67）」であった。特に、授業の構成や進行についてのポジティブな評価が示されていることから、今後もそのような授業の展開を志したい。一方、平均値を下回っていた項目は、「2. 受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか（3.61）」、「10. 遅刻などの授業の妨げとなる学生の行為に適切に対処していた（4.33）」であり、今後は、予習や復習などの自主的な学習を進めると共に、授業の運営を工夫したい。記述からは、具体例・ミニ実験が理解促進につながったこと、内容に興味が持てたこと、スライドやプリントのわかりやすさなどの記述が見られた。以上、概ねポジティブな評価・コメントであり、心理学の概論的内容を理解するという本科目の目標は達成できたと考える。

共通教育 共通
チョ　スルソップ　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化との接触1
授業コード 13A02-001
教員名　チョ　スルソップ
教員コード 103282
登録人数　69
回答数　12
回答率　17.4%
休講回数　2 回
補講回数　2 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

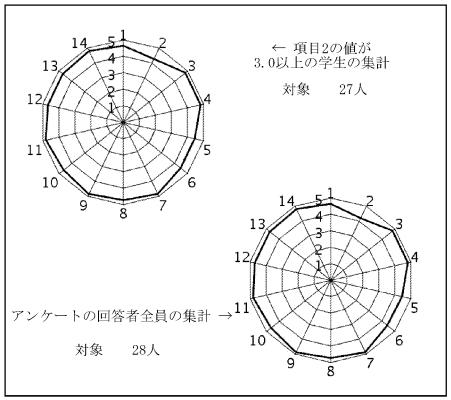
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
１．韓国・朝鮮社会の衣食住や文字、生活環境などの文化要素の詳細をみていくことで、韓民族独自の社会や伝統文化の本質を理解する。　２．韓国現代社会の動向、半島を生きる人々の生活相を具体的に考察することで、朝鮮半島の昨今の情勢や今後の発展の可能性を把握する。
以上の２点が当初設定された到達目標。達成のため、核心を持つも最新で、且つイメージを持ちやすいビジュアルな情報を提供できることに努めました。
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
1回目2回目の授業が休講になったことを大変申し訳なく思っております。補講を行うとしても本来の授業予定ルールに違反しておりますことを心得て改善に努めます。



共通教育 共通
梶田　美香　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　芸術をめぐって1
授業コード 13A04-001
教員名　梶田　美香
教員コード 103589
登録人数　57
回答数　28
回答率　49.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①いずれも比較的、こちらの計画に沿った到達度ではなかったかたと思っている。一つ一つの楽曲の理解を深めていくというよりは、芸術の誕生を時代の象徴としての表れという社会学的観点から考え、関心の持ちやすいジャンルからそうではないものまで取り上げ、履修者たちも興味深く取り組んでいたように思う。

②今年度はワークショップやグループワークなどの体験的な活動を増やしたが、それに対する意見が特に好評だった。講義形式の内容を参加型事業を通して追体験することによって、学びの深まりが見受けられた。ただ、グループワークは個人によって参加度に違いがあり、参加度の低い履修者が授業への意欲を失っていないかどうかが気になった。

③出欠席が取りにくく、毎回苦労している。フィードバックシートを一定の時間に配布し、それで出席を取っているが、遅刻者のカウントができない場合もあり、それに対する不満が寄せられた。当然である。また、私語の多い場合への対応も苦労している。本来ならば教室から出てほしいと思うが、非常勤校という場でなかなかそこまではやりにくい。少なくとも注意を頻繁に行う努力はしていきたい。

共通教育 共通
岡田　宏太郎　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 歴史の諸相3 |
| 授業コード | 13B06-003 |
| 教員名 | 岡田　宏太郎 |
| 教員コード | 102261 |
| 登録人数 | 13 |
| 回答数 | 0 |
| 回答率 | 0.0% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 2　回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

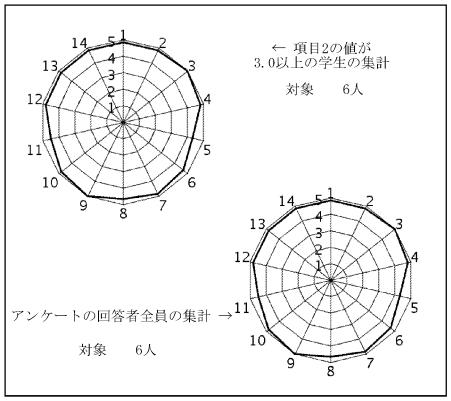
まず、休講と補講の日程を変更したことについて、特に受講生の皆さんには申し訳ありませんでした。出席者には説明しましたが、家族の入院先の病院の都合により、手術の日程に急な変更があったためです。補講を欠席した受講者への影響が懸念されましたが、試験の結果には、例年と比べての大きな変化はなかったことは幸いでした。受講者が少な目だったこともあり、参考にできる数値的評価は得られていませんが、授業中に回収したコメントシートからも、講義内容に対しては例年に近い反応ではあったと考えています。以上より、当初の目標はなんとか達成されたかと思われます。
とはいえ、補講の件にくわえ、例年イントロダクションに使用する映像が見にくかったこと、プロジェクターの不具合と、よくない条件が重なり、流れが損なわれ、これらが、試験の出来に表れないところで、理解の深さ、印象深さに影響し、受講者には評価しにくいと感じられたと推測しています。授業内容はもちろん、機器の準備、チェックには気をつけたいところです。また、時事問題、参考文献の紹介を、うまく講義におりこんでいくことには、普段の努力が求められていると考えています。これらの点でよりよい準備をしたうえで次年度にのぞみたいと思います。



共通教育 共通
三枝　有　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 生命と法律問題2 |
| 授業コード | 13C02-002 |
| 教員名 | 三枝　有 |
| 教員コード | 100468 |
| 登録人数 | 29 |
| 回答数 | 6 |
| 回答率 | 20.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



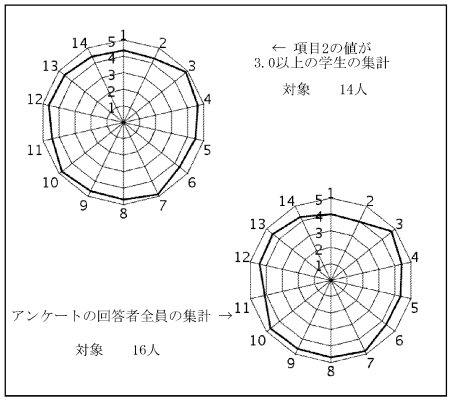

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　開講当初の設定した目標については、シラバス記載通りの進行ができており、達成できたものと考えている。内容等については、一応評価できるものであった。学生の評価も同様のものと考え得ることから、ある程度裏付けているといえよう。
②　データおよび自由記述を見ても、まずまず目標を達成できたように思える。もっとも、科目の特性もあろうが、現在より以上に科目自体に学生に魅力を感じてもらえるように工夫する必要を感じた。特に、法律を専門としていない学生たちに科目の魅力を感じてもらうのは、相当の工夫が必要と思われる。
③　今後の改善点としては、科目としての魅力をより引き出せるような講義での工夫をおこなうことである。具体的方策としては、学生が興味を引かれるような具体的事例を例証として出すことで、より思考性を高めるとともに、事実へのリサーチを行えるような課題の出し方に工夫する予定である。学生の自主性を引き出すためには、簡単ではあるが興味ある事例を扱う必要があることから、アップツーデートな事例を検討する予定である。最後に、受講していただいた学生諸君に感謝したい。

共通教育 共通
牛島　謙　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　知識の探求3
授業コード　13E03-003
教員名　牛島　謙
教員コード　042549
登録人数　58
回答数　16
回答率　27.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について。
従来と授業の目標は変わらないが、前年から教材を一新した。自前で構築したブックページ・データベースから各回のテーマに最適のデータを抽出して１回分をＡ３用紙１枚にまとめて配布するという形式を取った。
②総合的な自己点検・評価。
学際科目の平均と比較すると、ほぼ全項目で上回っている。「授業の構成や進行速度」や「授業に取り組む姿勢」の評価は特に高かったが、毎回の教材作成が評価されたのではないかと思う。「学習意欲」の項目の評価がやや低めだったが、授業のテーマが思想系のものであるので、ある程度は致し方ないと思う。同じ内容を同じように講義しても、学期によって学生の評価は大きく変動する。今学期は履修学生との相性が特に良かったのだと思う。
③改善点、今後の抱負、方針など
やや難しめの教材を使いながらその意味を授業中に読解するという形式で、授業を行っていきたい。学生の理解度をフィードバックしながら、解説のレベルを調整する必要がある。授業評価の人数が少ないので、学生に授業評価に参加するよう強く指導したい。



共通教育 共通
大野　波矢登　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人間と機械3
授業コード　13E04-003
教員名　大野　波矢登
教員コード　100625
登録人数　36
回答数　4
回答率　11.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

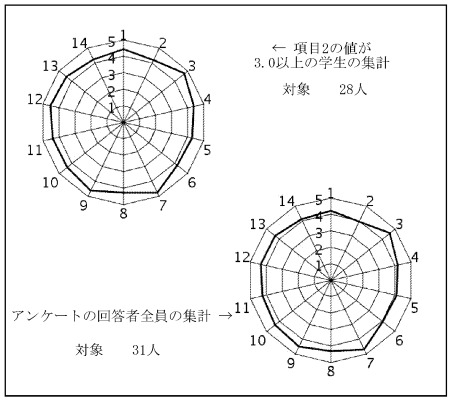
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)人工知能やロボットに関わる哲学・倫理的問題を理解し、自らもそれらの問題について考え、討論できるようにすることが、この講義の目標である。目標達成度は、アンケート結果が「回答数4件以下のため集計しない」であったため判断できないが、4人の学生の回答から推測して、8割程度と思われる。
(2)アンケートの結果については、設問5、設問6、設問12、設問14の値が低かった。到達目標やそれを達成するために何をすべきかが十分に理解されておらず、そうした理解の不十分さを補うための相談や質問の機会も与えられていなかったことがわかる。また、学生からのコメントとして、「急に文章を読み出すため、ページや番号のことも言って欲しかった」といったものがあった。授業の進め方にも問題があったことがわかる。
(3)今後の改善点として、到達目標やこの授業を受講する意義について丁寧に説明すること、質問や相談に対する対応、事前・事後学習の指導を適切に行うことを心がけたいと思う。また、授業で用いる資料等を学生があらかじめ読むことができるよう、できる限り事前に配布するようにしたい。

共通教育 共通
可児　光生　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　博物館学E
授業コード 15M05-001
教員名　可児　光生
教員コード 102475
登録人数　74
回答数　31
回答率　41.9%
休講回数　1 回
補講回数　1 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

博物館経営に関し、学芸員の立場から博物館の現場で起きていることを具体的に紹介するとともに、博物館に関する最近の動向などを具体的に解説するなどして、客観的視点に立って社会のなかで置かれている博物館の存在位置に関する情報も伝えた。博物館に関する新聞や雑誌の記事を自らが調査し発表する課題を出すなど、学生が少しでも関心を持ち身近な課題として意識を持てるよう授業を組み立てた。項目5の「この授業の到達目標を理解することができましたか。」が、4.13を示したように、当初に設定していた目標に近づけたと考える。

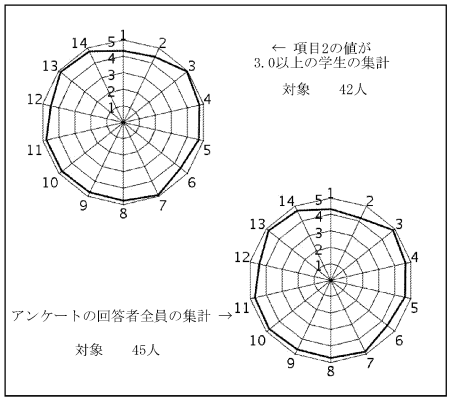
　項目７の「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。」に高い評価があったことはありがたい。

　今後は,項目13の「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」（4.32）の評価がさらに上がるように、学生の学習意欲が一層高まるための努力をしていきたい。

共通教育 共通
山口　宏　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ研究の基礎（政治）
授業コード 34A09-001
教員名　山口　宏
教員コード 101552
登録人数　47
回答数　45
回答率　95.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



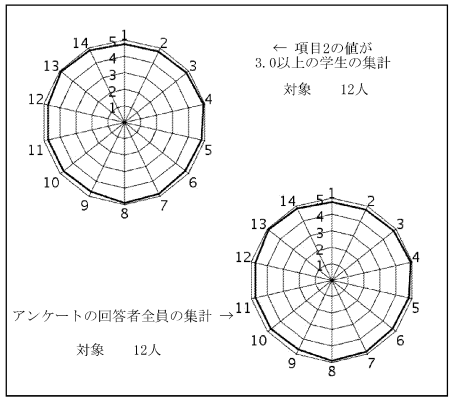

授業評価結果を踏まえた点検・評価

まずは全体的な満足度も比較的高く、新しい知識や理解の獲得も高い値で、良かったかと思う。問題を押さえ理解するという開講時の目標も、その数値や毎回の授業内記述からして、まずまず達せられていたと思われる。その他、時間や音声、環境面など含め、全体的に高めの値となっていた。ただ、この40人強という人数としては、問12の「質問・相談の機会」がやや低くなっており、毎回の記述に対して授業冒頭にコメントはしていたが、もっと対話的な時間をとれたらよかったかもしれない。また問２の予習・復習については、とくに具体的な課題などはなかったため、若干低めの値になっていた。「知識・理解の深まり」が高い結果であればよいかとも思うが、もう少し自主学習を促す仕掛けもあってもよいかもしれない。
また自由記述をみると、話や教材にかなり興味を持ってもらい、関心をもって面白く聞いてもらえたようで、よかったと思う。ただ、肯定的な声も多いが、評価法などについて再考を促す声もあり、真摯に受け止めておきたい。
来年度も基本はこのまま、さらに内容に磨きをかけ、もう少し対話的な要素も取り入れるなどして、工夫を続けていきたいと思う。

共通教育 体育
福田　和夫　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | スポーツ実技(健康スポーツ)ソフトボール |
| 授業コード | 14E04-002 |
| 教員名 | 福田　和夫 |
| 教員コード | 043950 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 12 |
| 回答率 | 66.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



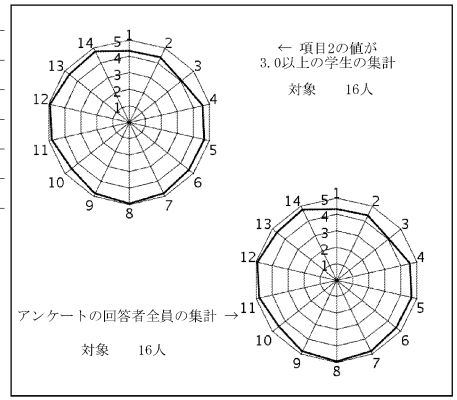

授業評価結果を踏まえた点検・評価

中学、高校でのソフトボール、野球経験者は全体の約3割のクラスであった。学年は2年生～4年生が含まれ、女子学生の履修者もいた。
授業評価の平均は4.81であり、全体的には高い評価であった。設問項目別に高い評価点は、次のようであった。設問４：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか（4.92）。　設問８：教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか（4.92）。　設問13：この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか（4.92）。逆に評価点の一番低かったのは、設問９：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか（4.67）、であった。しかし、この点は体育実技なのであまり該当しないと思われる。あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか（4.75）、「楽しかった」などの意見もあり、概ね授業目標は達成できたと思われる。次学期以降の課題としては、雨天時の授業展開、内容をよりメニューを増やしていく工夫をしたいと思う。

教職センター 教職センター
成田　健之介　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 社会・公民科教育法B1 |
| 授業コード | 15B06-001 |
| 教員名 | 成田　健之介 |
| 教員コード | 101555 |
| 登録人数 | 21 |
| 回答数 | 16 |
| 回答率 | 76.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



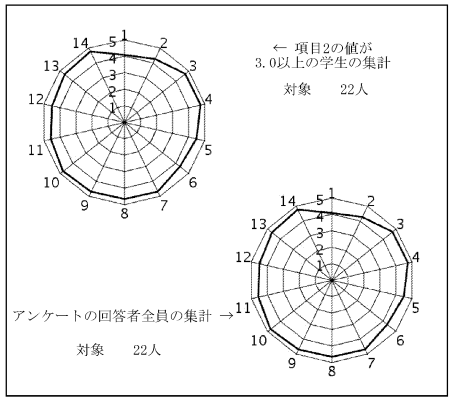

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は，中学校社会科公民的分野と高等学校公民科の授業に必要な授業実践力を高めることを目標にしている。学習指導要領の改訂を踏まえて，「主体的・対話的で深い学び」や資質・能力等，最新の情報を取り上げ新学習指導要領に対応できる実践力の育成に力を入れた。前半では新学習指導要領の理論的側面の学修，DVD教材等を活用した学校教育現場での対話型授業の分析と評価を学んだ。後半からは，履修する学生全員に15分～20分間の模擬授業を課し，授業構想，学習指導案細案の作成及び模擬授業と事後検討を中心とした実践的な学修となるように実施した。
学生評価については、設問14「授業全体としての満足感」の平均値は4.75，設問3～設問14の平均値は4.68であり，全体的には本年度のQ1「社会・公民科教育法A2」より多少向上している。また，模擬授業の準備や学習指導案の添削指導等、授業外で自主的に学習するため助言・サポートを特に重視してきた結果、設問12の「質問や相談の機会が，十分に設けられていましたか，あるいは，課題，実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」の平均値は4.94と高い評価であった。逆に，今回で最も低い平均値4.06であった設問3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」は，模擬授業を実施した期間に終了時刻を若干延長する傾向にあったことが，原因の一つであると考えられる。模擬授業の学生の持ち時間を厳格にして，延長になってしまうことを避けたいと思う。

外国語教育センター 外国語教育センター
岩城　奈巳　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]2 |
| 授業コード | 11A03-009 |
| 教員名 | 岩城　奈巳 |
| 教員コード | 049601 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 22 |
| 回答率 | 91.7% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



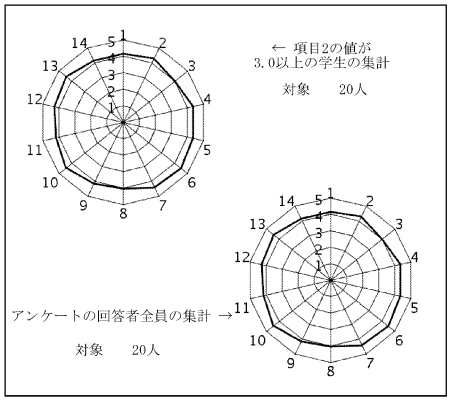

授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートは各項目とも平均以上の点数であり、特に設問14は4.77と高い評価であったため、総合的に学生にとっても満足のいく授業内容だったと感じる。毎回、教科書のテーマ紹介とその授業内での目標、そして授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果がアンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。授業は2-3名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にした。役立つ英語表現をまなび、それらを必ず講義内で実際に練習して身につけさせることを心がけた。自由記述欄では、1) TOEICの問題を扱う時もあり、授業外の試験やテストに繋がるような練習をさせてくれ、たまに行われる英語の知識クイズは英語を学習することに対する興味をより引き出してくれた、2) とても楽しく学べることも多い授業でした、3) リスニングをより実践的にできるように洋楽を使うのが面白くてよかった、4) 授業構成がしっかりしていて次の授業で何をするかがある程度わかり解説もわかりやすくビデオやペアワークなど英語の技能をあげる工夫も様々なされている（原文ママ）などのコメントがあった。特に多くの学生の就職活動の際必要になるであろうTOEICは、数回に渡って試験問題を解く練習を実施したことも評価が高かった。こちらも引き続き、サブ教材として秋学期も取り入れていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
HERSCHLER, Brian　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]3 |
| 授業コード | 11A03-010 |
| 教員名 | HERSCHLER, Brian |
| 教員コード | 100552 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 20 |
| 回答率 | 83.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

Quarter three went well. Students appreciated the class. They were kept busy with three assessed single presentations on a variety of topics and four assessed conversations with a partner. Adequate time was spent in preparation, and much student-to-student communication took place with a minimum of teacher talk. Of course strategies and appropriate language and suggested structures were given to aid students. All in all, a successful class.

外国語教育センター 外国語教育センター
VEGEL, Anton　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]4 |
| 授業コード | 11A03-011 |
| 教員名 | VEGEL, Anton |
| 教員コード | 103503 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 4 |
| 回答率 | 16.7% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. This quarter I wanted to continue expounding on the journal share aspect of the course. This point of practice is focused on spontaneous and improvised output. The additions were designed to make students more active in the activity, able to reflect on specific points of output, and further moderate the practice. To accomplish this point, I further modified and tailored a handout made to encourage self-reflection and peer-reflection.

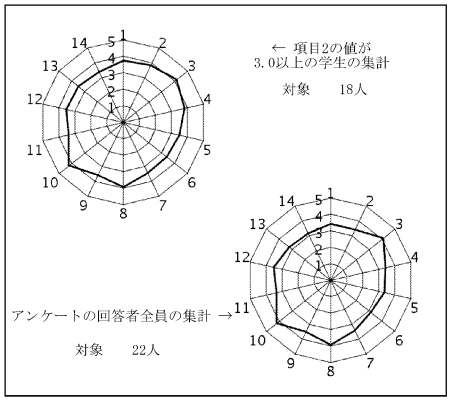
2. I believe these goals were generally accomplished or at least improved upon. The data have been presented in a way that is legible or in a way that can be efficiently understood, so I cannot make an assessment based on them. However, compared to quarter 2 where I introduced these methods, I have seen vast improvements in the organization and ability to reflect on and recall target strategies that are being practiced. Additionally, students have been more consistent in their participation and group presentations.

3. There are a number of things I still want to improve upon for next quarter. Some of these are organizing listening and comprehension better, making listening a more active activity, and giving more opportunities for target language output in practice oriented classes. These goals can all be met with small pedagogical changes to the lessons.

外国語教育センター 外国語教育センター
BINFORD, Paul　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]8 |
| 授業コード | 11A03-015 |
| 教員名 | BINFORD, Paul |
| 教員コード | 046037 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 22 |
| 回答率 | 91.7% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



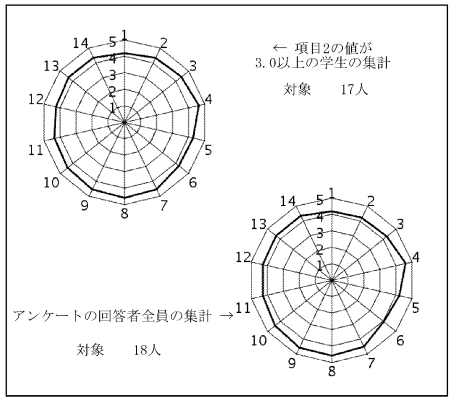

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The emphasis in quarter three was follow-up questions and content lessons. From the radar chart it seems that the understanding of the students was not too bad. In this First Year Oral Communication class we had slightly different curriculum from the first and second quarters. In the spring we used basic conversation textbooks that gave the students useful ways to start and continue a conversation on common topics. In the third quarter, using basically the same topics, the students got more practical and structured strategies. By observing the students on a twice-weekly basis, I think they could have used a bit more basic instruction and I would also have to say that the students in this class are not exactly attentive. I’ve had a lot of trouble getting them to put away their keitai phones. I addressed that problem in quarter three. I also made more effort to explain the goals and methods of the class more clearly and concisely. In general the difference between the student’s communication skills at the beginning of the quarter and at the end of the quarter was noticeable, and I would say that the student evaluation reflects this improvement. We also had a different room and the video component was enhanced by the wide screen.

外国語教育センター 外国語教育センター
QUINN Kelly　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]10 |
| 授業コード | 11A03-017 |
| 教員名 | QUINN Kelly |
| 教員コード | 049379 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 75.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



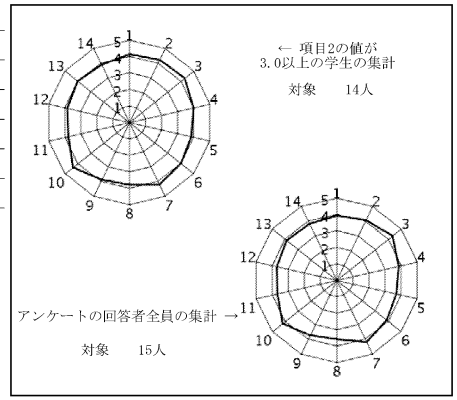

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives of the course were largely achieved. A majority of the students demonstrated the ability to engage in a simulacra of spontaneous English conversation. They responded to their partners' questions with extended answers and supported their opinions with data, examples or a logical argument. Areas that continue to need work are the speed of their responses. Conversations tend to be painfully slow and their grammar and syntax outside the immediate points targeted in the lessons could still be improved. The most common point praised by the students was 英語でコミュニケーションをとるので、英語で話す機会があって良かっ。This is pleasing because I do make an effort to be aware of the material being covered in the day's lesson and pride myself on being able to answer questions regarding the day's assignments. The most common point of criticism was "ポスターはちょっと大変でした。人前で話すのが苦手なので大変でした"This is a legitimate complaint. One of the more annoying attributes of communication is that it tends to take place in front of other people. In fact some research indicates that communication can only take place between people, but research into communication between inanimate objects is ongoing. I do not anticipate making any changes. Everything seems to be fine.

外国語教育センター 外国語教育センター
MEJCHAR Benny　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]11 |
| 授業コード | 11A03-018 |
| 教員名 | MEJCHAR Benny |
| 教員コード | 100666 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 15 |
| 回答率 | 62.5% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



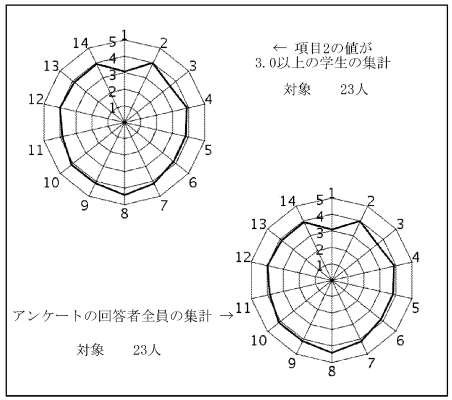

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class assessment was on the whole disappointing. Actually I believe that this was the third straight assessment by this particular class. Has this had any influence on the assessment score or whether the decline in scoring is due to a decline in performance? Nonetheless Q3 results were both disappointing and food for thought. In fact the drop was noticeable from a generally high assessment to a rather low one, in this instructor' s experience. In the prior assessment the appreciation of the sincerity of the teacher's work and effort was scored highly, and in this terms assessment it was one the higher assessed questions. In terms of teaching philosophy establishing a good relationship with the students is my most essential goal. Once a good relationship is established other class goals are more readily attainable. I believe this is particularly the case in language study. At the same time other questions were scored lower. Despite integrating new material to stimulate interest over the second half of the year as mentioned prior the total scorers were lower. These new requirements were a step up in difficulty and time required to complete . There was some fading of interest from the first half of the year. "Was this due to the greater demands over previous quarters?" This instructor will have to reflect on this. Still my intention is to continue with the more rigorous approach. One change that I will make in the future is to introduce the rigor steadily from quarter one.

外国語教育センター 外国語教育センター
佐藤　ゆかり　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]12 |
| 授業コード | 11A03-019 |
| 教員名 | 佐藤　ゆかり |
| 教員コード | 047605 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 23 |
| 回答率 | 95.8% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

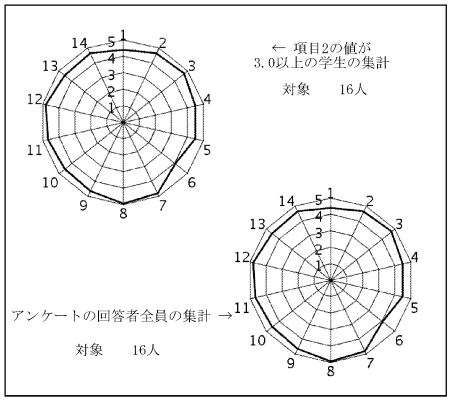
①今クオータの目標は、プレゼンテーションの基礎を学習することで、デリバリー面、内容面、視覚映像面での大切なことを、テキストに従って一つ一つ押さえ、学習項目の都度、プレゼンの実習をかさねていくことでした。第１・２Qでは、たくさんのグループワーク、ペアワークで会話やグループ発表を重ねてきたので、第３，４Qでは、より踏み込んでプレゼンに挑戦しました。一つ一つ丁寧に、知識、練習を経て進めることで、様々な項目に気を配りながら、プレゼンできる学生が増えてきています。②しかしながら、今回は、今までになくアンケートの結果が芳しくなくショックを受けている。とくに、設問１のこの科目へのQ開始時の興味関心があったかという設問については、平均３と非常に低く驚くばかりです。また、授業に興味関心が持てたか、授業によって学べたと感じるかという、設問についても、平均４を割る数字で、結論としては、今回のプレゼンをもとめるという授業内容が、彼らのレベル、希望にあってなかったのかもしれないと思う。③来年度は学生の理解を確認しながら、何につまずいているのかを、よりしっかり把握しながら進めたい。プレゼンの基礎を教えるという点については、来年度もあきらめずに継続したい。



外国語教育センター 外国語教育センター
CAPITIN-PRINCIPE, Abigail　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[G]7 |
| 授業コード | 11A03-038 |
| 教員名 | CAPITIN-PRINCIPE, Abigail |
| 教員コード | 102955 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 16 |
| 回答率 | 80.0% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |



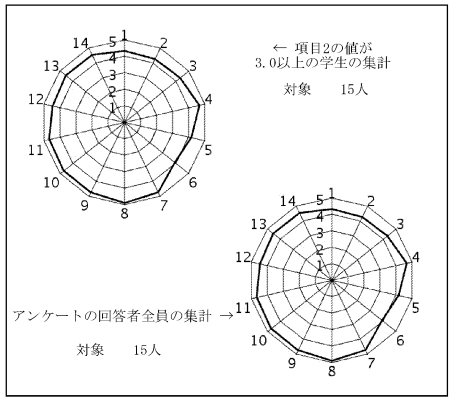

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals were, for the most part, met in the course of the classes. The students were expected to improve their oral communication and presentation skills, and many of them did improve. I believe that encouraging students to speak in English in class, not only with the professor, but also with each other, helped them use English more often, and in a natural manner. Integrating the use of English in class greaty helped in their improvement. Furthermore, students were made aware of the usefulness of English in a global environment, this helped then realize the value of English communication for their future,

外国語教育センター 外国語教育センター
DAVANZO, Christopher　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション[G]8 |
| 授業コード | 11A03-039 |
| 教員名 | DAVANZO, Christopher |
| 教員コード | 101653 |
| 登録人数 | 18 |
| 回答数 | 15 |
| 回答率 | 83.3% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

The results of the course evaluations showed that most of the students had a high level of satisfaction with the course overall, and with the instructor. All of the students also composed a written reflection as part of their final report, and the majority of them expressed the feeling that they had made tangible progress in their ability to communicate in spoken English. The class focused on presentation skills and working on a collaborative group presentation. During this process the students received a great deal of individual feedback, which will hopefully help them to become more competent speakers and prepare them well for the fourth quarter in which they will be studying advanced presentation techniques and engaging in an inter-class debate. The students have indicated that the individual feedback each of them have received about their presentations has helped them to improve and hone their public speaking skills. Next quarter I will be striving to teach them more specific speaking skills that will help them polish up the finer points of presentation. In addition, I will encourage them to focus on building their vocabularies in order to help them elevate their level of articulation of academic English. Through the various presentation and debate projects this quarter, I expect the students to make steady progress.

外国語教育センター 外国語教育センター
ADRIANOWICZ, Zbigniew　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIオーラルコミュニケーション＜再＞1 |
| 授業コード | 11A03-040 |
| 教員名 | ADRIANOWICZ, Zbigniew |
| 教員コード | 103868 |
| 登録人数 | 9 |
| 回答数 | 1 |
| 回答率 | 11.1% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class is for Repeaters, for people who for some reason could not get the credit last year. The number of the students in this class changes each quarter, and each time there are some students who take this class for the first time. Because of this, it’s very hard to make a yearly schedule. I have tried to allow the students to speak freely. I wanted to have many chances to speak individually, in short or longer class presentation, but I also wanted them to cooperate, for example through debates.

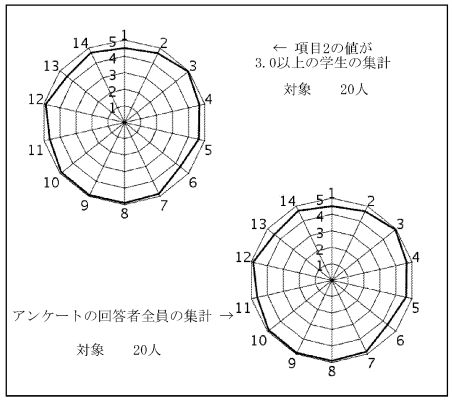
My aim was to create the atmosphere where the students would like to come to class, would enjoy the place, and would feel safe to speak in English, regardless of the level they possess. To a certain degree I believe I achieved these goals.

In the final quarter the number of students will again increase. I will need to see again the reasons why they take the class, and again, I will try to help them want to get the credit.
Specifically, I would like to increase the number of projects where the students need to cooperate. Quite many of the students have various adjustment problems, they seem to want to reach out, but are not sure how to do it. A chance to cooperate with others may give them a chance to spend time with others, without taking the risk of reaching out.

外国語教育センター 外国語教育センター
NICKSICK, Thomas　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー[B]3
授業コード　11A07-010
教員名　NICKSICK, Thomas
教員コード　102113
登録人数　24
回答数　20
回答率　83.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



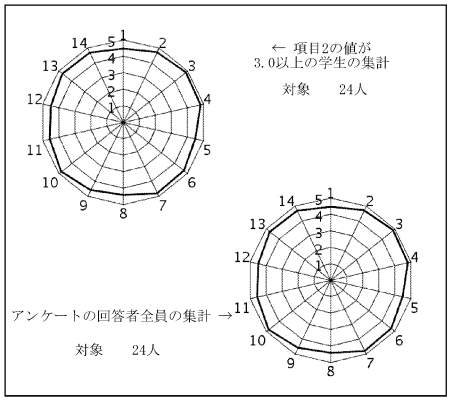

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students will learn various reading strategies to improve reading proficiency. Activities include extensive and intensive reading tasks using a variety of texts. Students will also learn how to write clearly and effectively. Students will develop skills in planning, organizing, and developing ideas.
The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.85. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.90. Regarding enough opportunities for questions or to consult the instructor, the rating was 4.90. Regarding overall satisfaction of the course, the rating was 4.70.
However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the rating was 4.45. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.35.

外国語教育センター 外国語教育センター
JONES William M.　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー[B]5
授業コード　11A07-012
教員名　JONES William M.
教員コード　100263
登録人数　24
回答数　24
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor was pleased that all 24 students took part in the questionnaire, thus resulting in the most statistically accurate assessment of students' perceptions. Results were not at all disappointing and Instructor will continue to teach according to what he believes is the most logical and effective method, and not worry too much about the questionnaire.

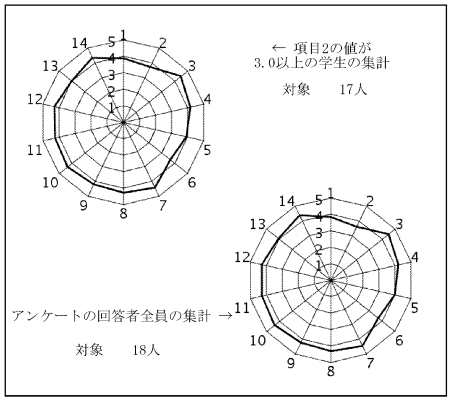
Although level 5 business majors, the writing progress of these students I believe is now comparable, or perhaps exceeding the level of "higher levels" classes. To date, students have learned and written about the following Genres: Biography, Cause and Effect with Solutions, Analytical, Suggestive, Comparative, Persuasive, Descriptive (photos, personal experiences and shared experiences).

Instructor would like to introduce Business Vocabulary but due to time constraints, this may be difficult. As always, Instructor will try his absolute best to ensure that students receive an education that is not only challenging, but rewarding and enjoyable.

外国語教育センター 外国語教育センター
山田　秀子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー[B]9
授業コード　11A07-016
教員名　山田　秀子
教員コード　103595
登録人数　24
回答数　18
回答率　75.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。予定していた学習内容・範囲の9割程度を終えることができた。
アンケートでは、予習や復習を含めて主体的に受講できたかどうかを問う項目2の平均値が最も低かった。各学期に2回ずつ実施している小テストの結果にもこの傾向が表れており、今学期はそれ以前と比較すると平均点が低かった。教材の難易度が高くなったことも要因の1つと考えられるが、学生の取り組み姿勢も影響しているとみられる。次学期の課題としたい。前学期の自己点検・評価報告書で今後の課題とした、授業外活動の多読への取り組み方に関しては改善が見られた。多読の本来の目的を再確認させたり、評価方法を少し変更したりすることで、大半の学生が学期を通して継続的に読むという目標を達成することができた。ライティング課題については、ほとんどの学生が提出期限を守り、未提出者はゼロであった。全般的に課題の取り組みに大きな問題はないが、学生がより主体的に取り組めるような授業構成を検討したい。
自由記述の回答に、ライティングの機会がたくさんあった、というものがあった。今学期から週1回10分間のフリーライティングの時間を設け、辞書に頼らず自分の語彙・文法力で英文を書く訓練を行っている。個人的に行ったアンケートでも好意的な意見が多く、また時間内に書ける単語数が増えている学生もいるため、今後も継続していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
BONDOC, Jeffree　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー[B]10
授業コード　11A07-017
教員名　BONDOC, Jeffree
教員コード　103469
登録人数　24
回答数　3
回答率　12.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

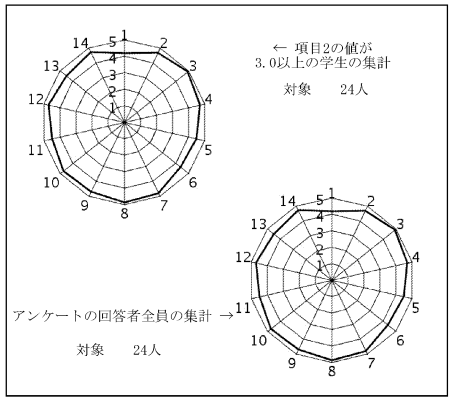
This semester went better than expected. The goals were achieved for the majority. The students were exposed to more reading techniques on top of the vocabulary component. The only thing I would like to change is to include more practice from the textbook to better prepare the students for the exam. Also, I would like to change the book review I implemented this term. Although, it went well, it was a little too simple. I would like to include questions that would require the students to think more critically.

For the writing component, the goals were largely achieved. The students tackled more difficult topics and writing genres. However, I should have included reflection questions to help student even more become part of their development process. Also, structured peer review would also help improve that development in their writing.

外国語教育センター 外国語教育センター
平出　優子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語III リテラシー[B]11 |
| 授業コード | 11A07-018 |
| 教員名 | 平出　優子 |
| 教員コード | 102521 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 24 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 1　回 |
| 補講回数 | 1　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

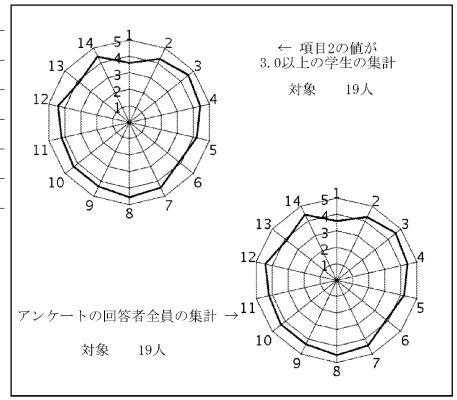
Ｑ3におけるWritingの目標は、書くための準備としてlistやmind mapなどの技術を使えるようになること、写真を用いて人物や事物の描写について200語以上の首尾一貫したパラグラフが書けるようになること、topic sentence, supporting sentenceなどWritingに関する基本的な用語を理解できること、基本的なエッセイのフォーマットが使えるようになること、つなぎ言葉をつかえるようになること、であった。また、Ｑ２におけるReadingの目標は、流暢に英文を読むことが出来るようになること、様々な読解方略を効果的に使って読むことが出来るようになること、テクストの構造をとらえながら論理的に読み進めるcritical readingの力をつけること、読解を支える文法・語彙力をつけること、であった。データの数値が全般的に高い数値であり自由回答でも高評価を沢山得られていることから、学生は授業の内容を十分に理解しており、この授業の掲げた目標に到達していると考えられる。今後はより難易度の高い様々なトピックを提供し、WritingとReadingの能力向上に向けて努めたいと考える。



外国語教育センター 外国語教育センター
加藤　尚子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語III リテラシー[B]12 |
| 授業コード | 11A07-019 |
| 教員名 | 加藤　尚子 |
| 教員コード | 103630 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 79.2% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
ライティングでは様々なジャンルの小作文の作成をMS Wordを使用し、正しいフォーマットに沿いながら習得することを目標としていました。また、transitional phrases を始め 文と文を繋げるような文を円滑にする練習を重点を置きました。その結果、MS Wordで作文をタイプするのには慣れてきましたし、正しいフォーマットで書けるようにはなりましたが、時々戸惑うことがあるようです。文が円滑になるようにtransitional phrasesや文を繋げる能力は発達中です。

リーディングでは文をなるべく早く読み話の内容が理解できるよになるという目標がありました。また、単語の意味を文の前後で推測できるように練習をしました。話の内容によって理解力が異なるようです。

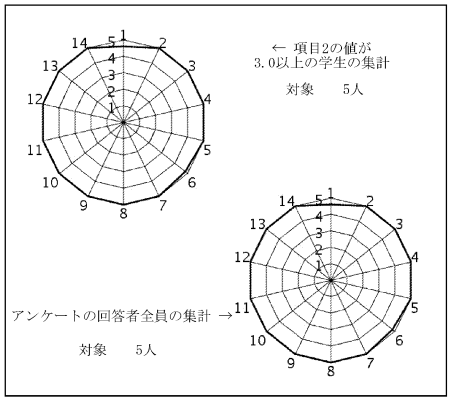
２．苦手意識がある科目のようなのでなかなか心が入りにくく、生徒たちが自分で力がついている気がしないという意見がありました。生徒達が新しい知識を身についているのを実感できないと感じているのは由々しき問題です。

３．改善点、今後の抱負では、生徒が少しでも力がついてきていると思えるように授業を進めていきます。

外国語教育センター 外国語教育センター
MOORE, Douglas　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー[P]10
授業コード 11A07-029
教員名　MOORE, Douglas
教員コード 100954
登録人数　18
回答数　5
回答率　27.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall this course has been pretty successful. The premise of this course was to give students access to reading materials that they could take into real-world directions and to provide ideas for their writing portion of the class. While the reading was not a huge amount of words, they also used the writing ideas and vocabulary in their writing, so they got double use out of the reading materials.

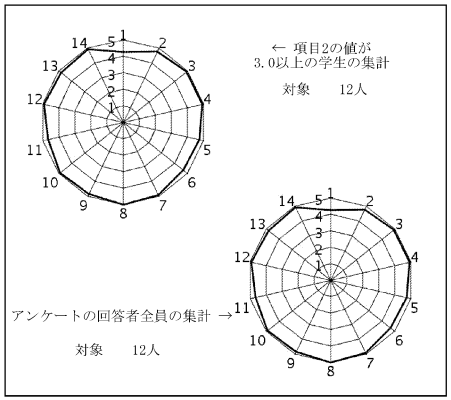
While there were few comments the class seemed to go well and the students did not seem to have any really concrete complaints about it.

For the next semester I will be choosing a more difficult textbook that will provide some online assessment and further reading.

外国語教育センター 外国語教育センター
鈴木　愛　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー[P]11
授業コード 11A07-030
教員名　鈴木　愛
教員コード 103596
登録人数　18
回答数　12
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

Regarding the set goals and student’s achievement for this quarter, I believe I have mostly achieved their learning goals. Especially with the writing, they were able to write their first multi paragraph essay successfully. Regarding the , I assume they were able to learn a ouple of reading skills that they have never learned before.

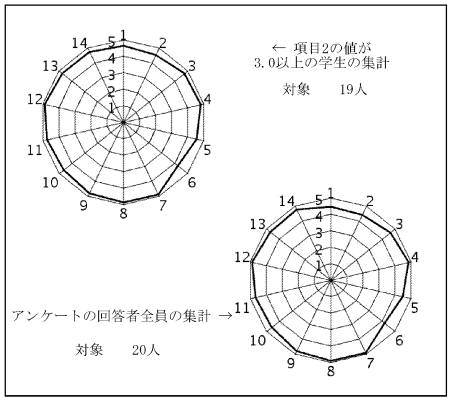
As for my self assessment on the class, I am able to give quite high evaluation on my teaching. Especially with the writing, I did writing conference with the students, and they all said it was very helpful. I am content with the fact that students feel they are learning what they are supposed to be learning at an adequate speed.

For last quarter, I would like to keep students motivated to learn English. I will try new things so that they will not get bored which is to include a little bit of planning for English exams for reading. As for writing, I will keep on working with multi-paragraph essay on opinion essay. This will help students succeed for exams as well. I would definitely include conferencing for the essay as all students stated that it was helpful.

外国語教育センター 外国語教育センター
水野　眞紀　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー[G]5
授業コード　11A07-036
教員名　水野　眞紀
教員コード　101981
登録人数　20
回答数　20
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 今期の目標は概ね達成できた。特にライティングでは、リーディングと同じテーマを扱いつつ、Q1とQ2のパーソナルなスタイルからアカデミックなスタイルへ移行できるよう意識付けながら指導を行った。フリーライティング、ドラフト、ファイナルと何度も校正し、長文エッセイを様々な構成で書けるようなった。個別とクラスに対する事後指導により、ライティングはプロセスであると理解できつつある。
② 数値データからも、学生が授業の目標を理解し、積極的に取り組んだことが伺える。目標到達に向けて力がついたかについては比較的低いが、これは英語で的確に表現できないことを自覚していることによる。ドラフトを校正しながら目に見えて改善されていく過程を自己評価できるように指導していきたい。英語力の向上とともに自信もつくと思われる。自由記述からも、英文がたくさん書けるようになり、語彙が増え、授業もわかりやすいとある。改善点として進度を上げてほしい、集中して取り組みたいとの記述があった。Q3にもなると学生の動機や実力が分かれてきている。理解の遅い学生の補習ばかりでなく、早い学生に対する発展学習も行うように心がけたい。
③ 今期もリーディングとライティングの授業を週2回で計画、実施することは負担が大きく、常に効率のよい方法を考える必要にせまられているが、学年末まで懸命に取り組みたい。



外国語教育センター 外国語教育センター
SWEETLOVE, Douglas　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語III リテラシー＜再＞1
授業コード　11A07-040
教員名　SWEETLOVE, Douglas
教員コード　102522
登録人数　5
回答数　3
回答率　60.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

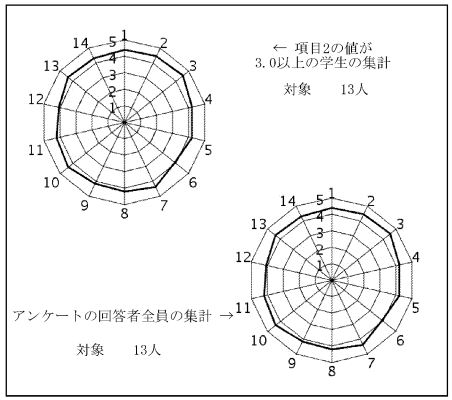
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the course were largely achieved.  I was able to teach both the reading and the literacy ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling.
At first glance, the results are great. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won’t consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department. Finally, with a class so small the results cannot honestly be seen as accurate or significant.
However, I will do my best to keep my classes challenging and enjoyable for my students

外国語教育センター 外国語教育センター
島　禎子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIリテラシー[B]13 |
| 授業コード | 11A07-041 |
| 教員名 | 島　禎子 |
| 教員コード | 045559 |
| 登録人数 | 23 |
| 回答数 | 13 |
| 回答率 | 56.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

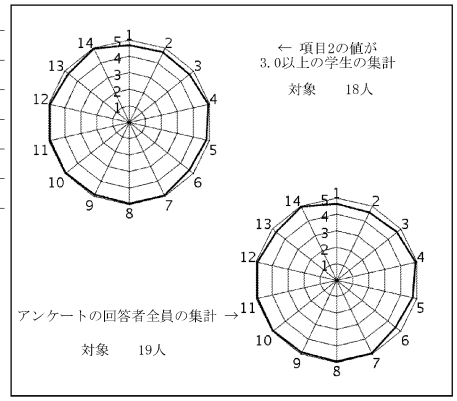
Q3の到達目標の大きな変化は、ライティングがparagraphからessayになることであり、いかにessayに無理なく移行できるか、教える側にとっても正念場であった。ここで躓いては折角少しずつ英語に対して自信を取り戻しつつある状況がまた崩れてしまう可能性もある。essayの説明はできるだけ簡潔にし、sample essayから各自のessayに利用できる箇所を予め指定しておいた。またfirst draft返却後、final draft作成中に、修正ポイントは1人1人違うため、できる限り個々人の机まで行き個人指導を心がけた。改善につながれば、評価も上がり、評価が上がればやる気も出るのでは、との思いからであった。ただ、一回目である一定のレベルに達した学生には、修正ポイントを端的に指摘しそれがかなりの改善につながったが、一回目のdraftが全面的に修正を必要とする場合は、限られた時間内に二回目のの改善につながる指摘をするのは難しかった。最後に全体を振り返るreflectionの中で、「翻訳ソフトに頼らなくても書けるようになった」「書くスピードが速くなった」など書く学生もいて、それだけでも時には徒労に終わるかに思われるこちらの地道な努力が報われた気がしてうれしかった。どんな時も歩みを止めないことが大切。その小さな一歩はいつか大きな進歩につながる一歩。ともにあきらめないで歩んでいこう。



外国語教育センター 外国語教育センター
SCRUGGS, Edward　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]6 |
| 授業コード | 11A11-006 |
| 教員名 | SCRUGGS, Edward |
| 教員コード | 101864 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 19 |
| 回答率 | 86.4% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

English III Communication Skills {HA  HP  HJ} 6
コード　11A11-006
Scruggs Edward 101864
Class Cancellations: 0
Make-up classes: 0

I must first say that this is one of the most positive evaluations I have ever had the pleasure to receive. I credit the concentration and motivation of these fine students for our successes. The stated course goals were met and measurable learning took place. That being said, I hope to improve the class in the following areas:

The materials used were well received by the students, but could be more challenging for the majority of class members. Using peer tutoring, I hope to be able to "raise the bar" as it were for coming classes.

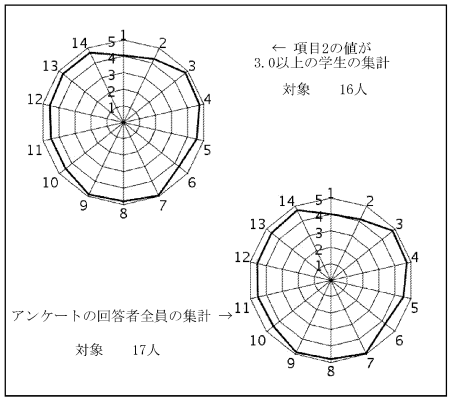
The dictation materials also seem to have been popular, but more varied material would keep students more engaged. I plan on spending less time on individual exercises, but creating more materials with which to pick up the pace of learning.

Again, I am most thankful to this fine group of students.  I hope to learn even more from this experience.

外国語教育センター 外国語教育センター
平野　みな　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]12 |
| 授業コード | 11A11-012 |
| 教員名 | 平野　みな |
| 教員コード | 152414 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 77.3% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



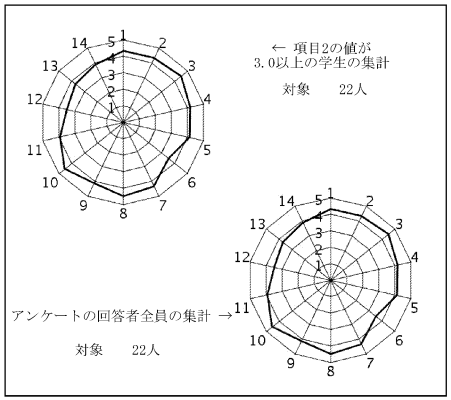

授業評価結果を踏まえた点検・評価

第３クォーターでは、Speakingは主にTravelとFriendsというトピックについて、新しいストラテジーを使用しながら７分間会話ができること、ReadingでもSpeakingと関連したトピックを選び、短時間で要点を理解し、それについて英語でペアとディスカッションする力をつけること、また、多読では個々が個別の目標をたて,週ごとにチェックをし、学習者として自分自身をモニタリングする力をつけることを目標とした。Speaking,Reading両方において、ほとんどの学生が目標を達成でき、結果として、読むスピードがあがる、多読の語数が増える、スピーキングテストのスコアがあがるという成果がでた。数値データ・自由記述に関して、全体として第１・第２クォーターから大きく改善が見られた。特に、「間違いをおそれなくなった」という声があったのは、４月から気を付けて声掛けをしていたことなので、良かった。１名の学生から、授業態度に問題がある学生への対応についてコメントがあったので、次クォーターで改善させていく。席については、他のクラスで１つおきではなくて隣の方がペアワークがやりやすいとの声があったため、隣にしていたが、狭いという声があったため、他の学生の希望を再度確認して、Q４の座席を検討する。尚、小テストに関して「前日にもいってほしかった」という記述が１名あったが、小テストの実施日については初日からプリントでも口頭でも予告ずみであり、実施１週間前にも再度細かく説明をしている。１週間前に欠席した学生のために再び３日前にアナウンスをする必要はないと考える。次クォーターでは、通常のSpeaking,Readingに加え、映画に関するプレゼンテーションも行う。学生がモチベーションを保持し、自立した学習者として自分の目標を立て、モニターし、達成することができるようにより細かなフォローアップをしていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
DRYDEN, Laurence　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]8 |
| 授業コード | 11A11-022 |
| 教員名 | DRYDEN, Laurence |
| 教員コード | 101482 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 22 |
| 回答率 | 88.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the third quarter of a course in English speaking and reading for students majoring in other languages and cultures.

Students' responses to the anketo were respectably positive, averaging 4.11 and 4.07 in both statistical categories.

By now, the textbooks and the quarter system are familiar to the students and the instructor, and the course has been streamlined in order to cover the textbooks more effectively. As the anketo suggests, the students feel that they are making progress, and it is clear that their motivation has risen. Consequently their responses will guide the instructors' choices for the fourth quarter.

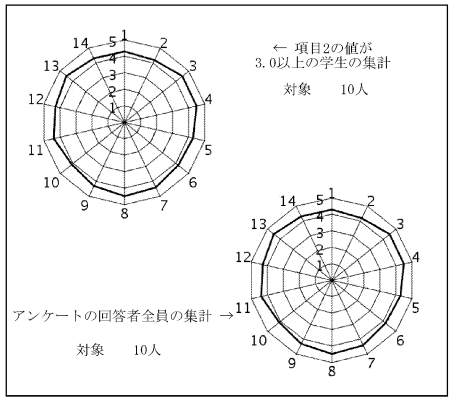
Among the changes planned for the fourth quarter, students will study vocabulary more systematically by using specially designed forms for making notes on new words and learning their word families, collocations and historical origins, especially in relation to the students' other language majors.

Changes are expected, too, in the final report, which will ask students to assess their progress over the entire year, based on a number of specific criteria in the language skills of reading and speaking but also, at times, in listening and writing.

外国語教育センター 外国語教育センター
SIMMONDS Brent　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]9 |
| 授業コード | 11A11-023 |
| 教員名 | SIMMONDS Brent |
| 教員コード | 103050 |
| 登録人数 | 24 |
| 回答数 | 10 |
| 回答率 | 41.7% |
| 休講回数 | 1 回 |
| 補講回数 | 1 回 |



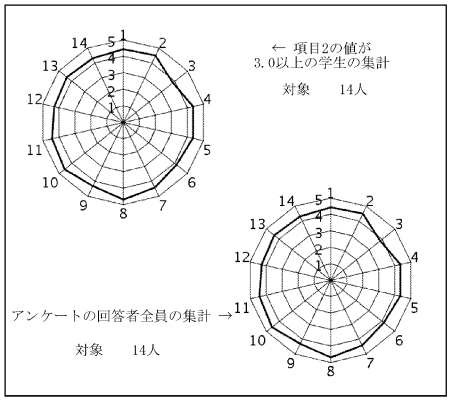

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I will strive to give the students the opportunity to speak about topics that interest them in every lesson.
　There were several problem areas. Firstly, students are losing interest in English and concentrating on their major language. Secondly, students didn’t take the writing activities as seriously as they could. Reminders from the teacher would benefit in this area.
　The class reading activity went well but several books were lost, advice from senior teachers was invaluable in this area.　During this academic year I would like to build on the previous years work and explore ways to connect context to the students majors.

外国語教育センター 外国語教育センター
LENIHAN John　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[E]1 |
| 授業コード | 11A11-025 |
| 教員名 | LENIHAN John |
| 教員コード | 045070 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 73.7% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



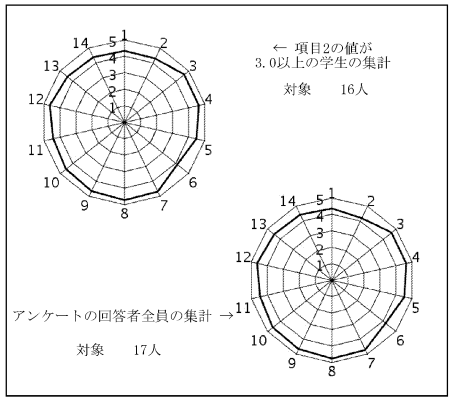

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the class were to continue improving the students’ reading skills and spoken English in everyday situations, with particular emphasis on vocabulary, similes and idioms necessary to perform the various tasks at hand. The large majority of students showed improvement in these areas and enjoyed the variety of tasks we employed through the use of our outside materials. The students practiced speaking and writing the abovementioned vocabulary words and phrases to further their retention. They wrote original short dialogues that we repeatedly used in class. They can understand that repetition is vitally necessary to develop a strong base for everyday vocabulary.
We employed, once again, the graded readers, which the students seem to enjoy and get great benefits from. We use the graded readers for reading skills, discussion, comparisons and short reports,.
The attitude of the large majority of the students is very positive and they are very active learners in class. The attendance rate is very high and motivation is very good. We plan to continue with basically the same types of activities, graded reader exercises and extended vocabulary lists, while at the same time encouraging them to use them in both speaking and writing.
We will continue to adapt to our activities according to the changing content of our outside materials. I look forward to more enjoyable classes with these students and look forward to witnessing their further improvement in various aspects of English reading and conversation.

外国語教育センター 外国語教育センター
伊藤　実里　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[E]4 |
| 授業コード | 11A11-028 |
| 教員名 | 伊藤　実里 |
| 教員コード | 045542 |
| 登録人数 | 19 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 89.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



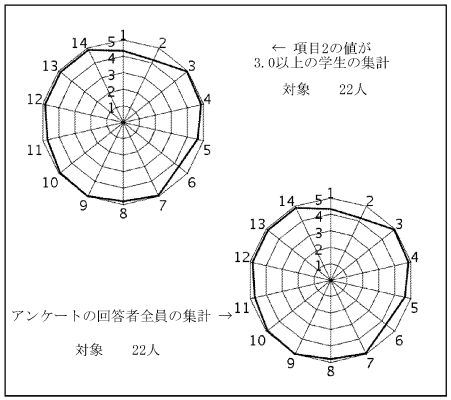

授業評価結果を踏まえた点検・評価

会話面でのコミュニケーションの目標は、現実の日常会話で典型的に使われ、誰とのどんな会話にも応用することのできる基本的な英語表現の習得であるが、評価アンケートでは、自分が授業目標を達成できている実感がそれほどない様子がうかがわれた。実際には授業中の練習時や会話テストではそれらの表現を十分使えている人が多い。実感できないのは、配布したシラバスでの表記方法にわかりにくいところがあったのかもしれない。できるようになったことが実感できないような書き方は反省点である。次年度は改善したい。リーディングで取り上げている話題は現実社会で賛否両論あるものという難しさがある。英語での「おしゃべり」から、たとえ簡単な英語であっても、大学生らしい「ディスカッション」に発展させることができるよう、さらに工夫を重ねていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
LANGER Daniel　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[E]5 |
| 授業コード | 11A11-029 |
| 教員名 | LANGER Daniel |
| 教員コード | 101438 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 22 |
| 回答率 | 100.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think we did a fairly good job of meeting the class objectives. I would still like to have more reading done outside class, but I have been tentative about pushing the students. I am pleased with the number of activities provided by the speaking textbook, and feel that students have responded well to the structure and variety provided.

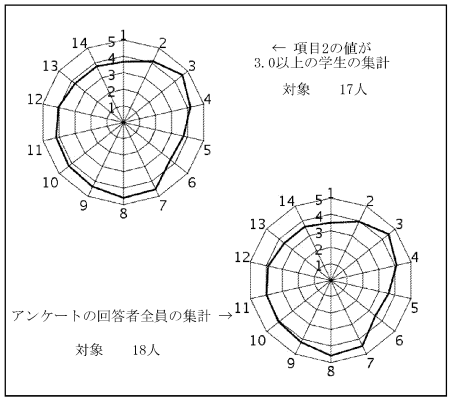
The evaluations were very positive in tone. There were few comments, but the ones given were kind. I will try to maintain classroom harmony for the fourth quarter.

In the future, I will probably try to use a similar lesson plan, with the inclusion of some stronger encouragement for after-class reading.

外国語教育センター 外国語教育センター
大竹　万里　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[E]10 |
| 授業コード | 11A11-034 |
| 教員名 | 大竹　万里 |
| 教員コード | 047084 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 90.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



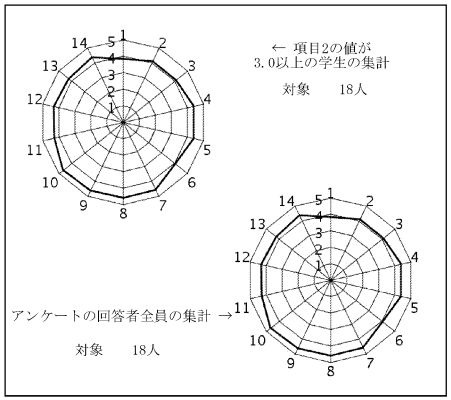

授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタヴュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。プレゼンテーションの準備と発表も目標とした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。第１、第２クオーターを通して学習を記録する小冊子（Class Book）を配布し、図書館のグレーディッドリーダーを利用した多読を目的とする自主学習の記録、グループでディスカッション内容を記録することを課題とした。グループ発表の機会も設けた。到達目標はほぼ達成できたと考える。
授業評価の項目３から１４の平均数値データが４．０１、学生の授業に対する全体的な満足度については３．６１あった。記述欄のコメントに、「わかりやすい」「生徒の興味の持てる内容で授業展開してくれてとても面白い授業」と評価する記述もあるが、履修前の授業内容についての興味の低さ（項目１の平均値３．５０）もあって、学生の満足度は低かった。学生の項目１６の授業の改善点の記述はゼロであったため、参考にすることはできないが、第４クオーターでは、さらに興味のもてる授業内容とわかりやすい授業を心がけていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
内川　元　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[E]12 |
| 授業コード | 11A11-036 |
| 教員名 | 内川　元 |
| 教員コード | 101922 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 90.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



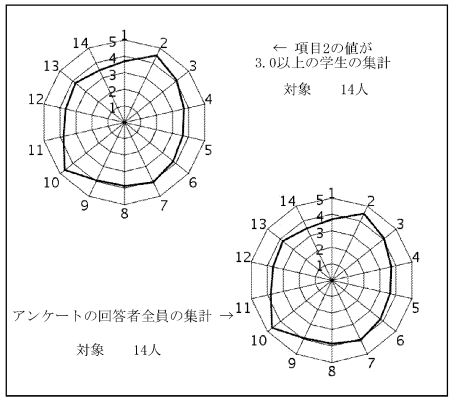

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はコミュニケーションをする上で欠かせない、聞く力と読む力をつけさせることに重点を置き、さらに日本人学習者の多くが持つ「英語を話すことへの 壁」を壊すことを重要目標にして進めています。
特に今回評価を実施したこのクラスは授業の雰囲気が大変よく、英語による会話の時間も盛り上がっています。生徒の授業態度もよく、皆指示をしっかり守って各種タスクにきちんと取り組むため、大変指導のしやすいクラスです。また復習テスト、小テスト、リスニングおよびスピーキングテストの結果、レポートの出来から大多数の生徒が概ね授業目標を達成しているものと考えています。
評価数値に関しては、項目によって多少下がっているものもあるものの、全体としては上昇傾向で、特に1・2学期に他の設問より目立って数値が低く、3・4学期の取組課題にしていた「力がついてきているか」との問に対する数値が上がり、他と並んだことを大変嬉しく思います。
自由記述欄の記入は、良かった点、評価できることとして「時間がしっかり決 まっていること」をあげた1人以外記入はなく、改善点を上げた生徒はいませんでした。
今後も必要に応じて改善を行い、授業の質のさらなる向上を図っていきたいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
PALISADA Eloisa　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]2 |
| 授業コード | 11A11-041 |
| 教員名 | PALISADA Eloisa |
| 教員コード | 055830 |
| 登録人数 | 20 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 70.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



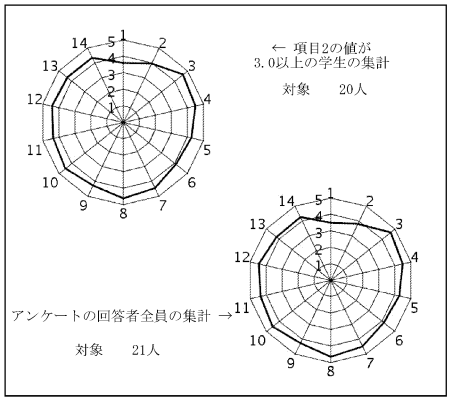

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of this course is to further practice students' communication skills and reading fluency. There seems to be a mismatch between the students' numerical result of the survey with their comments. The overall assessment was below 80% but their written comments said that the teacher responded to the students' complaints and has changed many things for the better from Quarter 2. Moreover, they said, "We're satisfied with this Q3 English class." Some students gave a perfect 5 in all the items and a few gravitated towards ones and twos that led to a lower average satisfaction (73%). A few students marked 1 showing not interested in the content of the course before the enrolment. However, majority have been proactive in their participation and preparation (90%). In class management, however, students valued (93%) how the teacher considered the degree of their understanding and that practical exercises were done effectively. There had been a proactive and open dialogue between the teacher and the students about better time management, adherence to course syllabus and target, scheduling of presentations, and enough opportunities for consultations and guidance that we all try to carry out in the next quarter. The numbers may not reveal it, but the majority of the students are showing progress, confidence, and satisfaction in their abilities and being in class.

外国語教育センター 外国語教育センター
ウエストビィ　三奈　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語IIIコミュニケーションスキルズ[S]9 |
| 授業コード | 11A11-059 |
| 教員名 | ウエストビィ　三奈 |
| 教員コード | 102952 |
| 登録人数 | 23 |
| 回答数 | 21 |
| 回答率 | 91.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



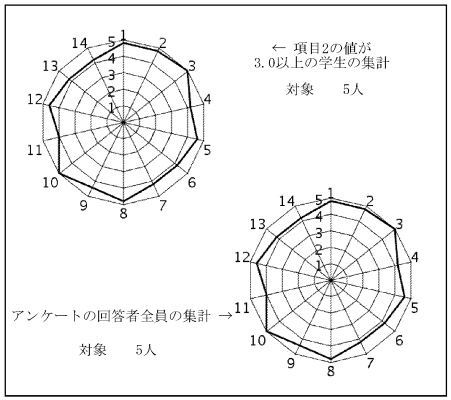

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Ｑ３の授業目標は、Ｑ１ Ｑ２に続き、多読によって多くの英語表現に触れ、語彙を増やすとともに、授業毎にクラスメートとBook Talk をすることによって様々な内容の話を自分の言葉で表現できること、そしてspeakingのクラスでは、様々な写真の描写をwritingとspeakingでできるようになることであった。speakingのテストでは、初めて見る写真について描写することを求められ、これまでのように暗記するだけでは点数が取れない事で苦労している学生も見られたが、おおむね当初の目的は達することができたように思う。このクラスでは、授業中の学生による発言回数も多く、自由に気持ちを英語で表現できる環境であることが良い点であると感じる。Ｑ４ では多読の活動を続けるとともに、様々なstoryを、様々な新しい表現や文法を交えながら流れ良く話すことができることを目指す。最終的には、自己に起こった話を英語で話す練習も加えたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
FOX, Aaron　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]2 |
| 授業コード | 11A13-002 |
| 教員名 | FOX, Aaron |
| 教員コード | 103869 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 5 |
| 回答率 | 20.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



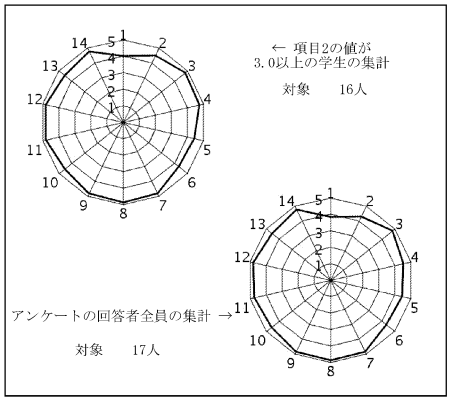

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I. The reading goals set for the in the handbook were achieved by almost all of the students in the class. Most impressive were the high scores achieved by the majority of students on all quizzes and tests.
I would say that reaching the reading goals was quite satisfactory and that based on the outcomes of the students test scores and application of the skills covered in regards to reading I am very pleased with the results.
On the other hand, I hope for better progress regarding student speaking skills. The balance of the course was focused on reading skills and practice, with a secondary focus on discussions related to the topics read. It comes as no surprise that progress, in terms of speaking skills, would lag behind those of reading.
As for the attitude of the class, it was positive, overall. For the most part, students were courteous, attentive, and punctual. They completed their assignments on time and worked well together on in class activities such as group discussions.
Looking forward to the next quarter, my primary goal is to make more progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook. I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. It may better support the students to practice speaking about the topics after having read about it first.

外国語教育センター 外国語教育センター
LANDSBERRY, Lauren　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語Vコミュニケーションスキルズ<E>8 |
| 授業コード | 11A13-035 |
| 教員名 | LANDSBERRY, Lauren |
| 教員コード | 103626 |
| 登録人数 | 22 |
| 回答数 | 17 |
| 回答率 | 77.3% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

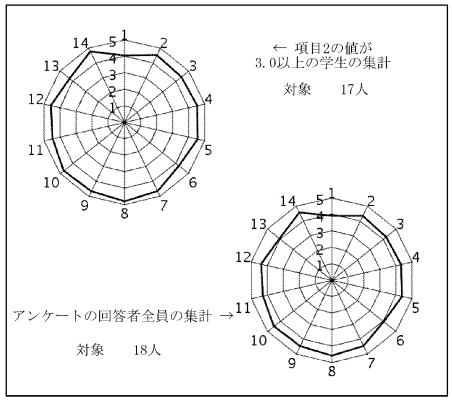
I have been glad to be in a smaller classroom this year as I feel the close proximity to the students keep them quieter and more focused on their study. Whilst this is difficult when we have presentations or group assessments I definitely feel the smaller room keeps them more focused. Some students have continued on with the course from quarter three and also some others are back from quarter one.

I felt that all of the goals that were set were achieved in the class. I also used some online activities with their smartphones to keep their motivation up and we also enjoyed some activities using youtube. I love that wi-fi is available in the classroom this year. It is an enormous benefit as the students don't have to worry about their data and are all able to participate in online activities. I look forward to teaching at Nanzan again next year.

外国語教育センター 外国語教育センター
GAFFNEY, Sean D　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]3 |
| 授業コード | 11A15-003 |
| 教員名 | GAFFNEY, Sean D |
| 教員コード | 101224 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 18 |
| 回答率 | 72.0% |
| 休講回数 | 2 回 |
| 補講回数 | 2 回 |




授業評価結果を踏まえた点検・評価

As always this was a pleasant and enjoyable class to teach. Just like last the previous three quarters the students were amiable, motivated and easy to teach. I felt that most of the goals I set for this class were achieved, in both the reading and speaking components. My sense is that the class was satisfied with the materials we used and that my goals of using stimulating and interesting materials to read and talk about in order to improve reading and speaking skills were largely achieved. Overall I was pleased with the way the class responded to the activities. Students were attentive and stayed on task. I used my own materials that seemed to match well with the student levels.

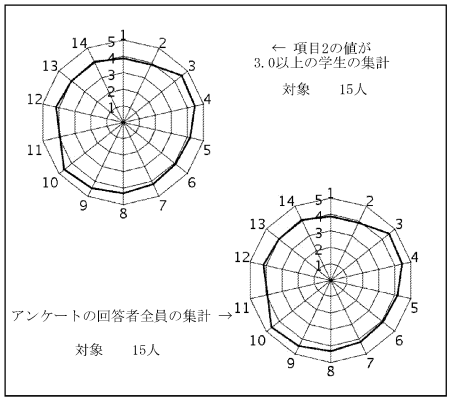
Most of the students seemed to be motivated and interested in the materials presented. I was pleased that the comments were positive and that I was considered to be funny and kind and that the class was interesting. These students worked very well together, even when a lower-level student was paired with one of the better students. Again I felt particularly proud of the students who initially showed little interest in learning English, it was these who made the most progress.

I was very pleased with these particular students' progress and their seemingly newfound interest in studying English, and they themselves appeared to be pleasantly surprised by their progress.

外国語教育センター 外国語教育センター
HAYES, Mary　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]4 |
| 授業コード | 11A15-006 |
| 教員名 | HAYES, Mary |
| 教員コード | 103625 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 15 |
| 回答率 | 60.0% |
| 休講回数 | 0 回 |
| 補講回数 | 0 回 |



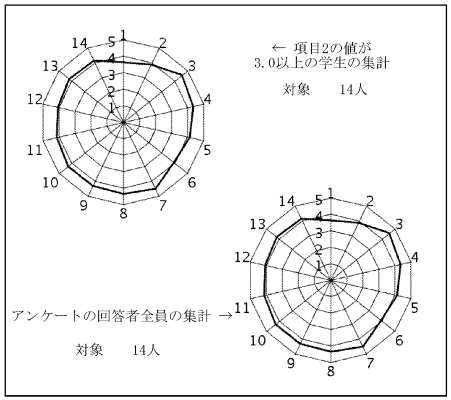

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goal of developing the students' communication ability was somewhat achieved in this quarter. This was clear from the individual presentations made in the last five sessions. The talks were well prepared and delivered which showed progressive improvement. The goal of reading extensively was also achieved and there was a marked improvement in the writing of summaries.
2. The data and comments on this communications skills course was positive on the whole and the feedback was welcome. The results show that the text was suited to the needs and level of the class and provided good content to motivate and maintain interest.
3. Going forward, I would focus on content based material and increase opportunities for written output as progress overall is more likely with a class of this level.

外国語教育センター 外国語教育センター
加藤　普由子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]11 |
| 授業コード | 11A15-013 |
| 教員名 | 加藤　普由子 |
| 教員コード | 101654 |
| 登録人数 | 25 |
| 回答数 | 14 |
| 回答率 | 56.0% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



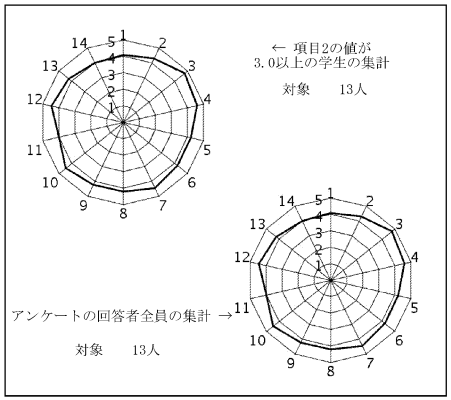

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は理工学部を対象とし、Q1～Q4と継続する授業である。目標は英語の発音習得、語彙力増強、リーディングストラテジーの習得、継続的多読である。Q2に引き続き評価対象になったが、比較して大きな変化はない。まず25名中の回答数は14名であり、半数強の意見である（Q2では６割）。まず基本の授業の内容に対する興味は平均値で3.64であり、これも変化はほとんどみられない。設問４（授業の構成や進行速度）、設問５（到達目標理解）、設問９（教員の理解度配慮）、設問１１（適切な指導や情報提供）に関し、２を選択した学生が１名存在した。同じ学生かは不明だが、自由記述欄に「復習できるよう解答をボードに書いて欲しい」とあり、Q4で改善したい。設問１２（質問や相談の機会）についても、２を選択した学生が１名存在したが、自由記述欄には「一回一回丁寧に対応してくれた」「わからないところを聞きに行ったらわかりやすく教えてくれた」とある。授業中は机間巡回をし、授業後にも教室に残っている。メールアドレスも開示しているので、どのように理解すべきか難しいが、Q4は学生をもう少ししっかり観察してみたい。他方、授業に対して「面白い」との意見もあり、素直に喜びたい。設問１３と設問１４の総合評価では、回答者全体の７割～８割が５と４評価である一方で、３評価が２～３割存在することを認識して、Q4に臨みたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
VIADO Cora　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

| | |
|---|---|
| 科目名 | 英語Iライティング<HA, HP, HJ>1 |
| 授業コード | 11A17-011 |
| 教員名 | VIADO Cora |
| 教員コード | 100553 |
| 登録人数 | 23 |
| 回答数 | 13 |
| 回答率 | 56.5% |
| 休講回数 | 0　回 |
| 補講回数 | 0　回 |



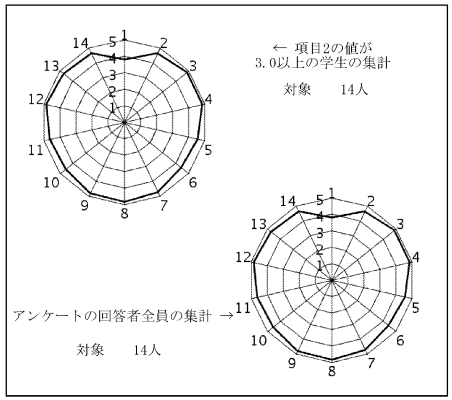

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was delivered using practical and collaborative teaching styles. Students learned how to write clearly and effectively for a variety of writing tasks such as letters, short paragraphs. They developed skills in planning, organizing, and developing ideas, recognizing their audience, formatting a paper, typing, and combining sentences. Pre-writing techniques such as lists, mind maps, and free writing helped students organize their ideas. Opportunities for sharing ideas and written work were provided and students showed interest in getting to know more about their classmates. The overall positive results of the students' evaluation indicate the students' satisfaction with the content and dynamics used in the class. Students showed contentment with the time and classroom management strategies used. The students' comments also showed an appreciation for the time given for discussion, the teacher's manner of relating to students, and the opportunity given to edit one's work. Some aspects for improvement include a clearer explanation of classroom policies and work requirements, as well as asking for students' feedback on a regular basis.

外国語教育センター 外国語教育センター
酒井　美納江　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iライティング＜HA, HP, HJ＞2
授業コード 11A17-012
教員名　酒井　美納江
教員コード 046060
登録人数　23
回答数　14
回答率　60.9%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



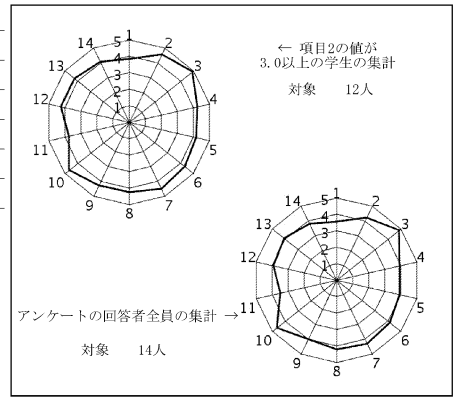

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、英語で「すらすら」書く力と「正確に」書く力を伸ばす目的で２つの作業を中心に学習を促した。「すらすら」書くためにはFree Writingを行い、決められた時間内、ペンを止めることなく思い浮かんだことをできる限り英語で書いていく、という作業をおおむね毎回行った。トピックによってはなかなか筆が進まないこともあったようだが、それぞれの学生が学期の終わりには、より多い語数の文章を書けていたようだ。筆が止まる原因の１つに、言いたいことを表現する語彙を思いつかない、という面があるので、Free Writingの活動と合わせて、書きたかったが知らない語彙を調べてもらい、簡単なマイリストを作るよう促した。できればこのリストを定期的に見直す時間も授業中にとることができればよかったと思っている。「正確に」書く力は、パラグラフをProcess Writingの手法で完成させていく過程で身に着けてもらうよう目指した。３つのトピックについて文章を書いてもらったが、どうしても個々の作業になりがちなので、ゲーム要素を取り入れたアクティビティーや、ペアワークでアイディアを伝え合うといった対話的な活動も折を見て行った。これらの運営や活動内容は学生におおむね肯定的に受けとられたようだ。

外国語教育センター 外国語教育センター
木田　パルビン　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iライティング＜J＞2
授業コード 11A17-016
教員名　木田　パルビン
教員コード 102322
登録人数　17
回答数　14
回答率　82.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



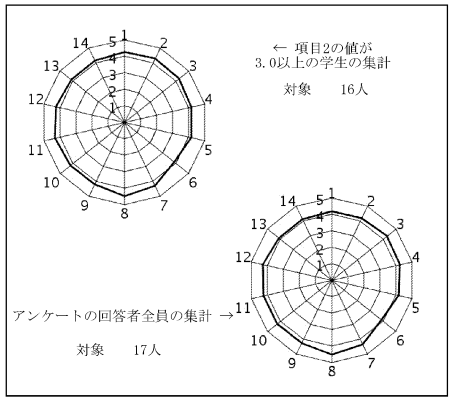

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was about paragraph writing. There were three genres in writing the paragraphs, namely, descriptive, narrative, and process. At the end of the course the students were taught how to write a formal letter. Students followed a step-by-step writing process of pre-writing, organizing, editing, and rewriting.
By reading the second, and then the final draft of each assignment of every student, the instructor paid close attention to each student’s weak points and helped them in areas such as structure, grammar, vocabulary and so on. To check the students’ improvement on grammar, short quizzes were conducted in class from time to time. All the goals set at the start of the course were achieved.
I have carefully studied the students’ evaluation and will continue to make effort to improve the writing course for students as well as my teaching quality where the score was under 4.

外国語教育センター 外国語教育センター
KHONDAKER, Taslima　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iライティング＜J＞3
授業コード 11A17-017
教員名　KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数　19
回答数　17
回答率　89.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



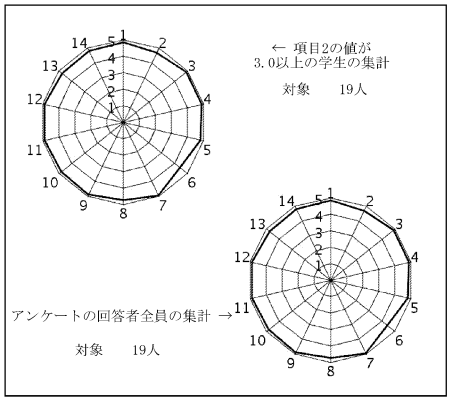

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.27 and 4.35 for the courses in the band of 11A01-001～11L.16-999, the scores of this course were 4.18 and 4.18. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.55, 4.50, 4.35, 4.23, and 4.59 for all courses, the scores for this course were 4.29, 4.24, 4.18, 3.88, and 4.35. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.63, 4.51, 4.58, 4.40, and 4.47 for all courses, the scores of this course were 4.53, 4.24, 4.24, 4.24, and 4.29. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.40 and 4.43 for all courses, the scores of this course were 4.12 and 4.12. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students did not give any comments.

外国語教育センター 外国語教育センター
溝口　良子　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語I通訳＜全＞2
授業コード 14A07-002
教員名　溝口　良子
教員コード 150762
登録人数　24
回答数　19
回答率　79.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



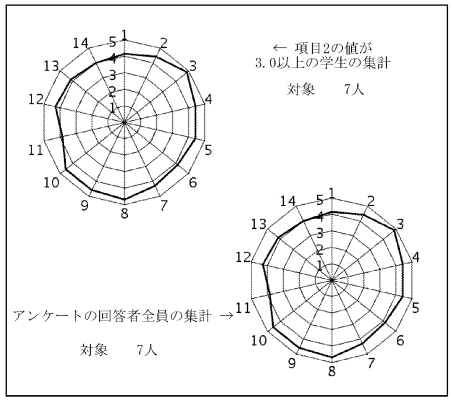

授業評価結果を踏まえた点検・評価

数字とコメントから判断すると、当初の目標はほぼ達成できたものと思われる。
今期は英米科の学生がいなかったことと、「英語は苦手だが、通訳スキルに興味がある」という学生が多数みられたため、ゆっくり丁寧に展開した。コメントからは、その点が評価されていることが感じられる。通訳スキルそのものは易しくはないが、グループで協力することで楽しみながら身につけられたようだ。訳す訓練の中から翻訳と違って「早い反応」「短期記憶力」が重要ということを学生自身が発見していったことは、教師としても喜びであった。
通訳講座には、学校での学問としての英語を社会でどう活かせるかを伝えるという面もあると考えている。そのため、総仕上げとしてネイティブのゲストスピーカーを迎えた。実践通訳の中で英語をスキルとして使えたことも達成感につながったのではないかと思われる。また、現場での体験談も伝えながら。臨場感をもたせた。最終的には同時通訳まで体験できたのは、興味深かったのではないだろうか。
満足度が高いのは、ほかの授業ではできない体験ができたことと、通訳スキルもTOEICなどに活かせることが感じられたからだと思われる。
後期にもこの形態を踏まえて、学生が興味をもって楽しみながら英語力を高める授業としたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
MOORE, Jonathan　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビジネス英語B1
授業コード　40E05-001
教員名　MOORE, Jonathan
教員コード　101410
登録人数　19
回答数　7
回答率　36.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回




授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions was very positive. Attendance was excellent. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing for classes and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained. Students could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier to understand. The class was adjusted to the student's needs and level. There were no behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students were encouraged to participate in class. Students seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

外国語教育センター 外国語教育センター
IVANCHENKO, Andriy　先生

## 2018年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビジネス英語IIIオーラル・コミュニケーション3
授業コード　42G05-003
教員名　IVANCHENKO, Andriy
教員コード　102754
登録人数　6
回答数　4
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The learning objectives as set out in the course description seem to be fully achieved. Those students who regularly attended the class have fulfilled the course requirements with regard to class participation and homework assignments. The students' coursework was of satisfactory quality, showing attention to the class contents.

The students seem quite happy with the course in general. This is hopefully true with regard to the class management, including effective use of equipment and materials. The students seem to have learned new things or to have improved their existing skills through the course while apparently enjoying the classroom environment.

I shall continue working on my performance, aiming to stimulate everyone's interest in the course and to help students acquire new knowledge, techniques and abilities. I shall keep up my efforts in all of these areas, aiming to increase my students' overall satisfaction with my course.